

○第二篇 裁判所ノ事

○第一卷 警察裁判所ノ事 即チ註誤裁判所ト輕罪〔千八百八十八年十一月十九日決定同月廿九日
裁判所トテ總ヘ云フ
布告〕

○第一章 註誤裁判所ノ事

第三百二十七條 刑法第四篇ノ規則ニ循ヒ十五「フランク」以下ノ罰金又ハ五日以下ノ禁錮ノ刑ヲ以
テ罰ス可キ罪犯ヲ註誤即チ警察ノ罪ト看做ス可シ但シ差押ヘタル物件ヲ官ニ沒收スルノ有無ト
其物件ノ價ノ多少トヲ論スルコトナシ
第三百二十八條 註誤ノ罪ハ後ノ數條ニ記スル所ノ規則ト差別トニ循ヒ治安裁判役及ヒ邑長之ヲ裁
判ス可シ

○第一款 治安裁判役註誤罪ノ裁判ヲ爲ス事

第三百二十九條 左ノ諸件ハ治安裁判役ノミ之ヲ裁判ス可キ特權アリ 邑長ニハ其權
ナキヲ云フ

第一 縣ノ首邑内ニテ犯シタル註誤

第二 縣ノ首邑ニ非サル邑内ニ於テ犯シタル註誤但シ犯人其邑内ニ住居セサル時又ハ證人

其邑内ニ住居セサル時ニ限ル可ク犯人現ニ註誤ノ罪ヲ行ヒ召捕ヘラレタル時ハ別段ナリト

ス第六十
六條見合

第三 註誤ノ罪犯ノ爲メ損害ヲ受ケシ者高ノ定マラサル償又ハ十五「フランク」以上ノ償ヲ得
ント要ムル場合

第四 平民ノ申立ニ因リ訴フル檢察官ニ所ノ森林ニ管シタル註誤

第五 言詞ヲ以テ人ニ害ヲ加ヘタル罪ニ限ル

第六 風俗ヲ亂ル可キ書畫ヲ貼附シ又ハ公布シ又ハ賣拂ヒ又ハ配分スル罪註誤ノ時ニ限ル

第七 卜筮又ハ占夢ヲ業トナス罪

第四百十條 又治安裁判役ハ前條ニ記シタル所ノ外自己ノ管轄地内ニテ犯シタル總テノ註誤ヲ邑長ト同シク裁判スルノ權アリ第六十條見合

第四百十一條 治安裁判役一員ノミナル地縣ヲニ於テハ其裁判役一人ニテ註誤裁判ノ事務ヲ執行

第四百十二條 治安裁判役二員以上アル地ニ於テハ其中ノ最モ先キニ任ヲ得タル者ヲ以テ初メト

第四百十三條 又前條ノ場合ニ於テハ註誤裁判所ヲ分テ二局ト爲シ治安裁判役一員各其局ノ事務

第四百十四條 註誤裁判所ノ檢察官ノ職務ハ其裁判所所在ノ地ノ遷卒長之ヲ行フ可シ若シ遷卒長

第四百十五條 註誤ノ罪ヲ犯シタルニ付テハ呼出ハ檢察官ノ求メ又ハ其註誤ノ爲メ損害ヲ受ケタ

其呼出狀ハ使吏之ヲ送達シ被告人又ハ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者民法第一千三百八十四條見合 寫テ渡シ置ク可シ

第四百十六條 其呼出ノ期限ハ二十四時ヨリ少ナカル可カラヌ又被告人遠地ニアル時ハ三「ミリ

第四百十七條 又原告及ヒ被告ハ別段呼出狀ノ送達ヲ受クルコトナク唯出席ヲ爲ス可キノ報告書

第四百十八條 治安裁判役ハ檢察官ノ求メニ因リ又ハ民事原告人ノ求メニ因リ吟味ノ日ニ至ラサ

第四百十九條 若シ被告人呼出狀ニ記シタル日時ニ出席セサル時ハ抗傳者ナリトシテ言渡ヲ受ク

第四百五十條 抗傳シテ言渡ヲ受ケタル者後條ニ記スル吟味ノ日ニ出席セサル時ハ其言渡ノ執行

第四百五十一條 被告人抗傳シテ受ケタル言渡ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ其言渡書ノ答詞トシ

其故障ヲ申立タル時ハ其申立人定期ニ記スル期限ノ終リシ後最初ノ吟味ノ日ニ出席ス可ク若シ其日ニ出席セサル時ハ其故障申立ノ効ナカル可シ

第二百五十二條 呼出ヲ受ケタル者ハ自身出席シ又ハ名代人ヲ差出ス可シ

第二百五十三條 吟味ハ公ケニ之ヲ爲ス可ク若シ然ラサル時ハ其吟味ノ効ナカル可シ
其吟味ノ手續ヲ爲ス順序ハ左ノ如シ

調書アル時ハ書記官之ヲ讀上クル事

檢察官又ハ民事ノ原告人證人ヲ呼出シタル時ハ其證人ノ申述ヲ聽ク事次ニ民事ノ原告人其求ムル所ヲ定ムル事

被告人答辨ヲ爲ス事並ニ後條ニ記スル所ニ循ヒ證人ノ申述ヲ以テ證ト爲シ得可キ場合ニ於テ其證人ヲ呼出シタル時ハ其證人ノ申述ヲ聽ク事

檢察官其罪犯ノ事件ヲ約縮シテ且其求ムル所ヲ定ムル書面ヲ差出ス事次ニ呼出ヲ受ケタル者此事ニ付キ自己ノ意ヲ述フル事

註誤裁判所ニテ吟味ノ手續終リタル日ニ直チニ裁判ヲ言渡ス事又ハ遅クトモ次ノ吟味ノ日ニ其裁判ヲ言渡ス事

第二百五十四條 註誤ノ罪犯ハ調書又ハ申立書司法警察官ノヲ以テ之ヲ證シ又其調書及ヒ申立書ノアラサル時ハ證人ヲ以テ之ヲ證シ又其書アル時ト雖モ其書ニ記スル所ヲ更ニ確的ナラシムル爲メ證人ヲ以テ之ヲ證ス可シ

何人ニ限ラス法律上ニテ罪犯ノ證ヲ立ル權ヲ任セラレシ警察官吏ノ記シタル調書又ハ申立書價ノ訴アル迄ハ確的ニ反シタル事件又ハ此等ノ書面ニ記シタル以外ノ事件ハ證人ヲ以テ證セシムトス可キ書ナリ

ルコチ得ス若シ證人ヲ以テ其證ヲ立テシメタルト雖モ其効ナカル可シ○又贋造ノ訴アル迄ハ其書面ヲ確的ノモノト爲ス可キ權ヲ法律上ニテ任セラレサル官吏ノ記シタル調書又ハ申立書ニ付テハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニテ證書又ハ證人ヲ以テ之ニ反シタル證ヲ立ルコチ得可シ

第二百五十五條 證人ハ吟味ノ席ニテ必ス正實ヲ述ヘ正實ノ外述ヘサル可キノ誓ヲ爲ス可シ若シ其誓ヲ爲サスシテ證ヲ述ヘタル時ハ其効ナカル可シ但シ書記官ハ證人ノ爲シタル誓ノ旨ト其姓名、年齢、職業、住所ト其申述ル所ノ中重立タル箇條トヲ書取ル可シ

第二百五十六條 被告人ノ尊屬及ヒ卑屬ノ親、其血屬及ヒ姻屬ノ兄弟姊妹並ニ既ニ離婚トナリタルト雖モ其配偶者ハ證人トシテ呼出ス可カラズ又其述フル所ノ證ヲ聽取ル可カラズ然レモ檢察官民事ノ原告人、被告人皆此條ニ記列スル者ノ述フル所ヲ聽クニ付キ故障ヲ述ヘサル時ハ此等ノ者ノ述ヘタル證ヲ聽取リタルト雖モ之ヲ取消ス可カラズ

第二百五十七條 證人呼出ヲ受ケテ出席ヲ爲サ、ル時ハ裁判所ヨリ檢察官ノ求メニ從ヒ吟味ノ席ニテ罰金ヲ言渡シ又再度ノ呼出ヲ受ケ猶出席セサル時ハ裁判所ヨリ其証人ヲ召捕フ可キ旨ヲ言渡ス可シ

第二百五十八條 初メ出席ヲ爲サ、ルニ付キ罰金ヲ言渡サレシ証人再度ノ呼出ニ從ヒ出席シタル上初メ出席セサルニ付キ正當ノ道理アルコチ辨解シタル時ハ檢察官ノ申立ニ從ヒ罰金ヲ免ル、コチ得可シ

若シ初メ出席ヲ爲サスシテ罰金ヲ言渡サレタル證人再度呼出ヲ受ケサル時ハ次ノ吟味ノ日ニ自身出席シ又ハ名代人ヲ差出シテ初メノ出席セサリシ事由ヲ辨解シ正當ノ道理アル時ハ罰金ヲ免ル、コチ得可シ

第二百五十九條 若シ被告人ノ申立テラレタル所爲重罪ニモ輕罪ニモ非サル時ハ裁判所ニテ其呼出狀並ニ其呼出後爲シタル諸件ヲ取消シ且損失ノ償求ムル所ヲ言渡ス可シ

第六十條 若シ被告人ノ申立テラレタル所爲懲治刑輕罪ヲ罰以上ニ處ス可キモノタル時ハ裁

判所ヨリ原告被告ヲシテ檢察官ノ面前ニ出テシム可シ

第六十一條 被告人ノ申立テラレタル所爲註誤タルノ証アル時ハ註誤裁判所ヨリ相當ノ刑ト取
戻及ヒ損害ノ償トテ言渡ス可シ

第六十二條 負訴訟ノ者ハ其相手方ノ裁判費用ヲ償ヒ又刑事ノ原告人即チ檢
察官ノ費用ヲモ償フ可
シ

其費用ノ高ハ裁判所ニテ定ム可シ

第六十三條 犯人ヲ刑ニ處スル言渡書ニハ其言渡ヲ爲スニ付テノ道理ヲ記シ且其刑ニ管シタル
刑法ノ箇條ヲ記ス可シ若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハ其言渡書ノ効ナカル可シ

又其言渡書ニハ終審ノ裁判タルヤ又ハ始審ノ裁判タルヤヲ記ス可シ

第六十四條 裁判言渡書ノ正本ニハ吟味ヲ爲シタル裁判役遲クトモ二十四時間ニ姓名ヲ手署ス
可シ若シ此規則ニ背ク時ハ書記官二十五「フランク」ノ罰金ヲ言渡サレ又別段ノ道理アル時ハ裁

判役並ニ書記官損害ノ償ヲ爲ス可キノ訴ヲ受ク可シ訴訟法第五
百五條見合

第六十五條 檢察官ト民事ノ原告人トハ各自自己ニ管シタル事ニ付キ裁判言渡ノ如ク執行フノ
手續ヲ爲ス可シ

○第二款 邑長註誤罪ノ裁判ヲ爲ス事

第六十六條 縣ノ首邑ニ非サル邑ノ長ハ其邑内ニテ現ニ行フタル註誤ノ罪ヲ治安裁判役ト同シ
ク裁判シ又證人其邑内ニ住居シ且民事原告人ノ償ヲ得ント求ムル高十五「フランク」ニ過キサル
時ハ其邑内ニ住居スル者ノ犯シタル註誤ノ罪ヲ治安裁判役ト同シク裁判ス可シ

邑長ハ第二百二十九條ニ循ヒ治安裁判役ノミ裁判ス可キ註誤ヲ裁判ス可カラス又治安裁判役ノ民
事ニ付キ裁判ス可キ事件ヲ裁判ス可カラス

第六十七條 邑長註誤ノ裁判ヲ爲ス時ハ其輔佐檢察官ノ職ヲ行フ可シ若シ其輔佐アラサル時又
ハ其輔佐邑長ニ代テ註誤裁判役ノ職ヲ行フ時ハ邑會議員中ニテ檢事ノ一年間選舉シタル者檢察
官ノ職ヲ行フ可シ

第六十八條 註誤裁判ノ事ニ付キ邑長ノ書記官ノ職務ハ邑長ノ撰ミタル者平民
ナリ之ヲ行フ可シ但
シ其者ハ輕罪裁判所ニ於テ誓ヲ爲ス可シ○其者ハ書類ヲ記スルニ付キ治安裁判役ノ書記官ニ等
シキ謝金ヲ受ク可シ

第六十九條 呼出狀ヲ送達スルニハ必スシモ使吏ニ托スルニ及ハス又其呼出ハ邑長ヨリ送リタ
ル報告書ヲ以テ爲スヲ得可シ但シ其報告書ニハ被告人ノ申立ラレタル所爲ト其出席ス可キ日
時トヲ記ス可シ

第七十條 又證人ヲ呼出スニ付テモ前條ニ等シク其證ヲ聽ク可キ日時ヲ記シタル報告書ヲ以
テ之ヲ呼出スヲ得可シ

第七十一條 邑長ハ邑ノ役所ニ於テ裁判ノ席ヲ開キ原告被告並ニ證人ヲ公ケニ吟味ス可シ

其他治安裁判役ノ吟味ノ手續及ヒ裁判言渡ニ付キ第四百四十九條第五百十條第五百一十一條第五百
十三條第五百五十四條第五百五十五條第五百五十六條第五百五十七條第五百五十八條第五百五十九條第六
十條ニ記スル所ノ規則ヲ邑長ノ爲ス可キ吟味ノ手續及ヒ裁判言渡ニモ亦通シテ用フ可シ

○第三款 註誤ノ裁判言渡ヲ控訴スル事

第七十二條 註誤裁判所ニテ禁錮ヲ言渡シタル時又ハ裁判所費用ヲ除クノ外五「フランク」以上
ノ罰金及ヒ償還ヲ言渡シタル時ハ其言渡ヲ控訴スルヲ得可シ

第七十三條 註誤ノ裁判言渡ヲ控訴シタル時ハ其言渡ノ執行ヲ暫ク止ム可シ

第七十四條 註誤裁判所ノ言渡ハ輕罪裁判所ニ控訴ス可シ此控訴ハ負訴訟ノ者又ハ其住所ニ言

渡書ヲ送達シタルヨリ十日内ニ之ヲ爲ス可シ但シ其控訴ヲ爲シタルヨリ裁判ニ至ル迄ノ法式ハ

治安裁判役ノ言渡ヲ控訴シタル時ト同一ナリトス 四條以下見合

第七十五條 控訴ヲ爲シタル上ニテ檢事又ハ民事ノ原告人或ハ被告人ノ求メニ從ヒ再ヒ證人ノ

述フル所ヲ聽キ又ハ更ニ他ノ證人ノ述フル所ヲ聽クヲ得可シ

第七十六條 吟味手續ノ法式、證據ノ種類、裁判言渡書ノ法式其公正ナル事、其言渡書ニ姓名ヲ

手署スル事、裁判費用ヲ出ス可キノ言渡ヲ爲ス事並ニ刑罰ヲ言渡ス可キ事等ノ諸事ニ付キ前數

條ニ記シタル規則ハ控訴ノ上輕罪裁判所ニテ爲ス所ノ言渡ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

第七十七條 檢察官及ヒ民事ノ原告人並ニ被告人ハ註誤裁判所ニテ爲シタル終審ノ裁判言渡又

ハ控訴ノ上輕罪裁判所ニテ爲シタル裁判言渡ヲ取消サント覆審院ニ上告スルヲ得可シ

其七十八條 三ヶ月ノ期限 即チ註誤裁判所ノ初メ毎ニ治安裁判役及ヒ邑長ヨリ前三ヶ月ノ期限

問註誤ノ罪犯ニ付キ禁錮ヲ言渡シタル裁判言渡書ノ拔書ヲ檢事ニ送ル可シ○其拔書ハ書記官無

稅ニテ之ヲ渡ス可シ

檢事ハ其拔書ヲ輕罪裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

○第二章 輕罪裁判所ノ事 即チ懲治 刑裁判所

第七十九條 民事ニ付テノ初告裁判所 即チ一郡毎ニハ輕罪裁判所ノ名義ヲ以テ官ニ屬スル森林

ニ管シタル罪 註誤ヲ云フ 及ヒ五日以上ノ禁錮又ハ十五「フランシ」以上ノ罰金ヲ言渡ス可キ總テ

ノ輕罪ヲ裁判ス可シ

第八十條 輕罪裁判所ニテハ裁判役三員以上ニテ裁判ヲ言渡ス可シ

第八十一條 若シ輕罪裁判所ニテ吟味ヲ爲ス時間其裁判所ノ郭内ニ於テ輕罪ヲ犯ス者アル時ハ

其上席人其罪犯ヲ調書ニ記シテ其犯人及ヒ證人ノ申述ヲ聽キ直チニ法律上ニテ定マリタル刑ヲ

言渡ス可シ

又控訴院及ヒ重罪裁判所ニテ吟味ヲ爲ス時間又ハ民法裁判所ニテ吟味ヲ爲ス時間其邸内ニテ輕

罪ヲ犯ス者アル時ハ亦此條ニ記スル所ノ規則ヲ通シ用フ可シ但シ此條ニ記スル民法裁判所又ハ

輕罪裁判所ノ言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得可シ

第八十二條 輕罪裁判所ハ第三十條及ヒ第六十條ニ記スル所ニ循ヒ輕罪ノ吟味ニ取掛リ又

ハ民事ノ原告人ヨリ被告人又ハ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者ニ對シ爲シタル呼出ニ因リ其吟味

ニ取掛リ又森林ニ管シタル罪犯ニ付テハ森林ノ支配人、森林ノ監察、監察ノ補役及ヒ監守人ノ訴

ニ因リ其吟味ニ取掛リ又如何ナル場合ニ於テモ檢事ノ求メニ因リ其吟味ニ取掛ル可シ

第八十三條 民事ノ原告人ハ被告人ヘノ呼出狀ニ裁判所所在ノ地ニ於テ別段住所ヲ擇ミタル旨

ヲ附記ス可シ又其呼出狀ニハ被告人ノ犯シタル罪ヲ記ス可シ但シ其呼出狀ハ犯罪申立書

ト同視ス可シ

第八十四條 呼出狀ヲ送達シタルト裁判言渡トノ間少クトモ三日ノ猶豫アル可ク被告人遠地ニ

住スル時ハ三「ミリアメートル」毎ニ更ニ一日ノ猶豫ヲ加フ可シ若シ此規則ニ背キ被告人ヲ抗傳

者ナリトシテ裁判ヲ言渡スコトアリトモ其言渡ノ効ナカル可シ

然レモ被告人其言渡ヲ取消サントスルニハ次ニ出席シタル時他事ヲ辨論シ又ハ訴ヲ拒ム憑據ヲ

述フル前ニ先ツ其取消ヲ得ント求ム可シ

第八十五條 禁錮以下ノ刑ニ處ス可キ輕罪ノ時ハ被告人其名代トシテ代書師ヲ差出スコト得可

シ然レモ裁判所ニテ其時ノ摸樣ニ從ヒ本人自カラ出席ス可キコト言渡スヲ得可シ

第八十六條 若シ被告人出席セサル時ハ抗傳ノ儘裁判言渡ヲ受ク可シ

第八十七條 (千八百六十六年六月廿七日左ノ如ク改ム) 被告人ニ抗傳ノ儘裁判ヲ言渡シタル時其言渡書ヲ被告人又ハ其住所ニ送達シタルヨリ五日內ニ其被告人其裁判言渡ヲ執行フニ付テ故障ヲ述ヘ且檢察官ト民事ノ原告人トニ其故障申述書ヲ送リタルニ於テハ其裁判言渡ノ効ナカル可シ但シ被告人遠地ニ住スル時ハ五「ミリアメートル」毎ニ五日ノ期限ニ一日ノ猶豫ヲ加フ可シ其裁判言渡書ヲ寫テ之ヲ送達スル費用及ヒ故障申述書ヲ送達スル費用ハ抗傳シタル被告人ノ引受タル可シ

然レ其裁判言渡書ヲ現ニ其被告人ニ届ケス又ハ其裁判言渡ヲ執行フタル證書ニ因リ被告人其執行ヲ知ラサル可シト思料ス可キ時ハ其被告人刑ノ期滿免除ノ期限ニ至ル迄其故障ヲ申述フルヲ得可シ

第八十八條 抗傳シタル被告人裁判言渡ニ付キ故障ヲ申述ヘタル時ハ次ノ吟味ノ日ニ出席ス可キ呼出ヲ受ケタルト同視ス可クシテ若シ次ノ吟味ノ日ニ出席セサル時ハ其故障申述ノ効ナカル可シ然ル上ハ其故障ヲ申述ヘタル者控訴ヲ爲スニ非サレハ其裁判言渡ヲ取消サント求ム可カラス

此場合ニ於テ別段ノ道理アル時ハ裁判所ヨリ假リニ其裁判言渡ノ如ク執行フ可キノ言渡ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ相手方控訴ヲ爲スニ管セス其裁判言渡ノ如ク執行フ可シ

第八十九條 (千八百五十六年六月十三日左ノ如ク改ム) 輕罪犯ノ証ヲ得ル方法ハ註誤ノ証ニ付キ第五百五十四條第五百五十五條第五百五十六條ニ記シタル所ト同一ナリトス○書記官ハ證人ノ申述並ニ被告人ノ答辨ヲ覺書ニ記ス可シ○其覺書ハ裁判言渡ヨリ三日內ニ上席人之ヲ檢印ス可シ○第五百五十七條第五百五十八條第五百五十九條第六十條第六十一條ノ規則ハ輕罪ノ場合ニモ亦通シ用フ可シ

第九十條 吟味ハ公ケニ爲ス可シ若シ公ケニ爲サル時ハ其効ナカル可シ
檢事、民事ノ原告人又ハ其代言人又森林ニ管シタル罪犯ニ付テハ森林ノ支配人、森林ノ監察又ハ

其補役若シ其アラサル時ハ森林ノ監守人罪犯ノ摸樣ヲ辨明シ調書又ハ申立書アル時ハ書記官之ヲ讀上ケ又雙方證人ノ述フル所ヲ聞糺シ一方ノ者証人ニ付キ故障ヲ述ヘント欲スル時ハ之ヲ述ヘシメテ其裁判ヲ爲シ且有罪ノ証書類又ハ無罪ノ証書類ヲ証人ト雙方トニ示シ被告人ヲ聞糺シテ被告人及ヒ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者其答辨ヲ爲シ檢事其罪犯ノ條件ヲ約縮シテ其求ムル所ヲ定メ被告人及ヒ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者之ニ答フルヲ得可シ

第九十一條 若シ被告人ノ申立テラレタル所爲輕罪ニモ註誤ニモ非サル時ハ裁判所ニテ吟味ノ手續及ヒ呼出狀並ニ其他ノ諸件ヲ取消シテ被告人ヲ赦宥シ其損失ノ償ヲ言渡ス可シ被告人ノ

第九十二條 若シ被告人ノ申立ラレタル所爲註誤ナル時刑事ノ原告人及ヒ民事ノ原告人ヨリ註誤裁判所ニ其吟味ヲ移スヲ求メサル時ハ輕罪裁判所ニテ相當ノ刑ヲ言渡シ且損害ノ償ヲモ言渡ス可シ

此場合ニ於テハ輕罪裁判所ノ裁判言渡ヲ終審ノモノトス可シ
第九十三條 若シ被告人ノ申立ラレタル所爲施體又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キ罪 重罪ヲナル時ハ輕罪裁判所ヨリ直チニ禁錮狀又ハ收監狀ヲ出シ其被告人ヲシテ管轄ノ下吟味掛リ裁判役ノ面前ニ出テシム可シ

第九十四條 被告人及ヒ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者負訴訟トナリ又ハ民事ノ原告人負訴訟トナル時ハ相手方ノ裁判費用ヲ償ヒ且刑事ノ原告人ノ裁判費用モ亦償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ
其費用高ハ裁判言渡書ニ之ヲ定ム可シ

第九十五條 裁判言渡書ニハ呼出サレタル者ノ犯シタル罪又ハ其者ノ爲メ責ニ任ス可キ條件ヲ記シテ且其刑ノ言渡及ヒ民事上ノ言渡ヲ記ス可シ
其罪ニ付キ言渡セシ刑ニ管シタル刑法ノ箇條ハ上席人吟味ノ席ニテ之ヲ讀上ケ裁判言渡書ニ其

讀上ケテ爲シタル旨ヲ附記シテ且其讀上ケタル刑法ノ箇條ヲ記入ス可シ若シ書記官此規則ニ背ク時ハ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第百九十六條 裁判言渡書ノ正本ニハ之ニ管シタル裁判役遅クトモ二十四時間ニ其姓名ヲ手署ス可シ
若シ裁判役姓名ヲ手署セサル前ニ書記官其言渡書ノ寫ヲ渡ス時ハ贖造者タルノ訴ヲ受ク可シ
檢事ハ毎月裁判言渡書ノ正本ヲ受取テ之ヲ檢視シ若シ此條ノ規則ニ背ク事アル時ハ相當ノ處置ヲ爲スニ付テノ調書ヲ記ス可シ

第百九十七條 檢事及ヒ民事ノ原告人ハ各自自己ニ管スル事ニ付キ裁判言渡ノ如ク執行フヲ求ム可シ
然レモ罰金ヲ取立テ及ヒ罪犯ニ管シタル物件ヲ官ニ沒收スルノ手續ハ記録稅役所ノ支配人檢事ノ名目ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第百九十八條 檢事ハ裁判言渡ヨリ十五日内ニ其拔書ヲ控訴院ノ檢事長ニ送ル可シ

第百九十九條 輕罪ニ管シタル裁判言渡ハ控訴ヲ爲シテ之ヲ取消サント求ムルヲ得可シ

第二百條 (千八百五十六年六月十三日廢ス)

第二百一一條 (千八百五十六年六月十三日左ノ如ク改ム) 輕罪ニ管スル裁判言渡ハ控訴院ニ控訴ス可シ

第二百二條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 左ノ各人ハ控訴ヲ爲スヲ得可シ

第一 被告人又ハ被告人ノ爲メニ責ニ任ス可キ者

第二 民事ノ原告人「但シ民事ノ管係ノミニ限ル可シ」

第三 官ノ森林ニ管シタル官吏

第四 檢事

第五 控訴院ノ檢事長

第二百三條 裁判言渡ノ日ヨリ遅クトモ十日内ニ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ控訴ヲ爲ス旨ヲ届ケ又抗傳シテ言渡ヲ受ケタル時ハ其言渡ヲ受ケタル者又ハ其住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ遅クトモ十日内ニ同上ノ旨ヲ届クルニ非サレハ第二百五條ニ記スル所ヲ除クノ外控訴ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ但シ抗傳者ノ住所遠キ時ハ三「ミリアメートル」毎ニ其十日ノ期限ニ一日ノ猶豫ヲ加フ可シ

此期限ノ間ト控訴ノ上吟味ヲ受クル間トニ於テハ輕罪裁判所ノ言渡ヲ執行フヲ暫ク止ム可シ

第二百四條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 控訴ヲ爲スニ付テノ憑據ヲ記シタル願書ハ前條ニ記スル期限内ニ同上ノ書記局ニ納ム可シ但シ其願書ハ控訴人又ハ代書師又ハ其他ノ名代人之ニ姓名ヲ手署スヘシ

名代人其願書ニ姓名ヲ手署シタル時ハ本人ヨリ名代ノ權ヲ授ケタル証書ヲ其願書ニ添ヘ差出ス可シ

又其願書ハ直チニ控訴院ノ書記局ニ差出スヲ得可シ

第二百五條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 控訴院ノ檢事長ハ輕罪裁判所ノ言渡ノ日ヨリ二月内ニ被告人及ヒ被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者ニ控訴書ヲ送り又檢事長此等ノ者ヨリ法式ニ循ヒ輕罪裁判所ノ言渡書ノ送達ヲ得タル時ハ其送達ヲ得タル時ヨリ一月内ニ此等ノ者ニ控訴書ヲ送ル可シ然ラサレハ檢事長其控訴ノ權ヲ失フ可シ

第二百六條 (千八百六十五年七月十四日左ノ如ク改ム) 被告人無罪タルノ言渡ヲ得タル時ハ控訴ニ管セス直チニ之ヲ赦宥ス可シ

第二百七條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 控訴ノ憑據ヲ記シタル願書ヲ輕罪裁判所ノ書記局ニ差出シタル時ハ檢事其願書ト總テノ書類トヲ控訴ノ届又ハ控訴書ノ送達ヨリ二十四時間ニ控訴院ノ書記局ニ送ル可シ
輕罪裁判所ニテ刑ヲ言渡サレシ被告人既ニ留置場ニ入レテタル時ハ檢事ノ言附ニテ同上ノ期

期間ニ之ヲ控訴院附ノ留置場ニ移ス可シ

第二百八條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 控訴ヲ爲シタル上一方ノ者抗傳シテ受ケタル裁判言渡ハ輕罪裁判所ニテ一方抗傳シテ受ケタル言渡ニ付キ故障ヲ述フルト同一ノ法式及ヒ期限ニ從ヒ其故障ヲ述フルコト得可シ

其故障ヲ述ヘタル時ハ次ノ吟味ノ日ニ出席ス可キ呼出チ受ケタルト同視シ若シ其故障ヲ述ヘタル者次ノ吟味ノ日ニ出席セサル時ハ其故障申述ノ効ナカル可シ○故障ノ申述ニ付キ受ケタル裁判言渡ハ其故障ヲ述ヘタル者覆審院ニ上告スルノ外其取消ヲ訴フ可カラス

第二百九條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 控訴ハ之ヲ爲シタルヨリ一月内ニ控訴院ノ裁判役一員ノ申立ノ上公ケノ吟味ノ席ニテ之ヲ裁判ス可シ

第二百十條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 掛リ裁判役 即チ前條ニ記ノ申立ヲ爲シタル上其裁判役並ニ他ノ裁判役未タ其說ヲ述ヘサル内當テ輕罪裁判所ニテ無罪ノ言渡ヲ得タルト刑ノ言渡ヲ受ケタルトナ問ハス被告人、被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者、民事ノ原告人、檢事長

第二百十一條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 輕罪裁判所ノ吟味手續ノ法式、證據ノ種類、裁判言渡書ノ法式、其言渡書ノ公正ナル事、其言渡書ニ姓名ヲ手署スル事、裁判費用ヲ出ス可キノ言渡ヲ爲ス事並ニ刑罰ヲ言渡ス可キ事等ノ諸事ニ付キ前數條ニ記シタル規則ハ控訴ニ付キ爲シタル裁判言渡ニモ亦通シテ用フ可シ

第二百十二條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 被告人ノ申立ラレタル所爲法律上ニテ輕罪トモ註誤トモ爲サ、ルニ因リ控訴ノ上輕罪裁判所ノ言渡ヲ更改スル時ハ控訴院ニテ被告人ヲ赦宥シ別段ノ道理アル時ハ損失ノ償ヲ言渡ス可シ

第二百十三條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 被告人ノ申立ラレタル所爲註誤タルニ付キ輕罪裁判所ノ言渡ヲ取消ス時刑事ノ原告人及ヒ民事ノ原告人註誤裁判所ニ其吟味ヲ移ス可キコトヲ求メサルニ於テハ控訴院ニテ相當ノ刑ヲ言渡シ且別段ノ道理アル時ハ損害ノ償ヲ言渡ス可シ

第二百十四條 (千八百五十六年六月十二日左ノ如ク改ム) 被告人ノ申立ラレタル所爲施設又ハ加辱ノ刑ニ處ス可キ罪タルニ因リ輕罪裁判所ノ言渡ヲ取消ス時ハ控訴院ニテ禁錮狀又ハ收監狀ヲ出シ其被告人ヲ相當ノ官吏 下吟味掛リ裁判役 面前ニ至ラシム可シ但シ以前其被告人ノ罪犯ニ付キ言渡ヲ爲シ又ハ下吟味ヲ爲シタル官吏ノ面前ニ至ラシム可カラス

第二百十五條 (千八百五十六年六月十三日左ノ如ク改ム) 輕罪裁判所ノ言渡法律上ニテ必要ナリト定メタル法式ニ背キ又ハ其法式ヲ缺キタルニ因リ控訴ノ上之ヲ取消ス時ハ控訴院ニテ其本案ニ付キ裁判ヲ言渡ス可シ

第二百十六條 (千八百五十六年六月十三日左ノ如ク改ム) 民事ノ原告人、被告人、刑事ノ原告人、被告人ノ爲メ責ニ任ス可キ者ハ控訴院ノ言渡ヲ取消サント覆審院ニ上告スルコトヲ得可シ

○第二卷 陪審ニ任カス可キ事件 即チ重罪 (千八百八十八年十二月九日決定同月十九日布告)

第一章 重罪アリト告グル事 控訴院ノ重罪取調局ニテ下調ヲ爲シタル上ニテ被告人ニ重罪アリト告ケ然ル上ニテ重罪裁判所ニ其吟味ヲ移スナリ

第二百十七條 控訴院ノ檢事長ハ第三百三十三條又ハ第三百三十五條ニ循ヒ己レノ送達ヲ得可キ書類ヲ受取リタルヨリ五日内ニ其事件ヲ取調ヘ其後遅クトモ五日内ニ其申立ヲ爲ス可シ

其期限間 即チ十日ニ民事ノ原告人及ヒ被告人其相當ト思料スル所ノ覺書ヲ差出スコトヲ得可シ但

シ之カ爲メ檢事長ノ申立ヲ遅延スルコトナカル可シ

第二百十八條 (千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム) 控訴院中ニ別段一局 即チ重罪ヲ設ケ置キ其上席人ノ言附ト檢事長ノ求メトニ從ヒ其中立ヲ聽キ之ヲ裁判ス可キ爲メ其局中ノ裁判役會議ヲ爲ス可シ

檢事長ヨリ別段求メテ受ケサル時ト雖モ少クトモ毎週一度其會議ヲ爲ス可シ

第二百十九條 (千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム) 上席人ハ檢事長ノ申立ヲ爲シタル後直チニ重罪取調局ヲシテ其裁判ヲ爲サシムルノ手續ヲ爲ス可シ若シ直チニ其裁判ヲ爲スコトヲ得サル時ハ遅クトモ三日内ニ其裁判ヲ爲ス可シ

第二百二十條 若シ其事件大審院又ハ覆審院ノ管轄タル可キ時ハ檢事長重罪取調局ニ其事件ノ取調ヲ止メテ之ヲ大審院又ハ覆審院ニ移ス可キ旨ヲ求メ重罪取調局ニテ其旨ヲ言渡ス可シ

第二百二十一條 前條ニ記シタル場合ノ外重罪取調局ニテ被告人ノ所爲法律上ニテ重罪ト爲ス可キモノタルノ証又ハ徵憑アルヤ否ヲ取調ヘ且其証又ハ徵憑ニ因リ被告人ノ重罪ヲ犯シタリト告ク可キ言渡ヲ爲ス可キヤ否ヲ取調フ可シ

第二百二十二條 書記官ハ檢事長ノ面前ニテ訴ニ管シタル總テノ書類ヲ裁判役ニ讀ミ聞カセ其後其書類ト民事ノ原告人並ニ被告人ヨリ差出シタル覺書トチ皆重罪取調局ニ納メ置ク可シ

第二百二十三條 民事ノ原告人、被告人、證人ハ出席スルコトナカル可シ

第二百二十四條 檢事長ハ其姓名ヲ手署セシ求刑ノ書ヲ重罪取調局ニ納メタル後書記官ト共ニ其席ヲ退ク可シ

第二百二十五條 重罪取調局ノ裁判役ハ即時ニ商議ス可ク其間他人ト語ヲ參ユ可カラズ

第二百二十六條 重罪取調局ニテ取調フル所ノ重罪ニ附帶シタル罪犯ノ證書類其局ニアル時ハ其重罪ト共ニ附帶ノ罪犯ヲモ亦取調テ共ニ裁判ス可シ直ニ重罪ノ裁判ヲ爲スハ重罪裁判所ノ職務

シタルト告ク可キヤ否

第二百二十七條 數人組合フテ同時ニ罪ヲ犯シタル時又ハ日時ト場所ト共ニ異ナルト雖モ數人中合セ罪ヲ犯シタル時又ハ犯人甲ノ罪ヲ犯サントスル便ヲ得ル爲メ乙ノ罪ヲ犯シタル時又ハ甲ノ罪ヲ犯スチ容易ナラシムル爲メ或ハ甲ノ罪ヲ爲シ遂クル爲メ或ハ甲ノ罪ヲ犯シ其罰ヲ免ル、爲メ乙ノ罪ヲ犯シタル時ハ附帶ノ罪犯ナリトス

第二百二十八條 重罪取調局ニ於テハ別段ノ道理アル時更ニ下吟味ヲ爲ス可キコトヲ言渡スチ得可シ

又其局ニテ別段ノ道理アル時ハ輕罪裁判所ノ書記局ニ納メタル罪犯ノ證書類チ差越ス可キコトヲ言渡スチ得可シ

此等ノ諸事ハ成ル可キ丈速カニ言渡ス可シ

第二百二十九條 (千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム) 若シ重罪取調局ニテ罪犯ノ痕跡ナシト思フ時又ハ其痕跡アリト雖モ被告人其罪ヲ犯シタルノ十分ナル憑據ナシト思フ時ハ其被告人ヲ赦宥ス可キ旨ヲ言渡ス可シ但シ被告人他ノ事故アリテ禁錮ヲ受ケタル時ノ外ハ即時ニ其言渡

ノ如ク執行フ得シ

下吟味掛リ裁判役被告人ヲ赦宥ス可キ旨ヲ言渡シ其言渡ニ付キ故障ヲ述フル者アリテ重罪取調局ニテ之ヲ取調ヘタル上罪犯ノ證ナシト思料スル時ハ重罪取調局ニテ下吟味掛リ裁判役ノ言渡

ヲ確的トナス旨ヲ言渡シ前項ニ記スル如ク即時ニ其言渡ノ如ク執行フ可シ

第二百三十條 (千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム) 重罪取調局ニテ被告人ヲ註誤裁判所又ハ輕罪裁判所ニ移ス可シト思料スル時ハ之ヲ相當ノ裁判所ニ移スコトヲ言渡ス可シ但シ被告人

ヲ註誤裁判所ニ移ス時ハ之ヲ赦宥ス可シ 禁錮ヲ免スチ云フ

第二百三十一條 (千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム) 若シ被告人ノ罪法律上ニテ重罪ナリ

ト定ムル所ニシテ且重罪ヲ犯シタリト告クルニ付キ十分ナル憑據アリト思料スル時ハ重罪取調局ヨリ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス可キ旨ヲ言渡ス可シ
即チ重罪ヲ犯シタリト如何ナル場合ニ於テモ重罪取調局ニテハ下吟味掛リ裁判役ノ言渡如何ナルヲ問ハス
檢事長ノ求メニ從ヒ其局ニ訴ヲ移シタル各被告人ニ付キ其取調ニ因リ知リ得可キ重罪、輕罪、註誤ノ箇條ヲ裁斷ス可シ
罪ヲ犯シタリト告ル言渡ヲ爲ス可キ旨ヲ裁判スルヲ云フ

第二百三十二條 〔千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム〕重罪取調局ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ヲ言渡シタル時ハ被告人ニ對シ召捕ノ言渡書ヲ出ス可シ
第六條見合

其言渡書ニハ被告人ノ姓名、年齢、職業、住所、出產ノ地ヲ記シ且其罪犯ノ摸樣ト其罪ニ管シタル刑法ノ箇條トヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其言渡書ノ効ナカル可シ

第二百三十三條 〔千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム〕被告人召捕ノ言渡書ハ重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ノ言渡書中ニ記入ス可シ但シ其言渡書ニハ重罪裁判所附ノ留置場ニ被告人ヲ送ル可キノ命令ヲ附記ス可シ

第二百三十四條 重罪取調局ノ言渡書ニハ其局ノ各裁判役之ニ姓名ヲ手署ス可シ且其言渡書ニハ檢察官ノ求刑ト各裁判役ノ姓名トヲ附記ス可シ若シ之ヲ附記セサル時ハ其言渡書ノ効ナカル可シ

第二百三十五條 如何ナル事件ニ付テモ重罪取調局ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ヲ決定セサル間ハ既ニ他ノ裁判役下吟味ヲ爲シ始メタルト否トヲ問ハス其局ノ公務ヲ以テ檢察官ニ更ニ其罪ヲ訴ヘシム可キ旨ヲ言渡シ證書類ヲ出サシメ且其下吟味ヲ爲シタル上ニテ相當ノ言渡ヲ爲ス可キ旨ヲ得可シ

第二百三十六條 前條ノ場合ニ於テハ第二百十八條ニ記シタル局即チ重罪ノ裁判役一員下吟味掛リ裁判役ノ職ヲ行フ可シ

第二百三十七條 其下吟味掛リ裁判役ハ自カラ證人ノ申述ヲ聽キ又ハ證人住所ノ初告裁判所ノ裁判役一員ヲシテ其申述ヲ聽カシメ且被告人ヲ問糺シテ罪犯ニ付キ總テノ證又ハ憑據ヲ書面ヲ以テ證セシメ其時ノ摸樣ニ因リ引出狀又ハ禁錮狀又ハ收監狀ヲ出ス可シ

第二百三十八條 檢事長ハ下吟味掛リ裁判役ヨリ證書類ヲ受取リタル時ヨリ五日內ニ中立ヲ爲ス可シ

第二百三十九條 〔千八百五十六年七月十七日左ノ如ク改ム〕吟味ノ上ニテ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス可キ時ハ重罪取調局ニテ第二百三十一條第二百三十二條第二百三十三條ニ記スル如ク言渡ス可シ

又吟味ノ上被告人ヲ輕罪裁判所ニ移ス可キ時ハ重罪取調局ニテ第二百三十條ノ規則ニ循フ可シ
此場合ニ於テ既ニ被告人ヲ留置場ニ入レタル時其罪禁錮以上ノ刑ニ處ス可キニ於テハ裁判言渡ニ至ル迄被告人ヲ其儘留置場ニ入レ置ク可シ

第二百四十條 其他此治罪法中ニテ前五條ニ反セサル規則ハ重罪取調局ニテ下吟味ヲ言渡シタル場合ニ通シ用フ可シ

第二百四十一條 總テ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス可キ時ハ檢事長重罪告訴狀ヲ記ス可シ
重罪告訴狀ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 罪ノ種類
第二 罪ヲ重クシ又ハ輕クス可キ所爲及ヒ總テノ摸樣
又此書ニハ被告人ノ姓名、年齢、住所、職業、出產ノ地等ヲ詳カニ記ス可シ
告訴狀ノ末ニ其罪犯ヲ告訴スル旨ヲ簡略ニ記ス可シ但シ其文ハ左ノ如クナル可シ
右ニ因リ其何々ノ殺害盜奪又ハ何々ノ重罪ヲ犯シタルヲ告訴ス但シ其罪犯ノ摸樣ハ云々

リ。

第二百四十二條 被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス言渡書及ヒ重罪告訴狀ハ其被告人ニ送達シ此等ノ書

面ノ寫ヲ被告人ニ渡シ置ク可シ

第二百四十三條 前條ニ記シタル書面ヲ送達シタルヨリ二十四時内ニ被告人ヲ輕罪裁判所附ノ留

置場ヨリ其裁判ヲ受ク可キ裁判所ニ移ス可シ

第二百四十四條 若シ被告人ヲ召捕ユルヲ能ハス又ハ被告人出席セサル時ハ此篇第四卷第二章ニ

記スル如ク抗傳者ノ抗傳トシテ處置ス可シ

第二百四十五條 檢事長ハ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス言渡書ヲ被告人住所ノ地ノ知レタル時ハ其

地ノ邑長ト犯罪ノ地ノ邑長トニ送ル可シ

第二百四十六條 被告人重罪取調局ヨリ重罪裁判所ニ至ルニ及ハサルノ言渡ヲ得タル時ハ同一ノ

事件ニ付キ重罪裁判所ニ引出サル、コナカル可シ但シ其罪犯ニ付キ更ニ新ナル憑據アル時ハ格

別ナリトス

第二百四十七條 是レ迄重罪取調局ニ差出スヲ得スシテ新タニ差出シ且罪犯ノ證ヲ確的ニ爲シ

又ハ事實ヲ見出スニ有益ナル證人ノ申述書、證書、調書ハ罪犯ニ付テノ更ニ新ナル憑據ナリト看

做ス可シ

第二百四十八條 此場合ニ於テハ司法警察ノ官吏又ハ下吟味掛リ裁判役新タニ得タル證書類ノ寫

ヲ遅延ナク控訴院ノ檢事長ニ送り重罪取調局ノ上席人檢事長ノ求メニ因リ檢察官ノ申立ニテ法

式ニ從ヒ更ニ下吟味ヲ爲ス可キ裁判役ヲ指示ス可シ

下吟味掛リ裁判役ハ新タニ罪犯ノ憑據タル證書類ヲ得タル上之ヲ檢事長ニ送ラサル前ニ第二百

二十九條ニ循ヒ既ニ赦宥シタル被告人ニ對シ禁錮狀ヲ出スヲ得可シ

第二百四十九條 檢事ハ總テ重罪犯、輕罪犯、註誤罪犯ノ事件ヲ八日毎ニ檢事長ニ報告ス可シ

第二百五十條

若シ檢事長輕罪犯又ハ註誤罪犯ノ事件ノ報告ヲ得タル上ニテ其事件更ニ重劇ナル摸樣アリト思フ時ハ其報告ヲ受ケタルヨリ十五日内ニ其事件ニ付テノ書類ヲ己レニ受取リ之ヲ受取リタルヨリ更ニ十五日内ニ其相當ト思料スル所ヲ重罪取調局ニ申立テ其局ニテ其申立ニ付キ三日内ニ相當ノ言渡ヲ爲ス可シ

〇第二章 重罪裁判所ヲ設クル方法

第二百五十一條

控訴院ノ重罪取調局ヨリ重罪犯ヲ犯シタリト告クル被告人ヲ裁判スル爲メ各州毎ニ重罪裁判所ヲ設ク可シ

第二百五十二條

控訴院所在ノ州ニ於テハ其裁判所ノ裁判役三員出張シテ重罪裁判所ノ裁判役トナル可シ但シ其中ノ一員上席人タル可シ

第二百五十三條

〔千八百五十五年三月二十一日左ノ如ク改ム〕控訴院ノアラサル州ニ於テハ左ノ官員重罪裁判所ノ官員タル可シ

第一 別段任セラレタル控訴院ノ裁判役一員「但シ此裁判役ハ重罪裁判所ノ上席人タル可シ

第二 控訴院ニテ其裁判所ノ裁判役ヲ出張セシムルヲ適當ナリト思フ時ハ其裁判役二員若シ然ラサル時ハ重罪裁判所ヲ設ク可キ地ノ初告裁判所ノ上席人又ハ裁判役二員

第三 初告裁判所ノ檢事又ハ其代役一員「但シ第二百六十五條第二百七十一條第二百八十四條ノ規則ノ差支トナルコトナカル可シ

第四 初告裁判所ノ書記官又ハ其補役一員

控訴院ノ上席人ハ先ツ檢事長ニ相談シタル上重罪裁判所ノ裁判役トナル可キ初告裁判所ノ上席

人又ハ裁判役ヲ撰ム可シ〇其選舉ハ千八百十年七月六日ノ命令書ノ第七十九條及ヒ第八十條ニ

記シタル法式ト期限トニ從ヒ之ヲ爲シ且之ヲ公ケニス可シ

重罪裁判所ノ會議ヲ開キタル後ハ其裁判所ノ上席人正當ノ差支アリテ出席セサル裁判役ノ代人ヲ撰ミ又別段ノ道理アル時ハ裁判役ノ補役ヲ撰ム可シ

第二百五十四條 [千八百二十年十二月十日廢ス]

第二百五十五條 [全]

第二百五十六條 [全]

第二百五十七條 重罪取調局ニ在テ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キ言渡ニ管シタル控訴院ノ裁判役ハ其事件ニ付キ重罪裁判所ノ上席人又ハ裁判役タル可カラス若シ其裁判役重罪裁判所ノ上席人又ハ裁判役トナリ裁判ヲ言渡ス時ハ其言渡ノ効ナカル可シ

第二百五十八條 重罪裁判所ハ通常各州ノ首府ニ之ヲ設ク可シ

然レモ控訴院ニテ更ニ他ノ地ニ之ヲ設ク可キヲ言渡スヲ得可シ

第二百五十九條 重罪裁判所ハ三月毎ニ其會議ヲ開ク可シ

然レモ事務繁多ナル時ハ更ニ屢其會議ヲ開クヲ得可シ

第二百六十條 重罪裁判所ノ會議ヲ開ク可キ期日ハ其裁判所ノ上席人之ヲ定ム可シ

其會議ヲ開キタル上ハ既ニ吟味ヲ爲シ得可キ手續ニ至リシ總テノ重罪事件ヲ訴出^{檢事長}ヨリシタル後ニ非サレハ其會議ヲ閉ツ可カラス

第二百六十一條 重罪裁判所ノ會議ヲ開キタル後ニ其裁判所附ノ留置場ニ入リシ被告人ハ^{檢事長}ヨリ別段求メテ爲シ且被告人承諾シタル上ニテ上席人ヨリ言渡ヲ爲シタル時ニ非サレハ其會議ニテ直チニ其裁判ヲ爲ス可カラス

此場合ニ於テハ^{檢事長}及ヒ被告人重罪裁判所ニ訴ヲ移ス重罪取調局ノ言渡^{即チ重罪ヲ犯シタル}リト告ク可キ言渡ヲ

取消サント訴フルノ權ヲ拋棄シタルト看做ス可シ

第二百六十二條 重罪裁判所ノ裁判言渡ハ法律上ニ定メタル所ニ循ヒ覆審院ニ上告スルニ非サレハ之ヲ取消サント訴フ可カラス

第二百六十三條 若シ第三百八十九條ニ記スル如ク陪審ニ報告ヲ爲シタル後重罪裁判所ノ上席人其職務ヲ行フヲ能ハサルニ至ル時ハ控訴院ヨリ出張シタル裁判役中ニテ最モ先キニ職任ヲ得タル者之ニ代ル可シ又控訴院ヨリ出張シタル裁判役アラサル時ハ初告裁判所ノ上席人之ニ代ル可シ

第二百六十四條 若シ控訴院ヨリ出張シタル裁判役ニ差支アリ又ハ失踪ノ時ハ其控訴院ノ裁判役之ニ代リ若シ其アラサル時ハ初告裁判所ノ裁判役之ニ代ル可シ若シ又初告裁判所ヨリ出張シタル裁判役ニ差支アリ又ハ失踪ノ時ハ其補役之ニ代ル可シ

第二百六十五條 檢事長ハ縱令其場ニアル時ト雖モ其代役中ノ一員ニ其職ヲ任カスルヲ得可シ此條ノ規則ハ重罪裁判所ト控訴院トニ通シ用フ可シ

○第一款 重罪裁判所上席人ノ職務

第二百六十六條 重罪裁判所ノ上席人ハ左件ヲ爲ス可シ

第一 被告人重罪裁判所附ノ留置場ニ來ル時其中述フル所ヲ聽ク事

第二 陪審ヲ呼集メ之ヲ闡引ニ爲ス事

但シ其上席人ハ其職務ヲ裁判役中ノ一人ニ任カスルヲ得可シ

第二百六十七條 重罪裁判所ノ上席人ハ陪審ノ其職務ヲ行フニ當リ之ヲ指揮シ其商議ス可キ事件ヲ辨明シ又其職掌ニ注意セシメ總テ吟味ノ時上席ヲ爲シテ言ヲ發セント求ムル者ノ順序ヲ定ム可シ

其上席人ハ吟味ノ席ノ警察ヲ爲ス可シ

第二百六十八條 又其上席人ハ事實ヲ見出スニ有益ナリト思料ス可キ諸件ヲ爲スノ特權ヲ授カリ

且其本心ト名譽トニ從ヒ事實ヲ見出スニ勉勵ス可キヲ法律上ニテ任セラレタル者トス
 第二百六十九條 其上席人ハ吟味中證人ヲ呼出シテ其申述ヲ聽キ若シ其證人出席セサル時ハ引出
 狀ヲ出シ又吟味ノ席ニテ被告人又ハ證人ノ申述フル所ニ從ヒ更ニ事實ヲ明瞭ナラシム可キ證書
 類アリト思フ時ハ其証書類ヲ差出サシムルヲ得可シ
 此條ニ記スル如ク吟味中上席人ノ命ニテ呼出サレタル証人ハ誓ヲ爲スニ及ハス其申述ハ唯事實
 ナ知ルニ付テノ見合ノ爲メナリト看做ス可シ
 第二百七十條 上席人ハ事實ヲ明瞭ナラシムルニ益ナク徒ラニ辨論ヲ永引カシム可キト思フ所
 ノ事ヲ制止ス可シ

○第二款 控訴院ノ檢事長ノ職務

第二百七十一條 控訴院ノ檢事長ハ此卷第一章ニ定メタル法式ニ循ヒ重罪取調局ヨリ重罪ヲ犯シ
 タリト告クル被告人ヲ自カラ重罪裁判所ニ訴ヘ又ハ其代役ヲシテ訴ヘシム可シ○檢事長ハ重罪
 取調局ヨリ重罪ヲ犯シタリト告ケタルヨリ以外ノ者ヲ重罪裁判所ニ訴フ可カラス若シ之ヲ訴ヘ
 タル時ハ其訴ノ効ナク又別段ノ道理アル時ハ損失ノ償ヲ爲ス可キノ訴ヲ受ク可シ
 第二百七十二條 檢事長又ハ其代役證書類ヲ受取リタル時ハ直ニ吟味ノ爲メ豫備ノ書類ヲ記シ且
 重罪裁判所ノ會議ヲ開ク時ニ當リ雙方ノ辨論ヲ爲シ始メ得可キ模様ニ至ラシムルヲ注意ス可
 シ
 第二百七十三條 檢事長ハ辨論ノ席ニ出テ被告人ヲ刑ニ處スルヲ求メ又重罪裁判所ヨリ裁判言
 渡ヲ爲ス時立會フ可シ
 第二百七十四條 檢事長ハ自己ノ職務ニ因リ又ハ裁判事務宰相ノ命ニ因リ檢事ニ其知ル所ノ輕罪
 犯ヲ訴フ可キヲ任ス可シ
 第二百七十五條 檢事長ハ控訴院又ハ官吏ヨリ差送り又ハ平民ヨリ直チニ己レニ差出シタル罪犯
 申立書ヲ受取リ之ヲ簿冊ニ記シテ其申立書ヲ檢事ニ送達ス可シ

第二百七十六條 檢事長ハ法律上ニテ權ヲ授リタル名義ヲ以テ其相當ト思料スル所ヲ裁判所ニ求
 ムル書面ヲ出シ裁判所ニテハ其書面ヲ受取リタル証書ヲ渡シテ其書面ノ趣ヲ商議ス可シ
 第二百七十七條 檢事長ハ前條ニ記スル書面ニ姓名ヲ手著シ又辨論中其求ムル所ハ書記官之ヲ調
 書ニ記シ檢事長亦之ニ姓名ヲ手著ス可シ○檢事長ノ求ムル所ヲ裁決スル言渡書ハ上席人ト書記
 官ト之ニ姓名ヲ手著ス可シ
 第二百七十八條 裁判所ニテ檢事長ノ求ムル所ヲ聞届ケサル時ト雖モ其儘ニテ吟味及ヒ裁判ノ手
 續ニ取掛ル可シ但シ別段ノ道理アル時ハ裁判言渡アリシ後檢事長ヨリ覆審院ニ上告スルヲ得
 可シ
 第二百七十九條 總テ司法警察ノ官吏ハ勿論下吟味掛リ裁判役ト雖モ檢事長ノ監督ヲ受ク可シ
 第九條ニ記スル所ニ循ヒ其當然ノ職掌行政ノ事ニ管スルト雖モ法律上ニテ司法警察ノ任ヲ受ケ
 タル官吏ハ其警察ノ職務ニ付キ檢事長ノ監督ヲ受ク可シ
 第二百八十條 若シ司法警察ノ官吏及ヒ下吟味掛リ裁判役其職務ヲ怠ルアル時ハ檢事長ヨリ
 之ヲ戒ム可シ但シ檢事長ハ其戒ヲ爲シタル旨ヲ別段設ケタル簿冊ニ登記ス可シ
 第二百八十一條 司法警察ノ官吏及ヒ下吟味掛リ裁判役再ヒ其職務ヲ怠ル時ハ檢事長之ヲ控訴院
 ニ申立ツ可シ
 檢事長ハ控訴院ノ允許ヲ得タル上ニテ此等ノ官吏ヲ裁判役會議ノ室ニ呼出スヲ得可シ
 然ル上ニテ控訴院ヨリ此等ノ官吏ニ向後更ニ其職ニ勉勵ス可キヲ嚴重ニ命令シ且檢事長ニ其
 呼出ヲ允許セシ言渡書ヲ寫シタル費用及ヒ其寫ヲ送達シタル費用並ニ其呼出シノ費用ヲ此等ノ
 官吏ヨリ償ハシム可シ
 第二百八十二條 前ニ記シタル官吏檢事長ノ戒ヲ爲シタル旨ヲ簿冊ニ登記シタル日ヨリ一年內ニ
 更ニ其職ヲ怠リタル時ハ再ヒ怠職シタルノ罪アリトス
 第二百八十三條 檢事及ヒ上席人司法警察ノ官吏又ハ下吟味掛リ裁判役ノ職務ヲ行フ可キ權アル

場合ニ於テハ其檢事及ヒ上席人犯罪ノ地ノ郡又ハ犯罪ノ地ニ隣スル郡ノ檢事又ハ下吟味掛リ裁判役又ハ治安裁判役ニ其職務ヲ任カスルコトヲ得可シ但シ被告人ニ對シ引出狀、禁錮狀、收監狀ヲ出スノ權ハ之ヲ任カス可カラズ

○第三款 重罪裁判所ノ檢事ノ職務

第二百八十四條 第二百五十三條ニ記スル如ク控訴院ノアテサル州ニ於テハ檢事重罪裁判所ニ於テ檢事長ニ等シキ職務ヲ行フ可シ但シ此場合ニ於テモ檢事長ハ其職務ヲ行フ爲メ何時ニテモ重罪裁判所ニ出席スルコトヲ得可シ

第二百八十五條 檢事長ノ代役ハ其州ノ首府ニ住ス可シ 此條ハ別ニ廢シタルノ命令ナシト雖モ既ニ無用トナリシモノナリ

第二百八十六條 州ノ首府ニ非サル地ニ重罪裁判所ヲ設クル時ハ檢事長ノ代役其地ニ移住ス可シ 前條ニ等シク既ニ無用ノ箇條ナリ

第二百八十七條 重罪裁判所ノ言渡ノ控訴ヲ吟味シ及ヒ裁判スル時檢事官ノ職ヲ行フ可シ 第二百二條見合

第二百八十八條 其檢事ニ一時差支アル時ハ(其州ノ首府ノ初告裁判所ノ檢事之ニ代ル可シ)當時印ノ間ノ文無用ニシテ現ニ行ハル所ニ於テハ「其代役之ニ代ル可シ」ト改ム可シ

第二百八十九條 重罪裁判所ノ檢事ハ其州中ノ司法警察官吏ヲ監督ス可シ

第二百九十條 其檢事ハ其州内ニテ吟味シタル重罪、輕罪、註誤ノ目錄ヲ三月毎ニ檢事長ニ出シ又別段求メテ受ケタル時ハ更ニ屢々其目錄ヲ出ス可シ

○第三章 重罪裁判所ニテ爲ス所ノ手續

第二百九十一條 重罪取調局ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告ルコトヲ言渡シタル時控訴院所在ノ地

ニ重罪裁判所ヲ設ケサルニ於テハ檢事長ノ命ニテ二十四時間ニ總テ訴ニ管スル書類ヲ州ノ首府ニアル初告裁判所ノ書記局 即チ重罪裁判所ヲ設ケル初告裁判所ノ書記局ニ送り又ハ別段指示シタル初告裁判所ノ書記局同ニ之ヲ送ル可シ

如何ナル場合ニ於テモ下吟味ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ遺シ置キ又ハ控訴院ノ書記局ニ差出シタル犯罪ノ証書類ヲ同一ノ期限内ニ送リ云フ前項ニ記シタル書記局ニ送ル可シ

第二百九十二條 前條ニ記シタル二十四時ノ期限ハ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス可キ重罪取調局ノ言渡書リト告ク可キ言渡ヲ被告人ニ送りタル時ヨリ之ヲ算フ可シ

被告人既ニ留置場ニ入りタル時ハ右二十四時ノ期限内ニ重罪裁判所附ノ留置場ニ其被告人ヲ移ス可シ

第二百九十三條 書記局ニ書類ヲ送り且被告人ヲ重罪裁判所附ノ留置場ニ移シタル時ヨリ遅クトモ二十四時間ニ重罪裁判所ノ上席人又ハ上席人ヨリ別段任テ受ケタル裁判役其被告人ヲ問糺ス可シ

第二百九十四條 被告人ハ自己ノ爲メ辨論ス可キ代官人ヲ撰ミタルヤ否ノ問ヲ受ケ若シ之ヲ撰マサル時ハ裁判役直チニ代官人一名ヲ撰ム可シ但シ代官人ヲ撰ムコトナクシテ爲シタル諸件ハ其効ナカル可シ

然レモ被告人後ニ自カラ代官人ヲ撰ミタル時ハ裁判役ノ爲シタル代官人ノ撰用ヲ取消ス可シ但シ此場合ニ於テハ裁判役ノ爲シタル代官人ノ撰用ヲ取消スト雖モ其撰用ヲ得タル代官人ノ爲セシ諸件ハ取消ス可カラズ

第二百九十五條 被告人ノ代官人ハ本人自カラ撰用スルト裁判役ノ撰用スルトヲ問ハス控訴院又ハ其管轄地内ノ代官人若クハ代書師ヲ用フ可シ但シ被告人重罪裁判所ノ上席人ヨリ己レノ親族

又ハ朋友中ノ一人ヲ代言人ト爲ス可キ允許ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第二百九十六條 重罪裁判所ノ上席人又ハ上席人ヨリ別段任セラレタル裁判役ハ被告人ニ若シ重罪取調局ノ言渡ヲ取消シ願フ可キノ權ヲ失フ可キ旨ヲ告ク可シ

此條ニ記スル所及ヒ前二條ニ記スル所ヲ執行フタル事ハ之ヲ調書ニ記シ被告人、裁判役、書記官皆之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ被告人姓名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ之ヲ肯セサル時ハ調書ニ其旨ヲ附記ス可シ

第二百九十七條 若シ被告人前條ニ循ヒ裁判役ヨリ告知ヲ受クルコトナキ時ハ五日以上ノ時間重罪取調局ノ言渡ヲ取消ス可キ旨ヲ届出ルコトナシト雖モ其届出ヲ爲ス可キ權ヲ失フコトナク重罪裁判所ノ確定ノ裁判言渡アリシ後ニ至リ其權ヲ行フコトヲ得可シ

第二百九十八條 檢事長モ亦被告人問糾ノ時ヨリ五日內ニ重罪取調局ノ言渡ヲ取消サントスル旨ヲ届出ツ可ク若シ之ヲ爲サ、ル時ハ第二百九十六條ニ記スル如ク其權ヲ失フ可シ

第二百九十九條 (千八百五十三年六月十日左ノ如ク改ム)重罪取調局ノ言渡 即チ被告人重罪ヲ犯シテ取消サントスルハ左ノ場合ニ限ル可シ
第一 裁判所管轄ノ異ナル時
第二 被告人ノ申立ラレシ所爲ヲ法律上ニテ重罪ト爲サ、ル時
第三 檢察官ノ申立ヲ聽カサリシ時
第四 法律上ニ定メタル員數ノ裁判役其言渡ヲ爲サ、ル時

第三百條 重罪取調局ノ言渡ヲ取消サントスル届書ハ書記局 重罪裁判所 に出ダス可シ
書記官其届書ヲ受取リタル後直チニ控訴院ノ檢事長ヨリ重罪取調局ノ言渡書ノ寫ヲ覆審院ノ檢

事長ニ送り覆審院ニ於テハ他事ヲ差置キ先ツ其取消ノ願ヲ裁判ス可シ
第三百一條 (千八百五十三年六月十日左ノ如ク改ム)重罪取調局ノ言渡ヲ取消サント願出シタルニ管セス重罪裁判所ニテ公ケノ吟味 即チ被告人証人原告 等ノ辨論ヲ云フ 至ル迄ノ手續ヲ爲ス可シ

然レモ第二百九十六條ニ記シタル期限ノ終リシ後其取消ノ願ヲ爲シタル時ハ其願ニ管セス重罪裁判所ニテ公ケノ吟味ト裁判トニ取掛ル可シ○此場合ニ於テハ重罪裁判所ノ確定ノ裁判言渡アリシ後ニ非サレハ其取消ノ願並ニ其願ヲ爲スニ付テノ憑據ヲ覆審院ニ差出ス可カラス

又其他如何ナル原由アルヲ問ハス總テ法律上ニ定メタル期限ノ終リシ後又ハ其期限内ト雖モ陪審ノ姓名ヲ闕引ニ爲シタル後ニ申出シタル裁判言渡取消ノ願ハ此條ニ記スル如クタル可シ

第三百二條 被告人ノ代理人ハ被告人ノ問糾ノ後之レト面談スルコトヲ得可シ
又其代理人ハ總テノ証書類ヲ檢視スルコトヲ得可シ但シ之レカ爲メ其証書類ヲ他所ニ移シ又ハ吟味ノ手續ヲ遅延スルコトナカル可シ

第三百三條 更ニ新ナル証人ヲ問糾ス可キ時其証人重罪裁判所ノ管轄外ニ住居スルニ於テハ其上席人又ハ上席人ニ代ル可キ裁判役其証人住居ノ地ノ下吟味掛リ裁判役又ハ其他ノ地ノ下吟味掛リ裁判役ヲシテ其申述ヲ聽カシム可シ○其下吟味掛リ裁判役其申述ヲ聽キタル上ニテ之ヲ書面ニ記シ封印ヲ爲シテ重罪裁判所ノ書記官ニ送ル可シ

第三百四條 重罪裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル裁判役ヨリ呼出テ受ケテ出席セサル証人正當ノ差支アリシ証ヲ立テサル時又ハ其証人出席スルト雖モ証ヲ申述フルコトヲ肯セサル時ハ重罪裁判所ニテ吟味ヲ受ケ第八十條ニ循ヒ罰ヲ受ク可シ

第三百五條 被告人ノ代理人ハ其事件ニ管スル証書類ノ中ニテ其辨論ノ爲メ有益ナリト思料スルモノヲ自己ノ費用ヲ以テ寫取リ又ハ寫取ラシムルコトヲ得可シ
又罪犯ノ證ヲ立ル調書及ヒ證人ノ申述書ハ被告人ノ數如何ニ多キヲ問ハス無稅ニテ其寫一通ノ

ミヲ渡ス可シ

上席人、裁判役、検事長ハ此條ノ規則ノ如ク執行ヲ可キコトニ注意ス可シ

第三百六條 若シ検事長又ハ被告人陪審ノ最初ノ會議ニテ其事件ノ審判ヲ受クルコトヲ欲セサル原因アル時ハ重罪裁判所ノ上席人ニ延期ノ願書ヲ差出シ其上席人延期願ヲ允許ス可キヤ否ヲ決定ス可シ

又上席人ハ自己ノ公務ヲ以テ其延期ヲ言渡スコトヲ得可シ

第三百七條 一箇ノ罪犯ニ付キ被告人數人ニ對シ重罪告訴狀數通アル時ハ検事長其數箇ノ訴ヲ合

ス可キノ求メテ爲スコトヲ得可シ又裁判所ノ上席人ハ自己ノ公務ヲ以テ其事ヲ言渡スヲ得可シ

第三百八條 若シ一通ノ重罪告訴狀ニ互ニ附帶セサル罪犯數箇ヲ記シタル時ハ検事長ヨリ當時其罪犯中ニテ特ニ定メタル一箇又ハ數箇ノミヲ裁判ス可キコトヲ求ムルヲ得可シ又裁判所ノ上席人ハ自己ノ公務ヲ以テ其事ヲ言渡スヲ得可シ

第三百九條 重罪裁判所ノ會議ヲ開ク日ニ至リ裁判役列坐シタル上ニテ陪審十二名圖引ノ順序ニ從ヒ來聽人ノ席、原告被告ノ席、證人ノ席ト離レ被告人ト相對シテ席ニ就ク可シ

○第四章 吟味ノ事、裁判言渡ノ事、裁判言渡ノ如ク執行ノ事

○第一款 吟味ノ事

第三百十條 被告人ハ其逃亡ヲ防ク爲メ番卒一員ニ押送セラレ縛ヲ受クルコトヲ裁裁判所ニ出ツ可シ

第三百十一條 上席人ハ被告人ノ代官人ニ其本心ニ背キ詞ヲ發ス可カラス又國ノ法律ヲ慢侮シテ詞ヲ發ス可カラス禮節謙退ノ道ヲ守リ辨論ス可キコトヲ告ク可シ

第三百十二條 陪審皆帽ヲ脱シ立チ並ヒタル上ニテ上席人陪審ニ向ヒ左ノ語ヲ述フ可シ

汝等此度被告人某ノ受ケタル罪犯申立チ懇切ニ注意シテ審カニ取調ヘ被告人ノ權利並ニ其罪犯ヲ申立タル國民ノ權利ヲ損害スルコトナク且汝等決斷ヲ爲スニ至ル迄ハ人ト詞ヲ參フ可カラ

ス愛憎畏懼ノ心ヲ生ス可カラス委サニ罪犯ノ告訴ト被告人ノ答辨トヲ聽キ以テ自主ノ權アル正直ノ人ニ適スル公平誠實ノ意ヲ以テ汝等ノ本心ト其心ニ思込タル所トニ從ヒ決斷ヲ爲ス可キ事ヲ天ト人トニ對シ盟約ス可シ

上席人此語ヲ述ヘ終リタル後陪審ヲ一人毎ニ其面前ニ呼寄セ然ル後陪審手ヲ舉ケ余之ヲ盟フト答フ可シ若シ陪審其盟ヲ爲サ、ル時其決斷ノ効ナカル可シ

第三百十三條 此式ヲ爲シ終リタル後上席人ヨリ被告人ニ其聽ク所ノ事ニ注意ス可キコトヲ告ク可シ然ル上ニテ上席人書記官ヲシテ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス重罪取調局ノ言渡書ト重罪告訴狀トヲ讀上ケシム可シ

書記官ハ高聲ニテ之ヲ讀上ク下シ

第三百十四條 其讀上ノ濟ミタル後上席人更ニ被告人ヲシテ重罪告訴狀ニ記スル所ニ注意セシメ然ル後被告人ニ是レ即チ汝ノ告訴セラル、所ナリ之ヨリ後其罪犯ノ證ノ申述ヲ聽ク可シト告ク可シ

第三百十五條 検事長ハ更ニ告訴ノ旨趣ヲ辨明シタル上ニテ自己ノ求メ又ハ民事原告人ノ求メ又

ハ被告人ノ求メニ因リ問糺ス可キ證人ノ姓名目錄ヲ差出ス可シ

書記官高聲ニ其目錄ヲ讀上ク可シ

其目錄ニハ證人吟味ヨリ少クモ二十四時前ニ検事長又ハ民事原告人ヨリ被告人ニ姓名、職業、住所ヲ告知シタル證人又ハ被告人ヨリ検事長ニ姓名、職業、住所ヲ告知シタル證人ノミヲ記

ス可シ但シ第二百六十九條ニ循ヒ裁判所上席人ノ呼出サントスル證人ハ例外ナリトス

被告人及ヒ検事長ハ告知書ニ全ク姓名ヲ記セサル證人又ハ其姓名ヲ記スルト雖モ職業、住所等總テ其人ヲ知り得可キ諸件ヲ詳カニ記セサル證人ノ問糺ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ

其故障ノ申述ハ即時ニ裁判所ニテ審判ス可シ

第三百十六條 上席人ハ證人ニ別段指定メタル室ニ退ク可キコト命ス可シ○證人ハ其証ヲ申述フル時ニ非サレハ猥リニ其室ヲ出ツ可カラス○上席人已ムヲ得サル事情アル時ハ證人等ヲシテ其証ヲ述ヘシムル前ニ罪犯ノ事並ニ被告人ノ事ニ付キ互ニ談話スルヲ防ク爲メノ處置ヲ爲ス可シ

第三百十七條 証人等ハ檢事長ノ定メタル順序ニ從ヒ各自ニ其証ヲ申述フ可シ○証人ハ証ヲ述フル前ニ愛憎畏懼ノ心ナク正實ヲ述ヘ正實ノ外述ヘサル可キノ誓ヲ爲ス可シ若シ其誓ヲ爲サレ時ハ其申述ヘタル證ノ効ナカル可シ

上席人ハ證人ニ其姓名、年齢、職業、住所ヲ問糺シ又被告人ノ告訴サレタル罪犯ノ以前ヨリ其被告人ヲ知リタルヤ否ヲ問糺シ又被告人或ハ民事原告人ノ血屬ナルヤ姻屬ナルヤ若シ血屬姻屬ナレハ何級ナルヤヲ問糺シ又被告人或ハ民事原告人ノ使用ヲ受タル者タルヤ否ヲ問糺ス可シ此問糺濟ミタル上證人口上ニテ証ヲ述フ可シ

第三百十八條 上席人ハ書記官ヲシテ嘗テ證人ノ申述ヘシ所ト現ニ其申述フル所トノ差異増加ヲ書取ラシム可シ

又檢事長及ヒ被告人ハ其差異増加ヲ書取ラシムルコトヲ上席人ニ求ムルヲ得可シ

第三百十九條 證人証ヲ述ヘ終リタル後上席人ヨリ證人ニ其述フル所ハ現ニ其席ニ在ル被告人ニ管シタルニ相違ナキヤヲ問ヒ然ル後被告人ニ證人ノ述フル所ノ罪犯ノ證ニ答辨セント欲スルヤ否ヲ問フ可シ

証人其証ヲ述フル間ハ他ヨリ詞ヲ參フ可カラズ被告人及ヒ其代言人証人ニ問ハント欲スル事アラハ証人ノ其証ヲ述ヘ終リタル後之ヲ上席人ニ願ヒ証人ニ問ハシム可シ然ル上ニテ被告人又ハ其代言人其証人ト其申述ヘタル罪犯ノ証トニ付キ自己ノ權利ヲ護スルニ有益ナリト思料スル所ヲ述フルコトヲ得可シ

上席人ハ事實ヲ明白ナラシムル爲メ必要ナリト思フ所ノ諸件ヲ自己ノ職務ヲ以テ証人ト被告人トニ問フコトヲ得可シ

又裁判役、檢事長、陪審ハ上席人ノ許ヲ得タル上ニテ同上ノ諸件ヲ証人ト被告人トニ問フコトヲ得可シ○民事ノ原告人ハ其問ハント欲スル事ヲ上席人ニ願ヒ問ハシム可シ

第三百二十條 各證人ハ其証ヲ述ヘ終リタル後陪審其決斷ヲナス爲メ吟味ノ席ヲ退クニ至ル迄其席ニ留ル可シ但シ上席人ヨリ之ニ反シタル言渡ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第三百二十一條 檢事長又ハ民事原告人ヨリ出シタル證人ノ申述ヘシタル後被告人ハ告訴狀ニ記シタル罪ヲ犯サ、ルノ證ヲ立ル爲メ又ハ廉直ニテ行狀正シク名譽ヲ失ハサル人タルノ證ヲ立ル爲メ其姓名目錄ヲ出シ置キタル証人ヲシテ証ヲ述ヘシム可シ

被告人ハ己レノ求メニテ証人ヲ呼出シタル費用ト其証人謝金ヲ得ント求ムル時ハ其謝金トテ擔當ス可シ但シ檢事長被告人ノ申立シ証人ヲ呼出ス時ハ事實ヲ分明ナラシムルニ有益ナル可シト思料シ自カラ之ヲ呼出スコトヲ求メタル時ハ格別ナリトス

第三百二十二條 左ノ証人ノ申述ハ之ヲ聽ク可カラス
第一 被告人又ハ其吟味ニ受クル被告人中一人ノ父母、祖父母、又ハ其他ノ尊屬ノ親
第二 子、女、孫男、孫女、又ハ其他ノ卑屬ノ親
第三 兄弟姊妹
第四 全上ノ級ノ姻族ノ親
第五 既ニ離婚シタルト否トヲ問ハス夫又ハ婦
第六 罪犯ヲ申立ルニ付法律上ニテ給料ヲ受クル者

然レ此等ノ証人ノ証ヲ述フル時檢事長又ハ民事原告人又ハ被告人其証ヲ述フルニ付キ故障ヲ申立テサルニ於テハ其証ヲ申述ヘタルノ効アリトス

第三百二十三條 罪犯ヲ申立ルニ付キ法律上ニテ給料ヲ受ケサル罪犯申立人ハ其証ヲ申述フルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其証人罪犯ノ申立人タルコトヲ陪審ニ告知ス可シ

第三百二十四條 檢事長又ハ被告人ノ差出シタル證人第三百十五條ニ記シタル姓名目錄中ノ者タル時ハ縱令豫メ書面ヲ以テ其証ヲ申述ヘタルコトナク又ハ別段呼出テ受クルコトナシト雖モ吟味ノ席ニテ其中述ヲ聽ク可シ

第三百二十五條 凡ソ証人ハ之ヲ差出セシ者ノ何人タルヲ問ハス互ニ問糾ヲ爲ス可カラズ

第三百二十六條 被告人ハ証人等ノ証ヲ述ヘ終リタル後其別段指示ス所ノ証人チ一旦吟味ノ席ヨリ退カシメ其後更ニ一人毎ニ出席シテ其証ヲ述ヘシメ或ハ數人相對シテ其証ヲ述ヘシムルコトヲ求ムルヲ得可シ

檢事長モ亦同一ノ權アリ

又上席人ハ自己ノ職務ヲ以テ之ヲ言渡スコトヲ得可シ

第三百二十七條 上席人ハ証人ノ申述ヲ聽ク前後又ハ之ヲ聽ク間ニ被告人中一人又ハ數人ヲ吟味ノ席ヨリ退カシメ罪犯ノ模様ニ付キ別席ニテ之ヲ吟味スルコトヲ得可シ然レトモ各被告人ニ其席ニ居ラサル間爲シタル所ノ諸件ヲ詳カニ告知シタル上ニ非サレハ更ニ總體ノ吟味ニ取掛ル可カラズ

第三百二十八條 証人吟味ノ間陪審、檢事長、裁判役ハ証人ノ申述又ハ被告人ノ答辨ノ中ニテ入用ナリト思料スル諸件ヲ書取ルコトヲ得可シ但シ之カ爲メ辨論ノ妨ヲ爲ス可カラズ

第三百二十九條 証人ノ証ヲ申述フル時間又ハ之ヲ申述ヘタル後上席人ヨリ罪犯ノ憑據タル可キ諸物件ヲ被告人ニ示シ被告人ヲシテ之ヲ認ルヤ否ヲ自カラ答ヘシム可シ又上席人ハ別段ノ道理アル時全上ノ物件ヲ證人ニモ示ス可シ

第三百三十條 若シ吟味ノ上證人ノ述フル所全ク詐偽タル可シト思ハル、時ハ上席人檢事長ノ求メニ因リ又ハ民事ノ原告人或ハ被告人ノ求メニ因リ又ハ自己ノ職務ヲ以テ直チニ其証人ヲ召捕ヘシムルコトヲ得可シ○此場合ニ於テハ檢事長司法警察官吏ノ職ヲ行ヒ上席人又ハ上席人ヨリ別段任シタル裁判役下吟味掛リ裁判役ノ職ヲ行フ可シ

下吟味ヲ爲シ終リタル上ニテ總テノ書類ヲ控訴院ノ重罪取調局ニ送り其局ニ於テ其証人ノ重罪犯ヲ告ク可キヤ否ヲ裁決ス可シ

第三百三十一條 前條ノ場合ニ於テハ檢事長又ハ民事ノ原告人又ハ被告人ヨリ重罪裁判所ノ次ノ會議ノ日ニ吟味ヲ延ス可キコトヲ直ニ求ムルヲ得可ク又裁判所ヨリ公務ヲ以テ之ヲ言渡スコトヲ得可シ

第三百三十二條 若シ被告人ト証人ト互ニ其言語ノ相通セサル時ハ上席人其職務ヲ以テ二十一歳以上ノ通辨人ヲ任シ且其通辨人ヲシテ互ニ異ナリタル言語ヲ用フル者ノ述フル所ヲ正實ニ譯解ス可キノ標ヲ爲サシム可シ若シ此等ノ規則ニ背ク時ハ其通辨シタル諸事ノ効ナカル可シ
被告人及ヒ檢事長ハ通辨人ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可シ但シ其故障ノ申述書ニハ其旨趣ヲ記ス可シ
其故障ノ申述ハ裁判所ニテ裁決ス可シ

証人、裁判役、陪審ハ縱令檢事長及ヒ被告人ノ承諾アリト雖モ通辨人トナル可カラズ若シ此等ノ者通辨ヲ爲ス時ハ其通辨シタル諸事ノ効ナカル可シ

第三百三十三條 若シ被告人聾啞ニシテ且文字ヲ書スルコトヲ知ラサル時ハ上席人平生被告人ト應接スルニ慣熟セシ者ヲ撰ミ言語ヲ通セシム可シ

証人聾啞タル時モ亦之ニ等シトス
其他此條ニ記スル所ニ付キ前條ノ規則ヲ通シ用フ可シ
聾啞者文字ヲ書スルコトヲ知ル時ハ其者ヘノ問糾及ヒ上席人ヨリ注意セシムル諸件ヲ書記官書面ニ記シテ之ヲ示シ聾啞者亦其返答ヲ書面ニ記シテ差出ス可シ○書記官ハ總テ此等ノ書面ヲ讀上ク可シ

第三百三十四條 被告人數人アル時ハ上席人最初吟味ヲ受ク可キ者ヲ定ム可シ但シ其數人中罪犯ノ主者アル時ハ最初ニ之ヲ吟味ス可シ他ノ被告人ハ各自次第ニ吟味ヲ受ク可シ

第三百三十五條 證人等証ヲ述ヘ終リ且其中述ニ付キ辨論アリシ後民事ノ原告人又ハ其代言人及

ヒ檢事長罪犯告訴ノ憑據ヲ辨ス可シ
被告人又ハ其代理人之ニ答フ可シ
民事ノ原告人及ヒ檢事長ハ更ニ之ニ答フルコトヲ得可シ然レモ辨論ノ終ニハ被告人又ハ其代理人
必ス詞ヲ發ス可シ

然ル上ニテ上席人吟味ノ畢レル旨ヲ言渡ス可シ
第三百三十六條 上席人ハ吟味ニ付テノ諸件ヲ約縮ス可シ
上席人ハ有罪ノ重立タル證又ハ無罪ノ重立タル証ヲ陪審ニ告ク可シ
其後上席人ハ陪審ヲシテ其職務ニ注意セシム可シ
上席人ハ後ノ數條ニ記スル如ク陪審ニ問フ可シ

第三百三十七條 重罪告訴狀ニ記スル罪犯ニ管シタル問ハ左ノ如シ
被告人ハ告訴狀 第二百四十 二記シタル模様ニテ云々ノ殺害云々ノ盜奪云々ノ重罪ヲ犯シタルヤ
一條見合

第三百三十八條 吟味ニ因リ告訴狀ニ記シタル以外ノ罪ヲ重クス可キ模様アルコトヲ知リタル時ハ
上席人左ノ問ヲ加フ可シ
被告人ハ云々ノ模様ニテ重罪ヲ犯シタルヤ
第三百三十九條 被告人其罪犯ニ付キ法律上ニテ赦宥ヲ得可シト爲ス事情アルコトヲ申述ヘタル時
ハ上席人左ノ如ク陪審ニ問フ可ク若シ此規則ニ背ク時ハ其問ノ効ナカル可シ 刑法第三百二
十一條見合

第三百四十條 若シ被告人ノ年齢十六歳以下ナル時ハ上席人左ノ如ク陪審ニ問フ可シ若シ此規
則ニ反ク時ハ其問ノ効ナカル可シ 刑法第六十
六條見合
被告人ノ罪ヲ犯シタルハ故意ヲ以テ爲シタルヤ
其事情相違ナキヤ

第三百四十一條 (千八百五十二年六月九日左ノ如ク改ム)總テ重罪ニ付テハ初犯ト再犯トヲ論セ
ス上席人陪審ニ告訴狀ニ記スル所ノ問ヲ爲シ又ハ吟味ニ因リ知リタル所ノ問ヲ爲シタル後陪審
ノ全員中其過半被告人ノ爲メ罪ヲ輕クス可キ模様アリト思ハ、左ノ如ク中立ツ可キ旨ヲ陪審ニ
告ク可シ若シ規則ニ背ク時ハ其問ノ効ナカル可シ
陪審全員ノ中過半ノ說ニテ被告人ノ爲メ罪ヲ輕クス可キ模様アリトス
此問ヲ爲シタル後上席人數箇ノ問ヲ記シタル書面ヲ陪審長ニ渡ス可シ但シ重罪告訴狀、罪犯ノ
證ヲ立ル調書及ヒ其他證人ノ申述書ヲ除クノ外總テ訴訟ニ管シタル書類モ亦之ニ添ヘ渡ス可シ
上席人ハ陪審ニ秘密ノ投票ヲ以テ決斷ヲ爲ス可キコトヲ告ク可シ 第三百四十
次ニ上席人ハ被告人ヲ吟味ノ席ヨリ退カシム可シ 五條見合

第三百四十二條 上席人ヨリ陪審ニ問フ爲シ且其問ヲ記シタル書面ヲ渡シタル上ニテ陪審其室ニ
退キ商議ス可シ
陪審ノ姓名ヲ圖引ニ爲シタル時最モ先ニ姓名票ノ出テタル者ヲ陪審ノ長ト爲シ又ハ其者承諾ノ
上ニテ陪審全員ノ別段指定メタル者ヲ以テ其長ト爲ス可シ
陪審商議ヲ爲シ始ル前ニ其長左ノ心得書ヲ讀上ク可シ但シ其心得書ハ大字ニ記シテ室内ノ最モ
著シキ場所ニ張出シ置ク可シ其文左ノ如シ

凡ソ法律ハ陪審ノ確的ト爲ス憑據ノ如何ヲ論スルコトナク又微證ノ完備シテ信據ス可キヤ否ヲ
試ミ識ル可キ規則ヲ定ムルコトナシ唯陪審ハ罪犯ノ證及ヒ被告人ノ答辨ニ付キ其是非曲直如何
ヲ靜默沈思シテ自カラ之ヲ己レニ問ヒ且其本心ニ從テ決斷ス可シ○法律ハ陪審ニ對シ證人幾
許ノ述フル所ヲ正實ト爲ス可シト定メ命スルニ非ス又云々ノ調書云々ノ證書云々ノ證人云々
ノ微憑ニ據ラサル證ヲ正實ト爲ス可カラスト定メ命スルニ非ス唯其心中如何ニ思ヒ定ムルヤ
ト云フヲ問フノミトス是レ則チ陪審ノ職務ノ要領ナリ

陪審ノ着意セサルヲ得可カラサル要件ハ其商議スル所固ト罪犯告訴狀ノ事ニ管スルニ因リ其職務告訴狀ニ記スル條件並ニ之ニ附帶シタル條件ノミヲ議ス可キニ在テ若シ其決斷ヲ爲シタル上被告人刑法ノ規則ニ循ヒ如何ナル處置ヲ受ク可キヤ豫メ之ヲ思慮スルカ如キハ即チ其最要ノ職務ニ背クモノトス夫レ陪審ノ職ハ罪犯ヲ告訴スルニ非ス又之ヲ罰スルニ非ス唯被告人ノ罪ノ有無ヲ決斷スルニ過キサルノミ

第三百四十三條 陪審ハ其決斷ヲ爲シタル後ニ非サレハ其室ヲ出ルヲ得ス又如何ナル理由アリト雖モ上席人ヨリ允許ノ書面ヲ得タル上ニ非サレハ陪審ノ商議中其室ニ入ル可カラス

上席人ハ裁判所ニ屬シタル備警兵ノ長ニ陪審ノ室ニ人ノ出入スルヲ制ス可キ命令書ヲ渡ス可シ但シ其備警兵長ノ姓名官位ハ其命令書ニ附記ス可シ

此命ニ背キタル陪審ハ五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ裁判所ヨリ言渡サル可シ陪審ヲ除クノ外總テ此命ニ背キタル者又ハ此命ノ如ク執行ハシメサル者ハ二十四時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第三百四十四條 陪審ハ先ツ主タル事件ヲ商議シ次ニ之ヲ附帶シタル數箇ノ摸樣ヲ次第ニ商議ス可シ

第三百四十五條 「千八百三十五年九月九日左ノ如ク改ム」陪審ノ長第三百三十六條ニ記シタル如ク上席人ノ爲シタル問ノ書面數通ヲ次第ニ讀上ケタル後陪審等犯罪告訴ノ主タル箇條並ニ罪ヲ輕クス可キ摸樣及ヒ罪ヲ重クス可キ摸樣ニ付キ秘密ノ投票ヲ以テ決斷ヲ爲ス可シ

第三百四十六條 「千八百三十五年九月九日左ノ如ク改ム」又第三百三十九條及ヒ第三百四十條ニ記シタル場合ニ於テ上席人ノ爲シタル問ニ付テモ亦前條ニ記スル如ク處置ヲ爲シ且秘密ノ投票ヲ以テ決斷ス可シ

第三百四十七條 「千八百五十三年六月九日左ノ如ク改ム」陪審被告人ヲ有罪ナリト爲ス決斷又ハ

罪ヲ輕クス可キ摸樣ノ有無ニ付テノ決斷ハ全員中其半以上ノ投票ニ因リ之ヲ爲ス可シ○其決斷書ニハ之ヲ可トセシ者ノ數ヲ記スルヲナク唯全員ノ半以上之ヲ可トスル旨ヲ記ス可シ但シ此條ニ記スル所ノ規則ニ背キタル時ハ其決斷ノ効ナカル可シ

第三百四十八條 次ニ陪審再ヒ吟味ノ席ニ來リ其座ニ就ク可シ然ル時上席人ヨリ其決斷ノ如何ヲ問フ可シ陪審ノ長立上リ其心臓ノ上ニ手ヲ置テ左件ヲ述フ可シ

我面目及ヒ本心ニ從フテ天ト人トニ誓ヒ陪審ノ決斷ハ然リ被告人ニ云々○罪有ル○罪無キ○云々○罪無キ○云々

第三百四十九條 陪審ノ決斷書ハ陪審全員ノ面前ニテ其長之ニ姓名ヲ手署シ且之ヲ上席人ニ渡ス可シ

上席人ハ自カラ之ニ姓名ヲ手署シ且書記官ヲシテ姓名ヲ手署セシム可シ

第三百五十條 陪審ノ決斷ハ之ヲ取消サント訴フ可カラス

第三百五十一條 「千八百三十一年三月四日廢ス」

第三百五十二條 「千八百五十三年六月九日左ノ如ク改ム」陪審被告人ヲ罪有リト決斷シタル時裁判所ニテ陪審法式ニ違フヲナシト雖モ罪ノ本案ニ付キ錯誤シタルヲ確知シタルニ於テハ裁判官

渡ヲ暫ク止メ其事ヲ次ノ會議ノ日ニ延シテ其日ニ至リ更ニ陪審ヲシテ商議セシム可シ但シ以前ノ陪審ハ再度ノ陪審ノ員中ニ參加ス可カラス

此條ニ記スル事ハ願ヲ以テ爲ス可カラス陪審ノ決斷ヲ公ケニ言渡シタル後裁判所ノ公務ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

再度ノ陪審ノ決斷以前ノ陪審ノ決斷ト同シキ時ト雖モ裁判所ニテ再度ノ陪審ノ決斷ヲ取消シ更ニ陪審ヲシテ商議セシム可カラス

第三百五十三條 證人ノ吟味及ヒ雙方辨論ヲ爲シ始メタルヨリ陪審ノ決斷ヲ爲スニ至ル迄ハ間斷

ナク且外人ト談話スルコトナク其手續ヲ繼續シテ行フ可シ○上席人ハ裁判役、陪審、證人、被告人等ノ休息ノ爲メ必要ナル時間ノミ其手續ヲ止ムルコトヲ得可シ

第三百五十四條 呼出テ受ケタル證人出席セサル時ハ裁判所ニテ檢事長ノ求メニ從ヒ證人ノ姓名目錄中ノ最初テ記シタル者證ヲ申述ヘサル内ニ罪犯ノ吟味ヲ次ノ會議ノ日ニ延ハスコトヲ得可シ

第三百五十五條 若シ證人呼出テ受ケテ出席セサルニ付キ罪犯ノ吟味ヲ次ノ會議ノ日ニ延ハス時ハ總テ證人等呼出ノ費用、證書類ニ付テノ費用、證人等ノ旅費及ヒ其他其罪犯一件ヲ裁判スル爲メノ費用皆其出席セサル證人之ヲ擔當ス可シ但シ其證人ハ檢事長ノ求メニ因リ次ノ會議ノ日ニ吟味ヲ延ハス言渡ヲ以テ此等ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケ若シ之ヲ償ハサルニ於テハ召捕ヘラル可シ

又全上ノ言渡書ニハ其證人ヲシテ證ヲ述ヘシムル爲メ公ケノ兵力ヲ以テ之ヲ裁判所ニ引出ス可キ旨ヲ記ス可シ

又如何ナル場合ニ於テモ呼出テ受ケテ出席セサル證人又ハ出席スト雖モ誓ヲ爲スコトヲ肯セス或ハ證ヲ述フルコトヲ肯セサル證人ハ第八十條ニ記スル所ノ罰ヲ言渡サル可シ

第三百五十六條 其言渡ヲ受ケタル證人ハ其住所ニ其言渡書ノ送達ヲ得タルヨリ十日内ニ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可ク又其住所隔リタル時ハ五「ミリアメートル」毎ニ一日ノ猶豫ヲ増ス可シ但シ其證人出席ヲ爲サ、ル正當ノ差支アリタル證ヲ立テ又ハ其罰金ヲ更ニ減ス可キ道理アル證ヲ立テタル時ハ其故障ノ申述ヲ聞届ク可シ

○第二款 裁判言渡ノ事及ヒ裁判言渡ノ如ク執行フ事
第三百五十七條 上席人ハ被告人ヲ出席セシメタル上書記官ヲシテ其面前ニ於テ陪審ノ決斷書ヲ讀上ケシム可シ

第三百五十八條 陪審ノ決斷ニテ被告人ヲ無罪ナリトスル時ハ上席人ヨリ被告人罪犯ノ告訴ヲ免レタル旨ヲ言渡シテ之ヲ赦宥ス可キコトヲ命ス可シ但シ他ノ理由ノ爲メ禁錮セラレシ時ハ格別ナ

リトス

然ル後雙方互ニ損失ノ償ヲ得ント求メ且互ニ相手方ノ求ムル所ヲ拒ム憑據ヲ述ヘタル上ニテ裁判所ニ於テ檢事長ノ申立ヲ聽キ其償ノ事ヲ裁判ス可シ

然レモ裁判所ニテ相當ナリト思料スル時ハ其裁判役中ノ一員ヲシテ雙方ノ申述ヲ聽キ證書類ヲ檢視セシメ且裁判所吟味ノ日ニ至リ其申立ヲ爲サシム可シ但シ其吟味ノ日ニ至リ雙方更ニ其中述ヲ爲スコトヲ得可ク裁判所ニテハ更ニ檢察官ノ申立ヲ聽キタル上之ヲ裁判ス可シ

又被告人無罪ノ言渡ヲ得タル時ハ其罪ヲ申立タル者ニ對シ枉訴ニ付テノ損害ノ償ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ然レモ官吏ハ其職務ヲ行フニ當リ知り得タルト思料セシ罪犯ヲ申立テタルニ因リ枉訴ニ付テノ損害ノ償ヲ爲ス可キ訴ヲ受クルコトナカル可シ但シ別段ノ道理アル時官吏故意ヲ以タルカ如クハ格別ナリトス

第三百五十九條 被告人ヨリ其罪犯申立人又ハ民事ノ原告人ニ對シ損失ノ償ヲ求ムル訴又ハ民事ノ原告人ヨリ被告人又ハ既ニ刑ヲ言渡サレシ者ニ對シ損失ノ償ヲ求ムル訴ハ重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

民事ノ原告人ハ裁判言渡ノ前ニ損失ノ償ヲ得ントスル訴ヲ爲ス可シ其裁判言渡ノ後ニ至リテハ其訴ヲ許サス

又被告人其犯罪申立人ヲ知リタル時ハ前項ニ記スル所ニ等シトス

又被告人裁判言渡ノ後ニ至リ其犯罪申立人ヲ知リタル時ト雖モ猶重罪裁判所ノ會議中タルニ於テハ其被告人重罪裁判所ニ損失ノ償ヲ得ントスル訴ヲ爲ス可シ若シ之ヲ爲サ、ル時ハ其訴ヲ爲ス可キノ權ヲ失フ可シ○又被告人重罪裁判所ノ會議ノ終リシ後ニ其犯罪申立人ヲ知リタル時ハ民法裁判所初告裁ニ同上ノ訴ヲ爲ス可シ

又罪犯ノ吟味ニ參加セザリシ者ハ民法裁判所ニ損失ノ償ヲ得ント訴フ可シ
第三百六十條 法律ニ循ヒ無罪ナリトノ言渡ヲ得タル者ハ同一ノ事ニ付キ再ヒ其罪ヲ訴ヘラレ
トナカル可シ

第三百六十一條 辨論ノ時間證書ニ因リ又ハ證人ノ申述ニ因リ被告人更ニ他ノ罪犯アリト思ハル
、時ハ上席人其被告人ニ無罪ノ言渡ヲ爲シタル後其被告人他ノ罪犯ノ事ニ付キ更ニ訴ヲ受ク可
キ旨ヲ言渡シテ且其被告人ニ對シ第九十一條ニ記スル差別ニ從ヒ呼出狀又ハ引出狀ヲ出シ又別
段ノ道理アル時ハ收監狀ヲ出シテ重罪裁判所所在ノ地ノ下吟味掛リ裁判役ノ面前ニ至ラシメ更
ニ下吟味ヲ受ケシム可シ

然レ此事ニ付テハ嘗テ爲シタル吟味ノ未タ終ラサル前ニ檢察官後ニ他ノ罪ヲ訴フ可キ旨ヲ取
極メ置キタルニ非サレハ前項ノ規則ノ如ク執行フ可カラス

第三百六十二條 陪審被告人チ有罪ナリト決斷スル時ハ檢事長刑法ニ循ヒ之ヲ罰ス可キヲ裁判
所ニ求ム可シ

民事ノ原告人ハ取戻ノ求メ及ヒ損失ノ償ヲ得ントスル求メヲ爲ス可シ

第三百六十三條 上席人ハ被告人ニ辨論セント欲スル事ナキヤ否ヲ問フ可シ
被告人及ヒ其代言人ハ其中立ラレタル所爲ノ偽リタルヲ述フルヲ得ス唯其所爲ヲ法律上ニテ
禁セサル事又ハ法律上ニテ罪犯ト爲サル事又ハ檢事長ノ求メタル如キ刑ニ當ラサル事又ハ民
事ノ原告人ニ損失ノ償ヲ爲スニ及ハサル事又ハ民事ノ原告人ノ求ムル所ノ償高過分ナル事ヲ申
述フルヲ得可シ

第三百六十四條 陪審被告人チ有罪ナリト決斷シタルト雖モ刑法上ニテ其所爲ヲ禁スルコトナキ時
ハ裁判所ヨリ其赦罪ヲ言渡ス可シ 第三百五十八條ト異ナリテ被告人罪犯シタルニ相違ナシト
云フ第三百五十八條ニテハ上席人無罪ヲ言渡シ 雖モ刑法中ニ其犯罪ニ當ル可キ箇條ナキヲ以テ其罪ヲ赦スナ
此條ニテハ裁判役全員ニテ赦罪ヲ言渡スナリ

第三百六十五條 若シ其所爲刑法上ニテ禁止シタル事ナル時ハ吟味ノ上重罪裁判所ノ管轄ス可キ
所ニ非サルコト即チ輕罪註誤ノ如キヲ云フ分明タルニ至ルト雖モ重罪裁判所ニテ法律上ニ定メタル刑ヲ言渡ス
可シ 第三百九十
二條見合

若シ被告人ニ數箇ノ重罪及ヒ輕罪アル時ハ其中最重ナル罪ニ因テ其刑ヲ定ム可シ

第三百六十六條 被告人ノ赦罪ヲ言渡シタル時ハ 第三百六十
四條ノ場合
之ヲ無罪ナリト言渡シ或ハ刑ニ處ス
可キコト言渡シタル時ト同シク重罪裁判所ニテ民事ノ原告人又ハ被告人ノ求ムル所ノ損失ノ償
ヲ裁判シテ其高ヲ定メ又第三百五十八條ニ記スル如ク裁判役中ノ一員ヲシテ雙方ノ申述ヲ聽キ
タル上書類ヲ檢視セシメ且此等ノ諸事ヲ裁判所ニ申立テシム可シ

又重罪裁判所ニテ被告人ノ枉奪セシ物件ヲ其所有者 民事ノ
原告人ニ還ス可キコトヲ言渡ス可シ
然レモ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ全上ノ物件ノ所有者被告人定期内ニ覆審院ニ上告スルコ
ト又ハ上告スト雖モ覆審院ニテ重罪裁判所ノ言渡ヲ確定シタルノ證ヲ立テタルニ非サレハ其
物件ヲ取戻ス可カラス

第三百六十七條 陪審被告人ニ赦宥ス可キノ事情 第三百三十九條刑法第
三
百
二
十
一
條
以
下
見
合
アリト決斷シタル時ハ裁
判所ニテ刑法ニ記スル如ク言渡ス可シ

第三百六十八條 被告人刑ヲ言渡サレ又ハ民事ノ原告人負訴訟トナル時ハ官ト相手方トニ對シ裁
判所ノ費用ヲ償フ可シ
重罪ニ付キ民事ノ原告人負訴訟トナラサル時ハ裁判所ノ費用ヲ擔當スルニ及ハス
又民事ノ原告人千八百十一年六月十八日ノ命令書ニ循ヒ裁判所ノ費用高チ官ニ預ケ置キタル時
ハ之ヲ其原告人ニ還ス可シ

第三百六十九條 裁判役ハ低聲ニテ評議ヲ爲ス可ク又別席ニ退テ評議ヲ爲スヲ得可シ然レモ裁
判言渡ハ衆庶並ニ被告人ノ面前ニテ上席人高聲ニ之ヲ爲ス可シ
上席人其言渡ヲ爲ス前ニ其罪犯ニ管スル刑法ノ簡條ヲ讀上ク可シ書記官ハ其裁判言渡ヲ書面ニ
記シ且其刑法ノ簡條ヲ記入ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ百「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ
第三百七十條 裁判言渡書ノ正本ハ之ニ管シタル裁判役皆姓名ヲ手署ス可シ若シ此規則ニ背ク
時ハ書記官百「フランク」ノ罰金ヲ言渡サレ又別段ノ道理アル時ハ書記官並ニ裁判役損害ノ償ヲ
爲ス可キノ訴ヲ受ク可シ
裁判言渡書ノ正本ハ其言渡ノ時ヨリ二十四時間ニ裁判役姓名ヲ手署ス可シ
第三百七十一條 上席人ハ裁判言渡ヲ爲シタル後其時ノ模様ニ從ヒ被告人ニ固志耐忍ス可キヲヲ
諭シ又ハ後日其行狀ヲ改ム可キヲ論ス可シ
又上席人ハ被告人ニ覆審院ニ上告スルヲ得可キ權アルヲト其權ヲ行ヒ得可キ期限トヲ告ク可シ
第三百七十二條 書記官ハ法律上ニ定ムル所ノ法式ヲ盡ク行フタルヲ證スル爲メ重罪裁判所會議
ノ調書ヲ記ス可シ
其調書ニハ被告人ノ答詞及ヒ證人ノ申述ヲ記ス可カラズ但シ第三百十八條ニ循ヒ證人申述ノ變
更及ヒ齟齬シタル事ヲ記スルハ格別ナリトス
其調書ハ上席人ト書記官ト姓名ヲ手署ス可シ但シ其調書ハ預メ之ヲ刊行シ置ク可カラズ
若シ此條ノ規則ニ循ハサル時ハ調書ノ効ナカル可シ
若シ書記官調書ヲ記スルヲ怠リ又ハ此條第三項ノ規則ニ背ク時ハ五百「フランク」ノ罰金ヲ言渡
サル可シ
第三百七十三條 刑ヲ言渡サレシ者ハ其言渡ヲ受ケタルヨリ覆審院ニ上告セントスルヲ書記局
ニ届出ツルニ至ル迄三日ノ猶豫ヲ得可シ
又檢事長ハ全上ノ猶豫ノ期限内ニ覆審院ニ上告セントスルヲ書記局ニ届出スヲ得可シ

民事ノ原告人モ亦全上ノ期限内ニ覆審院ニ上告セントスルヲ書記局ニ届出ツルヲ得可シ但シ
民事ノ原告人ハ其民事ノ權利ノミニ付キ其上告ヲ爲スヲ得可シ
全上ノ期限間ハ重罪裁判所ノ言渡ノ執行ヲ暫ク延ハス可シ又覆審院ニ上告シタル時ハ覆審院ノ
言渡書ヲ受取ルニ至ル迄其執行ヲ暫ク延ハス可シ
第三百七十四條 第四百九條及ヒ第四百十二條ノ場合ニ於テハ檢事長又ハ民事ノ原告人二十四時
内ニ覆審院ニ上告ス可シ
第三百七十五條 第三百七十三條ニ記シタル猶豫ノ期限内ニ覆審院ニ上告セサル時ハ其期限ノ終
リシヨリ二十四時間ニ犯人ヲ刑ニ處ス可シ又覆審院ニ上告シタル時ハ覆審院ニテ其上告ヲ棄却
スル言渡書ヲ受取リシヨリ二十四時間ニ刑ニ處ス可シ
第三百七十六條 犯人ヲ刑ニ處スルニ付テハ檢事長其指揮ヲ爲ス可シ但シ檢事長ハ此事ニ付キ直
チニ公ケノ兵力ノ助ヲ借ラント求ムルヲ得可シ
第三百七十七條 刑ヲ言渡サレタル者刑ニ處セラル、前ニ申述ント欲スル事アル時ハ之ヲ刑ス可
キ地ノ裁判役一員書記官ノ立會ニテ之ヲ聽ク可シ
第三百七十八條 書記官ハ犯人ヲ刑ニ處シタル調書ヲ記シ二十四時間ニ之ヲ重罪裁判所ノ裁判言
渡書ノ末ニ登記ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ百「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ○又書記官ハ
其登記ヲ爲シタル部分ニ姓名ヲ手署シ且此等ノ諸事ヲ調書ノ端ニ附記ス可シ若シ此規則ニ背ク
時ハ百「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ○又書記官ハ其附記シタル部分ニモ亦姓名ヲ手署ス可
シ但シ調書ヲ裁判言渡書ノ末ニ登記シタル時ハ其登記ヲ調書ノ正本ニ等シク證ト爲ス可シ
第三百七十九條 犯人ヲ刑ニ處ス可キ裁判言渡ヲ爲ス以前其吟味中ニ證書ニ據リ又ハ證人ノ申述
ニ據リ其犯人更ニ他罪アルヲ知リ其罪是迄申立ラレタル罪ヨリ更ニ重キ模様ナル時又ハ其犯
人ト共ニ罪ヲ犯セシ者召捕ヘラレタル時ハ重罪裁判所ニテ其更ニ發覺シタル罪ニ付キ治罪法ノ
規則ニ循ヒ再ヒ犯人ノ罪ヲ告訴ス可キヲ言渡ス可シ

此等ノ場合ニ於テハ檢事長再度ノ訴ニ付キ裁判言渡アル迄ハ初度ノ如ク執行フヲ暫ク延ハス可シ

第三百八十條 重罪裁判所ノ裁判言渡書ノ正本ハ之ヲ集メテ州ノ首府ノ初告裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

然レモ控訴院所在ノ地ニアル重罪裁判所ノ裁判言渡書ノ正本ハ其控訴院ノ書記局ニ納ム可シ

○第五章 陪審ノ事及ヒ陪審ヲ撰ム方法

○第一款 陪審ノ事

第三百八十一條 (千八百五十三年六月四日左ノ如ク改ム) 滿三十歳ノ齡ニシテ政權、民權、族權親族會議ニ加ハルノ權、後見ヲ有シ且後ノ二條ニ記シタル差支ナキ者ニ非サレハ陪審トナル可人タルノ權ノ如キヲ云フ

カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其決斷ノ効ナカル可シ

第三百八十二條 (千八百五十三年六月四日左ノ如ク改ム) 左ノ數人ハ陪審トナル可カラス

第一 施體ト加辱トノ刑ヲ言渡サレシ者又ハ加辱ノミノ刑ヲ言渡サレシ者

第二 重罪ニ付懲治ノ刑ヲ言渡サレシ者

第三 徒刑又ハ拽球ノ刑ヲ言渡サレタル士卒

第四 三月以上禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者

第五 盜奪、詐偽、破信ノ罪、公ケノ監守人其監守スル物件ヲ奪フタル罪、刑法第三百三十條及

ヒ第三百三十四條ニ記シタル風俗ヲ破ル罪、人倫ノ道或ハ法教ノ道ヲ害スル罪、物件所有ノ

權或ハ親族ノ權ヲ犯スノ罪、職業ナク且生計ノ道ナク寄遊スル罪、乞食ノ罪ヲ犯シタルニ付

キ期限ノ長短ヲ問ハス禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者及ヒ募兵ノ事ニ付キ千八百三十二年三月

二十一日ノ法律ノ第三十八條第四十一條第四十三條第四十五條ノ規則ニ背キ又ハ刑法第三

百十八條及ヒ第四百二十三條ノ規則ニ背キ或ハ千八百五十一年三月廿七日ノ法律ノ第一條

ノ規則ニ背キタルニ付キ期限ノ長短ヲ問ハス禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者

第六 高利貸ノ罪ノ爲メ刑ヲ言渡サレタル者

第七 重罪ヲ告訴セラレタル者又ハ重罪ヲ告訴セラレタル抗傳者

第八 職ヲ退ケラレタル公證人、書記官、及ヒ裁判所官員

第九 復權ヲ得サル分散人

第十 治産ノ禁ヲ受ケシ者及ヒ其他裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ世話ヲ受ケタル者

第十一 治罪法第三百九十六條及ヒ刑法第四十二條ニ循ヒ陪審タルノ禁ヲ受ケシ者

第十二 收監狀又ハ禁錮狀ニ因テ召捕ハレタル者

第十三 一月以上禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者其刑期ノ終リシヨリ五年ノ時間

第三百八十三條 (千八百五十三年六月四日左ノ如ク改ム) 左ノ職ニ在ル者ハ陪審ノ職務ヲ兼テ行

フ可カラス

宰相

元老院ノ長

議事院ノ長

參議官員

宰相局ノ書記長

州長及ヒ郡長

州會ノ議員

裁判役

裁判所ノ檢察官

邏卒長

官許アル法教ノ僧徒

現ニ奉職スル海陸軍ノ士卒
租稅官署、官ノ森林、電信機官署ニテ現ニ奉職スル官員
邑ノ小學校ノ授業師
又左ノ諸人ハ陪審トナル可カラス
雇ノ僕婢

佛蘭西ノ文字ヲ讀ミ佛蘭西ノ文字ヲ書クヲ知ラサル者
千八百三十八年六月三十日ノ法律ニ循ヒ狂病院ニ入りタル者
又左ノ諸人ハ陪審タルヲ免ル、トナシ得可シ

第一 七十歳以上ノ者
第二 毎日ノ所作ニ因リ生計ヲ營ム者

第三百八十四條 (廢ス)

第三百八十五條 何人ニ限ラス別段裁判所ノ言渡アルコト非サレハ千八百五十三年六月四日ノ法律

第十一條(以前ノ治罪法第二百八十二條)ニ記スル陪審姓名目録ノ中ヨリ除去セラル、トナカル
可シ但シ其言渡ヲ控訴シ又ハ其言渡ノ取消ヲ覆審院ニ上告シタル間ハ其言渡ノ執行ヲ暫ク止ム
可シ

第三百八十六條 (廢ス)

第三百八十七條 (廢ス)

第三百八十八條 (廢ス)

第三百八十九條 陪審ト爲ス可キ各人ニハ其全員ノ姓名目録ヲ送ルニ及ハス但シ其姓名ノ加ハリ
タル證トシテ州長ヨリ唯其目録ノ拔書ヲ送ル可シ○其拔書ハ姓名目録ヲ現ニ用ニ供スルヨリ少
クトモ八日前ニ之ヲ送ル可シ
其姓名目録ヲ現ニ用ニ供ス可キ期日ハ其拔書ニ之ヲ附記シ且其日ニ出席ス可キ呼出ヲ附記ス可

シ若シ其日ニ出席セサル者ハ此法ニ記スル所ノ罰ヲ受ク可シ 第三百九十
六條見合

若シ其拔書ヲ送達スル時本人其住所ニアラサル時ハ其住所ト邑長又ハ其補佐トニ之ヲ届ケ後ニ
邑長又ハ其補佐ヨリ本人ニ其旨ヲ告知ス可シ

第三百九十條 陪審ニテ選ミタル陪審四十名中ニ嘗テ千八百五十三年六月四日ノ法律第十一條
〔以前ノ治罪法第二百八十七條〕ニ循ヒ姓名目録ヲ記シタル後死去スル者アリ又ハ陪審ノ職務ヲ

行フコト能ハサルニ至リシ者アリ又ハ陪審ノ職務ヲ兼テ行フ可カラサル職ヲ授リタル者アル時ハ
重罪裁判所會議ノ席ニテ檢事長ノ申立ヲ聽キタル上其代員ヲ撰ム可シ

其代員ヲ撰ム方法ハ千八百五十三年六月四日ノ法律第十八條〔以前ノ治罪法第二百八十八條〕ニ
記シタル所ニ循フ可シ

第三百九十一條 陪審其職務ヲ爲シ終リタル上ハ其姓名目録即チ四十員ノ効ナカル可シ○臨時ニ

重罪裁判所ノ會議ヲ開ク時ノ外第三百八十九條ニ記スル呼出ニ應シタル陪審ハ一年內ニ二度姓
名目録千八百五十三年六月四日ノ法律第十一條ニ記スル呼出ニ應シタル陪審ハ一年內ニ二度姓

名目録十一條ニ記スル陪審全員ノ目録ノ中ニ書加ヘラル、トナカル可シ○又臨時ニ重罪裁判
所ノ會議ヲ開ク時ト雖モ一年ニ二度以上姓名目録中ニ書加ヘラル、トナカル可シ○重罪裁判所

ノ會議ヲ開ク前ニ其裁判所ニテ暫時ノ事ト思料セシ差支ニ因リ出席セサル陪審ハ第三百八十
九條ノ呼出ニ應シタルモノト爲ス可カラス○其陪審ノ姓名及ヒ一度罰金ヲ言渡サレ又ハ再度罰

金ヲ言渡サレタル陪審 第三百九十
六條見合 姓名書ハ重罪裁判所ノ會議終リタル後直チニ之ヲ控訴院ノ
上席人ニ送り其上席人其旨ヲ陪審ノ全員姓名目録千八百五十三年六月四日ノ法

律第十一條ニ記シタルモノノ中ニ記入ス可
シ但シ本年內ニ關引ニ爲スコトナキ時ハ此等ノ陪審ノ姓名ヲ翌年ノ姓名目録中ニ加フ可シ

第三百九十二條 司法警察ノ職ヲ行フ者、證人、通辨人、鑑定人、又ハ原告或ハ被告タル者ハ其同一

ノ事件ニ付キ陪審トナル可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其陪審ノ爲シタル決斷ノ効ナカル可シ
○第二款 陪審ヲ撰ム事及ヒ之ヲ呼集ムル事
第二百九十三條 (千八百五十二年六月四日左ノ如ク改ム)嘗テ裁判官言渡ノ爲メ定メ置キタル期日

ニ至リ不在又ハ其他ノ理由ニテ陪審ノ數三十員以下ニ至ル時ハ陪審補員中ヨリ其姓名ヲ記入シ
タル順序ニ從ヒ其數ヲ補フテ之ヲ三十員ニ充タシム可シ若シ又其補員ニテ猶三十員ニ充タシム
ルニ足ラサル時ハ裁判所吟味ノ席ニテ別段ノ姓名目錄中ヨリ闕引ニテ陪審ヲ撰ミ其陪審ヲ以テ
三十員ニ充タシム可シ猶未タ足ラサル時ハ一年分ノ陪審全員目錄中ヨリ之ヲ撰ミ其數ニ充タシ
ム可シ

千八百十年七月五日ノ命令書第九十條ニ記スル場合ニ於テハ裁判所吟味ノ席ニテ一年分ノ陪審
全員目錄中ヨリ闕引ニ爲シ其三十員ノ數ニ充タシム可シ
第二百九十四條 決斷ヲ爲ス可キ陪審ハ必ス十二員ニ下ル可カラス

罪犯ノ吟味速ニ終ル可カラサル模様ナル時ハ重罪裁判所ニテ陪審ノ姓名ヲ闕引ニ爲ス前ニ十二
員ノ陪審定員ノ外別ニ一二名ヲ撰ミ之ヲシテ吟味ニ立會ハシムルヲ言渡スヲ得可シ
其十二名ノ中ニテ決斷ヲ爲スニ至ル迄引續キ吟味ノ席ニ出ツルヲ能ハサル者アル時ハ其補員別
撰ミ之ニ代ル可シ

其代ル可キ順序ハ嘗テ闕引ヲ爲シタル時ノ順序ニ從フ可シ
第二百九十五條 陪審ノ姓名目錄ハ十二名ノ定員ヲ撰ム前日ニ之ヲ各被告人ニ送ル可シ若シ更ニ
早ク之ヲ送り又ハ更ニ遅ク之ヲ送ル時ハ其送達ノ効ナク並ニ其後ノ諸件ノ効ナカル可シ
第二百九十六條 陪審呼出ヲ受ケテ出席セサル時ハ重罪裁判所ヨリ罰金ヲ言渡サル可シ但シ其罰
金ハ
初犯ニ付テハ五百「フランク」

再犯ニ付テハ千「フランク」
三犯ニ付テハ千五百「フランク」
三犯ノ時ハ其者向後陪審タル可カラサルノ言渡ヲ受ケ其者ノ費用ニテ其言渡書ヲ刊刷シ之ヲ貼
附ス可シ
第二百九十七條 嘗テ定メ置キタル期日ニ出席スルヲ能ハサルノ證ヲ立テタル陪審ハ前條ノ例外
ナリトス
其辨解スル所ノ正當ナルヤ否ハ裁判所ニテ之ヲ裁判ス可シ
第二百九十八條 陪審出席ヲ爲スト雖モ其職ヲ爲シ終ラサル中ニ正當ノ理由ナクシテ其席ヲ退ク
時ハ第二百九十六條ニ記スル所ノ罰ヲ受ク可シ但シ其理由ノ正當ナルト否トハ裁判所ニテ之ヲ
裁判ス可シ

第二百九十九條 各罪犯ノ訴ニ付キ預定シタル日ニ至リ吟味ノ席ヲ開ク前ニ陪審數員並ニ被告人
及ヒ檢事長ノ面前ニ於テ各陪審ノ姓名ヲ呼上ク可シ但シ正當ノ理由アリテ出席セサル陪審又ハ
出席スルヲ免レタル陪審條第三百八十三ノ姓名ハ之ヲ除ク可シ
其呼上ニ答フル各陪審ノ姓名票ヲ壺中ニ入ル可シ
陪審ノ姓名票ヲ次第ニ壺中ヨリ取出スニ從ヒ最初ニ被告人又ハ其代理人ヨリ其陪審ヲ除去ス可
キヲ述ヘ次ニ檢事長ヨリ其旨ヲ述フ可シ但シ後ニ記スル定員十二員ニ至リテ其除去ノ申述ヲ
止ム可シ

被告人又ハ其代理人及ヒ檢事長ハ陪審ヲ除去スルニ付テノ旨趣ヲ述フ可カラス
斯ノ如ク除去ノ申立ヲ爲サシメタル上ニテ其申立ヲ受ケサル陪審十二員ノ姓名票壺中ヨリ出テ
タル時之ヲ決斷ヲ爲ス陪審ト定ム可シ

第四百條 被告人並ニ檢事長ハ陪審十二員ノ姓名ノ殘ルニ至ル迄陪審ノ除去ヲ申立ルヲ得可シ

第四百一節 被告人ト檢事長トハ陪審ノ同一ノ員數ヲ除去スルヲ得可シ若シ陪審ノ全員奇數ナル時ハ被告人ノ陪審ヲ除去シ得可キ員數檢事長ヨリモ更ニ一員多シトス

第四百二節 被告人數人アル時ハ互ニ協議シテ陪審ヲ除去シ又ハ各自ニ之ヲ除去スルヲ自由ナリトス
此場合ニ於テハ前數條ニ循ヒ被告人一人ニテ除去シ得可キヨリ更ニ多數ヲ除去ス可カラズ
第四百三節 被告人數人其除去スルヲ協議セサル時ハ各自之ヲ爲スニ付キ其順序ヲ圖引ニテ定ム可シ○此場合ニ於テハ其順序ニ從ヒ一人ノ除去シタル陪審ハ即チ數人ノ除去シタルモノトシ各其順序ニ從テ陪審ノ定員ニ至ル迄ヲ除去スルヲ得可シ

第四百四節 又被告人數人ニテ陪審定員ノ中一部ヲ協議シテ除去シ他ノ一部ヲ各自ニ其圖引ノ順序ニ循ヒ除去スルヲ得可シ
第四百五節 十二員ノ陪審定マリタル後直チニ被告人ノ吟味ニ取掛ル可シ
第四百六節 何事ニ因ラス事故アリテ告訴狀ニ記スル罪犯ニ付キ被告人ノ吟味ヲ爲スヲ裁判所ノ次ノ會議ノ日迄延ハシタル時ハ更ニ改メテ陪審ノ姓名書ヲ造リ且前數條ニ記スル如ク更ニ其除去ヲ爲シ十二員ノ陪審ヲ定ム可シ若シ此手續ヲ爲サハル時ハ其決斷ノ効ナカル可シ

○第三卷 裁判言渡ヲ取消サント願フ方法(千八百八十八年十二月十日決定同月二十日布告)

第一章 吟味ノ手續及ヒ裁判言渡ヲ取消ス事
第四百七節 重罪、輕罪、註誤ニ付キ爲シタル終審ノ裁判言渡及ヒ其言渡ヲ爲ス前ノ吟味ノ手續ハ後ノ數條ニ記スル場合ト差別トニ循ヒ其取消ヲ願フヲ得可シ
○第一款 重罪ニ付テノ裁判言渡ヲ取消ス事
第四百八節 重罪ノ被告人刑ヲ言渡サレタル時嘗テ控訴院ノ重罪取調局ヨリ其被告人ヲ重罪裁判

所ニ移シタル言渡又ハ重罪裁判所ニテ爲シタル吟味ノ手續又ハ重罪裁判所ノ處刑ノ言渡ニ缺ク可カラサル法式ニ背キ或ハ其法式ヲ缺キタル事アリテ治罪法中ニ其法式ノ如ク行ハサル時ハ其言渡及ヒ吟味手續ノ効ナキヲ別段定メタルニ於テハ刑ヲ言渡サレタル者又ハ檢察官ヨリノ求メニ因リ處刑ノ言渡ヲ取消シ又ハ効ナキ吟味ノ手續ヨリ後ノ諸件ヲ取消ス可シ又言渡ヲ爲シタル裁判所ノ管轄異ナリタル時又ハ裁判所ニテ被告人又ハ檢察官ノ法律上ニ於テ授カリタル權利ニ因リ求ムル所ニ付キ其言渡ヲ爲スチ肯セス又ハ言渡ヲ爲スチ怠リタル時ハ治罪法中ニ裁判言渡又ハ吟味手續ノ効ナキヲ別段定メサル場合ト雖ヒ亦前項ニ等シク之ヲ取消ス可シ
第四百九節 裁判所ヨリ重罪被告人ヲ無罪ナリト言渡シタル時ハ檢察官ヨリ法律ヲ保護スル爲メノミニ付キ其無罪ノ言渡及ヒ其前ニ爲シタル吟味ノ手續ヲ取消サント求ム可シ但シ是カ爲メ被告人ノ害ヲ爲ス可カラズ

第四百十節 重罪裁判所ヨリ罪犯ニ付キ言渡シタル刑ト其罪犯ニ付キ法律上ニ定メタル刑ト異ナルニ因テ其言渡ヲ取消ス可キ時ハ檢察官又ハ刑ヲ言渡サレシ被告人ヨリ其取消ヲ求ムルヲ得可シ
又重罪裁判所ニテ刑法ノ箇條中ニ罪犯ニ管シタル刑ナキヲ以テ第三百六十四條ニ記スル如ク被告人ヲ赦宥スル言渡ヲ爲シタル時檢察官其罪犯ニ管シタル刑アリトスルニ於テハ檢察官ヨリ其赦宥ノ言渡ヲ取消サント求ムルヲ得可シ
第四百十一節 裁判所ヨリ言渡シタル刑ト刑法上ニテ定ムル所ノ刑ト相違スルヲナキ時ハ其言渡書ニ誤テ刑法中ノ他ノ箇條ヲ抄出シタルヲ以テ口實ト爲シ其言渡ヲ取消サント求ム可カラズ
第四百十二節 如何ナル場合ニ於テモ民事ノ原告人ハ重罪裁判所ヨリ被告人ヲ無罪ナリトスル言渡又ハ被告人ヲ赦宥スル言渡 第三百六十 取消サント求ム可カラズ然レハ裁判所ニテ其言渡書ヲ以テ被告人ノ求ムル所ヨリ更ニ過分ナル損失ノ償ヲ民事ノ原告人ニ言附クルアル時ハ民事

ノ原告人其言渡書ノ中ニテ其言附ニ管スル部分ヲ取消サント求ムルヲ得可シ

○第二款 輕罪又ハ註誤ニ付テハ裁判言渡ヲ取消ス事

第四百十三條 輕罪又ハ註誤ニ付テハ裁判所ヨリ被告人ニ刑ヲ言渡シタルト之ヲ赦宥シタルトテ問ハス檢察官又ハ被告人又ハ民事ノ原告人第四百八條ニ循ヒ終審ノ裁判言渡ヲ取消サント求ムルヲ得可シ

然レモ被告人赦宥ノ言渡ヲ得タル時ハ檢察官又ハ民事ノ原告人ヨリ被告人ノ權利ヲ保護スル爲メノ法式ニ違フタル事又ハ其法式ヲ缺キタル事ヲ申立テ其赦宥ノ言渡ヲ取消サント求ムルヲ得ス

第四百十四條 第四百十一條ノ規則ハ輕罪及ヒ註誤ニ付キ爲シタル終審ノ裁判言渡ニ通シ用フ可シ

○第三款 前二款ニ通シ用フ可キ規則

第四百十五條 覆審院又ハ控訴院ニテ吟味ノ手續ヲ取消ス時ハ其過失アル官吏又ハ下吟味掛リ裁判役ノ費用ヲ以テ其吟味ノ手續ヲ再ヒ行ハシム可キヲ言渡スヲ得可シ
然レモ此等ノ官吏ニ重キ過失アリテ且此治罪法ヲ布告シタルヨリ二年ノ後ニ非サレハ此條ノ規則ヲ通シ用フ可カラス

○第二章 覆審院ニ願出ス事 裁判言渡又ハ吟味手續ノ取消ヲ願フ事ニシテ此章ハ即チ前章ノ續キナリト看做ス可シ

第四百十六條 本案ニ管セサル預審ノ言渡預審ニシテ且終ハ確定ノ裁判言渡ノ後ニ非サレハ之ヲ取消サント求ム可カラス但シ一方ノ者自己ノ隨意ニテ其預審ノ言渡ノ如ク執行フタリト雖モ後ニ其言渡ヲ取消サント求ムル時相手方ヨリ其取消ヲ拒ムノ憑據ト爲ス可カラス
裁判所ノ管轄ノ異ナリタルニ付キ其言渡ヲ取消サント求ムル時ハ此條ノ規則ヲ通シ用フ可カラ

ス

第四百十七條 刑ヲ言渡サレシ被告人其言渡ノ取消ヲ願ハントスル時ハ其願書ヲ書記官ニ出シ其被告人ト書記官ト之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ被告人姓名ヲ手署スルヲ欲セス又ハ之ヲ知ラサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

又刑ヲ言渡サレシ被告人ノ代書師又ハ其名代人ヨリ其願書ヲ爲ス時モ其願書ヲ出スニ付テノ法式ハ亦前ニ記スル所ニ等シトス但シ名代人ヨリ其願書ヲ爲ス時ハ名代ノ證書ヲ其願書ニ添ヘ差出ス可シ

其願書ハ別段設ケタル簿冊ニ之ヲ登記ス可シ但シ其簿冊ハ公ケニ衆庶ニ示ス可ク如何ナル人ト雖モ其願書ヲ受取ルヲ得可シ

第四百十八條 民事ノ原告人又ハ檢察官ヨリ重罪、輕罪、註誤ニ付キ爲シタル終審ノ裁判言渡ヲ取消サント願フ時ハ前條ニ記スル如ク其願書ヲ簿冊ニ登記セシ外其願書ヲ三日内ニ相手方即チ被告ニ送達ス可シ

其相手方現ニ禁錮ヲ受クル時ハ書記官其願書ヲ讀聽カセ其相手方之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ姓名ヲ手署スルヲ欲セス又ハ之ヲ知ラサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

又其相手方禁錮ヲ受クルヲナキ時ハ取消ノ願人其願書ヲ使吏ニ托シテ之ヲ相手方又ハ其擇ミタル住所ニ送達セシム可シ但シ此場合ニ於テハ路程ニ「ミリヤメートル」毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ可シ

第四百十九條 民事ノ原告人裁判言渡ヲ取消サント願フ時ハ諸書類ニ添ヘテ其裁判言渡書ノ公正ノ寫ヲ差出ス可シ

其民事原告人ハ百五十「フランク」ノ金高罰金ニ供テ官署ニ預ク可シ若シ又抗傳シテ言渡ヲ受ケ

タル時ハ其半高ヲ官署ニ預ク可シ但シ其金高ヲ預ケサル時ハ取消願ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ
第四百二十條 左ノ數人ハ罰金ニ供スル金高ヲ預クルニ及ハス

第一 重罪ニ付キ刑ヲ言渡サレタル者

第二 行政ノ事務ニ付キ又ハ官ノ歳入或ハ官地ノ事務ニ付キ取消願ヲ爲ス官吏
總テ其他ノ者ハ取消願ノ上負訴訟トナル時罰金ヲ言渡サル可シ然レモ其取消ノ願書ニ添ヘ左ノ
書類ヲ出ス者ハ其金高罰金ニ供スルヲ預クルニ及ハス

第一 六「フ」ラソク以下ノ税銀ヲ出ス旨ヲ證スル租税目錄ノ抜書又ハ全ク税銀ヲ免レタル旨
ヲ證スル邑ノ税官ノ受合書

第二 住所ノ邑長又ハ其補佐ヨリ渡シ郡長檢印シテ州長ノ允許シタル貧困ノ受合書

第四百二十一條 重罪ハ言ヲ待タズ輕罪又ハ註誤ノ事ニ付キ禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ現ニ禁
錮ヲ受ケタル時又ハ保證ヲ立テタル上ニテ赦宥ヲ得タル時ニ非サレハ取消願ヲ爲ス可カラズ

此場合ニ於テハ其取消ノ願書ニ添ヘ其禁錮ノ證書又ハ保證ヲ立テタル上ニテ赦宥ヲ得タル證書
ヲ差出ス可シ

然レモ裁判所ノ管轄異ナリタルヲ以テ取消願ハントスル時ハ之ヲ願フ者現ニ覆審院所在ノ地
ノ裁判所附留置場ニ入りタルノ證ヲ立ルノミニテ其願ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其留置場ノ監守人

ハ願人ヨリ拘事長ニ差出シテ檢事長ノ檢印セシ願書ヲ檢視シタル上ニテ其願人ヲ受取リ留置場
ニ入ルコトヲ得可シ

第四百二十二條 刑ヲ言渡サレシ者又ハ民事ノ原告人ハ言渡ノ取消願ヲ爲シタル時又ハ其時ヨリ

十日内ニ管テ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ其取消ヲ求ムル憑據書ヲ差出ス可シ○書記官
ハ其受取證書ヲ渡シタル上直チニ其憑據書ヲ檢察官ニ送ル可シ

第四百二十三條 取消願ヲ爲シタルヨリ十日ノ後ニ檢察官ヨリ裁判事務宰相ニ吟味ニ管シタル諸

書類ト願人ヨリ既ニ取消願ノ憑據書ヲ差出シタルニ於テハ其憑據書トチ送呈ス可シ
願人ノ取消願ヲ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記官ハ諸書類ノ目錄ヲ無税ニテ記シ之ヲ其書

類ニ添フ可シ若シ此規則ニ違フ時ハ書記官覆審院ヨリ百「フ」ラソクノ罰金ヲ言渡サル可シ
第四百二十四條 裁判事務宰相ハ諸書類ヲ受取リタルヨリ二十四時間ニ之ヲ覆審院ニ送り且之ヲ

送呈セシ官吏ニ其旨ヲ告知ス可シ

又刑ヲ言渡サレシ者ハ其取消ノ願書並ニ裁判言渡書ノ寫及ヒ憑據書ヲ直チニ覆審院ノ書記局ニ
出スコトヲ得可シ然レモ民事ノ原告人ハ覆審院ノ代理人ノ世話ヲ得ルニ非サレハ此條ニ記スル規
則ノ利益ヲ受ク可カラズ

第四百二十五條 重罪、輕罪、註誤ノ別ナク總テ裁判言渡ノ取消願出シタル時ハ覆審院ニテ此章
前二條ニ記スル期限ノ終リシ時直チニ其願ニ付キ裁判言渡シ又ハ其期限ノ終リシ時ヨリ遅ク

見合 トモ一月内ニ其裁判言渡ス可シ

第四百二十六條 覆審院ニテハ預メ取消願ヲ取上クルコトヲ允許スルニ及ハスシテ其願ヲ棄却シ又
ハ裁判言渡ヲ取消ス可シ

第四百二十七條 覆審院ニテ輕罪又ハ註誤ニ付テノ裁判言渡ヲ取消ス時ハ其言渡ヲ爲シタル裁判
所ト同等ノ裁判所ニ其吟味ヲ移ス可シ

第四百二十八條 覆審院ニテ重罪ニ管シタル言渡ヲ取消ス時ハ次ノ七條ニ記スル如ク處置ス可シ
第四百二十九條 覆審院ニテ左ノ裁判所ニ吟味ヲ移スコトヲ言渡ス可シ

第二百九十九條ニ記シタル原由中ノ一ニ付キ言渡ヲ取消ス時ハ裁判所ノ管轄ヲ定メ即チ何地

判所ニ被告人犯罪ノ旨 且重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ヲ言渡シタルヨリ以外ノ控訴院 重罪取
テ告ク可キノ言渡ヲ云 且重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ヲ言渡シタルヨリ以外ノ控訴院 重罪取
重罪裁判所ノ言渡ヲ取消シ又ハ其裁判所ノ吟味ノ手續ヲ取消シタル時ハ其言渡ヲ爲シタルヨ

又民事ノミニ管スル箇條ニ付キ裁判言渡又ハ吟味ノ手續ヲ取消ス時ハ其下吟味掛リ裁判役ノ在ル裁判所ヨリ以外ノ初告裁判所

但シ此場合ニ於テハ預メ和解ノ式ヲ行フコト直チニ初告裁判所ニテ吟味ノ手續ニ取掛ル可シ

若シ裁判所ノ管轄異ナリタルヲ以テ其裁判言渡又ハ吟味ノ手續ヲ取消ス時ハ覆審院ヨリ管轄ノ裁判所ヲ指示シ其裁判所ニ吟味ヲ移ス可シ若シ最初下吟味ヲ爲シタル裁判役ノ在ル初告裁判所ニ其吟味ヲ移スコト相當ナル時ト雖モ其裁判所ニ移ス可カラズ其他ノ初告裁判所ニ其吟味ヲ移ス可シ

又被告人刑ヲ言渡サレタルト雖モ法律上ニテ其申立ラレシ所爲ヲ罪犯ナリト爲サ、ルニ因リ其刑ノ言渡ヲ取消ス時民事ノ原告人アルニ於テハ最初下吟味ヲ爲シタル裁判役ノ在ル裁判所ヨリ以外ノ初告裁判所ニ其吟味ヲ移ス可シ若シ又民事ノ原告人アラサル時ハ別段其吟味ヲ移スニ及ハス

第四百三十條 覆審院ニテ吟味ヲ移ス可キ裁判所ヲ撰定ス可キ時ハ取消ノ言渡ヲ爲シタル後直チニ裁判役會議ノ室ニテ其撰定ニ付キ商議ヲ爲ス可シ但シ其商議ノ上決定シタル所ヲ取消ノ言渡書ニ附記ス可シ

第四百三十一條 覆審院ヨリ吟味ヲ移ス言渡アリシニ因リ其吟味ヲ爲ス可キ下吟味掛リ裁判役ハ言渡ノ取消トナリシ重罪裁判所又ハ控訴院ノ管轄内ノ裁判役中ヨリ之ヲ撰ム可カラズ

第四百三十二條 覆審院ヨリ控訴院ニ吟味ヲ移シタル時ハ其控訴院ニテ當然爲ス可キ吟味ノ手續ヲ爲シ終リタル後其管轄地内ノ重罪裁判所ヲ別段指定メテ其裁判ヲ移ス可シ

第四百三十三條 覆審院ヨリ重罪裁判所ニ吟味ヲ移シタル時未タ罪犯ノ告訴ヲ受ケサル同罪人アルニ於テハ重罪裁判所ヨリ下吟味掛リ裁判役ヲ指定メ且檢察長ヨリ其代役ヲ指定メテ各々其下吟味ノ手續ヲ爲サシメ然ル上ニテ諸書類ヲ控訴院ノ重罪取調局ニ送り其局ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キヤ否ヲ定ム可シ

第四百二十四條

法律上ニテ定ムル所ノ刑ト重罪裁判所ノ言渡シタル刑ト相異ナルニ因リ其刑ノ言渡ヲ取消ス時ハ其吟味ヲ移シタル重罪裁判所ニ於テ以前ノ裁判所ニテ嘗テ陪審ノ爲シタル決斷書ニ循ヒ其言渡ヲ爲ス可シ

又更ニ他ノ理由ニ付キ刑ノ言渡ヲ取消ス時ハ其吟味ヲ移シタル重罪裁判所ニテ更ニ辨論ヲ爲サシム可シ證人ヲ呼出シ且更ニ陪審ヲ集會セシメテ其決斷ヲ爲サシムルヲ云フ

第四百二十五條

覆審院ニテ刑ノ言渡ノ取消ヲ得タル上更ニ重罪ノ裁判ヲ受ク可キ者ハ之ヲ禁錮シタル儘ニテ控訴院又ハ重罪裁判所ニ移シ或ハ召捕ノ言渡書ニ循ヒ之ヲ召捕ヘテ控訴院又ハ重罪裁判所ニ移ス可シ

第四百二十六條

重罪、輕罪、註誤ノ別ナク民事ノ原告人取消願ヲ爲シ負訴訟トナル時ハ赦宥ヲ得タル被告人ニ對シ百五十「フランク」ノ償ヲ爲シ且其被告人ノ裁判所費用ヲ償ヒ並ニ百五十「フランク」ノ罰金ヲ官ニ納ム可シ但シ以前抗傳シテ裁判言渡ヲ受ケタル時ハ其罰金ノ高チ七十五「フランク」トス

第四百十條見合 官署又ハ官吏ハ取消願ノ上負訴訟トナリタル時相手方ヘノ償ヲ爲シ且其裁判所費用ヲ償フノミトス

第四百二十七條

取消願ヲ爲シ覆審院ニテ其願ノ如ク取消ヲ爲ス時ハ其取消ノ言渡ノ文面如何ナルヲ問ハス其願人ニ嘗テ官署ニ預ケ置キタル金高ヲ直チニ還ス可シ但シ其取消ノ言渡ノ文面ニ其金高ヲ還ス可キコト別段記セサル時ト雖モ亦同一ナリトス

第四百二十八條

一度取消ノ願ヲ爲シ覆審院ニテ其願ヲ棄却シタル上ハ其願人如何ナル憑據及ヒ口實アリト雖モ再ヒ其言渡ヲ取消サント願フ可カラズ

第四百三十九條 取消願ヲ棄却スル覆審院ノ言渡ハ書記官之ヲ拔書ニ記シ姓名ヲ手署シテ三日内ニ覆審院ノ檢事長ニ送り檢事長ヨリ之ヲ裁判事務宰相ニ送呈シ其宰相ヨリ其取消ヲ願フ裁判言渡ヲ爲セシ裁判所ノ檢察官ニ之ヲ送ル可シ 第三百七十 五條見合

第四百四十條 一度覆審院ニ願出テ裁判言渡ノ取消ヲ得タル後更ニ再度ノ裁判言渡ヲ取消サント覆審院ニ願出ル時ハ千八百七十七年九月十六日ノ法律ヲ以テ定メタル規則ニ循ヒ處置ス可シ

第四百四十一條 覆審院ノ檢事長裁判事務宰相ヨリ受取リタル命令書ヲ示シ覆審院ノ刑事局ニ裁判所ノ書類又ハ裁判言渡書ノ法律ニ背キタル旨ヲ申立ル時ハ其書類又ハ裁判言渡書ヲ取消シ別段ノ道理アル時ハ司法警察官吏又ハ裁判役此篇第四章第三章ニ記スル如ク犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第四百四十二條 控訴院又ハ重罪裁判所又ハ輕罪裁判所又ハ誣誤裁判所ヨリ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其言渡ノ取消ヲ願出ルヲ得可キ場合ニ於テ定期内ニ其願ヲ爲ス者ナキ時ハ既ニ定期ノ終リタルト否トヲ問ハス覆審院ノ檢事長自己ノ職務ヲ以テ其取消ノ旨ヲ覆審院ニ申立テ其言渡ヲ取消サシムルヲ得可シ但シ其取消ヲ願ハサル者ハ其言渡ノ取消トナリシ旨ヲ申立テ其言渡ノ如ク執行フヲ拒ム可カラス

〇第三章 裁判調直ノ事
第四百四十三條 〔千八百六十七年六月廿九日左ノ如ク改ム〕重罪ト輕罪トヲ問ハス總テ裁判所ノ言渡ニ付キ左ノ場合ニ於テハ調直ヲ願フヲ得可シ
第一 人ヲ殺害シタル罪ニ付キ刑ヲ言渡サレタル後嘗テ死シタルト爲セシ人其實存命ナリト思料シ得可キ十分ナル憑據アル時
第二 輕罪又ハ重罪ニ付キ刑ヲ言渡サレタル後他人同一ノ事ニ付キ更ニ刑ヲ言渡サレ其二箇ノ言渡相觸ルハニ因リ其中一方ノ者無罪タルノ證ト爲ス可キ時
第三 吟味ノ席ニ出テ證ヲ申述ヘシ證人中ノ一人被告人刑ノ言渡ヲ受ケシ後其被告人ニ對シ

テ偽證ヲ述ヘタル訴ヲ受ケ刑ヲ言渡サレタル時〇斯ノ如ク刑ヲ言渡サレシ證人ハ後ノ吟味ノ時更ニ其申述ヲ聽ク可カラス

第四百四十四條 〔千八百六十七年六月廿九日左ノ如ク改ム〕裁判言渡ノ調直ヲ願フ可キ權ハ左ノ數人ニアリトス
第一 裁判事務宰相
第二 刑ヲ言渡サレタル者
第三 刑ヲ言渡サレタル者ノ死シタル後ハ其配偶者、其子、血屬ノ親、其財產全部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者、又ハ其財產一部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者、刑ヲ言渡サレタル者ヨリ別段名代ノ權ヲ授カリシ者

輕罪ニ付テハ禁錮ノ刑ヲ言渡サレ又ハ政權、民權、族權ノ全部又ハ一部ヲ奪フ可キ刑ヲ言渡サレタル時ニ非サレハ裁判調直ヲ願フ可カラス〇裁判事務宰相ハ自己ノ公務ヲ以テ檢事長ニ命令書ヲ與ヘ又ハ願人ノ求メニ因リ其命令書ヲ與ヘ檢事長ヲ覆審院ノ刑事局ニ其調直ヲ求メシム可シ〇前條ノ第二及ヒ第三ノ場合ニ於テハ願人其相觸ル、二箇ノ言渡中後ノ言渡アリシヨリ二年内又ハ偽證ヲ述ヘシ證人ノ刑ヲ言渡サレタルヨリ二年内ニ其調直ノ願書ヲ裁判事務宰相局ニ差出スニ非サレハ之ヲ取上ク可カラス〇何レノ場合ニ於テモ覆審院ノ言渡アルニ至ル迄ハ裁判事務宰相ノ命令ニ因リ裁判言渡即チ調直ヲ願フ言渡ノ執行ヲ止メ又其後ハ覆審院ニテ調直ノ願ヲ取上クルヲ允許スル言渡ニ因リ其裁判言渡ノ執行ヲ止ム可シ

第四百四十五條 〔千八百六十七年六月廿九日左ノ如ク改ム〕覆審院ニテ裁判言渡調直ノ願ヲ取上ケタル時其事件取調ノ手續未タ十分ニ濟サルニ於テハ覆審院ニテ其事件本案ノ取調、證人及ヒ其他ノ者ノ對理ノ吟味、人違有無ノ取調及ヒ其他事實ヲ知り得可キ問糾及ヒ法式ヲ爲シ又ハ他ノ裁判所ニ任シテ之ヲ爲サシム可シ〇又其事件取調ノ手續既ニ十分濟タル時刑ヲ言渡サレタル

者ト其證人及ヒ其他管係アル者トチ更ニ相對シテ辨論セシムルヲ得可キニ於テハ覆審院ニテ刑ノ言渡ヲ取消シ及ヒ其他調直ノ妨ケトナル可キ諸件ヲ取消シテ其間糺ス可キ箇條ヲ定メ其刑ヲ言渡サレタル者ヲ其刑ヲ言渡シタルヨリ以外ノ裁判所ニ移ス可シ○陪審ノ決斷ニ任カス可キ事件ニ付テハ覆審院ヨリ吟味ヲ移シタル控訴院ノ檢事長更ニ重罪告訴狀ヲ記ス可シ

第四百四十六條 「千八百六十七年六月二十九日左ノ如ク改ム」刑ヲ言渡サレタル者ト證人及ヒ其他管係アル者トチ相對ノ辨論セシムルヲ得サル時殊ニ刑ヲ言渡サレタル者ノ死去シ又ハ抗傳シタル時又ハ刑ノ訴ノ期滿免除或ハ刑ノ期滿免除ノ期限ニ至リシ時ハ覆審院ニテ相對ノ辨論ヲ爲サシムルヲ得サル旨ヲ證セシ上ニテ預メ刑ノ言渡ヲ取消スニ及ハス又他ノ裁判所ニ吟味ヲ移スニ及ハスシテ民事ノ原告人アル時ハ其原告人ト死者ノ爲メ覆審院ヨリ任シタル「キユラトール」世話トノ面前ニテ其本案ノ裁判ヲ爲ス可シ○此場合ニ於テハ覆審院ニテ不當ナル刑ノ言渡ヲ取消シ又別段ノ道理アル時ハ死者ノ罪ヲ中雪スル言渡ヲ爲ス可シ

第四百四十七條 「千八百六十七年六月廿九日左ノ如ク改ム」第四百四十三條ノ第一ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ取消シタル上其犯人ニ重罪並ニ輕罪ノアラサル時ハ覆審院ヨリ他ノ裁判所ニ吟味ヲ移スニ及ハス

假リノ規則

此治罪法ヲ布告スル前ニ第四百四十三條ノ第二及ヒ第三ニ循ヒ調直ヲ願フヲ得可キ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ此法布告ノ時ヨリ第四百四十四條ニ記シタル調直ノ願書ヲ差出ス可キ期限ヲ算フ可シ

○第四卷 別段ノ罪犯吟味手續ノ事(第一章ヨリ第四章ニ至ル迄ハ千八百八十八年十二月十二日

決定全月廿二日布告第五章ヨリ第七章ニ至ル迄ハ千八百八十八年十二月十三日決定全月廿三日布告)

○第一章 贗造ノ訴

第四百四十八條 總テ書類贗造ノ訴ノ時ハ其贗造ナリト述フル書類ヲ差出シテ之ヲ書記局ニ納メ書記官其書類ノ每葉ニ姓名ヲ手署シ且横線ヲ畫シテ其書類ノ摸樣ヲ詳カニ調書ニ記シ又其書類ヲ差出シタル者其每葉ニ姓名ヲ手署シ且横線ヲ畫ス可シ若シ其者姓名ヲ手署スルヲ知ラサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ○書記官此等ノ法式ヲ行ハスシテ其書類ヲ受取タル時ハ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百四十九條 若シ贗造ナリト述フル書類ヲ公ケノ預リ役所ヨリ取出シタル時ハ之ヲ渡シタル官吏亦前條ニ記スル如ク其書類ニ姓名ヲ手署シ且横線ヲ畫ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百五十條 又贗造ナリト訴フル書類ハ司法警察ノ官吏之ニ姓名ヲ手署シ又民事ノ原告人又ハ其代書師出席スル時ハ此等ノ者亦之ニ姓名ヲ手署ス可シ

被告人モ亦出席シタル時其書類ニ姓名ヲ手署ス可シ

若シ此等ノ者姓名ヲ手署スルヲ得ヌ又ハ手署スルヲ欲セサル時ハ其旨ヲ調書ニ附記ス可シ書記官此條ノ規則ニ背ク時ハ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百五十一條 書類ヲ以テ裁判ノ所爲又ハ民事ノ所爲ノ憑據ト爲シタル時ト雖ヒ其書類ノ贗造タルヲ訴フルヲ得可シ

第四百五十二條 贗造ノ旨ヲ申立テタル書類ノ公ケノ預リ人又ハ私ノ預リ人ハ檢察官ノ言渡書又ハ下吟味掛リ裁判役ノ言渡書ニ循ヒ其預ル所ノ書類ヲ差出ス可シ若シ之ヲ差出サ、ル時ハ召捕ヲ受ク可シ

其言渡書及ヒ書類差出シノ證書アル時ハ其預リ人其書類ニ管係アル者ニ對シ既ニ之ヲ差出シタ

ルノ證アリトス可シ

第四百五十三條 照徴ノ爲メ差出シタル書類モ亦第四百四十八條第四百四十九條第四百五十條ニ記スル如ク姓名ヲ手署シ及ヒ横線ヲ畫ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ此數條ニ記スル所ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百五十四條 總テ公ケノ預リ人ハ其預ル所ノ書類ヲ照徴ノ爲メ差出ス可シ若シ之ヲ出サ、ル時ハ召捕ヲ受ク可シ〇之ヲ差出ス可キノ言渡書及ヒ差出シノ證書アル時ハ其預リ人其書類ニ管係アル者ニ對シ既ニ之ヲ差出シタルノ證アリトス可シ

第四百五十五條 公正ノ證書類ノ正本ヲ差出ス可キ事ノ必要ナル時ハ其地ノ初告裁判所ノ上席人其證書ノ正本ト讀合セタル上眞正ノモノナリト認メタル其寫ヲ其預リ人ノ方ニ遣シ置ク可シ但シ上席人ハ其旨ヲ調書ニ記ス可シ〇其預リ人官吏タル時ハ其正本ノ還リ來ルニ至ル迄其寫ヲ正本ニ代用シ其寫ヨリ更ニ寫シタル副本ヲ渡ス事ヲ得可シ但シ其預リ人ハ其旨ヲ調書ニ記ス可シ訴訟法第二

百三條見合 然レモ其公正ノ證書ヲ簿冊中ニ登記シタルニ因リ一時之ヲ引離シテ差出スヲ得サル時ハ裁判所ヨリ其簿冊ヲ差出ス可キヲ言渡シ前ニ記スル手續ヲ行フ可キ義務ヲ釋放スルヲ得可シ

第四百五十六條 私人ノ證書ト雖モ照徴ノ爲メ之ヲ差出サシメ雙方之ヲ認ムル時ハ照徴ノ用ニ供スルヲ得可シ 官吏ニ非サル者其證書ヲ預ル時ハ縱令自カラ之ヲ預リ居ル旨ヲ述タル時ト雖モ其證書ヲ差出サ、ルニ因リ直チニ之ヲ召捕フ可カラス然レモ證書ヲ出サ、ルニ付キ裁判所ニ呼出サレタル上之ヲ出サ、ルニ付テハ吟味ヲ受ケ終ニ負訴訟トナリタル時ハ其裁判言渡書ニ其者直チニ其證書ヲ出ス可ク若シ出サ、ルニ於テハ召捕フ可キ旨ヲ記スルヲ得可シ

第四百五十七條 證人證書類ノ贋造タルヤ否ニ付キ證ヲ申述フル時ハ之ニ横線ヲ畫シ且姓名ヲ手署ス可シ若シ手署スルヲ得サル時ハ其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第四百五十八條

訴訟吟味ノ手續ヲ爲ス間ニ差出シタル證書チ一方ヨリ贋造ナリト申立ル時ハ相手方チシテ其證書ヲ用ント欲スルヤ否チ答ヘシム可シ 訴訟法第二百

第四百五十九條

相手方ニテ其證書ヲ用ヒスト答フル時又ハ相手方八日內ニ其答ヲ爲サ、ル時ハ其證書ヲ棄却シ吟味ノ手續及ヒ裁判言渡ニ取掛ル可シ

若シ又相手方其證書ヲ用ヒント欲スル旨ヲ答フル時ハ主タル訴訟ノ吟味ノ手續ヲ爲ス裁判所ニテ附帶ノ訴訟ト爲シ其贋造ノ訴ヲ吟味ス可シ 訴訟法第二百十五條以下ノ規

第四百六十條

若シ證書ノ贋造タルチ申立ル者ヨリ其證書ヲ出シタル者即チ其贋造ノ主謀或ハ附從タルチ述フル時又ハ吟味ノ手續ニ因リ贋造ノ主從タル者猶生存シ且未タ其罪ノ期滿免除ノ期限ニ至ラサルヲ知リ得タル時ハ此章ニ記スル如ク主タル訴訟トシ其罪ヲ申立ツ可シ 即チ治

規則ニ循ヒ贋造訴訟ヲ刑事ノ訴訟トシテ爲スチ云フ 此場合ニ於テ民事ノ訴訟アル時ハ贋造訴訟ノ裁判アルニ至ル迄民事ノ訴訟ノ裁判ヲ延ハス可シ

又重罪、輕罪、註誤ニ付テノ刑事ノ訴訟アル時ハ裁判所ニテ檢察官ノ申立チ聽キタル上贋造訴訟ノ裁判アルニ至ル迄其刑事ノ訴訟ノ裁判ヲ延ハス可キヤ否チ預メ決斷ス可シ 訴訟法第二百

五十條見合 第四百六十一條 被告人贋造訴

ハ裁判所ニ其手記ノ書面ヲ差出シ及ヒ文字ヲ手記ス可キノ求メテ受ク可シ若シ其求メテ肯セス又ハ默シ居タル時ハ其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第四百六十二條

若シ裁判所ニテ刑事又ハ民事ノ訴訟ヲ吟味スル時贋造ノ證據ト贋造ヲ爲シタリト思料ス可キ人ニ付テノ證據ト見出シタル時ハ檢察官又ハ裁判所ノ上席人ヨリ其贋造ヲ爲シ

タルト思料ス可キ地又ハ其疑ヲ受ケタル者ノ所在ノ地ノ下吟味掛リ役所ノ檢事長ノ代役ニ其書

類ヲ送ル可シ但シ其檢察官又ハ裁判所ノ上席人ハ其疑ヲ受ケタル者ニ對シ引出狀ヲ出スヲ得

可シ

第四百六十三條 若シ公正ノ證書ノ全部又ハ一部ノ贋造タルコトヲ言渡シタル時ハ其言渡ヲ爲シタル裁判所ヨリ其證書中故ラニ塗抹シタル所アラハ之ヲ書加ヘ又故ラニ書加ヘタル所アラハ之ヲ塗抹シ又ハ其證書ヲ改正ス可キコトヲ言渡シ此等ノ事ヲ調書ニ記ス可シ

照徴ノ書類ハ之ヲ持來リシ官署ニ返シ又ハ之ヲ出シタル者ニ返ス可シ但シ此事ハ裁判言渡ヨリ十五日内ニ之ヲ爲ス可ク若シ書記官此規則ニ背ク時ハ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百六十四條 其他贋造訴訟ノ吟味手續ハ他ノ犯罪訴訟ト同一ナリトス但シ次項ニ記スル所ハ例外ナリトス

重罪裁判所ノ上席人、檢事長又ハ其代役、下吟味掛リ裁判役、治安裁判役ハ其管轄地外ト雖凡國債ノ手形佛蘭西國立銀行ノ手形又ハ諸州ノ銀行ノ手形ヲ贋造シ又ハ輸入シ又ハ配分シタルノ疑アル者ノ住居ニ至リ穿鑿ヲ爲スコトヲ得可シ

貨幣贋造ノ罪又ハ國璽贋造ノ罪ニモ亦此條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

○第二章 重罪被告人抗傳ヲ爲ス事

第四百六十五條 重罪取調局ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キ言渡ヲ爲シタル後被告人ヲ召捕フルコトヲ得サル時又ハ其住所ニ其言渡書ヲ送リタルヨリ十日内ニ裁判所ニ出テサル時又ハ一度裁判所ニ出テ又ハ召捕ヘラレタル後逃亡シタル時ハ重罪裁判所ノ上席人又其アラサル時ハ初告裁判所ノ上席人又其アラサル時ハ初告裁判所ノ上席人又其アラサル時ハ初告裁判所ノ裁判役中ニテ最モ先キニ職ニ任セラレタル裁判役ヨリ其被告人十日内ニ出席ス可ク若シ出席セサル時ハ法律違背ノ罪アルニ因リ其民權ヲ奪ヒ抗傳吟味ノ時間其財產ヲ官ニ預カリテ其時間總テ裁判所ニ訴出スルヲ禁シ且如何ナル人タルヲ問ハス其被告人ノ居所ヲ知ル者アラハ之ヲ申出ツ可キ旨ヲ言渡ス可シ

其言渡書ニハ被告人ノ申立テラレシ罪犯ト其召捕ヲ爲ス可キ旨トヲ記ス可シ

第四百六十六條 其言渡書ハ次日ノ日曜日ニ喇叭ヲ吹キ又ハ太鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ公布シ且其言渡書

ヲ被告人住所ノ門ト邑ノ官署ノ門ト重罪裁判所ノ訟庭ノ入口トニ貼附ス可シ

檢事長又ハ其代役ハ其被告人住所ノ官地及ヒ記録稅官署ノ支配人ニ其言渡書ヲ送ル可シ

第四百六十七條 十日ノ期限ノ後ニ至リ抗傳者ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百六十八條 代言人又ハ代書師ハ抗傳シタル被告人ノ權利ヲ保護スル爲メニ出席スルコトヲ得

若シ被告人歐羅巴ニ在ル佛蘭西ノ領地外ニアル時又ハ被告人裁判所ニ出ルコト能ハサル時ハ其親族又ハ朋友ヨリ其被告人ノ爲メニ辨解ヲ爲シ且其辨解スル所ノ正當ナル旨ヲ述フ可シ

第四百六十九條 重罪裁判所ニテ被告人ノ親族又ハ朋友ノ辨解スル所ヲ正當ナリトスル時ハ其模樣ト其居ル地ノ遠近トニ從ヒ別段定メタル時間被告人ヲ抗傳ノ儘裁判スルコトヲ延ハシ其財產ヲ官ニ預カルコトモ亦之ヲ延ハスコトヲ言渡ス可シ

第四百七十條 前ニ記スル場合ノ外ハ重罪取調局ヨリ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス言渡書、抗傳者ヲシテ出席セシメントスル言渡書、第四百六十五條 其言渡書ヲ公布シ及ヒ貼附シタル旨ヲ證スル調書ヲ直チニ讀上ク可シ

其讀上ヲ爲シタル後重罪裁判所ニテ檢事長又ハ其代役ノ申立ヲ聽キタル上抗傳ノ儘言渡ヲ爲ス可シ

若シ吟味手續ノ中ニ法律ニ反キタル事アル時ハ重罪裁判所ニテ之ヲ取消シ其取消ト爲シタル手續ヨリ後ノ總テノ手續ヲ更ニ改メテ爲スコキコトヲ言渡ス可シ

吟味ノ手續法律ニ反キタル事ナキ時ハ重罪裁判所ニテ重罪告訴狀ニ付キ裁判言渡ヲ爲シ且民事原告人ノ求ムル損失ノ償ヲ言渡ス可シ但シ此場合ニ於テハ陪審ヲシテ立會及ヒ決斷ヲ爲サシムルコトナカル可シ

第四百七十一條 抗傳者刑ヲ言渡サレシ時ハ其言渡ノ如ク執行罪案公示

踪者ノ財産ト同視シテ之ヲ支配シ被告人抗傳シテ受ケタル刑ノ言渡ヲ取消シ得キ期限ノ終リタルニ因リ其刑ノ言渡ノ確的トナリタル後其相續人ニ其財産支配ノ算計ヲ爲ス可シ

第四百七十二條 (千八百五十年一月二日左ノ如ク改ム) 抗傳者ノ刑ノ言渡書ハ其言渡ヨリ八日內

ニ檢事長又ハ其代役ノ申立ニテ抗傳者最終ノ住所ノ州内ノ新聞紙ニ記入ス可シ又其言渡書ハ抗傳者最終ノ住所ノ門及ヒ罪犯ヲ行フタル郡ノ首邑ノ官署ノ門並ニ重罪裁判所ノ訟庭ノ入口ニ貼附シテ公示ス可シ又同上ノ期限内ニ其言渡書ノ寫ヲ抗傳者住所ノ官地及ヒ記録稅官署ノ支配人ニ送ル可シ○法律上ニテ抗傳者ノ受ケシ刑ノ言渡書ヲ公示シタルヨリ生ス可キヲ決定メタル諸件ハ此條ニ記スル公示ノ式ヲ行ヒ終リシ旨ヲ證スル最終ノ調書ヲ記シタル日ヨリ以來其効アリトス

第四百七十三條 檢事長及ヒ民事ノ原告人ノ外ハ被告人抗傳シテ受ケタル言渡ヲ取消サント覆審

院ニ願出ツ可カラス但シ民事ノ原告人ハ其民事ニ管シタル條件ノミニ付キ其取消ヲ願フヲ得可シ

第四百七十四條 如何ナル場合ニ於テモ共ニ訴ヘラレタル被告人中ノ一人抗傳スルト雖モ出席シ

タル他ノ被告人ノ吟味ヲ當然延延ス可カラス 裁判所ニ於テハ出席シタル被告人ノ裁判言渡ヲ爲シタル後嘗テ犯罪ノ憑據トシテ書記局ニ納メタル諸物件ヲ其所有者又ハ其代權人ノ願ニ從ヒ還ス可キヲ言渡スヲ得可キ○又別段ノ道理アル時ハ裁判所ニ於テ其所有者又ハ其代權人ヲシテ入用次第早速其物件ヲ再ヒ裁判所ニ出ス可キノ盟約ヲ爲サシメタル上ニテ其物件ヲ還ス可キヲ言渡スヲ得可キ 其物件ヲ還ス前ニ書記官其物件ノ摸樣ヲ調書ニ記ス可シ若シ書記官其調書ヲ記セサル時ハ百

「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第四百七十五條 抗傳者ノ妻子父母等貧困ナル時ハ其財産ヲ官ニ預カル時間其扶助料ヲ給スルヲ得可シ 其扶助料ノ高ハ行政官之ヲ定ム可シ

第四百七十六條 抗傳シテ刑ヲ言渡サレシ被告人其刑ノ期滿免除ノ期限ニ至ラサル中ニ召捕ヘラ

レ又ハ自訴スル時ハ其刑ノ言渡並ニ之ヲ召捕フ可キヲ言渡シ又ハ其出席ヲ爲ス可キヲ言渡シタルヨリ以後ノ手續ヲ當然取消シテ通常ノ規則ニ循ヒ更ニ吟味ノ手續ヲ爲ス可シ 然レモ抗傳シテ受ケタル刑ノ言渡ニ因リ准死ノ罰ヲ受ク可キ時其被告人言渡書ヲ公示シタル日ヨリ五年ノ後ニ至リ召捕ヘラレ又ハ自訴シタルニ於テハ其五年ノ期限ニ至リシ日ヨリ被告人ノ裁判所ニ出ル迄ノ時間准死ヨリ生ス可キ諸件ノ効アルヲ民法第三十條ニ記スル所ノ如クナリトス

第四百七十七條 若シ前條ノ場合ニ於テ事故アリテ證人ヲ吟味ノ席ニ出テシムルヲ能ハサル時ハ其證人ノ申述書ト同罪ヲ犯セシ他ノ被告人ノ返答書ト吟味ノ席ニテ讀上ク可シ又裁判所ノ上席人罪犯ノ事並ニ被告人ノ事ニ付キ事實ヲ明瞭ナラシム可シト思料スル所ノ證書類モ亦之ヲ吟味ノ席ニテ讀上ク可シ

第四百七十八條 抗傳者後ニ裁判所ニ出テ重罪ノ告訴ヲ免レタル時即チ無罪ナリトノ言渡ヲ得ルヲ云フト雖モ其抗傳ニ因リ生シタル裁判所費用ヲ擔當ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

○第三章 裁判役ノ其職務外ニテ犯シタル罪及ヒ其職務ヲ行フニ當リ犯シタル罪 ○第一款 裁判役ノ其職務外ニテ犯シタル罪ヲ告訴シ及ヒ吟味スル事

第四百七十九條 治安裁判役、輕罪裁判所即チ初告ノ裁判役又ハ此等ノ裁判所ニテ檢察官ノ職ヲ行

フ官吏其職務外ニテ懲治刑ニ處セラル可キ輕罪ヲ犯セシノ申立ヲ受クル時ハ控訴院ノ檢事長其被告人ヲ控訴院ニ呼出シテ裁判言渡ヲ爲サシム可シ但シ其言渡ハ之ヲ控訴スルコトヲ許サス
第四百八十條 若シ又前條ニ記スル官吏施體又ハ加辱ノ刑ニ處セラル可キ重罪ヲ犯セシノ申立ヲ受クル時ハ控訴院ノ檢事長司法警察ノ職ヲ行フ可キ官吏ヲ指定メ控訴院ノ上席人下吟味掛リ裁判役ノ職ヲ行フ可キ官吏ヲ指定ム可シ

第四百八十一條 若シ控訴院ノ裁判役又ハ控訴院ニテ檢察官ノ職ヲ行フ官吏其職務外ニテ輕罪又ハ重罪ヲ犯シタルノ申立ヲ受クル時ハ其中立ヲ聽キタル官吏前條ニ記シタル如ク遲延ナク其下吟味ヲ爲サシムル間ニ其中立書ノ寫ヲ裁判事務宰相ニ送呈シ並ニ其吟味ニ管シタル書類ノ寫ヲ其宰相ニ送呈ス可シ

第四百八十二條 裁判事務宰相ハ其書類ヲ覆審院ニ送り覆審院ニテ被告人ニ罪アリト思フ時ハ其吟味ヲ輕罪裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ニ移ス可シ但シ其輕罪裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ハ被告人ノ在リシ控訴院ノ管轄地外ノ者タル可シ
又被告人重罪ヲ犯シタルト告ク可キ時ハ覆審院ヨリ其被告人ノ在リシ以外ノ控訴院ノ重罪取調局ニ其吟味ヲ移ス可シ

〇第二款 覆審院、控訴院、重罪裁判所ノ裁判役ヲ除クノ外總テ其他ノ裁判所ノ裁判役全員又ハ一員其職務ヲ行フニ付キ職務冒瀆ノ罪及ヒ其他ノ輕罪又ハ重罪ヲ犯シタルヲ告訴シ及ヒ吟味スル事

第四百八十三條 若シ治安裁判役即チ註誤 高法裁判所ノ裁判役、司法警察ノ官吏、輕罪裁判所ノ裁判役又ハ此等ノ裁判所ニテ檢察官ノ職ヲ行フ官吏其職務ヲ行フニ付キ懲治刑ニ處ス可キ輕罪ヲ犯シタルノ申立ヲ受クル時ハ第四百七十九條ニ記スル如ク其罪ヲ告訴シテ之ヲ裁判ス可シ

第四百八十四條 若シ前條ニ記シタル官吏職務冒瀆ノ重罪又ハ更ニ重キ罪ヲ犯シタルノ申立ヲ受

クル時ハ控訴院ノ上席人通常下吟味掛リ裁判役ノ行フ職務ヲ行ヒ控訴院ノ檢事長通常檢事ノ行フ職務ヲ行フ可シ但シ此等ノ官吏ハ別段己レニ代テ職ヲ行フ可キ官吏ヲ指定ムルコトヲ得可シ
其上席人及ヒ檢事長ヨリ別段己レニ代ル可キ官吏ヲ指定メサル間罪犯ニ管シタル物件アル時ハ總テ司法警察官吏其物件ニ付テノ證ヲ立ツルコトヲ得可シ但シ其他ノ吟味手續ハ治罪法ノ一般ノ規則ニ循フ可シ

第四百八十五條 若シ商法裁判所或ハ輕罪裁判所ノ裁判役全員其職務ヲ行フニ付キ職務冒瀆以上ノ重罪ヲ犯シタルノ申立ヲ受クル時又ハ控訴院ノ裁判役一員或ハ數員若クハ控訴院ノ檢事長或ハ其代役其職務ヲ行フニ付キ職務冒瀆以上ノ重罪ヲ犯シタルノ申立ヲ受クル時ハ後ノ數條ニ記スル如ク處置ス可シ

第四百八十六條 前條ノ重罪犯ハ之ヲ裁判事務宰相ニ申立テ其宰相被告人ニ重罪アリト思料スル時ハ覆審院ノ檢事長ニ其申立ニ從ヒ重罪ヲ告訴ス可キコトヲ命ス可シ
又全上ノ重罪犯ノ爲メ損害ヲ蒙リタルト述フル者ハ直チニ其重罪犯ヲ覆審院ニ申立ルコトヲ得可シ但シ此事ヲ爲スニハ其申立人裁判所ノ裁判役全員或ハ一員ヲ相手方ト爲シテ損害ノ償ヲ得ント訴フル場合又ハ既ニ覆審院ニ上告シタル訴ニ附帶シテ其重罪ヲ申立ル場合ニ限ル可シ

第四百八十七條 覆審院ノ檢事長裁判事務宰相ヨリ受取リタル書類又ハ申立人ヨリ直チニ受取リタル書類ニ因リ事情ヲ明瞭ニ知得スルコト能ハスト思フ時ハ其檢事長覆審院ノ上席人ニ之ヲ申立テ其上席人裁判役一員ヲシテ覆審院所在ノ地ニ於テ證人ノ申述ヲ聽カシメ又ハ其他ノ吟味手續ヲ爲サシム可シ

第四百八十八條 若シ覆審院所在ノ地外ニ於テ證人ノ申述ヲ聽キ又ハ其他ノ吟味手續ヲ爲ス可キ時ハ覆審院ノ上席人被告人タル裁判役全員又ハ一員ノ在ル州又ハ郡外ノ下吟味掛リ裁判役ニ任

シテ此等ノ諸事ヲ爲サシム可シ
第四百八十九條 前條ニ記シタル下吟味掛リ裁判役ハ證人ノ申述ヲ聽キ且其他己レノ任セラレタ

ル吟味ノ手續ヲ爲シ終リタル後調書及ヒ其他ノ書類ニ封印ヲ爲シテ覆審院ノ上席人ニ送ル可シ
第四百九十條 覆審院ノ上席人ハ裁判事務宰相ヨリ受取リタル書類又ハ申立人ヨリ差出シタル
書類又ハ其後得タル書類下吟味ヲ爲サシメテ檢視シタル上ニテ被告人ヲ禁錮ス可シト思フ時ハ
禁錮狀ヲ出ス可シ

其禁錮狀ニハ被告人ヲ入レ置ク可キ留置場ヲ記ス可シ
第四百九十一條 覆審院ノ上席人ハ直チニ其吟味ニ管スル書類ヲ檢事長ニ送り檢事長五日內ニ覆
審院中ノ裁判言渡取消局ニ被告人ノ犯罪申立ヲ記スル求刑書ヲ出ス可シ

第四百九十二條 犯罪ノ申立書ヲ裁判言渡取消局ニ出ス前ニ被告人ヲ禁錮シタルト否トチ問ハス
其局ニテ他ノ事務ヲ暫ク差置キ其犯罪ノ申立ヲ取上ク可キヤ否チ裁判ス可シ

其局ニテ犯罪申立ヲ棄却スル時ハ被告人ヲ赦宥ス可キヲ言渡ス可シ
其局ニテ犯罪申立ヲ取上タル時ハ被告人タル裁判役全員又ハ一員ノ吟味ヲ覆審院ノ民事局ニ移
シ民事局ニテ其被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キヤ否チ裁判ス可シ

第四百九十三條 既ニ覆審院ニ訴ヘ出シタル事件ニ附帶シテ全上ノ犯罪申立ヲ爲サントスル時ハ
是迄ノ訴ヲ管轄スル局ニ其中立ヲ爲ス可シ但シ其局刑事局又ハ裁判言渡取消局タル時ハ其申立
ヲ取上ケタル上ニテ其吟味ヲ民事局ニ移シ又是迄ノ訴ヲ管轄スル局民事局タル時ハ其吟味ヲ裁
判言渡取消局ニ移ス可シ

第四百九十四條 覆審院中ノ一局ニテ裁判役ニ對シ損失ノ償ヲ要ムル訴又ハ總テ其他ノ訴ヲ吟味
スル時主タル申立ト附帶ノ申立トチ問ハス裁判役ノ犯罪申立書ヲ差出ス者ナシト雖モ其局ニテ
第四百七十九條ニ記スル裁判役全員又ハ一員ニ罪犯アリト知得シタルニ於テハ其局ニテ前條ニ
循ヒ其罪犯ノ吟味ヲ他局ニ移シ爲サシム可キヲ公務ヲ以テ言渡ス可シ

第四百九十五條 若シ覆審院ノ諸局合同シテ訴ヲ吟味スル時前條ニ記スル如ク裁判役ノ罪犯ヲ知
リタルニ於テハ民事局ニ其吟味ヲ移シ爲サシム可シ

第四百九十六條 如何ナル場合ニ於テモ犯罪申立書ニ因ルト否トニ管セヌ總テ全上ノ罪犯吟味ヲ
爲ス可キ局ニ於テ被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キヤ否チ裁斷ス可シ

其局ノ上席人ハ通常下吟味掛リ裁判役ノ爲ス可キ職務ヲ行フ可シ
第四百九十七條 前條ニ記スル局ノ上席人ハ證人ノ申述ヲ聽ク事及ヒ被告人ヲ問糺ス事ヲ別段指
定メタル下吟味掛リ裁判役ニ任カストチ得可シ但シ其下吟味掛リ裁判役ハ被告人ノ在リシ州又
ハ郡外ノ者タル可シ

第四百九十八條 上席人ヨリ渡ス所ノ收監狀ニハ被告人ヲ入ル可キ留置場ヲ指定ム可シ
第四百九十九條 前數條ニ記スル罪犯ノ吟味ヲ爲ス覆審院中ノ一局ハ被告人重罪ヲ犯シタリト告
ク可キヤ否チ評議ス可シ但シ其評議ハ公ケニ爲ス可カラズ又其裁判役ノ員數ハ偶數タル可カラ
ズ

其裁判役中ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告クル者半ハ以上ナル時ハ犯罪申立ヲ棄
却スル言渡ヲ爲シ檢事長被告人ヲ赦宥セシム可シ

第五百條 裁判役中ニテ被告人重罪ヲ犯シタリト告クル者半ハ以上ナル時ハ其
旨ヲ言渡ス可シ但シ其言渡書ニハ被告人召捕ノ言渡ヲ附記ス可シ

此場合ニ於テハ其言渡書ニ指定メタル重罪裁判所附ノ留置場ニ其被告人ヲ移ス可シ
第五百一條 前數條ニ記スル如ク覆審院ニテ爲シタル下吟味ノ手續ハ法式ニ背キタルニ付キ之ヲ
取消サント訴フ可カラズ

其吟味ノ手續ハ被告人タル裁判役ト共ニ罪ヲ犯シタル者ニ通シ用フ可シ但シ其者裁判所ノ官吏
ニ非サル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百二條 其他治罪法中ニテ此章中ニ記スル規則ト抵觸セサル箇條ハ裁判役罪犯ノ吟味ニ通シ
用フ可シ

第五百三條 覆審院中ノ一局ヨリ被告人ヲ重罪裁判所ニ移シタル後被告人重罪裁判所ノ裁判言渡ヲ取消サント覆審院ニ願出シタル時覆審院中ノ刑事局ニ當テ其被告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キ旨ヲ述ヘシ裁判役アルニ於テハ其裁判役其取消願ヲ吟味スル席ニ參ス可カラス第二百五十條見合然レモ再度取消願ヲ爲シ覆審院ノ各局合同シテ其願ヲ吟味スル時ハ如何ナル裁判役ト雖モ其吟味ノ席ニ參スルコト得可シ

○第四章 官署ノ權ヲ慢侮スル罪

第五百四條 訟庭又ハ其他公ケニ吟味ノ手續ヲ爲ス場所ニ於テ來聽スル者稱贊誹謗ノ聲ヲ發シ又ハ如何ナル方法ヲ用ハス喧嘩ヲ生スルコトアル時ハ其裁判所ノ上席人又ハ裁判役其者ヲ逐出サシム可シ若シ其者其命ニ抗スル時又ハ一度裁判所ヲ出テタル後再ヒ入り來ル時ハ上席人又ハ裁判役之ヲ召捕ヘテ裁判所附ノ留置場ニ入ル可キコトヲ言渡シ其言渡ヲ調書ニ記ス可シ但シ其留置場ノ監守人ハ其調書ヲ見タル上ニテ其犯人ヲ受取り二十四時間留置場ニ入レ置ク可シ

第五百五條 前條ニ記シタル喧嘩ニ附加シテ懲治刑ノ刑又ハ警察違反ノ刑ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ犯シタル時ハ裁判所ニテ其罪犯ヲ證シタル上直ニ其席ニテ刑ヲ言渡ス可シ但シ其言渡ヲ控訴シ得可キト否トハ左ノ如シ
如何ナル裁判所ヨリ言渡シタルヲ問ハス警察違反ノ刑ノ言渡ハ之ヲ控訴ス可カラス

又懲治刑ノ言渡ハ輕罪裁判所又ハ註誤裁判役ヨリ爲シタル時之ヲ控訴スルコト得可シ

第五百六條 輕罪裁判所又ハ註誤裁判所ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アル時ハ此等ノ裁判所ニテ其犯人ヲ召捕ヘシメ且其罪犯ノ調書ヲ記シタル後書類ト犯人トヲ重罪管轄ノ裁判所ニ送ル可シ

第五百七條 覆審院、控訴院、重罪裁判所ノ吟味ノ席ニテ現ニ重罪ヲ犯シタル時ハ此等ノ裁判所ニテ直ニ其裁判ヲ言渡ス可シ

此等ノ裁判所ニ於テハ證人ト犯人トヲ問糾シ及ヒ犯人ノ自カラ撰ミタル代理人或ハ上席人ヨリ

犯人ノ爲メニ指定メタル代言人ノ申述ヲ聽キ公ケニ其罪犯ヲ證シ且檢事長又ハ其代役ノ申立ヲ聽キタル上ニテ其犯人ヲ刑ニ處スル言渡ヲ爲ス可シ但シ其言渡書ニハ其言渡ノ趣意ヲ附記ス可シ

第五百八條 前條ノ場合ニ於テ吟味ノ席ニアル裁判役五員又ハ六員タル時ハ四員以上ノ投言アルニ非サレハ刑ヲ言渡ス可カラス

又裁判役七員タル時ハ五員以上ノ投言アルニ非サレハ刑ヲ言渡ス可カラス

又裁判役八員以上タル時ハ其全員中四分三以上ノ投言アルニ非サレハ刑ヲ言渡ス可カラス若シ缺數アラハ罪ヲ赦宥スル投言中ニ加フ可シ

第五百九條 州長、郡長、邑長、邑長ノ輔佐、行政警察官吏、司法警察官吏其公務ヲ行フニ當リ罪ヲ犯ス者アル時ハ第五百四條ニ記スル如ク警察ノ職務ヲ行フ可シ但シ此等ノ官吏ハ犯人ヲ召捕ヘタル後罪犯ノ調書ヲ記シ其調書ト犯人トヲ管轄ノ裁判所ニ送ル可シ

○第五章 重罪、輕罪、註誤ニ付キ皇族及ヒ高貴ナル官吏ノ述フル證ヲ聽ク方法

第五百十條 皇族、高貴ノ職位ニ在ル者、裁判事務宰相ハ陪審ノ面前ニ於テ辨論ヲ爲ス場合ト雖モ證人トシテ之ヲ裁判所ニ呼出ス可カラス但シ皇帝訴ニ管スル者ノ願ニ因リ又ハ裁判事務宰相ノ申立ニ因リ別段命令書ヲ下シテ此等ノ者前ニ記列ヲ裁判所ニ呼出シ證ヲ述ヘシム可キコト命シタル時ハ格別ナリトス

第五百十一條 皇帝ノ命令アル時ノ外前條ニ記セシ數人控訴院所在ノ地ニ現ニ在ル時ハ其控訴院ノ上席人其人ノ述フル所ノ證ヲ聽取テ之ヲ書面ニ記ス可シ又其人控訴院所在ノ地ニ在ラサル時ハ其現ニ在ル所ノ郡ノ初告裁判所ノ上席人其證ヲ聽取テ之ヲ書面ニ記ス可シ
犯罪人ヲ吟味スル裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ハ全上ノ上席人ヲシテ證ノ申述ヲ聽カシムル爲メ罪犯ノ事件並ニ問目ヲ記シタル箇條書ヲ其上席人ニ送ル可シ

其上等席人ハ證ノ申述ヲ聽ク爲メ第一項ニ記スル各人ノ住所ニ至ル可シ

第五百十二條 上席人ノ記シタル證據開取書ハ直ニ之ヲ其上等席人ノ在ル裁判所ノ書記局ニ出シ又ハ其證ヲ聽クヲ求メシ裁判所ノ書記局或ハ其旨ヲ求メシ下吟味掛リ裁判役ノ在ル裁判所ノ書記局ニ封印シテ之ヲ送り此等ノ裁判所ノ書記局ヨリ遲延ナク其書ヲ檢察官ニ送ル可シ其證據開取書ハ陪審ノ面前ニテ吟味ヲ爲ス時公ケニ陪審ニ讀聞カセ被告人及ヒ證人等ヲシテ之ヲ辨論セシム可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其開取書ノ効ナカル可シ

第五百十三條 若シ皇帝ヨリ第五百十條ニ記スル各人ヲ陪審ノ面前ニ呼出ス可キヲ命シタル時ハ其命令書ニ全上ノ各人證ヲ述フルニ付テノ法式ヲ定ム可シ

第五百十四條 裁判事務宰相ヲ除クノ外總テノ宰相、上等ノ官吏、行政ノ權ヲ任セラレタル參議官、現ニ奉職スル將帥、外國政府ニ派出シタル第一等使節及ヒ其他ノ辨理公使ノ述フル證ヲ聽クニ付テハ左ノ如クタル可シ
此等ノ官吏ノ現ニ住スル地又ハ其偶然居合セタル地ノ重罪裁判所又ハ此等ノ地ノ下吟味掛リ裁判役ノ在ル裁判所ニ於テ其證ヲ聽クノ必要ナル時ハ此等ノ官吏通常ノ式ニ循ヒ其證ヲ述フ可シ如ク證ヲ述フ可キヲ云フ

又全上ノ地ヲ管轄セサル裁判所ニ於テ其證ヲ聽クノ必要ナル時陪審ノ面前ニテ證ヲ述ヘシムルニ及ハサル場合ニ於テハ其裁判所ノ上席人又ハ下吟味掛リ裁判役ヨリ全上ノ官吏ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ノ上席人又ハ下吟味掛リ裁判役ニ證ヲ聽取ル可キ罪犯ノ事件並ニ問目ヲ記シタル簡條書ヲ送りテ其證ヲ聽カシム可シ
若シ外國政府ニ派出シタル辨理公使ノ證ヲ聽ク可キ時ハ前項ニ記スル簡條書ヲ裁判事務宰相ニ差出シ其宰相ヨリ辨理公使所在ノ地ニ其簡條書ヲ送り且其證ヲ聽ク可キ人ヲ指定ム可シ
第五百十五條 前條ニ記シタル簡條書ヲ受取りタル上席人又ハ下吟味掛リ裁判役ハ全上ノ官吏ヲ

己レノ面前ニ來ラシメ其述フル所ノ證ヲ書面ニ記ス可シ

第五百十六條 其書面ハ之ニ封印ヲ爲シテ其證ヲ要スル裁判所ノ書記局ニ送ル可キヲ並ニ之ヲ檢察官ニ送りタル後ニ讀上ク可キヲ第五百十二條ニ記スル如クタル可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其書面ノ効ナカル可シ

第五百十七條 第五百十四條ニ記スル官吏其住スル所ノ地又ハ其偶然居合セタル地ヲ管轄セサル裁判所ノ陪審ノ面前ニテ證ヲ述フル爲メ其裁判所ニ呼出テ受クル時ハ皇帝ヨリ此等ノ官吏其裁判所ニ出ルヲ免ル可キノ令ヲ下スヲ得可シ
此場合ニ於テハ全上ノ官吏ノ述フル證ヲ書面ニ記ス可ク且第五百十四條第五百十五條第五百十六條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

○第六章 刑ヲ言渡サレシ後逃亡シテ召捕ヘラレシ者ノ人違ヒニ非サルヲ認ムル事
第五百十八條 刑ヲ言渡サレシ後逃亡シテ召捕ヘラレタル者ノ人違ヒニ非サルヲ認ムルハ其刑ヲ言渡セシ裁判所ニテ之ヲ爲ス可シ又流刑或ハ追放ノ刑ニ處セラレシ者其在ル可キ地外ニ出テ召捕ヘラレタル時モ亦前項ニ等シク其刑ヲ言渡セシ裁判所ニテ其人違ヒニ非サルヲ認メ且其罪其在ル可キ地ニ相當ナル刑ヲ言渡ス可シ 刑法第十七條第三十三條見合
第五百十九條 裁判所ニテハ檢察長ノ求メニテ呼出シタル證人ト召捕ラレタル者ノ求メニテ呼出シタル證人トテ問糾シタル上陪審ノ立會ナクシテ前條ノ言渡ヲ認ムル言渡ヲ爲ス可シ

其言渡ヲ爲スニハ公ケニ吟味ヲ爲シ召捕ラレタル者其席ニ出ツ可シ若シ此規則ニ背ク時ハ其言渡ノ効ナカル可シ
第五百二十條 檢察長及ヒ召捕ヘラレタル者ハ人違ヒニ非サルヲ認ムルニ付テノ言渡ヲ取消
* ント覆審院ニ求ムルヲ得可シ但シ其取消ヲ求ムルニ付テハ治罪法ニ記スル一般ノ法式ト定期トニ循フ可シ

○第七章 裁判所ノ書類又ハ裁判言渡書ヲ失ヒシ時其處置ヲ爲ス方法

第五百二十一條 火災、洪水又ハ其他非常ノ事ニ因リ未ダ現ニ執行ハサル重罪又ハ輕罪ノ裁判言渡書ノ正本ヲ失フタル時又ハ未決ノ吟味手續ノ書類ノ正本ヲ失フタル時之ヲ取戻スル能ハサルニ於テハ後ノ數條ニ記スル如ク處置ス可シ

第五百二十二條 裁判言渡書ノ公正ナル副本アル時ハ之ヲ正本ト看做シ總テノ裁判言渡書ヲ預カル場所 裁判所ノ書ニ其副本ヲ納ム可シ

之カ爲メ總テ其公正ナル副本ヲ預カル官吏又ハ其他ノ者其言渡ヲ爲セシ裁判所ノ上席人ノ命令書ニ循ヒ其副本ヲ其裁判所ノ書記局ニ出ス可シ若シ之ヲ出サ、ル時ハ召捕ヘラル可シ其公正ノ副本ヲ預カル者其上席人ノ命令書ヲ示ス時ハ其副本ニ管係アル者ニ對シ既ニ之ヲ裁判所ノ書記局ニ差出シタルノ証トス可シ

其副本ノ預リ人ハ之ヲ書記局ニ出シタル上無稅ニテ其寫ヲ受取ルヲ得可シ

第五百二十三條 若シ重罪ノ裁判言渡書ノ正本ヲ失ヒ且其公正ノ副本アラサル時陪審ノ決斷書ノ正本又ハ公正ノ副本アルニ於テハ其決斷書ニ據リ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第五百二十四條 若シ前條ノ場合ニ於テ陪審ノ決斷書ヲ失フタル時又ハ陪審ノ立會ナクシテ裁判言渡ヲ爲シタル時 輕罪ニ管スル場合 其吟味手續ノ書面ヲモ亦失フタルニ於テハ正本ヲモ公正ノ副本ヲモ失フタル書面ヲ記セシヨリ以後ノ吟味ノ手續ヲ更ニ爲ス可シ

○第五卷 二箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中ノ一箇ニ定ム可キ訴及ヒ此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移ス訴〔千八百八年十二月十四日決定同月二十日布告〕

○第一章 二箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中ノ一箇ニ定ム可キ訴
第五百二十五條 二箇ノ裁判所ノ管轄相觸ル、時其中ノ一箇ニ定ム可キ訴ハ願書ヲ差出シタル上ニテ急速吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ且之ヲ裁判ス可シ 訴訟法第三百六十三條以下見合

第五百二十六條 二箇ノ控訴院、重罪裁判所、輕罪裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役二員同時ニ一箇ノ輕重罪又ハ相附帶シタル輕重罪又ハ一箇ノ註誤ノ吟味ヲ爲シ始メタル時此等ノ裁判所又ハ裁判役互ニ管轄ヲ受ケサル者タルニ於テハ覆審院ニテ其中ノ一ニ定ム可シ

第五百二十七條 又海陸軍ノ裁判所、陸軍警察官吏及ヒ其他總テ別段ノ裁判所ト控訴院、重罪裁判所、輕罪裁判所、註誤裁判所、下吟味掛リ裁判役ト同時ニ一箇ノ輕重罪又ハ相附帶シタル輕重罪又ハ一箇ノ註誤ヲ吟味シ始メタル時ハ亦覆審院ニテ其中ノ一ニ定ム可シ

第五百二十八條 覆審院ノ刑事局ニテハ願書並ニ諸書類ヲ檢視シタル上ニテ其願ノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡シ又ハ直チニ確定ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ但シ直チニ確定ノ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ相手方其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

第五百二十九條 被告人又ハ民事原告人ヨリ數箇ノ裁判所中其一ニ定ム可キヲ願出シ覆審院ニテ其願ノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡シタル時ハ其言渡書ヲ以テ雙方ノ裁判所ノ檢察官ニ吟味ニ管シタル書類ト管轄抵觸ノ事ニ付テノ其見込書ト差出ス可キヲ命ス可シ

第五百三十條 一方ノ裁判所ノ檢察官ヨリ二箇ノ裁判所中其一ニ定ム可キヲ願出シ覆審院ニテ其願ノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡シタル時ハ其言渡書ヲ以テ他ノ一方ノ裁判所

ノ檢察官ニ諸書類ト其見込書ト差出ス可キヲ命ス可シ

第五百三十一條 二箇ノ裁判所中一ニ定メントスル願ヲ相手方ニ告知セシムル覆審院ノ言渡書ニハ管轄抵觸ノ生スル原由ヲ簡略ニ記シ且路程ノ遠近ニ從ヒ諸書類ト見込書前二條ニトテ覆審院

ノ書記局ニ差出ス可キ期限ヲ定ム可シ
其言渡書ヲ相手方ニ送リタル時ハ雙方裁判所ノ裁判言渡ヲ當然止ム可ク又重罪ノ訴ニ付テハ被
告人重罪ヲ犯シタリト告ク可キノ言渡ヲ爲スヲ止ム可ク若シ既ニ其言渡ヲ爲シタルニ於テハ
重罪裁判所ニテ陪審ヲ撰ムヲ止ム可シ然レハ原告及ヒ被告雙方ノ權利ヲ保護スル處置並ニ下
吟味ノ手續ハ之ヲ止ム可カラズ

被告人又ハ民事原告人ハ此篇第三卷第二章 覆審院ニ裁判言渡ノニ記シタル如ク管轄抵觸ノ事ニ
付テノ其辨論ノ憑據書ヲ差出スヲ得可シ 取消ヲ願フヲノ卷

第五百三十二條 願書ヲ出シタル上覆審院ニテ直チニ其願ノ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ覆審院ノ檢
事長ヨリ其言渡書ヲ裁判事務宰相ニ出シ宰相ヨリ之ヲ管轄ヲ罷ラレシ裁判所ノ檢察官ニ送ル可
シ

其言渡書ハ被告人又ハ民事ノ原告人ニモ亦送達ス可シ
第五百二十三條 被告人又ハ民事ノ原告人ハ其言渡書ノ送達ヲ得タル時ヨリ三日内ニ其言渡ニ付
キ故障ヲ述フルヲ得可シ但シ其故障ヲ述フル法式ハ此篇第三卷第二章ニ記スル所ノ如クタル
可シ

第五百三十四條 前條ニ記スル如ク故障ヲ述ヘタル時ハ第五百三十一條ニ記スル如ク裁判所ノ裁
判言渡ヲ當然止ム可シ

第五百三十五條 裁判所附ノ留置場ニ入ラサル被告人及ヒ民事ノ原告人ハ管轄ノ相觸レシ雙方裁
判所中ノ一方所在ノ地ニ預メ住所ヲ擇ミ又ハ第五百三十三條ニ記スル期限内ニ住所ヲ擇マサレ
ハ故障ヲ述フルヲ許サズ

若シ此ノ如ク別段其住所ヲ擇マサルニ於テハ願人ヨリ其願ノ旨ヲ相手方ニ告知セスト雖ヒ相手
方之ヲ以テ口實ト爲シ其願ヲ取消サント述フルヲ得ス

第五百三十六條 覆審院ニテハ管轄抵觸ノ事ヲ裁判セシ上管轄ヲ罷ラレタル裁判所ニ於テ是迄爲
シタル吟味手續ノ法式ニ協フタルヤ否ヲ裁判ス可シ

第五百三十七條 覆審院ニテ二箇ノ裁判所中ノ一ニ定メントスル願ヲ受ケタル上其願ノ旨ヲ相手
方ニ告知ス可キヲ言渡シ其言渡書ヲ法式ニ循ヒ相手方ニ送達シタル時ハ管轄抵觸ノ裁判言渡
ニ付キ相手方ヨリ故障ヲ述フルヲ得ス

第五百三十八條 二箇ノ裁判所中ノ一ニ定メントスル願ノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡シタ
ル上ト相手方ヨリ故障ヲ申述ヘタル上 第五百三十
三條ノ場合トト問ハス覆審院ニテ爲シタル裁判言渡書ハ
以前ノ言渡書 願ノ旨ヲ告知ス可キ言渡書又ハ故障申
述ノ前ニ爲シタル裁判言渡書ヲ云フ 同一ノ法式ヲ以テ同一ノ人々ニ送達ス可
シ

第五百三十九條 若シ被告人又ハ檢察官又ハ民事ノ原告人ヨリ輕罪裁判所或ハ下吟味掛リ裁判役
ノ管轄異ナリタルニ因リ其吟味ヲ受ケサル旨ヲ述フルヲアリト雖ヒ其申述ノ取上チ得タルト棄
却セラレタルトト問ハス二箇ノ裁判所ノ管轄相觸ルハ以テ其中ノ一ニ定ム可キ旨ヲ覆審院ニ
訴出ス可カラズ但シ此場合ニ於テハ輕罪裁判所ノ裁判言渡又ハ下吟味掛リ裁判役ノ言渡ヲ控訴
院ニ控訴シ及ヒ控訴院ニ控訴シタル上受ケタル言渡ヲ取消サント覆審院ニ訴出スルヲ得可シ

第五百四十條 一箇ノ控訴院ノ管轄内ニアル下吟味掛リ裁判役二員又ハ二箇ノ輕罪裁判所ニテ
同時ニ一箇ノ輕重罪又ハ相附帶シタル輕重罪ヲ吟味シ始メタル時ハ其控訴院ニテ此章ニ記スル
法式ニ循ヒ二箇ノ裁判所中其一ニ定ム可シ但シ其言渡ハ之ヲ取消サント覆審院ニ訴出スルヲ
得可シ

又一箇ノ輕罪裁判所ノ管轄内ニアル二箇ノ註誤裁判所ニテ同時ニ一箇ノ註誤又ハ相附帶シタル
註誤ノ吟味ヲ爲シ始メタル時ハ其輕罪裁判所ニテ其二箇中ノ一ニ定ム可シ若シ又二箇ノ註誤裁
判所一箇ノ輕罪裁判所ノ管轄ニアラサル時ハ控訴院ニテ其中ノ一ニ定ム可シ但シ此等ノ場合ニ

於テハ其言渡ノ取消ヲ覆審院ニ訴出スルヲ得可シ
第五百四十一條 民事ノ原告人及ヒ被告人二箇ノ裁判所中ノ一ニ定メントスル訴ヲ爲シ負訴訟トナル時ハ三百「フランク」ニ過キサル罰金ヲ言渡サル、コアル可シ但シ此罰金中其半ヲ相手方ニ渡ス可シ 訴訟法第三百六十七條見合

○第二章 此裁判所ヨリ彼ノ裁判所ニ吟味ヲ移ス訴

第五百四十二條 重罪、輕罪、註誤ヲ問ハス覆審院ニテ檢事長ノ中立ニ從ヒ公ケノ安寧ノ爲メ必要ナリト思フ時又ハ相當ノ疑アル時ハ此控訴院或ハ重罪裁判所ヨリ彼控訴院或ハ重罪裁判所ニ吟味ヲ移シ又ハ此輕罪裁判所或ハ註誤裁判所ヨリ彼輕罪裁判所或ハ註誤裁判所ニ吟味ヲ移シ又ハ此下吟味掛リ裁判役ヨリ彼下吟味掛リ裁判役ニ吟味ヲ移スヲ得可シ

又被告人或ハ民事ノ原告人ヨリ同上ノ旨ヲ覆審院ニ願出ルヲ得可シ但シ其願ハ相當ノ疑アル場合ノミニ限ル可シ

第五百四十三條 被告人又ハ民事ノ原告人一旦裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ノ面前ニ出テタル上ハ其後ニ至リ相當ノ疑ヲ生ス可キ原由アリシ時ニ非サレハ此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移サント願出ツ可カラス

第五百四十四條 相當ノ疑ヲ生ス可キ原由アル時ハ檢察官其吟味ヲ移ス可キヲ直チニ覆審院ニ求ムルヲ得可シ然レモ檢察官公ケノ安寧ノ爲メ其事ヲ求メントスル時ハ先ツ其求需ノ書面及ヒ其旨趣書ト憑據ノ書類トヲ裁判事務宰相ニ差出シ宰相其理アリト思フ時ハ此等ノ書類ヲ覆審院ニ送ル可シ

第五百四十五條 覆審院ノ刑事局ニ於テハ願書ト諸書類トヲ檢視シタル上ニテ直チニ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其願ノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡ス可シ但シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ相手方ヨリ其言渡ニ付キ故障ヲ述フルヲ得可シ

第五百四十六條 若シ被告人又ハ民事ノ原告人此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移ス可キヲ願出シタル時覆審院ニテ即時ニ其願ヲ棄却シ又ハ取上クルノ言渡ヲ爲スヲ適宜ナラスト思フニ於テハ其言渡書ヲ以テ是迄吟味ヲ爲ス裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ノ檢察官ニ其願ノ旨ヲ告知ス可キヲ命シ且諸書類ト見込書トヲ差出ス可キ旨ヲ其檢察官ニ命ス可シ又別段ノ道理アル時ハ相手方ニモ亦其願出ノ旨ヲ告知ス可キヲ命ス可シ

第五百四十七條 又檢察官此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移ス可キヲ求メタル時覆審院ニテ即時ニ其確定ノ裁判言渡ヲ爲スヲ適宜ナラスト思フニ於テハ覆審院ヨリ其求メノ旨ヲ相手方ニ告知ス可キヲ言渡シ又ハ其他必要ト思料スル預審ノ言渡ヲ爲スヲ得可シ

第五百四十八條 覆審院ニテ願書ト其他ノ書類トヲ檢視シタル上即時ニ其確定ノ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ其言渡書ヲ檢事長ヨリ裁判事務宰相ニ差出シ其宰相ヨリ之ヲ管轄ヲ罷メラレタル裁判所又ハ下吟味掛リ裁判役ノ檢察官ト被告人及ヒ民事ノ原告人又ハ其擇ミタル住所トニ送ル可シ
第五百四十九條 其言渡ニ付キ故障ヲ述ヘントスル時ハ此卷ノ第一章ニ記スル規則ト定期トニ循フ可シ

第五百五十條 故障ノ申述ヲ取上ケタル時ハ訴訟ノ裁判言渡ヲ當然止ム可キヲ第五百三十一條ニ記スル如クタル可シ

第五百五十一條 第五百二十五條第五百三十條第五百三十一條第五百三十四條第五百三十五條第五百三十六條第五百三十七條第五百三十八條第五百四十一條ノ規則ハ此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移ス訴ニモ亦通シテ用フ可シ

第五百五十二條 此裁判所ヨリ彼裁判所ニ吟味ヲ移ス訴ヲ爲シ一度其訴ヲ棄却セラレタル時ト雖モ其後生シタル事件ニ付キ更ニ同上ノ訴ヲ爲スヲ得可シ

○第六卷 別段裁判所ノ事 第五百五十三條ヨリ第 〔千八百二十年ノ國法第五十四條ニ因リ廢ス〕

○第七卷 人民ノ權利及ヒ公ケノ安寧ニ管スル諸件〔千八百八年十二月十六日決定同月廿六日布告〕

○第一章 裁判言渡書ヲ書留ムル事

第六百條 重罪裁判所又ハ輕罪裁判所ノ書記官ハ懲治罪ノ爲メノ禁錮ノ刑又ハ更ニ重キ刑ヲ言渡サレシ各人ノ姓名、職業、年齢、住所ヲ「アベセ」ノ順序ニ從ヒ別段設ケタル簿冊ニ書留ム可シ又其簿冊ニハ各犯罪事件ト刑ノ言渡トヲ簡略ニ書留ム可シ若シ書記官此等ノ書留ヲ爲サ、ルニ於テハ其度毎ニ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第六百一條 書記官ハ三月毎ニ其簿冊ノ寫ヲ裁判事務宰相ト警察事務宰相トニ送呈ス可シ若シ此規則ニ背ク時ハ百「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第六百二條 裁判事務宰相並ニ警察事務宰相ハ前ニ記シタル所ニ等シキ大簿冊ヲ設ケ置キ裁判所ノ書記官ヨリ送呈シタル簿冊ノ寫ヲ書留メシム可シ

○第二章 獄舎、輕罪裁判所附留置場、重罪裁判所附留置場ノ事
第六百三條 犯人ヲ刑ニ處スル爲メノ獄舎ノ外各郡ノ輕罪裁判所毎ニ被告人ヲ入レ置ク可キ留置場ヲ設ケ又重罪裁判所毎ニ被告人ヲ入レ置ク可キ留置場ヲ設ケ可シ

第六百四條 裁判所附ノ留置場ハ犯罪人ヲ刑ニ處スル爲メノ獄舎ト全ク相異ナリタルモノトス

第六百五條 州長ハ裁判所附留置場ノ堅牢ナル可キ事ト並ニ清潔ニシテ囚人ノ健康ヲ害セサル可キ事トニ注意ス可シ

第六百六條 裁判所附留置場ノ監守人ハ州長ヨリ之ヲ任ス可シ
第六百七條 獄舎及ヒ裁判所附留置場ノ監守人ハ簿冊ヲ設ケ置ク可シ
其簿冊ハ輕罪裁判所附ノ留置場ニ付テハ下吟味掛リ裁判役毎葉姓名ヲ手署シテ且横線ヲ畫シ又重罪裁判所附ノ留置場ニ付テハ重罪裁判所ノ上席人又其上席人ノアラサル時ハ輕罪裁判所ノ上席人毎葉姓名ヲ手署シテ且横線ヲ畫シ又獄舎ニ付テハ州長毎葉姓名ヲ手署シテ且横線ヲ畫ス可シ

第六百八條 收監狀、召捕ノ言渡書、犯人ヲ刑ニ處スル言渡書ヲ執行フ可キ者ハ被告人又ハ犯人ヲ監守人ニ引渡ス前ニ其監守人ヲシテ其收監狀又ハ言渡書ヲ簿冊ニ登記セシム可シ但シ其受取ノ證書ハ其收監狀又ハ言渡書ヲ持來リシ者ノ面前ニテ之ヲ記ス可シ

其受取證書ハ監守人ト引渡人ト之ニ姓名ヲ手署ス可シ
又監守人ハ其受取證書ノ寫ヲ引渡人ニ渡ス可シ

第六百九條 如何ナル監守人ト雖モ法式ニ協フタル禁錮狀或ハ收監狀又ハ被告人ヲ重罪裁判所ニ移ス言渡書又ハ施體或ハ禁錮ノ刑ニ處スル言渡書ニ據リ且之ヲ簿冊ニ登記シタルニ非サレハ人ヲ獄舎ニ繋キ又ハ留置場ニ入ル、爲メ受取ル可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ人ヲ枉ニ禁錮スルノ罪アリトシテ訴テ受ケ相當ノ刑ニ處セラレ可シ

第六百十條 其簿冊ニハ受取ノ證書ヲ記シタル端ニ囚人ヲ赦宥シタル日附並ニ之ヲ赦宥スル言渡書ヲ附記ス可シ

第六百十一條 下吟味掛リ裁判役ハ其一州内ノ輕罪裁判所附留置場ノ囚人ヲ少クトモ毎月一度見分ス可シ

重罪裁判所ノ上席人ハ重罪裁判所附留置場ノ囚人ヲ重罪裁判所ノ會議ヲ開ク毎ニ少クトモ一度見分ス可シ
州長ハ其州内ノ重罪裁判所附留置場及ヒ獄舎ヲ少クトモ毎年一度見分ス可シ

第六百十二條 前條ニ記シタル見分ノ外重罪裁判所附留置場又ハ輕罪裁判所附留置場又ハ獄舍所
在ノ邑長又邑長數員アル時ハ警察總督又ハ邏卒總長ハ少クモ毎月一度此等ノ留置場又ハ獄舍ヲ
見分ス可シ

第六百十三條 「千八百六十五年七月十四日左ノ如ク改ム」巴勒ノ警察總督又州長警察總督ノ職ヲ
兼テ行フ都府ニ於テハ州長及ヒ其他ノ地ニ於テハ邑長囚人ノ飲食料十分ニシテ且健康ノ害ヲラ
サルコトニ注意ス可シ但シ此等ノ官吏ハ留置場ノ警察ヲ掌ル可シ

又下吟味掛リ裁判役及ヒ重罪裁判所ノ上席ハ下吟味ノ爲メ又ハ裁判言渡ノ爲メ裁判所附留置
場ニ於テ執行フ可キ總テノ命令ヲ下スヲ得可シ

若シ下吟味掛リ裁判役囚人ノ他人ト接スルヲ禁スルヲ必要ナリト思フ時ハ別段ノ言渡書ヲ以テ
之ヲ禁スルヲ得可シ但シ其言渡書ハ留置場ノ簿冊ニ登記ス可シ○其禁ハ十日以上之ヲ爲スヲ
得可カラスト雖モ其期限ノ終リニ至リ更ニ改メテ之ヲ言渡スヲ得可シ○下吟味掛リ裁判役ハ
其禁ヲ言渡シタル旨ヲ檢事長ニ告知ス可シ

第六百十四條 若シ囚人留置場又ハ獄舍ノ監守人或ハ其下役ニ對シ又ハ他ノ囚人ニ對シ暴行脅迫
ヲ爲ス時ハ掛リ官吏ノ命ニテ更ニ嚴重ニ之ヲ禁錮シ又ハ別ニ一人ノミヲ禁錮シ又烈シク暴動ス
ル時ハ手械足械ヲ加フ可シ但シ其囚人ハ暴行脅迫ノ爲メ別段犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第三章 枉ニ人ヲ禁錮スルヲ制シテ自由ノ權ヲ保護スル方法

第六百十五條 佛蘭西共和政治立國第八年「フリメール」月二十二日ノ國法第七十七條第七十八條
第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ニ循ヒ獄舍又ハ裁判所附留置場ニ非サル場所ニ禁錮
セラレシ者アルコトヲ知リタル人ハ其旨ヲ治安裁判役、檢事又ハ其代役、下吟味掛リ裁判役、控訴
院ノ檢事長ニ告知ス可シ

第六百十六條 治安裁判役、總テノ檢察官、下吟味掛リ裁判役ハ自己ノ職務ニ因リ又ハ人ヨリ告知
ヲ受ケタルニ因リ即時ニ枉ニ禁錮ヲ受ケシ者アル場所ニ至リ其者ヲ自由ニ爲ス可シ若シ之ヲ禁

錮スルニ付テノ正當ナル理由アリト述フル者アルニ於テハ直チニ其禁錮ヲ受ケシ者ヲ相當ノ裁
判役ノ面前ニ出テシム可シ若シ此等ノ官吏此規則ニ背ク時ハ枉ニ禁錮ヲ爲シタル者ノ同罪人ナ
リトシテ訴ヲ受ク可シ

此等ノ官吏ハ前項ニ記スル處置ヲ調書ニ記ス可シ
第六百十七條 前條ニ記スル官吏已ムヲ得サル時ハ第九十五條ニ記スル法式ニ循ヒ言渡書ヲ渡
ス可シ 即チ禁錮狀引出狀
等ヲ渡スヲ云フ

若シ其言渡ノ如ク執行フ時ニ當リ抗拒スル者アル時ハ已ムヲ得ス他人ノ力ヲ借ル可シ但シ其官
吏ヨリ力ヲ貸ス可キノ求メテ受ケシ者ハ其求メニ從フ可シ

第六百十八條 若シ裁判所附留置場ノ監守人又ハ獄舍ノ監守人其留置場又ハ獄舍ノ警察ノ權ア
ル官吏ノ命令書ヲ持來リシ者ノ求メニ從ヒ其囚人ヲ示スヲ肯セス又ハ囚人ヲ他人ト接セシム
ルヲ禁スル命令書 第六百十三條 第三項見合 示スヲ肯セス又ハ治安裁判役ニ其簿冊ヲ示スヲ肯セス又
ハ治安裁判役ヲシテ其必要ナリト思料スル簿冊ノ一部ヲ寫シ取ラシムルヲ肯セサル時ハ枉ニ
人ヲ禁錮スルノ罪アリトシテ訴ヲ受ケ又ハ枉ニ人ヲ禁錮シタル者ノ同罪人ナリトシテ訴ヲ受ク
可シ

第四章 既ニ刑ヲ受ケシ者ノ復權ノ事

第六百十九條 「千八百五十二年七月二日左ノ如ク改ム」施體又ハ加辱ノ刑又ハ懲治ノ刑ヲ言渡
サレシ者既ニ其刑期ノ終リシ後又ハ赦免狀 皇帝ヨリ犯人ノ罪ヲ得タル後ハ復權ヲ願フヲ得可
シ後條
見合

第六百二十條 施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレシ者ハ其赦宥ヲ得タル日 即チ刑期ノヨリ五年ノ後
終リシ日ヨリ

ニ非サレハ復権ヲ願フ可カラズ
然レモ民權剝奪ノ刑ヲ言渡サレシ者ニ付テハ其言渡ヲ取消ス可カラサルニ至リシ日ヨリ其五年ノ期限ヲ算ヘ又其者禁錮ヲ言渡サレシ時ハ其禁錮ノ刑期ノ終リシ日ヨリ其期限ヲ算フ可シ
又政府ノ監察ヲ受ク可キ刑ヲ主タル刑トシテ言渡サレシ者ニ付テハ其言渡ヲ取消ス可カラサルニ至リシ日ヨリ其五年ノ期限ヲ算フ可シ

懲治刑ヲ言渡サレシ者ニ付テハ其五年ノ期限ヲ減シテ三年トス

第六百二十一條 施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレシ者ハ五年以來同一ノ郡中ニ住シ且其中最終ノ二年以來同一ノ邑中ニ住スルニ非サレハ復権ヲ願フ可カラズ

懲治刑ヲ言渡サレシ者ハ三年以來同一ノ郡中ニ住シ且其中最終ノ二年以來同一ノ邑中ニ住スルニ非サレハ復権ヲ願フ可カラズ

第六百二十二條 既ニ刑期ノ終リシ犯人ハ復権ノ願書ヲ其郡ノ檢事ニ差出シ且左件ヲ申出ツ可シ

第一 刑ヲ言渡サレシ日附

第二 刑期ノ終リシ後第六百二十條ニ記スル期限ヨリ更ニ永キ期限ヲ經タル時ハ其刑期ノ終リシ以來住シタル地

第六百二十三條 又其願人ハ既ニ裁判所ノ費用並ニ其言渡サレシ罰金及ヒ償額ヲ拂フタルノ證ヲ立テ又ハ其者此等ノ金高ヲ拂フ可キ義務ノ釋放ヲ得タル證ヲ立ツ可シ

若シ其證ヲ立テサル時ハ法律上ニテ定ムル所ノ期限間禁錮ヲ受ケタルノ證金高ヲ拂ハサルニ付

ヲ立テ又ハ相手方其禁錮ヲ爲スノ權ヲ拋棄シタル證ヲ立ツ可シ

又詐僞ノ倒産ニ付キ刑ニ處セラレシ者ハ借金ノ元利並ニ裁判所費用ヲ拂フタルノ證ヲ立テ又ハ

此等ノ金高ヲ拂フ可キ義務ノ釋放ヲ得タル證ヲ立ツ可シ

第六百二十四條 檢事ハ郡長ヲシテ願人住所ノ邑會議員ニ左ノ諸件ヲ證明スル爲メノ會議ヲ爲ス

可キヲ命セシム可シ

第一 願人邑内ニ住シタル期限

但シ何月何日ニ其邑内ニ住スルヲ始メ何月何日ニ之ヲ止メタルヤヲ詳明ナラシム可シ

第二 其邑内ニ住シタル時間ノ行狀

第三 其時間生計ヲ營ミシ方法

邑會ニテ此等ノ諸事ヲ證明スル書面ニハ復権願ノ法ニ適シタルヤ否ヲ知ル可キ爲メ特ニ之ヲ記シタル旨ヲ附記ス可シ

又檢事ハ願人ノ住シタル邑ノ長官及ヒ其縣ノ治安裁判役並ニ其郡ノ長官ノ說ヲ聽ク可シ

第六百二十五條 檢事ハ左ノ書類ヲ受取ル可シ

第一 刑ノ言渡書ノ寫

第二 願人ノ行狀如何ヲ證スル禁錮場ノ簿冊ノ寫

檢事ハ總テノ書類ヲ己レノ見込書ト共ニ檢事長ニ送ル可シ

第六百二十六條 復権ノ願ハ願人住居ノ地ヲ管轄スル控訴院 重罪取調局ニテ之ヲ吟味ス可シ

檢事長ハ總テノ書類ヲ其控訴院ノ書記局ニ納ム可シ

第六百二十七條 其書類ヲ書記局ニ納メタルヨリ二月内ニ重罪取調局ニテ其願ヲ吟味シ檢事長其申立書ヲ差出ス可シ

重罪取調局ニテハ檢事長ノ求メニ從ヒ又ハ其公務ヲ以テ更ニ改メテ其願ノ趣ヲ取調フ可キヲ

言渡スヲ得可シ但シ是レカ爲メ六月以上ノ遅延ヲ生ス可カラズ

第六百二十八條 重罪取調局ニテハ檢事長ノ申立ヲ聽キタル上ニテ其見込書ヲ記ス可シ

第六百二十九條 若シ重罪取調局ノ見込書復権ノ願ヲ允許セサルノ說タル時ハ更ニ二年ノ後ニ非

サレハ再ヒ其願ヲ爲ス可カラズ

第六百三十條 重罪取調局ノ見込書復権ノ願ヲ允許ス可キノ説タル時ハ檢事長其見込書ト諸書類トヲ遅延ナク裁判事務宰相ニ送呈ス可シ但シ其宰相ハ嘗テ刑ヲ言渡セシ裁判所ニ相談スルヲ得可シ

第六百三十一條 皇帝ハ裁判事務宰相ノ申立ヲ聽タル上ニテ復権ノ願ヲ允許シ又ハ棄却ス可シ

第六百三十二條 皇帝ヨリ復権ノ願ヲ允許シタル時ハ復権狀ヲ渡ス可シ

第六百三十三條 其復権狀ハ嘗テ見込書ヲ差出セシ控訴院ニ送ル可シ
又嘗テ刑ヲ言渡セシ裁判所ニモ亦復権狀ノ公正ナル寫ヲ送ル可シ〇其復権狀ノ寫ハ刑ノ言渡書ノ正本ノ端ニ記入ス可シ

第六百三十四條 復権ヲ得タル者ハ嘗テ刑ヲ言渡サレタルニ因リ失フタル權利ヲ全ク復ス可シ
前數條ニ記スル規則ニ循ヒ復権ヲ得タルト雖モ商法第六百十二條ニ記スル禁ヲ除去ス可カラス
治罪法上ニテ復権ヲ得ルト雖モ商法
上ノ禁ヲ免ルス可カラサルヲ云フ

一度重罪ヲ犯シタルニ付キ刑ヲ言渡サレタル後更ニ重罪ヲ犯シ施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ復権ヲ得可カラス
復権ヲ得タル後更ニ刑ヲ言渡サレタル者ハ復権ノ益ヲ得可カラス

〇第五章 期滿免除ノ事

第六百三十五條 重罪ニ付テノ裁判言渡書ニ記スル刑ハ其言渡ノ日ヨリ滿二十年ノ時間ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス

然レモ犯人ハ其重罪ノ爲メ身體又ハ所有物ニ害ヲ受ケシ者又ハ其者ノ宗系ノ遺物相續人ノ住スル州内ニ住ス可カラス
又政府ヨリ犯人ノ住居ス可キ地ヲ別段指定ムルヲ得可シ

第六百三十六條 輕罪ニ付テノ裁判言渡書ニ記スル刑ハ其終審ノ言渡ノ日ヨリ滿五年ノ時間ヲ以テ

テ其期滿免除ノ期限ナリトス但シ輕罪裁判所ヨリ言渡シタル刑ニ付テハ其言渡ヲ控訴スルコトヲ得可カラサルニ至リシ日ヨリ滿五年ヲ以テ其期滿免除ノ期限ナリトス可シ

第六百三十七條 死刑又ハ無期ノ施體ノ刑又ハ總テ施體或ハ加辱ノ刑ヲ言渡ス可キ重罪ニ付テノ刑事ノ訴及ヒ民事ノ訴ハ其重罪ヲ犯シタルヨリ滿十年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス但シ其期滿免除ヲ得ルニハ其十年ノ時間吟味ノ手續又ハ告訴ノ手續ヲ受ケサルコトヲ必要ナリトス

若シ其十年ノ時間ニ吟味ノ手續又ハ告訴ノ手續ヲ受ケタル儘ニテ其裁判言渡ヲ受ケサル時ハ最終ノ吟味ノ手續又ハ告訴ノ手續ノ日ヨリ滿十年ヲ以テ刑事ノ訴及ヒ民事ノ訴ノ期滿免除ノ期限ナリトス但シ其吟味ノ手續又ハ告訴ノ手續ニ全ク管セサル者ニ付テモ亦同一ナリトス

第六百三十八條 前條ニ記シタルニ箇ノ場合ニ於テ懲治刑ニ處ス可キ輕罪ニ管スル時ハ滿三年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス但シ此期限ヲ算フルニ付テハ前條ノ差別ニ從フ可シ

第六百三十九條 註誤ニ付テノ裁判言渡書ニ記スル刑ハ滿二年ノ時間ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス但シ其二年ノ期限ハ終審ノ裁判言渡書ニ記スル刑ニ付テハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ算ヘ又終審ニ非サル裁判言渡書ニ記スル刑ニ付テハ其言渡ヲ控訴スルヲ得サルニ至リシ日ヨリ之ヲ算フ可シ

第六百四十條 註誤ノ事ニ付キ爲ス可キ刑事ノ訴及ヒ民事ノ訴ハ其註誤ノ罪ヲ犯シタル日ヨリ滿一年ヲ以テ期滿免除ノ期限ナリトス但シ其一年ノ時間ニ註誤ニ付テノ調書ヲ記シ又ハ被告人ヲ召捕ヘ又ハ吟味或ハ訴訟ノ手續ヲ受ケタルヲ問フコトナク唯其時間ニ刑ノ言渡ヲ受ケサルコトヲ必要トス〇若シ其一年ノ時間ニ控訴スルヲ得可キ始審ノ刑ノ言渡アリシ時ハ控訴狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ滿一年ヲ以テ刑事ノ訴及ヒ民事ノ訴ノ期滿免除ノ期限ナリトス
第四百七十四條見合

第六百四十一條 輕重罪及ヒ註誤ニ付キ抗傳シテ刑ノ言渡ヲ受ケシ者既ニ其刑ノ期滿免除ノ期限ニ至リシ後ハ其抗傳シテ言渡サレタル刑ヲ免カレンカ爲メ裁判所ニ出ツ可カラス

第六百四十二條 重罪、輕罪、註誤ニ付キ爲シタル民事ノ言渡 相手方ニ損失ノ償ヲ爲ス可キノ言渡ハ之ヲ取消サント
訴フルコトヲ得サルニ至リシ時民法ニ記スル規則ニ循ヒ其期滿免除ノ期限ヲ定ム可シ 民法第二千
條以下 見合

第六百四十三條 此章ニ記スル規則ハ別段ノ輕罪又ハ註誤ニ付テノ訴ノ期滿免除ノ期限ヲ定ムル
格別ノ規則ノ差支トナルコトナカル可シ

辻 士革 校

佛蘭西 治罪法終
法律書

佛蘭西 刑法
法律書

權大内史箕作麟祥 譯

○前加規則〔千八百十年二月十二日決定同月二十二日布告〕

第一條 法律上ニテ警察違反ノ犯ヲ治スルノ刑ヲ用ヒ罰スル罪ヲ註誤ト云フ

法律上ニテ懲治ノ刑ヲ用ヒ罰スル罪ヲ輕罪ト云フ

第二條 重罪ヲ犯サント謀ル者己レノ意ニ管セサル景況ニ因テ其謀試ヲ止メ又ハ其謀試ヲ仕損ス
ルト雖モ其謀試ヲ以テ即チ重罪ナリト看做ス可シ

第三條 輕罪ヲ犯サントスル謀試ハ法律上ニテ別段定メタル場合ノ外之ヲ輕罪ナリト看做ス可カ
ラス

第四條 註誤、輕罪、重罪ヲ問ハス其犯前ニ法律上ニテ未タ定メサル刑ヲ用ヒ罰ス可カラス

第五條 此刑法規則ハ兵事ニ管係スル註誤、及ヒ輕罪重罪ニ通シ用フ可カラス

○第一篇 重罪輕罪ノ刑及ヒ其刑ノ効〔千八百十年二月十二日ノ法律ノ續〕

第六條 重罪ノ刑ハ施體ト加辱トヲ兼ル刑又ハ加辱ノミノ刑ナリ

第七條 施體ト加辱トヲ兼ル刑ハ左ノ如シ

第一 死刑

第二 無期ノ徒刑

第三 流刑

第四 有期ノ徒刑

第五 囚獄ノ刑

第六 徒刑場内ニ於テ使役スルノ刑

第七 加辱ノミノ刑ハ左ノ如シ

第一 追放ノ刑

第二 公權剝奪ノ刑

第九條 懲治ノ刑ハ左ノ如シ

第一 懲治場へ期限ヲ定メ禁錮スル刑

第二 定期間公權、民權、族權ヲ行フヲ禁スル刑

第三 罰金

第十條 法律上ニ定メタル刑ヲ言渡スト雖ヒ民事ノ原告人物品ヲ取還シ且損害ノ償ヲ得ルノ差支トナルヲナカル可シ

第十一條 政府ヨリ別段犯人ノ監察ヲ爲ス事、罰金ヲ言渡ス事、犯罪ニ管シタル犯人ノ所有物又ハ犯罪ニ因リ得タル物件又ハ犯罪ニ用ヒ或ハ用ヒントセシ物件ヲ別段沒收スル事ハ重罪又ハ輕罪ノ別ナク通シ用フ可キ刑ナリ

○第一章 重罪ノ刑

第十二條 死刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ之ヲ刎首ス可シ

第十三條 尊屬ノ親ヲ殺セシニ因リ死刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ編絆ノマ、跣足ニナシテ頭ニ皂被ヲ蒙ラシメ刑場ニ連レ行ク可シ

第十四條 若シ死刑ヲ受ケシ者ノ親族ヨリ其屍ヲ受取ラント願ヒ出ル時ハ禮式ヲ用ヒス葬ル可キ

第十五條 〔千八百五十四年五月二十日如左改ム〕徒刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ至難ノ役ニ使用セラレ

第十六條 〔千八百五十四年五月二十日如左改ム〕徒刑ノ言渡ヲ受ケシ婦女ハ徒刑場内ノミニ於テ

第十七條 〔千八百三十五年九月九日如左改ム〕流刑トハ法律上ニ定メタル歐洲大陸ノ佛蘭西領地

外ノ場所ニ犯人ヲ遷徙シテ定期ナク居住セシムル刑ヲ云フ

流刑ニ處セラレシ者若シ歐洲大陸ノ佛蘭西領地内ニ歸リ來ル時ハ其者ニ相違ナキノ證ヲ得タル

流刑ニ處セラレシ者歐洲大陸ノ佛蘭西領地内ニ歸リ來ルニ非スト雖モ佛蘭西兵ノ攻取シタル國

ニ於テ逮捕ヲ受ケシ時ハ其流所ヘ送還セラレ可シ

〔千八百五十年八月八日左ノ如ク改ム〕流刑ノ場所未ダ定ラサル時間ハ流刑ノ言渡ヲ受ケシ者歐

洲大陸ノ佛蘭西領地内ニアル獄舎又ハ歐洲大陸ノ佛蘭西領地外ニアル藩屬地ノ獄舎ニ定期ナク

繫囚スルノ刑ヲ受ケ可シ但シ其繫囚ノ場所ハ法律上ニ定メタルモノタル可ク且裁判役ノ處刑言

渡書ニ別段之ヲ指定ム可シ

若シ本國ト繫囚ノ場所トノ往來梗塞シタル時ハ假ニ本國ニ於テ繫囚シ置ク可シ

第十八條 〔千八百五十四年五月二十一日廢ス〕無期ノ徒刑及ヒ流刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ准死ヲ

受ク可シ

然レモ政府ハ流刑ノ言渡ヲ受ケシ者ニ民權ノ全部又ハ一部ヲ行フノ許ヲ爲スヲ得可シ

第十九條 有期ノ徒刑ノ言渡ハ五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル時間ヲ以テ其期限ト定

ム

第二十條 囚獄ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ犯人ハ歐洲大陸ノ佛蘭西領地内ニアル城寨中ニ之ヲ繫囚ス

可シ但シ其城寨ハ行政規則ノ體裁ニテ記シタル皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ定ム可シ

其犯人ハ皇帝ノ勅書ニテ定メタル取締ノ規則ニ循ヒ囚獄場ノ内外ニアル人ト通問スルヲ得可

シ

囚獄ノ刑ハ第三十三條ニ定メタル場合ノ外五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル時間ヲ以テ

其期限トス

第二十一條 徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ男女ヲ論セス徒刑場内ニ入レ置キ使

役ヲ受ケシム可シ但シ其使役ニ因テ造リ出シタル物ハ政府ヨリ定メタル規則ニ循ヒ其一部ヲ犯

人ノ所得ト爲サシムルヲ得可シ

此刑ノ定期ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル可シ

第二十二條 無期ノ徒刑、有期ノ徒刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑ヲ受ク

ル前ニ一時間街衢ニ公ケニ肆シ置ク可シ但シ其頭上ニ姓名、職業、住所、刑名、犯罪ヲ大字ニ記シ

タル標榜ヲ建ツ可シ

有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡シタル時其犯人再犯ノ罪ニ非サレハ重罪裁判

所ヨリ犯人ヲ公ケニ肆スヲナカル可キ旨ヲ言渡スヲ得可シ

但シ十八歳以下七十歳以上ノ者ニハ之ヲ公ケニ肆ス旨ヲ決シテ言渡ス可カラス〔千八百四十八

年四月十二日廢ス〕

第二十三條 有期ノ刑ノ期限ハ其刑ノ言渡ノ確定トナリシ日ヨリ之ヲ算フ可シ

第二十四條 繫囚ノ刑ニ處セラレシ者更ニ禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル時其犯人ヨリ其言渡ヲ控訴セサルニ於テハ其言渡ノ日ヨリ其刑期ヲ算フ可シ但シ檢察官ヨリ控訴シタルニ管スルコトナク又ハ其控訴ノ結局如何ヲ問フコトナシ

又犯人ヨリ控訴ヲ爲シ其刑期ヲ減スル言渡ヲ得タル時ハ亦前文ニ記スル所ト同一ナリトス

第二十五條 國祭又ハ教祭ノ日及ヒ日曜日ニハ刑ヲ行フ可カラズ

第二十六條 刑ヲ行フハ言渡書ニ記シタル地ノ街衢ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第二十七條 死刑ノ言渡ヲ受ケシ女若シ懷胎ナリト言ヒ其證據明白ナル時ハ出産ノ後ニ至テ其刑ヲ受ケシム可シ

第二十八條 有期ノ徒刑、囚獄ノ刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ公權ノ剝奪ヲ受ク可シ但シ公權ノ剝奪ハ刑ノ言渡ノ確定セシ日ヨリ之ヲ受ク可ク又抗傳シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ罪案ノ摘撮書ヲ街衢ニ榜示シタル日ヨリ之ヲ受ク可シ

第二十九條 有期ノ徒刑、囚獄ノ刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑期ノ時間法律上ニテ民權ヲ行フノ禁ヲ受ケタル者ト爲ス可シ但シ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ後見人及ヒ後見人ノ監察者ヲ任スルニ付キ定メタル規則ニ循ヒ其犯人ノ財産ヲ支配セシムル爲メ其後見人及ヒ後見人ノ監察者ヲ任ス可シ

第三十條 刑ヲ受ケタル者ノ財産ハ其刑期ノ終リシ後之ヲ其本人ニ還與シ後見人ヨリ其支配中ノ算計ヲ爲ス可シ

第三十一條 刑期ノ時間ハ金額及ヒ犯人所有物ノ入額ヲ犯人ニ渡ス可カラズ〔千八百五十四年五月三十日及ヒ千八百五十年六月八日改ム〕

第三十二條 追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ政府ノ命ヲ以テ歐洲大陸ノ佛蘭西領地外ニ遷徙ス可シ

追放ノ期限ハ五年ヨリ少ナカラズ十年ヨリ多カラサル可シ

第三十三條 追放ノ刑ニ處セラレシ者其刑期ノ未タ終ラサル中ニ若シ歐洲大陸ノ佛蘭西領地内ニ歸リ來ルコトアル時ハ其者ニ相違ナキノ證ヲ得ルノミニ於テ定期タル期限間囚獄ノ刑ヲ受ク可シ但シ其期限ハ犯人歸來ノ日ヨリ追放期滿ノ日ニ至ル迄ノ時間ヨリ少ナキコトナク亦其二倍ヨリ多キコトナカル可シ

第三十四條 公權剝奪トハ左ノ數件ニアリトス

第一 總テ公然ノ官職ヲ剝奪シ且其官職ニ補任スルヲ禁スル事

第二 投票ヲ爲スノ權、議員ヲ撰舉スルノ權、議員ニ選舉ヲ得ルノ權、及ヒ其他總テ公權、政權、表勳ノ裝飾ヲ用フルノ權ヲ剝奪スル事

第三 陪審又ハ監定人トナル事、證書類ノ證人トナル事、裁判所ニ於テ事柄ヲ陳述スルノ外證據ヲ申述フルコトヲ禁スル事

第四 親族會議ノ列ニ入ル可カラサル事及ヒ己レノ子ノ爲メト雖モ親族ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ其後見人又ハ後見人ノ監察者トナリ或ハ管財人及ヒ裁判所ヨリ任スル輔佐人トナル可カサル事

第五 兵器ヲ所有スルノ權、護國兵トナルノ權、佛蘭西ノ兵籍ニ入ルノ權、學校ヲ開クノ權、教師校監ノ名義ヲ以テ學校ニ於テ教授ヲ爲シ或ハ任用ヲ得ルノ權ヲ剝奪スル事

第三十五條 公權剝奪ノ刑ヲ主タル刑トシテ言渡ス時ハ其犯人ニ禁錮ノ刑ヲ附加ノ刑トシテ言渡スコトヲ得可シ但シ其禁錮ノ期限ハ刑ノ言渡書ニ定ムルモノニシテ其時間ハ五年ニ過キサル可シ

若シ其犯人外國人又ハ籍ヲ失ヒシ佛蘭西人タル時ハ必ズ禁錮ノ刑ヲ言渡サ、ル可カラズ

第三十六條 死刑、無期ノ徒刑、有期ノ徒刑、流刑、囚獄ノ刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑、公權ヲ剝奪スル刑、追放ノ刑ノ言渡書ハ其文ヲ摘撮シテ印刷ス可シ

其言渡書ノ摘撮書ハ其州ノ首府、言渡ヲ爲シタル府、犯罪ノ邑、刑ヲ行ヒシ邑、犯人住所ノ邑ニ之ヲ貼示ス可シ

第三十七條 〔千八百十四年廢ス〕

第三十八條 (同上)
第三十九條 (同上)

〇第二章 懲治ノ刑

第四十條 禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ懲治場内ニ禁錮シ懲治場ニ於テ定メタル數種ノ使役中
犯人ノ所好ニ從テ之ヲ使役ス可シ
其刑ノ期限ハ六日ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル可シ但シ再犯ノ場合又ハ其他法律上ニ別段
期限ヲ定メタル場合ハ格別ナリトス
一日禁錮スルノ刑ハ二十四時間トス
一月禁錮スルノ刑ハ三十日トス

第四十一條 輕罪ノ爲メ禁錮ヲ受ケシ者ノ使役ヨリ生シタル物ハ一部ヲ懲治場ノ費用ニ供シ一部
ヲ犯人ヲ慰安セシムルコトノ適宜ナル時ハ其爲メノ用ニ充テ一部ヲ出獄ノ時犯人ニ與フル貯金ト
爲ス可シ但シ此等ノ事ハ行政規則ニ循テ之ヲ定ム

第四十二條 輕罪ヲ審判スル裁判所ニ於テハ別段定リシ場合ニ於テ左ノ公權、民權及ヒ族權ノ全
部又ハ一部ヲ行フヲ禁スルコトヲ得可シ

- 第一 投票ヲ爲スノ權及ヒ議員ヲ選舉スルノ權
- 第二 議員ニ選舉ヲ得ルノ權
- 第三 陪審又ハ他ノ公ケノ職務ノ任ヲ受ケ及ヒ此等ノ職務ヲ行フノ權
- 第四 兵器ヲ所有スルノ權
- 第五 親族會議ニ參シ發言スルノ權
- 第六 己レノ子ノ爲メト雖モ其親族ノ許諾ヲ得ルニ非レハ其後見人又ハ管財人トナルノ權
- 第七 鑑定人トナリ及ヒ證書類ノ證人トナルノ權
- 第八 裁判所ニ於テ事柄ヲ陳述スルノ外證據ヲ申述フルノ權

第四十三條 法律ノ別段ナル規則ヲ以テ前條ノ權ヲ行フヲ禁スルコトヲ允許シ又ハ命シタル時ニ非
サレハ裁判所ヨリ前條ノ權ヲ行フヲ禁テ言渡ス可カラズ

〇第三章 重罪又ハ輕罪ニ付キ言渡ス可キ刑

第四十四條 (千八百五十一年十二月八日ノ勅書ノ第二項第四項第五項第六項ヲ以テ如左改ム)

第三項 政府ヨリ犯人ノ監察ヲ爲スノ効ハ政府ニテ向後犯人ノ刑期ノ終リシ後其居住ス可キ
地ヲ定ムルノ權ヲ生スルニアリトス○犯人ノ其居住ヲ爲ス可キ地ニ常ニ住スルコトヲ證スル
ニ適當ナル法式ハ行政官之ヲ定ム可シ

第四項 政府ノ監察ヲ受クル犯人ハ巴^{バリス}勒及ヒ其屬地内ニ居住スルコトヲ禁ス

第五項 前項ニ記シタル犯人巴勒及ヒ其屬地内ニ居住スルノ允許狀ヲ得タルニ非サレハ此勅
書ヲ布告シタル時ヨリ十日間ニ巴勒及ヒ其屬地ヲ退去ス可シ○其犯人ノ求メニ應シ犯人ノ
以前ノ住所ノ地又ハ其他犯人ノ至ラント爲ス地ニ到ル迄其通行ス可キ道路ヲ定ムル救濟ノ
路券ヲ渡ス可シ

第六項 第四項及ヒ第五項ニ定メタル規則ニ違背スルニ於テハ國ノ安寧ノ爲メ其犯人ヲ「ケ
イヤンヌ」南亞墨利加洲ニア
ル佛蘭西ノ屬地 又ハ「アルゼリ」亞弗利加洲ニア
ル佛蘭西ノ屬地ニ遷徒
ス可シ

第四十五條 政府ノ監察ヲ受クル犯人前條ノ規則ニ背ク時ハ輕罪裁判所ヨリ五年ニ過キサル期限
間禁錮ノ刑ヲ言渡ス可シ

第四十六條 (千八百二十二年四月二十八日廢ス)

第四十七條 有期ノ徒刑、囚獄ノ刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑期ノ終リ
シ後畢生間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第四十八條 追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑期ノ終リシ後其刑ノ期限ニ等シキ時間政府ノ監察

ヲ受ク可シ

第四十九條 國ノ内外ノ安寧ヲ害スル重罪又ハ輕罪ノ爲メ刑ヲ受ケシ者ハ亦前ニ記スル所ニ同シク政府ノ監察ヲ受ク可シ

第五十條 前數條ニ定メタル場合ノ外ハ犯人ヲシテ政府ノ監察ヲ受ケシム可カラズ但シ法律ノ別段ナル規則ニテ之ヲ允許シタル時ハ格別ナリトス

第五十一條 犯人ヨリ民事ノ原告人ニ品物ヲ還ス可キ時若シ其原告人其品物取還ノ外ニ損害ノ償ヲ求ムル時ハ裁判所ヨリ犯人ニ其償ノ旨ヲ言渡ス可シ但シ其償ノ高ハ別段法律上ニ定メサル場合ニ於テハ裁判所ヨリ之ヲ定ム可ク又裁判所ニ於テハ縱令民事原告人ノ承諾アリト雖モ其償額ヲ他事ニ移シ用フルコトヲ言渡ス可カラズ

第五十二條 若シ犯人罰金ヲ出シ又ハ品物ヲ還シ又ハ損害ヲ償ヒ又ハ裁判所費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケタル時其言渡ニ循ハサルニ於テハ其犯人ヲ禁錮前ニ記スル所ノ禁錮スルノ訴ヲ爲ス可キヲ得可シ

第五十三條 政府ノ爲メ犯人ニ罰金及ヒ裁判所費用ヲ出ス可キ言渡ヲ爲シタル時若シ其犯人其體又ハ加辱ノ刑期ノ終リシ後其罰金及ヒ裁判所費用ヲ出サ、ルニ因リ滿一年以上禁錮ヲ受ケタルニ於テハ其金高ヲ償フ能ハサルノ確證ヲ法律ニ循ヒ得タル上ニテ假リニ其禁錮ヲ赦宥スルコトヲ得可シ

又輕罪ニ管シタル時ハ其禁錮ノ期限ヲ六月ニ減ス可シ然モ犯人其金高ヲ償フ可キ資産ヲ得タル時ハ更ニ之ヲ禁錮ス可シ
第五十四條 官ニ罰金ヲ納ムルト原告人ニ品物ヲ還シ及ヒ損害ノ償ヲ爲スト相觸レテ犯人ノ財產其罰金ト其返還及ヒ償額トニ充ツルニ足ラサル時ハ原告人ヘノ返還及ヒ損害ノ償ヲ罰金ヨリ前ニ出サシム可シ

第五十五條 同一ノ重罪又ハ輕罪ニ因リ刑ヲ受ケシ各人ハ罰金、返還、損害ノ償、裁判所費用ヲ互ニ連帶シテ擔當ス可シ

○第四章 重罪及ヒ輕罪ヲ再犯シタル刑

第五十六條 施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ後更ニ主タル刑トシテ公權剝奪ノ刑ヲ言渡ス可キ重罪ヲ犯シタル者ハ追放ノ刑ノ言渡ヲ受ク可シ

更ニ追放ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シ

更ニ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

更ニ囚獄ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重ナル囚獄ノ刑ノ二倍ヨリ多カラサル期限間囚獄ノ刑ニ處ス可シ

更ニ有期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重ナル有期ノ徒刑ノ二倍ヨリ多カラサル期限間有期ノ徒刑ニ處ス可シ

更ニ流罪ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

一旦無期ノ徒刑ヲ言渡サレシ者更ニ無期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ死刑ニ處ス可シ

海陸軍裁判所ニ於テ刑ヲ受ケシ者其後更ニ輕重罪ヲ犯スニ因リ再犯ノ刑ニ處ス可キハ嘗テ海陸軍ノ裁判所ニ於テ其刑法ヲ用ヒス通常ノ刑法ニ從テ刑ヲ言渡シタル輕重罪ノ場合ノミニ限ル可シ

第五十七條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)重罪ノ爲メ一年間以上ノ禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ後更ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ者ハ法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處セラル可シ但シ其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増ス可キヲ得可シ

第五十八條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)輕罪ノ爲メ一年以上禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者其後更ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ時ハ法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處

セラル可シ但シ其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増スヲ得可シ又其再犯人ハ五年ヨリ少カラヌ十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）

○第二篇 重罪及ヒ輕罪ノ爲メ罰ヲ受ク可キ人、宥恕ヲ得可キ人、他人ノ犯罪ヲ擔當ス可キ人〔千八百十年二月十三日決定同月二十三日布告〕

○一章

第五十九條 重罪又ハ輕罪ノ附從ハ其重罪又ハ輕罪ノ首謀ト同一ノ刑ヲ以テ罰ス可シ但シ法律上ニ別段定メタル場合ハ格別ナリトス

第六十條 贈物、約束、脅迫、擅權、奸謀、偽計ヲ以テ人ニ輕重ノ罪犯ヲ行ハシメ又ハ其罪犯ヲ行フ可キ指揮ヲ爲シタル者ハ其輕罪及ヒ重罪ノ附從ト爲シテ罰ス可シ

輕重ノ罪犯ヲ行フノ用ニ充ツ可キヲ知リ故ラニ兵器、器具及ヒ其他此等ノ罪犯ヲ行フニ用フ可キ物品ヲ貸與フル者ハ其輕罪及ヒ重罪ノ附從ト爲シテ罰ス可シ

輕罪又ハ重罪ヲ行フヲ知リ故ラニ其輕重ノ罪犯ヲ爲ス可キ設備ヲ爲シ又ハ其罪犯ヲ容易ナラシメ又ハ輕重罪ヲ成就スルノ助ヲ爲シ其首謀ニ助力スル者ハ其輕罪又ハ重罪ノ附從ト爲シテ罰ス可シ但シ此條ニ記スル所ト國ノ内外ノ安寧ヲ害ス可キ陰謀、暴動ヲ爲ス者其目的タル重罪ヲ行フヲ能ハサル時ト雖ヒ之ヲ罰スルカ爲メ此刑法中ニ別段定メタル刑ト相觸ル、コナカル可シ

第六十一條 國ノ安寧、公ケノ靜謐又ハ身體及ヒ財產ニ對シ妨害、強奪ヲ爲ス者ノ兇行ヲ知リ故ラニ家屋及ヒ隱匿ノ地又ハ聚會所ヲ常ニ貸與フル者ハ其附從ト爲シテ罰ス可シ

第六十二條 重罪及ヒ輕罪ヲ犯シテ盜奪竊取シタル品物ノ全部又ハ一部ヲ故ラニ隱匿シタル者ハ其重罪及ヒ輕罪ノ附從トシテ罰ス可シ

第六十三條 然ル重罪ノ首謀ヲ死刑ニ處ス可キ時ハ其贓物ヲ隱匿セシ者ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ何レノ場合ニ於テモ贓物ヲ隱匿セシ者其事ヲ爲セシ時ニ當リ犯罪ノ首謀ノ死刑又ハ無期ノ徒刑

又ハ流刑ニ處セラル可キ模様アルヲ知リタル證據ノ分明ナル時ニ非サレハ其隱匿者ヲ無期ノ徒刑又ハ流刑ニ處ス可カラヌ若シ然ラサレハ之ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第六十四條 重罪又ハ輕罪ニ當ル可キ所行ヲ爲シタル者當時或ハ狂顛ニ罹リ或ハ抗拒ス可カラサ

ル威迫ニ因テ其事ヲ爲シタルニ於テハ之ヲ重罪トモ輕罪トモ爲ス可カラス
第六十五條 法律上ニ於テ重罪又ハ輕罪ノ犯ヲ宥恕ス可シト定メ又ハ其刑ヲ輕減ス可シト定メタ
ル場合ト摸樣トニ非サレハ其重罪又ハ輕罪ヲ宥恕シ又ハ輕減ス可カラス

第六十六條 若シ犯人ノ十六歳以下ニシテ其重罪犯ノ無意ニ出ルト云フ決定アル時ハ其罪ヲ宥恕
ス可シ然レ犯罪ノ摸樣ニ因リ犯人ヲ其親族ニ預ケ又ハ懲治場ニ入レ裁判言渡書ヲ以テ定ム可キ
年數間禁錮シテ養ヒ置ク可シ但シ其年數ハ犯人ノ齡二十歳ニ滿ル期限ニ過ク可カラス

第六十七條 若シ其犯人故意ヲ以テ其重罪ヲ犯セシト云フ決定アル時ハ左ノ如ク其刑ヲ言渡ス可
シ
若シ其重罪ノ死刑、無期ノ徒刑又ハ流刑ニ處ス可キ者タル時ハ犯人ヲ懲治場ニ入レ十年ヨリ少
カラス二十年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ言渡ス可シ

若シ其重罪ノ有期ノ徒刑、囚獄ノ刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可キ者タル時ハ其刑
中ニ於テ犯人ヲ處ス可キ刑ノ期限ノ三分ノ一ヨリ少カラス其半ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁
錮スルノ刑ヲ言渡ス可シ

何レノ場合ニ於テモ裁判所ノ言渡ニ因リ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ヨリ其
犯人ヲ監察スルヲ得可シ
若シ其犯人ノ罪公權剝奪ノ刑又ハ追放ノ刑ニ處ス可キ者タル時ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多
カラサル時間懲治場ニ禁錮スルノ刑ヲ言渡ス可シ

第六十八條 十六歳以下ノ者其附從ニ現ニ召捕ヘラレタル十六歳以上ノ者ナクシテ死刑、無期ノ
徒刑、流刑、又ハ囚獄ノ刑ニ處ス可キモノニ非サル重罪ヲ犯シタル時ハ輕罪裁判所ニテ前二條ニ
循ヒ之ヲ裁判ス可シ

第六十九條 若シ十六歳以下ノ幼者輕罪ヲ犯シタル時之ヲ處ス可キ刑ハ其犯人十六歳以上ノ時ニ
於テ處セラレ可キ刑ノ半ハ以上ニ及フ可カラス

第七十條 裁判言渡ノ時ニ於テ滿七十歳以上ノ犯人ハ無期ノ徒刑、流刑、又ハ有期ノ徒刑ニ處ス
可カラス

第七十一條 其七十歳以上ノ者ニ付テハ其刑ヲ左ノ如ク換フ可シ
流刑ハ無期ノ囚獄刑ニ換ヘ無期ノ徒刑ハ定期ナク徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ換ヘ有期ノ徒刑
ハ之レト同一ノ時間徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ換フ可シ

第七十二條 若シ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ニ處セラレシ者其刑期中ニ滿七十歳ノ齡ニ至ル時ハ
其時ヨリ後其刑ノ期限間徒刑場内ニ禁錮スルノ刑ニ換ヘ初メヨリ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ
處セラレタルト同視ス可シ(千八百五十四年五月二十日廢ス)

第七十三條 旅店ニ滞留ノ時間重罪又ハ輕罪ヲ犯セシ者ヲ二十四時間以上泊宿セシメタルノ證ア
ル旅店ノ主人若シ旅人ノ名簿中ニ其犯人ノ姓名、職業、住所ヲ記スルヲ怠リシ時ハ其重罪又ハ
輕罪ノ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ物ヲ還シ償ヲ爲シ裁判費用ヲ拂フ可キヲ民法ノ規則ニ循ヒ擔
當ス可シ但シ此條ト民法第九百五十二條及ヒ第九百五十三條ニ記シタル場合ニ於テ其店主
ノ擔當ス可キ事ト相觸ル、トナカル可シ

第七十四條 其他重罪、輕罪、註誤ニ付キ民法ノ規則ニ循ヒ他人ノ犯罪ヲ擔當ス可キ場合ニ於テハ
其犯罪ヲ審判スル裁判所ニ於テ民法第三篇第四章第二章ノ規則ニ循フ可シ

○第三篇 重罪輕罪及ヒ其刑

○第一卷 公事ニ對シタル重罪及ヒ輕罪〔第一章及ヒ第二章ハ千八百十年二月十五日決定同月二十五日布告第三章ハ同月十六日決定二十六日布告〕

○第一章 國ノ安寧ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

○第一款 國ノ外部ノ安寧ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

第七十五條 佛蘭西ニ對シ兵器ヲ弄スル佛蘭西人ハ死刑ニ處ス可シ

第七十六條 外國政府又ハ其官吏ヲシテ佛蘭西ニ對シ敵對ヲ爲サシムル爲メ又ハ兵ヲ擣セシムル爲メ又ハ其拒敵戰闘ヲ爲スノ方法ヲ得セシムル爲メ其外國政府又ハ其官吏ト陰謀ヲ企テ通問ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス可シ

縱令此陰謀又ハ通問ヨリ現ニ敵對ヲ爲スニ至ラサル場合ト雖モ亦此規則ニ循フ可シ

第七十七條 國敵ノ佛蘭西領地及ヒ屬地ニ進入スルヲ容易ナラシメ又ハ國敵ニ佛蘭西ニ屬スル

都府、城寨、陣營、港口、倉庫、武庫、船舶ヲ渡シ又ハ敵國ニ兵卒、人數、金銀、食料、兵器、彈藥ノ資

助ヲ給與シ又ハ士官、兵卒、水夫及ヒ其他ノ者ノ皇帝及ヒ國ニ對スル忠誠ノ心ヲ誘惑シ或ハ其他

ノ方法ヲ以テ佛蘭西海陸ノ所領又ハ佛蘭西ノ海陸軍ニ向ヒ敵兵ノ進撃ヲ助ク可キ爲メ國敵ト共

ニ陰謀ヲ企テ又ハ通問シタル者ハ死刑ニ處ス可シ

第七十八條 敵國ノ臣民ト通問スルニ付キ前條ニ記シタル重罪中ノ一箇ヲ目的ト爲スヲナシト雖

モ佛蘭西又ハ佛蘭西ノ與國ノ兵事及ヒ政事ノ模様ニ付キ害トナル可キ報知ヲ敵國ニ爲シタル事

ノ生スルニ至ル時ハ其通問ヲ爲シタル者ヲ囚獄ノ刑ニ處ス可シ但シ此規則ト問諜ノ所爲ヲ以テ

通問ヲ爲シ敵ニ其報知ヲ爲シタル時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、ヲナカル可シ

第七十九條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ記シタル姦謀及ヒ通問ハ佛蘭西ニ對シテ行ヒシ時ト雖

モ又ハ佛蘭西ノ敵ト兵ヲ擣スル佛蘭西ノ與國ニ對シテ行ヒシ時ト雖モ共ニ此二條ニ記シタル刑

ヲ以テ罰ス可シ

第八十條 佛蘭西ノ官吏又ハ其他ノ者其職掌又ハ其身分ニ因リ商議或ハ出兵ノ密事ノ委託ヲ受ケ又ハ其密事ヲ知ルヲ得タル時若シ其密事ヲ外國又ハ敵國ノ官吏ニ洩漏シタルコト於テハ第七十六條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

第八十一條 佛蘭西ノ官吏及ヒ政府ヨリ委任ヲ受ケタル者其職掌ニ因テ城塞、武庫、港口ノ圖面ヲ預カリ其圖面ヲ敵國又ハ敵國ノ官吏ニ渡セシ時ハ死刑ニ處セラル可シ

若シ其圖面ヲ中立國又ハ與國ヲ問ハス外國ノ官吏ニ渡シタル時ハ囚獄ノ刑ニ處セラル可シ

第八十二條 前條ニ記スルヨリ以外ノ者賄賂、詐偽、暴行ニ因リ其圖面ヲ得テ之ヲ敵國又ハ外國ノ官吏ニ渡シタル時ハ前條ニ記スル者ト同一ノ刑ニ處セラル可シ但シ其圖面ヲ敵國ニ渡セシ者ト外國ニ渡セシ者トノ刑ノ差別ハ前條ニ同シ

其圖面ヲ敵國又ハ外國ニ渡セシ者不正ノ方法ヲ用ヒスシテ之ヲ得タル時ハ前條ノ首項ニ記シタル場合ニ於テハ流刑ニ處セラル可シ

又前條ノ次項ニ記シタル場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第八十三條 敵國ノ間諜又ハ探索ニ來リシ兵卒ナルヲ知テ之ヲ匿シ置キ又ハ匿シ置カシメタル者ハ死刑ニ處セラル可シ

第八十四條 外國ニ對シ政府ヨリ許サ、ル敵對ノ所行ヲ爲スニ因リ外國ヲシテ我國ニ對シ擄兵ノヲ公告スルニ至ラシムル者ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ若シ其事ニ因テ現ニ戰爭ニ至ル時ハ流刑ニ處セラル可シ

第八十五條 外國ニ對シ政府ヨリ許サ、ル所行ヲ爲スニ因リ外國ヲシテ佛蘭西人ニ對シ其報復ヲ行フニ至ラシムル者ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

○第二款 國ノ内部ノ安寧ヲ害スル重罪
○第一節 皇帝及ヒ皇族ニ對シタル暴行及ヒ陰謀

第八十六條 (千八百五十二年六月十日如左改ム) 皇帝ノ生命及ヒ身體ニ對シタル暴行ハ尊屬ノ親ヲ弑スル者ノ刑ヲ以テ罰ス可シ

皇族ノ生命及ヒ身體ニ對シタル暴行ハ死刑ヲ以テ罰ス可シ

皇族ノ身體ニ對シタル暴行ハ城塞中ニ謫スル流刑ヲ以テ罰ス可シ

皇帝ニ對シ公ケニ行ヒタル諸般ノ害科ハ六月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ト五百「フランク」ヨリ少カラス一萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金トヲ以テ罰ス可シ

又其犯人ニ其禁錮ノ期限ニ等シキ時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フ可カラサルノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ但シ其時間ハ刑期ノ終リ日ヨリ之ヲ算フ可シ

皇族ニ對シ公ケニ行ヒタル諸般ノ害科ハ一月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ト百「フランク」ヨリ少カラス五千「フランク」ヨリ多カラサル罰金トヲ以テ罰ス可シ

第八十七條 (千八百五十二年六月十日如左改ム) 政府ヲ覆ヘシ又ハ皇嗣ノ順序ヲ紊リ又ハ臣民ヲシテ帝權ヲ拒ミ兵器ヲ弄セシメントスルヲ以テ目的ト爲ス暴行ハ城塞中ニ謫スル流刑ヲ以テ罰ス可シ

第八十八條 其暴行ヲ既ニ行ヒ又ハ之ヲ行ントスル謀試ヲ爲シタルニ非サレハ暴行ノ罪アリトセ

第八十九條 第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪ヲ目的ト爲シタル陰謀ヲ釀シ之ヲ行ハントスル豫備ヲナスノ所爲ヲ既ニ行ヒ又ハ行ヒ掛ケタル時ハ流刑ヲ以テ罰ス可シ

若シ其陰謀ヲ行ハントスル豫備ヲナスノ所爲ヲ既ニ行ヒ又ハ行ヒ掛ケタルヲナキ時ハ囚獄ノ刑ヲ以テ罰ス可シ

二人以上ニ事ヲ行ハント商議シ且決定シタル時ハ陰謀ノ罪アリトス

第八十六條及ヒ第八十七條ニ記シタル重罪犯ヲ爲スタメノ陰謀ヲ釀ス可キ發言ヲナス者アリト雖互ニ協議セサル時ハ其發言者ヲ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ

且其犯人ニ第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ

第九十條 一人ニテ第八十六條ニ記シタル重罪犯ヲ行ハント決定シ且之ヲ行ハントスル豫備ヲナスノ所爲ヲ他人ノ助ナク一人ニテ行ヒ又ハ行ヒ掛ケタル時ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シ

○第二節 内亂又ハ法ニ背キテ兵ヲ動カシ又ハ公ケニ亂妨掠奪ヲ爲スニ因リ國ヲ騷ス重罪

第九十一條 國民ヲシテ互ニ兵器ヲ弄セシメ或ハ兵器ヲ弄セシメントシテ内亂ヲ起サント爲シ又

ハ一邑或ハ數邑ニ於テ亂妨、虐殺、掠奪ヲ爲スヲ目的ト爲シタル暴行ハ死刑ヲ以テ罰ス可シ

此重罪中ノ一ヲ目的ト爲シタル陰謀及ヒ其陰謀ヲ釀サントスル發言ハ第八十九條ニ記シタル刑ヲ以テ罰ス可シ但シ此等ノ罪犯ノ刑ノ差別モ亦同條ニ循フ可シ

第九十二條 正當ノ威權アル者ノ命令又ハ其允許ナクシテ兵器ヲ携ヘタル羣衆ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ兵卒ヲ雇ヒ或ハ雇ハシメ又ハ兵卒ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ其群集或ハ兵卒ニ兵器或ハ彈藥ヲ給與シタル者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十三條 正當ノ權利ナク又ハ正當ノ道理ナクシテ一軍、一隊、一大船隊、一小船隊、兵船、城寨、陣營、港口、都府ヲ指揮スル職ヲ執リシ者

政府ノ命ニ背キ兵ニ管係シタル指揮ノ職ヲ保持スル者

軍隊ヲ解散シ又ハ離分ス可キノ命ヲ受ケシ後猶其軍隊ヲ屯聚シ置キタル指揮官

此等ノ者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十四條 兵權ヲ握リタル者法律上ニ定メタル兵卒召募ヲ妨ケンカ爲メ己レノ指揮スル兵ヲ使

用スルヲ求メ或ハ之ヲ命令シ又ハ其求需或ハ命令ヲ爲サシメタル時ハ流刑ニ處セラル可シ

若シ其求需或ハ命令ニ因リ現ニ兵卒ノ召募ヲ妨ケタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第九十五條 地雷火ヲ破裂セシメ官ニ屬スル建造物、倉庫、武庫、船舶、及ヒ其他ノ財産ヲ焚毀シ又ハ毀壞セシ者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十六條 官ニ屬スル土地、財産、金額、城寨、都府、陣營、倉庫、武庫、港口、船舶ヲ強奪セント爲

シ又ハ公ケノ財産又ハ人民一般ノ財産ヲ掠奪シ或ハ分配セント爲シ又ハ此重罪ヲ行フ者ヲ取押

フル官ノ兵力ヲ襲撃シ或ハ抗拒ス可キ爲メ兵器ヲ携ヘタル群衆ノ首トナリ又ハ其羣衆中ニ於テ

職務ヲ行ヒ或ハ指揮役トナリタル者ハ死刑ニ處セラル可シ

此群衆ヲ募聚スル指揮ヲ爲シ又ハ其群衆ヲ募聚シ或ハ募聚セシメ又ハ其群衆ヲ編成シ又ハ故ラ

ニ其群衆ニ兵器、彈藥、其他兇行ヲ爲ス可キ器具ヲ與ヘ又ハ食料ヲ給シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其

群衆ヲ指揮スル者ト通問シタル者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十七條 群衆ヲ爲シタル者第八十六條第八十七條第九十一條ニ記シタル重罪犯ノ一箇又ハ數

箇ヲ行ヒ又ハ行ヒ掛ケタル時其群衆中ノ官命ニ抗シ集會セシ場所ニ於テ逮捕ヲ受ケシ者ハ其等

級ノ區別ヲ論セス死刑ニ處セラル可シ

其集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受ケシニ非スト雖モ官命ニ抗スル群衆ヲ統轄シ或ハ其群衆中ニ於テ

指揮役或ハ職務ヲ行ヒシ者ハ死刑ニ處セラル可シ

第九十八條 官命ニ抗シテ會衆ヲ爲スト雖モ第八十六條第八十七條第九十一條ニ記シタル重罪犯

ノ一箇又ハ數箇ヲ以テ目的ト爲シ又ハ之ヲ行フタルニ非サル時ハ前數條ニ記シタル群衆中ノ者

其集會ノ場所ニ於テ逮捕ヲ受クルト雖モ其指揮役或ハ職務ヲ行ハサル時ハ流刑ニ處セラル可シ

第九十九條 前數條ニ記シタル群衆ノ目的及ヒ情態ヲ知リ脅迫ニ因ラスシテ其群衆ニ家屋又ハ隱

匿ノ場所又ハ集會所ヲ貸與ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第一百條 其群集中ニ於テ指揮役又ハ職務ヲ行フナク文武官吏ノ叱責ニ因リ直チニ其黨ヲ離

脱スル者又ハ文武官吏ノ叱責ノ後ト雖モ政府ノ命ニ抗シ集會ヲ爲シタル場所外ニ於テ抗拒ヲ爲

スナク且兵器ヲ携フルヲナクシテ逮捕ヲ受ケシ者ハ政府ノ命ニ抗スル所行ノ爲メ刑ヲ受クル

ヲナカル可シ

此場合ニ於テハ犯人其自カラ行フタル重罪ノミニ付キ罰ヲ受ク可シ但シ其犯人ニ五年ヨリ少カ

ヲス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ
第一百一條 兵器トハ斫、擲、毆ヲ爲ス諸器具ヲ云フ
 懷中小刀、剪刀及ヒ尋常ノ杖ハ人ヲ殺シ又ハ毆傷ヲ爲ス可キ爲メ用ヒタル時ノ外之ヲ兵器ト看
 做ス可カラス

此款ノ前二節ニ通シ用フ可キ規則
第一百二條 (千八百十九年五月十七日廢ス)

○第二款 國ノ内部又ハ外部ノ安寧ヲ害スル重罪ヲ上告スル事及ヒ上告セサル事

第一百三條 (廢ス)

第一百四條 (同上)

第一百五條 (同上)

第一百六條 (同上)

第一百七條 (同上)

第一百八條 國ノ内部又ハ外部ノ安寧ヲ害スル陰謀或ハ重罪ノ犯人其陰謀或ハ重罪犯ヲ行ヒ又ハ試
 ミ爲ントスル前未ダ逮捕ノ初マラサル中ニ政府又ハ行政官吏又ハ司法警察官吏ニ其陰謀或ハ重
 罪ト其首從トチ上告シタル者又ハ既ニ逮捕ノ初マリシ後ト雖モ其首從ヲ捕獲スルヲ助ケシ者ハ
 其陰謀或ハ重罪犯ヲ爲シタル者ノ刑ヲ宥恕セラル可シ
 然レモ其事チ上告シ又ハ捕獲ヲ助ケシ犯人ニ其畢生間又ハ定期間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得
 得可シ

○第二章 憲法ヲ害スル重罪及ヒ輕罪

○第一款 公權ヲ行フニ管シタル重罪及ヒ輕罪

第一百九條 噪聚、暴行、脅迫ヲ爲シ一人又ハ數人ノ公權ヲ行フヲ妨ケタル時ハ其各犯人六月ヨリ少
 カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間議

員選舉ノ投票ヲ爲スノ權及ヒ議員ニ選舉ヲ得ルノ權ヲ行フノ禁ヲ受ケ可シ

第一百十條 若シ此重罪犯チ全國又ハ一州數州又ハ一郡數郡ニ於テ行ハントスル計謀ヲ以テ爲シ
 タル時ハ其各犯人チ追放ノ刑ニ處ス可シ

第一百十一條 議員選舉ノ投票ノ時其投票ノ數ヲ算計スルノ任ヲ受ケシ者其票ヲ偽造シ又ハ其票ヲ
 増減シ又ハ文字ヲ書クヲ知ラサル選舉人ノ投票ニ其陳述セサル人ノ姓名ヲ書入ル、時ハ公權
 剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第一百十二條 前條ニ記スル罪ヲ犯セシ者其投票ノ數ヲ算計スルノ任ヲ受ケシ者ニ非サル時ハ六月
 ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル
 時間議員選舉ノ投票ヲ爲スノ權及ヒ議員ニ選舉ヲ得ルノ權ヲ行フノ禁ヲ受ケ可シ

第一百十三條 議員選舉ノ時賄賂ヲ以テ投票ヲ得又ハ賄賂ヲ得テ投票ヲ爲シタル者ハ五年ヨリ少カ
 ラス十年ヨリ多カラサル時間公權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且諸般ノ公務ヲ行フ可カラサルノ禁ヲ受ケ
 可シ
 又賄賂ヲ以テ投票ヲ得又ハ賄賂ヲ得テ投票ヲ爲シタル者ハ前項ニ記シタル刑ノ外各其授受ノ賄
 賂ニ二倍シタル罰金ヲ言渡サル可シ

○第二款 人民ノ自由ヲ害スル暴行

第一百十四條 官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者各人ノ自由ニ對シ又ハ一人及ヒ數人ノ公權ニ對シ
 又ハ憲法ニ對シテ阻撓ノ所爲又ハ其妨害トナル可キ所爲ヲ命シ或ハ行ヒシ時ハ公權剝奪ノ刑ニ
 處セラル可シ

然レモ命ヲ奉ス可キ長官ノ管轄タル條件ニ付キ其長官ノ命ニ因リ前項ノ罪ヲ犯シタル確證アル
 時ハ其犯人ノ刑ヲ免シテ命ヲ下シタル長官ヲ其刑ニ處ス可シ

第一百十五條 若シ宰相前條ニ記シタル所爲ノ一箇又ハ數箇ヲ命シ或ハ行フタル時其宰相佛蘭西共
 和政立國第十二年「フロレアル」月二十八日ノ元老院決定書ノ第六十三條及ヒ第六十七條ニ定

メタル訓誡ヲ受ケタル後猶其決定書中ニ記スル所ノ定期内ニ其所爲ヲ改ムルヲ肯セス又ハ之ヲ怠リタルニ於テハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第百十六條 憲法ニ反シタル所爲ヲ命シ又ハ許シタルノ罪ヲ犯セシト告ラレタル宰相其書上ノ調印他人ノ詭僞ニ出ルト述フル時ハ其所爲ヲ止メシメ且其詭僞ヲ爲シタル者ノ罪ヲ訴フ可シ若シ然ラサレハ其宰相自カラ犯罪ノ訴訟ヲ受ク可シ

第百十七條 第百十四條ニ記シタル暴行ニ付キ言渡ス可キ損害ノ償ハ刑事事ノ訴又ハ民事事ノ訴ヲ以テ之ヲ得ント求メ其損害ヲ受ケタル人ノ身分ト其時ノ景況及ヒ損害ノ多寡トニ准シテ之ヲ定ム可シ但シ其償額ハ損害ヲ受ケタル人ノ身分ヲ問ハス何レノ場合ニ於テモ枉ニ禁錮ヲ受ケシ日毎ニ二十五「フランク」ヨリ少ナキコトナカル可シ

第百十八條 宰相及ヒ其他ノ官吏ノ姓名ヲ僞署シテ憲法ニ反シタル所行ヲ爲セシ時ハ其僞署シタル者及ヒ其僞署タルヲ知テ其書ヲ用ヒタル者至重ノ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百十九條 行政又ハ司法警察ノ任ヲ受ケシ官吏犯人ヲ禁錮スル廠舎又ハ其他ノ場所ニ於テ法律ニ背キ枉ニ人ヲ禁錮セシコトヲ證スル告訴ヲ受ケ其告訴ニ從テ處置スルコトヲ肯セス又ハ之ヲ怠リ且其告訴ノ旨ヲ其長官ニ報告シタルノ證ナキ時ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラレ且第百十七條ニ記シタル所ノ償額ヲ言渡サル可シ

第百二十條 獄舎及ヒ留置場ノ監守人及ヒ其門監禁錮狀、收監狀又ハ裁判言渡書又ハ政府ノ假ノ命令書ナクシテ囚人ヲ收受シタル時又ハ檢事或ハ裁判役ノ禁制アルコトヲ證セスシテ囚人ヲ警察官吏或ハ其官吏ノ命令書ヲ携ヘ來リシ者ニ示スコトヲ承諾セサル時又ハ獄舎或ハ留置場中ニアル犯人ノ姓名簿ヲ警察官吏ニ示ス事ヲ肯セサル時ハ人ヲ枉ニ禁錮セシ罪アル者ト爲シ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第百二十一條 司法警察ノ官吏又ハ檢事長、檢事及ヒ其代役或ハ裁判役法律上ニ定メタル允許ナ

シテ宰相或ハ上下議院或ハ參議院ノ官員ノ罪ヲ告訴セントスル言渡書、命令書、禁錮狀、收監狀ヲ記シ或ハ之ヲ渡シ或ハ之ニ姓名ヲ手署シタル時又ハ現行ノ罪犯或ハ衆人呼噪ノ場合ノ外法律上ニ定メタル允許ナクシテ宰相或ハ上下議院及ヒ參議院ノ官員ノ一人又ハ數人ヲ逮捕ス可キ命令書或ハ禁錮狀、收監狀ヲ渡シ或ハ其書ニ姓名ヲ手署シタル時ハ職務冒瀆ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第百二十二條 檢事長、檢事及ヒ其代役或ハ裁判役及ヒ其他ノ官吏政府又ハ行政官署ニテ定メタル場所ノ外ニ於テ人ヲ禁錮シ或ハ禁錮セシメタル時又ハ重罪取調局ニテ重罪ヲ告訴スルコトヲ言渡スコトヲ直チニ犯人ヲ重罪裁判所ニ呼出セシ時ハ亦公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

○第三款 官吏ノ通謀

第百二十三條 公權ヲ任セラレタル數人又ハ數局ノ者互ニ會議ヲ爲シ或ハ其名代人ヲ遣リ又ハ文書ヲ送リテ法律ニ背キ通謀シタル時ハ其各犯人二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ク可ク又其刑ノ外十年ヨリ多カラサル時間公權及ヒ公務ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第百二十四條 若シ前條ニ記シタル方法中ノ一ニ因リ法律ヲ施行スルコトヲ妨ケ又ハ政府ノ命令ニ抗スル通謀ヲ爲シタル時ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

若シ文官ト兵隊又ハ其指揮官ト其通謀ヲ爲シタル時ハ其首謀ノ者ハ流刑ニ處セラレ其他ノ犯人ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第百二十五條 若シ其通謀國ノ内部ノ安寧ヲ害セント爲スヲ以テ其目的ト爲シ又ハ其安寧ヲ害スルニ至リシ時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

第百二十六條 官吏故ラニ退職シテ裁判ノ執行又ハ公務ノ成就ヲ妨ケ或ハ阻止セント欲シ又ハ之ヲ妨ケ或ハ阻止シタル時ハ職務冒瀆ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

○第四款 行法權及ヒ司法權ヲ侵ス罪

第二百二十七條

第一 裁判役、檢事長、檢事或ハ其代役或ハ警察官吏立法ノ規則ヲ制定シ又ハ法律ノ施行ヲ妨ケ或ハ阻止シ又ハ其法律ヲ公告シ或ハ之ヲ施行スルノ可否ヲ論シテ立法權ヲ行フニ干渉シタル時

第二 裁判役、檢事長、檢事或ハ其代役或ハ警察官吏行法ノ事務ニ管スル規則ヲ立テ又ハ行法官ノ命令ヲ執行スルヲ禁シ行法ノ權ニ干渉シテ自己ノ權限ニ過キタル所行ヲ爲シタル時又ハ行法官吏ヲ其職務上ノ事ニ付キ裁判所ニ呼出ス可キヲ原告人ニ許シ或ハ之ヲ言渡シタル後其言渡ヲ取消ス可キノ命ヲ受ケ或ハ其訴ヲ管スルノ權ナキ旨ヲ命セラル、ト雖モ猶其言渡ノ如ク執行ハント固執スル時

此等ノ場合ニ於テハ職務冒瀆ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十八條 裁判役其裁判所ニ告訴セシ事件行法官ノ管轄タル可キ公ケケノ掛合ヲ受ケ上班ノ官吏ノ決定ヲ待スシテ其訴ノ裁判ヲ爲シタル時ハ其各裁判役十六「フランク」ヨリ少カラヌ百五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百二十九條 裁判役管係本人或ハ行法官吏ヨリ正當ノ掛合ヲ得タル後政府ノ允許ナクシテ職務ヲ行フニ付キ罪ヲ犯セシ官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者ヲ罰ス可キ言渡ヲ爲シ或ハ裁判所ヘノ呼出狀ヲ渡シタル時ハ百「フランク」ヨリ少カラヌ五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

其言渡ヲ爲シ又ハ呼出狀ヲ渡スヲ求メタル檢察官及ヒ警察官吏ハ亦同一ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十條 第二百二十七條ノ第一ニ記シタル如ク立法權ヲ行フニ干渉シ又ハ裁判所ニ命令或ハ禁止ヲ告知スル一般ノ決定ヲ爲スニ干渉シタル州長、郡長、邑長及ヒ其他ノ行政官吏ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第九百三十一條 前條ニ記スル所ノ官吏裁判所ノ統轄タル私ノ權利ヲ裁判スルヲ干渉シテ司法ノ職務ヲ行ハント爲シ且原告及ヒ被告ノ雙方又ハ一方ヨリ其裁判ヲ受ケサル旨ヲ申立ルト雖モ上班ノ吏ノ言渡ヲ待タスシテ其裁判ヲ行ヒシ時ハ十六「フランク」ヨリ少カラヌ百五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○第三章 公ケケノ靜謐ニ對シタル重罪及ヒ輕罪

○第一款 贗造

○第一節 贗金

第九百三十二條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ金銀貨幣ヲ贗造或ハ變造セシ者又ハ其贗造或ハ變造ノ貨幣ヲ發行シ或ハ公ケケニ展示スル事ニ加リタル者又ハ其貨幣ヲ佛蘭西領地内ニ携ヘ來ル事ニ加リタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ銅貨幣ヲ贗造或ハ變造セシ者又ハ其贗造或ハ變造ノ貨幣ヲ發行シ又ハ公ケケニ展示スル事ニ加リタル者又ハ其銅貨幣ヲ佛蘭西領地内ニ携ヘ來ル事ニ加リタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第九百三十三條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」外國ノ貨幣ヲ佛蘭西ニ於テ贗造或ハ變造セシ者又ハ贗造或ハ變造ノ外國貨幣ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行シ或ハ公ケケニ展示シ或ハ携ヘ來ル事ニ加リタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第九百三十四條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ貨幣或ハ外國ノ貨幣ニ綵色ヲ加ヘ其金質ヲ僞ラント爲ス者又ハ其綵色ヲ加ヘタル貨幣ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行シ或ハ携ヘ來ルシ者ハ六月ヨリ少カラヌ三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此綵色ヲ加ヘタル貨幣ヲ發行シ又ハ携ヘ來ルコトニ加リタル者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第九百三十五條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」前三條ニ記スル罪犯ニ加リタルノ刑ハ贗造、變造或ハ綵色ヲ爲シタル貨幣ヲ好質ノ貨幣ト思ヒ之ヲ受取リテ用ヒシ者ニ通シ用フ可カラヌ

然レ其貨幣ノ惡質ナルヲ證シ又ハ證セシメ後ニ之ヲ用ヒタル者ハ其用ヒタル金高ノ三倍
ヨリ少カラス六倍ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ如何ナル場合ニ於テモ其罰金八十
六「フランク」ヨリ少キヲナカル可シ

第三百三十六條 (千八百三十一年四月二十八日廢ス)

第三百三十七條 (千八百三十二年四月二十八日廢ス)

第三百三十八條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 第三百三十二條ニ記シタル重罪ヲ犯セシ者其
重罪犯ヲ成就スル前未タ犯罪ノ訴ヲ受ケサル中ニ其重罪犯ノ旨ト其首謀者トヲ相當ノ官吏ニ告
知シタル時又ハ犯罪ノ訴ヲ受ケタル後ト雖モ他ノ犯人ヲ逮捕スルヲ助ケシ時ハ其刑ヲ宥恕ス可
シ

然レヒ同上ノ者ニ畢生間又ハ定期ノ時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

〇第二節 國璽、銀行ノ手形、國債證券、金銀ノ鑿記、證券印紙、記號ノ贋造

第三百二十九條 國璽ヲ贋造シ又ハ贋造ノ國璽ヲ用ヒタル者

官ノ會計局ヨリ發行セシ記號アル國債ノ證券又ハ法律ヲ以テ允許セシ銀行ノ手形ヲ贋造變造シ
タル者又ハ其贋造變造ノ證券或ハ手形ヲ用ヒタル者又ハ其證券或ハ手形ヲ佛蘭西領地内ニ携
來リシ者

此等ノ犯人ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百四十條 證券印紙又ハ伐出サント爲ス樹木ニ印スル官ノ鑿記又ハ金銀ノ質ヲ極ル爲メノ鑿
記ヲ贋造變造セシ者又ハ贋造變造ノ印紙或ハ鑿記ヲ用ヒタル者ハ至重ノ有期ノ徒刑ニ處セラル
可シ

第三百四十一條 前條ニ記セシ所ノ用ニ充ツ可キ真正ノ印紙又ハ鑿記ヲ不當ニ所得ト爲シ官ノ權利
ノ害トナル可キ方法ニ之ヲ用ヒタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
第三百四十二條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 政府ノ名義ヲ以テ各種ノ物品、商品ニ附ク可

キ記號ヲ贋造シ或ハ其贋造ノ記號ヲ用ヒタル者又ハ官署ノ印及ヒ記號ヲ贋造シ或ハ其贋造ノ印
及ヒ記號ヲ用ヒタル者又ハ郵便切手ヲ贋造シ或ハ其贋造シタル郵便切手ヲ故ラニ用ヒタル者ハ
二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
又此等ノ犯人ノ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記
シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ
又此等ノ犯人ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受
ケシムルヲ得可シ

又此罪ヲ犯サント謀試セシ者モ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第三百四十三條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 第三百四十二條ニ記セシ所ノ用ニ充ツ可キ眞
正ノ印及ヒ記號ヲ不當ニ所得ト爲シ政府又ハ官署ノ權利ノ害トナル可キ方法ニ用ヒ又ハ用ヒン
ト試ミ爲シタル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
又此犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記
シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ
又其犯人ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ
ムルヲ得可シ

第三百四十四條 第三百三十八條ノ規則ハ第三百三十九條ニ記シタル重罪ニ通シ用フ可シ

〇第三節 公ケノ書類、公正ノ書類又ハ商業或ハ銀行ノ書類ノ贋造

第三百四十五條

姓名ノ手署ヲ贋造スル事
書體、文體、姓名ノ手署ヲ變造スル事
人ノ姓名ヲ詭リ換ル事
簿冊及ヒ公ケノ證書ヲ記了シタル後ニ竊ニ書入ヲ爲ス事

官吏其職ヲ行フニ當リ此等ノ所行ヲ爲シタル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ
第四百四十六條 官吏其職務ニ管シタル書類ヲ記スルニ當リ契約ヲ爲ス雙方ノ者ノ陳述セシ以外ノ
契約ヲ記載シ又ハ偽リノ事ヲ眞正ナリト證シ又ハ陳述セサルヲ陳述シタリト爲シテ其書類ノ
義意ト模様トヲ贋設シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ
第四百四十七條

書體及ヒ姓名ノ手署ヲ贋造變造スル事
契約書、規則書、義務ノ證書、負債拂濟ノ證書ヲ贋造シ或ハ此等ノ書類ヲ記了セシ後ニ竊ニ書
入チ爲ス事

證書ノ章句又ハ本人ノ陳述スル所又ハ其證書ヲ以テ證ス可キ條件ヲ増加シ又ハ變造スル事
此等ノ罪ヲ犯シテ公正ノ證書又ハ商業及ヒ銀行ノ書類ヲ贋造セシ官吏外ノ者ハ有期ノ徒刑ニ處
セラル可シ

第四百四十八條 此一節中ニ記列セシ總テノ場合ニ於テ贋造シタル書類ヲ用ヒタル者ハ有期ノ徒刑
ニ處セラル可シ
第四百四十九條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 往來手形及ヒ兵士ノ往來手形又ハ獵ノ免狀
ヲ贋造セシ者ノ刑ハ前數條ニ記スル所ト異ナリテ之ヲ後條ニ詳カニス

○第四節 私書ノ贋造
第四百五十條 第四百四十七條ニ記シタル方法中ノ一ヲ以テ私書ヲ贋造シタル者ハ徒刑場内ニ於テ
使役スル刑ニ處セラル可シ

第四百五十一條 其贋造シタル書類ヲ用ヒタル者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ
第四百五十二條 後條ニ記スル種類ノ證券ヲ贋造シタル罪ハ此一節ニ記シタル刑ヲ通シ用フ可カラ
ス

○第五節 往來手形、獵ノ免狀、兵士ノ往來手形、證券ノ贋造

第四百五十三條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ贋造セシ者又ハ眞
正ナル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ變造セシ者又ハ其贋造變造シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒ
タル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
第四百五十四條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ受ケルニ付キ偽名
ヲ述ヘシ者又ハ偽名ヲ用ヒ往來手形ヲ受取ル證人ト爲リシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カ
ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
他人ノ姓名ヲ以テ渡シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒシ者モ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ
旅舎ノ主人旅客ノ姓名簿ニ故ラニ旅客ノ偽リノ姓名ヲ記載セシ時又ハ旅客ト相通シテ其姓名ヲ
記載セサル時ハ六月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十五條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 官吏其自カラ知ラサル者ニ己レノ知ル所ノ
者二人ヲシテ其姓名身分ヲ證セシムルヲ往來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメタル時ハ一月ヨリ少
カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
官吏偽名タルヲ知リ其偽名ノ儘ニテ往來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメタル時ハ一年ヨリ少カラス
四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
又其犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記
シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ

第四百五十六條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 兵士ノ往來手形ヲ贋造シ又ハ眞正ナル兵士
ノ往來手形ヲ變造シ又ハ贋造變造シタル兵士ノ往來手形ヲ用ヒタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ
若シ其贋造或ハ變造ノ往來手形ヲ以テ偽テ官署ノ監察ヲ免ル、ノ目的ノミナル時ハ六月ヨリ
少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
若シ其贋造或ハ變造ノ往來手形ヲ所有スル者官ノ會計局ヨリ當然得可カラサル旅費ヲ受ケ又
ハ當然ニ得可キ高ニ過タル旅費ヲ受ケタル時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁

錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ其不當ニ得タル金高百「フランク」以下ナル時ニ限ル可シ
若シ其往來手形ニ付キ不當ニ得タル所ノ高百「フランク」以上ナル時ハ二年ヨリ少カラス五年
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
終ノ二箇ノ場合ニ於テハ犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサ
ル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ
又其犯人ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケ
シムルヲ得可シ

第百五十七條

〔千八百六十二年五月十二日如左改ム〕前條ニ記スル所ノ刑ハ其條ニ記列スル所ノ
區別ニ循ヒ偽名ヲ詭稱シテ兵卒ノ往來手形ヲ官吏ヨリ受取リシ者及ヒ他人ノ姓名ヲ記シテ渡シ

第百五十八條

〔千八百六十二年五月十二日如左改ム〕若シ官吏偽名ヲ詭稱セシヲ知リ故ラニ兵
卒ノ往來手形ヲ渡シタル時ハ左ノ刑ヲ受ク可シ

第百五十六條ノ第一ノ場合ニ於テハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處
セラル可シ

第百五十六條ノ第二ノ場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處
セラル可シ

第百五十六條ノ第三ノ場合ニ於テハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
又第百五十六條ノ第一第二ノ場合ニ於テハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨ
リ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ

第百五十九條

〔千八百六十二年五月十二日如左改ム〕自カラ公役ヲ免カレ又ハ他人ヲシテ公役ヲ
免レシム可キ爲メ内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ノ偽名ヲ用ヒ疾病ノ證券ヲ造ル者ハ一年ヨリ少
カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十條

〔千八百六十二年五月十二日如左改ム〕人ヲ曲庇シテ其人ノ公役ヲ免レシム可キ爲
メ詐テ疾病ノ證券ヲ造リタル内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ贈遺或ハ約束ニ因テ其罪ヲ犯セシ時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ處セラル可シ

此二箇ノ場合ニ於テハ其犯人ノ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間
第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ

贈遺或ハ約束ニ因テ公役ヲ免レシトスル罪ヲ犯セシ者ハ偽リノ疾病證券ヲ渡シタル内科外科ノ
醫官及ヒ下等醫士ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十一條

〔千八百六十二年五月十二日如左改ム〕人ニ對シ政府又ハ平民ヲシテ好意、愛憐ノ
情ヲ起サシメ且其人ノ爲メ職務、信據、救助ヲ得セシム可キ爲メ官吏ノ偽名ヲ用ヒ保行ノ證券、
窮乏ノ證券又ハ其他ノ摸樣ノ證券ヲ造リタル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁
錮ノ刑ニ處セラル可シ

又左ニ記スル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第一 元來眞正ナル證券ト雖モ其證券上ニ記セシ以外ノ人ニ用フ可キ爲メ之ヲ變造シタル者

第二 其價造及ヒ變造ノ證券ヲ用ヒタル者

若シ平民ノ名ヲ詭リ其證券ヲ造リシ時ハ其價造ヲ爲シタル者及ヒ其證券ヲ用ヒタル者十五日ヨ
リ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百六十二條

此一節ニ記載セシ以外ノ證券ヲ價造シテ他人又ハ政府ノ會計局ニ對シ害ヲ生スル
ヲアル時ハ其犯人其罪ノ次第ニ因リ此款ノ第三節及ヒ第四節ノ規則ニ循ヒ刑ニ處セラル可シ

第百六十三條

價造或ハ變造ノ貨幣、手形、國璽、印紙、鑿記、記號、書類ヲ用ヒシ者若シ其價造或ハ

變造タルヲ知ラサル時ハ前ニ記シタル刑ニ處ス可カラス
第六十四條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」前條ニ記シタル犯人ハ百「フランク」ヨリ少
カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケシム可シ但シ其罰金ハ贖造或ハ變造ニ
因リ首謀、附從又ハ贖造變造シタル物ヲ用ヒタル者ノ所得トナシ或ハ所得ト爲サントシタル其
曲利ノ高ノ四分ノ一迄ニ至ラシムルヲ得可シ
第六十五條 「廢ス」

○第二節 瀆職ノ罪及ヒ官吏ノ其職務ヲ行フニ就テノ輕重罪

第六十六條 官吏其職務ヲ行フニ就キ犯セシ所ノ重罪ヲ名ケテ瀆職ノ罪ト云フ
第六十七條 法律上ニテ別段重キ刑ヲ定メサル瀆職ノ罪ハ公權剝奪ノ刑ニ處ス可シ
第六十八條 官吏輕罪ヲ犯シタルノミニテハ瀆職ノ罪アリトス可カラス

○第一節 公ケノ預リ人其預リタル物ヲ竊取スル罪

第六十九條 收稅官吏及ヒ其下役並ニ公ケノ金銀ヲ預カル者又ハ其算計ヲ爲ス者公私ノ金銀或
ハ其金銀ニ代用スル證券又ハ其他職務ニ因リ預リタル諸般ノ證券類或ハ動産ヲ竊取シタル時若
シ其贓物ノ價三千「フランク」以上ナル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ
第七十條 前條ニ記スル者ノ竊取シタル金銀又ハ手形ノ高既ニ受取リテ預リタル金高或ハ手
形ニ付キテハ其受取高又ハ預リ高ノ三分ノ一ニ當リ或ハ之ニ過タル時又保證ヲ立ツ可キ職務ニ
因リ受取リ或ハ預リタル金銀或ハ手形ニ付キテハ其保證高ニ當リ或ハ之ニ過タル時又保證高十
ク期限ヲ逐テ次第ニ受取ル高ニ付テハ一月間ニ受取リタル總高ノ三分一ニ當リ或ハ之ニ過タル
時ハ其贓物ト爲シタル金高又ハ手形ノ高ノ如何ナルヲ問ハス其犯人ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

第七十一條 贓物ノ高三千「フランク」以下ニシテ且前條ニ記シタル數ニ充タサル時ハ其犯人二
年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且日後公務ヲ行フ可カラサルノ言
渡ヲ受ク可シ

第七十二條 前三條ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人必ス返還及ヒ損失ノ償高ノ四分ノ一ヨリ多
カラス十二分ノ一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第七十三條 裁判役、行政官吏及ヒ其他公務ニ管スル官吏其職掌ニ因テ預リタル證券類又ハ其
職掌ニ因テ受取リタル證券類ヲ故ラニ遺失シ或ハ藏匿シ又ハ竊取シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セ
ラル可シ

政府ヨリ委任ヲ受ケシ者及ヒ下等ノ官吏又ハ公ケノ預リ人同上ノ罪ヲ犯シタル時ハ同上ノ刑ニ
處セララル可シ

○第二節 官吏ノ收斂

第七十四條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」上等ノ官吏又ハ其他ノ官吏並ニ其所屬ノ小
吏或ハ租稅官金及ヒ政府ノ歳入、邑ノ歳入ヲ受取ル官吏並ニ其所屬ノ小吏租稅官金歳入或ハ謝
金給料トシテ受取ル可カラサルヲ知リ又ハ當然受取ル可キ高ニ過キタルヲ知テ之ヲ受取ルヲ
命シ或ハ強テ之ヲ納メシメ或ハ之ヲ受取リテ收斂ノ罪ヲ犯シタル時ハ左ノ刑ニ處セラル可シ
強テ納メシメタル高或ハ受取リタル高或ハ受取ル可キヲ命シタル高三百「フランク」以上ナル
時ハ其上等ノ官吏又ハ其他ノ官吏ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ
同上ノ場合ニ於テハ其所屬ノ小吏ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處ス
可シ

其高三百「フランク」以下ナル時ハ上等ノ官吏又ハ其他ノ官吏ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カ
ラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ其所屬ノ小吏ヲ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ處ス可シ

此罪犯ヲ行ハントスル謀試ハ既ニ其罪ヲ犯セシト同一ノ刑ニ處ス可シ
禁錮ノ刑ニ處セラレシ犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第
四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪セシムルヲ得可ク且裁判所ノ言渡ニ因リ五年ヨリ少カラス十年

ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ
此條中ニ記シタル如何ナル場合ニ於テモ其犯人ハ常ニ返還及ヒ損失ノ償高四分ノ一ヨリ多カラ
ス十二分ノ一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
裁判所ノ書記官又ハ裁判所附ノ公務ヲ行フ者法律ニ因リ任セラレタル收納ヲ爲ス時ニ當リ此條
ノ罪ヲ犯シタル時ハ此條ノ刑罰規則ヲ通シ用フ可シ

○第二節 官吏其職掌ニ於テ行フ可ラサル事務及ヒ商業ニ干渉スル輕罪

第七十五條 上等ノ官吏又ハ其他ノ官吏又ハ政府ヨリ委任ヲ受ケシ者ノ公ケノ所行或ハ陰密ノ
所行ニ因リ又ハ他人ノ介入ヲ以テ其現ニ支配又ハ檢査ヲ爲ス可キノ任ヲ受ケタル事務、糶賣、起
作ニ付キ私ノ利ヲ得タル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且
返還及ヒ損失ノ償高ノ四分ノ一ヨリ多カラス十二分ノ一ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
又其犯人ハ日後何レノ公務ト雖モ之ヲ行フ可カラサルノ言渡ヲ受ク可シ
又算還ヲ命シ又ハ算計ノ高ヲ定ム可キノ任ヲ受ケタル官吏或ハ其他政府ヨリ委任ヲ受ケシ者其
事務ニ付キ私ノ利ヲ得タル時ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

第七十六條 兵隊ノ指揮官又ハ一州、都府、城塞ノ指揮官、州長、郡長、ノ其職務ヲ行フ可キ權ヲ
有スル地内ニ於テ公ケノ所行或ハ陰密ノ所行ニ因リ又ハ他人ノ介入ヲ以テ自己ノ私有ノ地ニ產
シタル以外ノ穀物及ヒ粗惡ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト爲ス可キ物又ハ葡萄酒及ヒ其他ノ飲
料ヲ賣買セシ時ハ五百「フランク」ヨリ少カラス一萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡シ且
其賣買シタル品物ヲ政府ヘ沒收ス可シ

○第四節 官吏ノ收賄

第七十七條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」行法及ヒ司法ノ官吏又ハ行法ノ屬吏縱令正
當ノ事ナリト雖モ報金ヲ受ク可ラサル職務上ノ所行ヲ爲スタメ贈遺ヲ受ケ又ハ約束ヲ承諾セシ
時ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラレ且其贈遺ノ高或ハ其約束ノ高ニ二倍シタル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

但シ其罰金ハ如何ナル時ト雖モ二百「フランク」ヨリ少ナキコトナル可シ
又前ニ記スル者約束ヲ承諾セ又ハ贈遺ヲ受ケ當然行フ可キ職務ヲ行フコトヲ停止シタル時ハ亦同
上ノ刑ニ處セラレ可シ
裁判所ノ撰ミニニ因リ又ハ原告或ハ被告ノ撰ミニニ因リ任セラレタル訴訟ノ判斷人又ハ評價人約束
ヲ承諾シ又ハ贈遺ヲ受ケ偏頗ノ判斷ヲ爲シ論說ヲ述ヘタル時ハ又同上ノ刑ニ處セラレ可シ

第七十八條 官吏收賄ノ罪ヲ犯シタル眼目タル罪若シ公權剝奪以上ノ刑ニ處ス可キノ時
ハ其犯人公權剝奪以上ノ刑ニ處セラレ可シ

第七十九條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」第七十七條ニ記シタル所ノ官吏ヲ暴行チ
以テ脅迫シ或ハ脅迫セント爲シ又ハ約束贈遺ヲ以テ其良心ヲ誘惑シ或ハ誘惑セント爲シ偏頗ノ
論說、詐偽ノ調書、目錄、證券、評價書ヲ得又ハ職務、糶賣、起作及ヒ其他ノ利益ヲ得又ハ其他何
事ニ因ラス官吏ヲシテ其職務上ノ事ヲ行ハシメ又ハ官吏ヲシテ當然ノ職務ヲ行フコトヲ停止セシ
ムル者ハ收賄者ト同一ノ刑ニ處ス可シ

又脅迫或ハ誘惑ヲ試ミ爲シタルノミニシテ其事ノ成就セサル時ハ之ヲ試ミ爲シタル者三月ヨリ
少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三百「フ
ラ」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第八十條 贈遺ノ品物又ハ其價高ハ其贈遺ヲ爲シタル者ニ決シテ還與ス可カラス之ヲ其犯罪
ノ地ノ貧院ノ爲メ官ニ沒收ス可シ

第八十一條 若シ重罪ヲ審判スル裁判役又ハ陪審賄賂ヲ受ケテ被告人ノ爲メ利害ヲ構成セシ時
ハ第七十七條ニ記セシ罰金ノ外徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第八十二條 裁判役又ハ陪審贈遺ヲ受ケテ被告人ヲ枉ニ徒刑場内ニ於テ使役スルヨリ以上ノ刑
ニ處シタル時ハ其裁判役又ハ陪審者ト同一ノ刑ニ處ス可シ

第八十三條 裁判役又ハ行政官吏一方ヲ曲庇シ或ハ一方ヲ疾惡シテ決定ヲ爲シタル時ハ之ヲ演

職ノ罪アリト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處ス可シ

〇第五節 擅權ノ罪

〇第一種 平民ニ對スル擅權ノ罪

第八十四條 行法或ハ司法ノ官吏及ヒ其他裁判或ハ警察ニ管スル官吏又ハ兵ノ指揮官其職務ヲ以テ事ヲ處置スルニ當リ法律ニ定メタル場合ノ外法律上ニ規定スル所ノ法式ニ循ハスノ人民ノ意ニ逆ヒ其住所ニ入りタル時ハ六日ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此條ニ記スル所ヲ以テ第十四條ノ第二項ニ記スル所ノ差支トナルコトナカル可シ

何人ニ限ラス脅迫暴行ヲ以テ人民ノ住所ニ入りタル者ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第八十五條 裁判役又ハ行法官裁判ヲ爲スノ求メテ受ケタル後法律ノ不備或ハ法律ノ不委ヲ以テ口實トナシ又ハ其他ノ事ヲ口實ト爲シテ其裁判ヲ爲スチ肯セス且其長官ノ譴責或ハ其命令ヲ受ケタル後猶ホ固執ノ其裁判ヲ爲サ、ル時ハ犯罪ノ訴訟ヲ受ケ二百「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル時間公務ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

第八十六條 上等官吏及ヒ其他ノ官吏、行法官吏、政府ヨリ委任テ受ケタル者、警察ノ吏、裁判官渡ヲ執行フノ命ヲ受ケシ者、兵ノ指揮官及ヒ其所屬ノ士官其職務ヲ行フニ當リ正シキ理由ナク人ノ身體ニ對シテ暴行ヲ加ヘ又ハ加ヘシメタル時ハ其暴行ノ種類ト輕重トニ准シテ其刑ヲ受ク可シ但シ其刑ノ次第ハ第九十八條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第八十七條 政府ノ長官及ヒ官吏又ハ驛遞ノ長官及ヒ官吏其遞送ス可キ書翰ヲ故ラニ遺失シ又ハ開封シ或ハ此等ノ事ヲ助ケシ時ハ十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且三月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ又其

犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間諸般ノ公務ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

〇第二種 公事ニ對スル擅權ノ罪

第八十八條 政府ノ上等官吏及ヒ其他ノ官吏又ハ政府ヨリ委任テ受ケシ者其身分階ノ如何ヲ論セス法律ヲ施行スル事又ハ正當ノ租稅ヲ收納スル事又ハ裁判所ノ言渡ヲ執行フ事又ハ其他正當ノ權威アル者ヨリ出シタル命令ヲ行フ事ニ背キテ兵ヲ動シ或ハ用フルヲ求メ或ハ之ヲ命シ又ハ兵ヲ動シ或ハ用フルヲ求メシメ或ハ之ヲ命セシメタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第八十九條 前條ニ記セシ求メテ爲シ又ハ命ヲ下シタルニ因リ現ニ其兇行ヲ行ヒシ者ハ至重ノ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第九十條 前條ニ記シタル官吏其命ヲ奉ス可キ長官ノ管轄タル條件ニ付キ其長官ノ命ニ因リ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ其官吏ヲ前二條ニ記シタル刑ニ處ス可カラス其命ヲ下シタル長官ヲ其刑ニ處ス可シ

第九十一條 前數條ニ記シタル命ヲ下シ又ハ求メテ爲シタルニ因リ第八十八條及ヒ第九十條ニ記シタル刑ヨリ更ニ重キ刑ヲ以テ罰ス可キ重罪ヲ犯シタル時ハ其命ヲ下シ又ハ其求メテ爲シタル官吏ヲ其重刑ニ處ス可シ

〇第六節 身上證書ニ管シタル輕罪

第九十二條 身上證書ノ官吏其證書ヲ零紙ニ記シタル時ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第九十三條 法律上ニテ婚姻ヲ確定ス可キ爲メ父母又ハ其他ノ者ノ許諾ヲ必要ト爲ス場合ニ於テ身上證書ノ官吏其許諾アルノ證ヲ取ラサル時ハ十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且六月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ

ラル可シ

第九十四條 身上證書ノ官吏民法第二百二十八條ニ定メタル期限ニ至ラサル前ニ再婚ノ證書ヲ記シタル時ハ十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第九十五條 又身上證書ノ官吏其證書ヲ取消ス可キノ求メテ受ケシ「ナキ時」又ハ取消ヲ求ム可キ定期ノ既ニ終リタル時ト雖モ其官吏前三條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト官吏ノ通問ノ時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則及ヒ民法第一篇第五卷ニ記スル所ノ處刑ノ規則ト相觸ル「ナカカル可シ」

第七節 官吏未ダ正當ニ職ニ任セサル前ニ法ニ背キテ其職事ノ權ヲ行ヒ又ハ既ニ職ヲ罷ムルノ後猶ホ其職事ノ權ヲ行フ罪

第九十六條 官吏專ニ爲サスシテ其職事ヲ行ヒ始ムル時ハ其犯罪ノ訴訟ヲ受ケ十六「フランク」ヨリ少カラス百五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第九十七條 法ニ循ヒ退任ヲ爲シタル官吏或ハ職務ヲ黜ケラレタル官吏或ハ職務ヲ行フノ禁ヲ受ケシ官吏公ケニ其報告ヲ受ケシ後ニ猶其職事ヲ行フタル時又ハ衆庶ノ撰擇ニ因テ職務ノ任ヲ受ケシ官吏或ハ定期ノ時間職務ノ任ヲ受ケシ官吏其後職ノ者ノ任ヲ得タル後猶其職事ヲ行フタル時ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且「百」フランク「ヨリ少カラス五百」フランク「ヨリ多カラサル罰金」ノ言渡ヲ受ク可シ又其官吏ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間諸般ノ公務ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ但シ此規則ト第九十三條ニ定メタル士官又ハ指揮官ヲ更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル「ナカカル可シ」

第九十八條 法律上ニテ上等官吏又ハ其他ノ官吏ノ行フタル重罪及ヒ輕罪ヲ罰ス可キ刑ヲ別段定メタル場合ノ外其官吏ノ監察又ハ止制ヲ爲ス可キ輕重ノ罪犯ニ加リシ時ハ左ノ罰ヲ受ク可シ

輕罪ニ管シタル時ハ其官吏ヲ其種類ノ輕罪ヲ罰スル至重ノ刑ニ處ス可シ重罪ニ管シタル時同犯ノ者ヲ追放ノ刑又ハ公權剝奪ノ刑ニ處ス可キニ於テハ其官吏ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ

若シ同犯ノ者ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑又ハ囚獄ノ刑ニ處ス可キニ於テハ其官吏ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

若シ同犯ノ者ヲ流刑又ハ有期ノ徒刑ニ處ス可キニ於テハ其官吏ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

前ニ記シタル場合ノ外ニ於テハ其官吏ヲ其同犯ノ者ト同刑ニ處ス可シ

第三款 僧徒其職務ヲ行フニ當リ公ケノ靜謐ヲ妨クル罪

第一節 人ノ身上ノ證ヲ害スル罪

第九十九條 僧徒若シ身上證書ノ官吏ノ記セシ婚姻ノ證書アル證ヲ得シテ婚姻ノ法教禮式ヲ行ヒシ時ハ初犯ニ付テハ十六「フランク」ヨリ少カラス百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第一百條 僧徒前條ニ記シタル罪ヲ再犯シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

又三犯ノ時ニ於テハ囚獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二節 僧徒公ケニ説教ヲ爲スニ當リ官署ニ對シ誹謗罵詈ヲ爲シ又ハ人民ヲ挑唆スル罪

第一百一條 僧徒其職務ヲ行フニ當リ公ケノ集會ニ於テ政府、法律、勅命又ハ其他官署ノ所爲ヲ誹謗シ或ハ罵詈スル言詞ヲ述ヘシ時ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第一百二條 若シ其言詞中ニ人民ヲ直チニ法律又ハ官署ノ所爲ニ背クヲ挑唆スル詞ヲ用フル時又ハ人民ノ一部ヲシテ他ノ一部ニ對シ互ニ抗敵セシメ又ハ互ニ兵器ヲ弄セシムルヲ挑唆スル

詞ヲ用フル時ハ其挑唆ノ効ナキ時ト雖モ其言詞ヲ述ヘシ僧徒二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ又其挑唆ニ因リ人民ヲシテ現ニ法律或ハ官署ノ所爲ニ背カシムル事アルニ於テハ追放ノ刑ニ處セラル可シ但シ此事ニ因リ叛逆一揆ヲ起サシムルノ罪アル時ハ此例ニ非ス

第二百三條 其挑唆ニ因リ叛逆又ハ一揆ヲ起サシメタル時其犯人中ノ一人又ハ數人ヲ追放以上ノ刑ニ處ス可キニ於テハ其僧徒ヲ之レト同一ノ刑ニ處ス可シ

○第三節 僧徒ノ説教ノ爲メ著シタル書ヲ以テ官署ニ對シ誹謗罵詈ヲ爲シ又ハ人民ヲ挑唆スル罪

第二百四條 如何ナル種類ヲ問ハス僧徒説教ノ爲メ著シタル書中ニ政府又ハ官署ノ所爲ニ對シ誹謗或ハ罵詈ヲ爲ス言詞ヲ記スル時ハ追放ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五條 前條ニ記シタル書中ニ直チニ人民ヲシテ法律或ハ官署ノ所爲ニ背クヲ挑唆スル言詞ヲ記スル時又ハ人民ノ一部ヲシテ他ノ一部ニ對シ互ニ抗敵セシメ又ハ互ニ兵器ヲ弄セシム可キ言詞ヲ記スル時ハ其書ヲ著ハセシ僧徒囚獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六條 其僧徒ノ著シタル書中ニ記スル挑唆ノ言詞ニ因リ叛逆又ハ一揆ヲ起サシメタル時其犯人中ノ一人又ハ數人ヲ流刑以上ノ刑ニ處ス可キニ於テハ其僧徒ヲ之レト同一ノ刑ニ處ス可シ

○第四節 僧徒法教ノ事ニ付キ外國政府ト通信スル罪

第二百七條 僧徒法教事務宰相ニ豫メ告知ヲ爲シテ其允許ヲ得ルコトナク法教ノ事ニ付キ外國政府ト通信セシ時ハ其所行ノミヲ以テ百「フランク」ヨリ少カラズ五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且一月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百八條 前條ニ記シタル通信ト同時又ハ之ト相繼テ法律或ハ勅命ノ規則ニ背キタル他ノ罪犯ヲ行ヒシ時ハ其僧徒追放ノ刑ニ處セラル可シ但シ其罪犯追放以上ノ刑ヲ以テ罰ス可キ者タル時ハ其僧徒ヲ追放以上ノ刑ニ處ス可シ

○第四款 官命ニ抗スル罪、官命ニ背ク罪又ハ其他官ニ對スル罪

○第一節 官命ニ抗スル罪

第二百九條 裁判所附ノ官吏、田野森林ノ看守人、官ノ兵士、租稅收納ノ官吏、稅法ニ背キタル者ヲ逮捕スル官吏、海關稅收納ノ官吏、雙方相爭フ物ヲ預カル官吏、行法警察、司法警察ノ官吏法律、官命、裁判所ノ言渡ヲ執行フ時ニ當リ此等ノ官吏ニ對シ襲撃ヲ爲シ又ハ暴行ヲ以テ抗拒シタル者ハ其時ノ景況ニ從ヒ官命ニ抗スル輕罪或ハ重罪アリトス

第二百十條 若シ兵器ヲ携ヘタル者二十人以上ニシテ前條ノ罪ヲ犯セシ時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ兵器ヲ携ヘサル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第二百十一條 若シ兵器ヲ携ヘタル者三人ヨリ二十人以上ニ至ル迄相群聚シテ官命ニ抗スル罪ヲ犯セシ時ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第二百十二條 兵器ヲ携ヘタル者一人又ハ二人ニテ官命ニ抗スル罪ヲ犯シタル時ハ其犯人六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ兵器ヲ携ヘサル時ハ六月ヨリ少カラズ六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百十三條 群聚ヲ爲シテ官命ニ抗シタル時其羣聚中ノ職務ヲ行ハサル者官吏ノ叱責ニ因リ直チニ退散シ又ハ官吏叱責ノ後ト雖モ官命ニ抗シタル場所ノ外ニ於テ抗敵スルコトナク且兵器ヲ携フルコトナク逮捕ヲ受ケタルニ於テハ其犯人ニ第一條ニ記シタル規則ヲ適用フ可シ

第二百十四條 重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル黨衆中其二人以上表携ノ兵器ヲ弄シタル時ハ其黨衆ヲ總稱シテ兵器ヲ弄シタル黨衆ト云

第二百十五條 兵器ヲ携ヘタルト看做ス可カラサル羣聚中ニ加ハリ暗藏ノ兵器ヲ携ヘタル者ハ兵器ヲ携ヘタル羣聚中ニ加ハリシ時ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第二百十六條 官命ニ抗スル所行ヲ爲シタル時間ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時其重罪又ハ輕罪ノ

刑官命ニ抗スル罪ノ刑ヨリ更ニ重キモノタルニ於テハ其重キ刑ニ處セラル可シ
 第二百十七條 (千八百四十九年五月十七日廢ス)
 第二百十八條 官命ニ抗セシ罪ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ犯人ハ十六「フランク」ヨリ少カラ
 ス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケシムルヲ得可シ
 第二百十九條

- 第一 製造所ニ於テ使役ヲ受クル工丁及ヒ雇夫
- 第二 貧院ニ入りタル者
- 第三 被告ノ囚徒又ハ刑ノ言渡ヲ受ケシ囚徒

此等ノ者兵器ヲ携ヘタルト否トニ管セス官署又ハ警察ノ官吏或ハ屬吏又ハ官ノ兵士ニ對シ暴行
 脅迫ヲ爲シタル羣聚ハ官命ニ抗シタル羣聚ノ罪アリト爲シテ罰ス可シ

第二百二十條 既ニ他ノ輕罪又ハ重罪ヲ犯シタルノ訴訟ヲ受ケシ囚徒又ハ刑ノ言渡ヲ受ケシ囚徒
 更ニ官命ニ抗スル罪ヲ犯スニ因リ之レヲ刑ニ處スルノ方法左ノ如シ
 既犯ノ重罪又ハ輕罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ刑ニ非サル刑ヲ受ケシ者ハ其刑期ノ終リシ後直チニ
 官命ニ抗スル罪ヲ犯シタル刑ニ處セラル可シ
 其他ノ者ハ之ヲ無罪ナリトスル終審ノ裁判言渡又ハ其罪ヲ宥恕スル終審ノ裁判言渡ヲ得タル後
 直チニ官命ニ抗スル罪ヲ犯シタル刑ニ處セラル可シ

第二百二十一條 官命ニ抗シタル首謀及ヒ官命ニ抗スルノ所行ヲ挑唆シタル者ハ其刑期ノ終リシ
 ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○第二節 公ケノ權及ヒ公ケノ兵力ヲ預カル者ニ對シ不敬又ハ暴行ヲ爲ス罪
 第二百二十二條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 行法又ハ司法ノ官吏一人又ハ數人或ハ陪
 審一人又ハ數人其職務ヲ行フニ付キ或ハ其職務ヲ行フ時ニ當リ公ケニ爲サ、ル言詞又ハ書畫ニ
 因リ其名望又ハ誠心ヲ汚ス可キ不敬ヲ受ケシ時ハ其不敬ヲ爲シタル者十五日ヨリ少カラス二年

ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ裁判所聽訟ノ室ニ於テ其不敬ノ言詞ヲ發セシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時
 間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
 第二百二十三條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 官吏又ハ陪審ニ對シ其職務ヲ行フニ付キ
 或ハ其職務ヲ行フ時ニ當リ體操又ハ脅迫ヲ以テ不敬ヲ加ヘシ者ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多
 カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ裁判所聽訟ノ室ニ於テ其不敬ヲ加ヘシ者ハ一月ヨリ
 少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十四條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 裁判所附官吏又ハ公ケノ兵力ヲ預カル官
 吏又ハ公務ノ任ヲ受ケシ者ニ對シ其職務ヲ行フニ付キ或ハ其職務ヲ行フ時ニ當リ言詞、體操、脅
 迫ヲ以テ不敬ヲ加ヘシ者ハ六月ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十
 六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ或ハ此刑中ノ一箇
 ノミノ言渡ヲ受ケ可シ

第二百二十五條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 公ケノ兵力ヲ指揮スル者ニ對シ前條ニ記
 シタル不敬ヲ加ヘシ時ハ其犯人十五日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
 レ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケシムルヲ
 得可シ

第二百二十六條 第二百二十二條第二百二十三條第二百二十五條等ノ場合ニ於テハ其犯人禁錮ノ
 刑ヲ受ケシ上更ニ其不敬ヲ受ケシ者ニ書面ヲ用ヒ又ハ聽訟ノ室ニ於テ其罪ヲ陳謝ス可キノ言渡
 ヲ受ケシムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其犯人ヲ禁錮ノ刑ニ處スル期限ハ其罪ヲ陳謝セシ
 日ヨリ之ヲ算フ可シ

第二百二十七條 第二百二十四條ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人罰金ノ外更ニ其罪ヲ陳謝ス可キ
 ノ言渡ヲ受ケシムルヲ得可シ若シ其犯人其罪ヲ陳謝スルヲ遲延シ又ハ肯セサル時ハ之ヲ禁

鋼ス可シ 通常ノ禁錮ト

第二百二十八條 (千八百六十三年五月十二日如左改ム) 兵器ヲ携ヘス且創傷ヲ爲スヲナシト雖モ官吏ノ其職務ヲ爲スニ付キ又ハ其職務ヲ行フニ當リ之ヲ毆撃セシ者又ハ其他同上ノ景狀ニ於テ其官吏ニ對シ暴行ヲ爲タル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

又裁判所聽訟ノ席ニ於テ其暴行ヲ爲タル者ハ至重ノ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

又其二箇ノ場合ニ於テハ其犯人其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同一ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第二百二十九條 前條ニ記シタル二箇ノ場合ニ於テハ其犯人五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間其毆撃シタル官吏所在ノ地ノ周圍ニ「ミリヤメートル」以內ノ所ニ近ツク可カラサルノ言渡ヲ受ケシムルヲ得可シ

此規則ハ犯人其刑ヲ受ケシ日ヨリ之ヲ施行ス可シ若シ犯人其定期ノ終ラサル前ニ其言渡ニ背ク時ハ退放ノ刑ニ處セラル可シ

第二百三十條 (千八百六十三年五月十二日如左改ム) 第二百二十八條ニ記シタル種類ノ暴行ヲ裁判所附ノ官吏又ハ公ケノ兵力ヲ預カル者又ハ公務ノ任ヲ受ケシ者ニ對シ其職務ヲ行フニ付キ或ハ其職務ヲ行フニ當リ爲セシ時ハ其犯人一月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百三十一條 若シ第二百二十八條及ヒ第二百三十條ニ記シタル官吏ニ對シ爲シタル暴行ニ因リ其官吏ヲ斫傷折傷シ又ハ疾病ニ罹ラシムルノ理由ヲ爲ス時ハ其犯人ヲ徒刑場內ニ於テ使役スルノ刑ニ處ス可シ若シ其暴行ノ爲メ其官吏四十日內ニ死去シタル時ハ其犯人ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

第二百三十二條 其暴行ニ因リ斫傷折傷又ハ疾病ニ罹ラシムルノ理由ヲ爲サ、ル時ト雖モ預メ害ヲ爲サント計リテ其官吏ヲ毆撃セシ時ハ其犯人ヲ徒刑場內ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ

第二百三十三條 第二百二十八條及ヒ第二百三十條ニ記シタル官吏ノ其職務ヲ行フニ當リ又ハ其職務ヲ行フニ付キ之ヲ殺ス可キノ意ヲ以テ毆撃シ又ハ創傷シタル時ハ其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

○第三節 當然行フ可キ公務ヲ肯シ爲サ、ル罪

第二百三十四條 公ケノ兵力ヲ指揮スル者又ハ其士官及ヒ下等士官文官ヨリ法ニ適シタル求需ヲ受ケ自己ノ指揮スル兵ヲ動かスヲ肯シセサル時ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ此條ニ記シタル規則ト第十條ニ記シタル損失ノ償ヲ爲ス規則ト相觸ル、トナカル可シ

第二百三十五條 寡兵ニ管スル刑法及ヒ其他ノ規則ハ舊ニ依テ之ヲ施行ス可シ

第二百三十六條 證人又ハ陪審詐僞ノ辭柄ヲ稱シ裁判所ニ出席セサル時ハ其出席セサルニ因リ言渡サル可キ罰金ノ外六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○第四節 囚徒ノ逃亡及ヒ犯人ヲ隱匿スル罪

第二百三十七條 囚徒ノ逃亡シタル時ハ之ヲ伴行シ又ハ押送シ又ハ看守スル裁判所ノ使吏或ハ護國兵、護送兵、守備兵ノ總督又ハ其下役或ハ門監、獄監後ノ數條ニ記スル刑ニ處セラル可シ

第二百三十八條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 其逃亡シタル囚徒輕罪又ハ加辱ノミノ刑ヲ受ク可キ重罪ヲ訴ヘラレシ者又ハ既ニ其刑ヲ言渡サレシ者タル時又ハ其囚徒戰闘ニテ虜獲シタル者タル時其看守又ハ伴行ヲ爲ス者懈怠ノ罪アルニ於テハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其囚徒ノ逃亡ヲ知テ捕獲セサルニ於テハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

囚徒ノ看守又ハ伴行ノ任ヲ受ケサル者其囚徒ヲシテ逃亡ヲ得セシメ又ハ逃亡ヲ容易ナラシメタ

ル時ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ
第二百三十九條 其逃亡シタル囚徒有期ノ施體ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ訴ヘラレシ者又ハ既ニ其刑
ヲ言渡サレシ者タル時其看守又ハ伴行ヲ爲ス者懈怠ノ罪アルニ於テハ二月ヨリ少カラス六月ヨ
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ若シ其逃亡ヲ知テ捕獲セサルニ於テハ徒刑場内ニ於
テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

囚徒ノ看守又ハ伴行ノ任ヲ受ケサル者囚徒ヲシテ逃亡ヲ得セシメ又ハ容易ナラシメタル時ハ三
月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ
第二百四十條 逃亡シタル囚徒死刑或ハ無期ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ訴ヘラレシ者又ハ既ニ此刑
ヲ言渡サレシ者タル時其看守又ハ伴行ヲ爲ス者懈怠ノ罪アルニ於テハ一年ヨリ少カラス二年ヨ
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ若シ其逃亡ヲ知テ捕獲セサルニ於テハ有期ノ徒刑ニ
處セラレ可シ

囚徒ノ看守又ハ伴行ノ任ヲ受ケサル者囚徒ヲシテ逃亡ヲ得セシメ又ハ容易ナラシメタル時ハ一年
ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ
第二百四十一條 (千八百六十三年五月十二日如左改ム)囚徒ノ暴行ヲ以テ逃亡シ或ハ獄舎ヲ毀テ
逃亡シタル時ハ其逃亡ヲ爲スニ用立タル器具ヲ貸シテ其逃亡ヲ助ケタル者左ノ刑ニ處セラレ可
シ

若シ逃亡シタル囚徒第二百三十八條ニ記シタル場合中ノ者タルニ於テハ其器具ヲ貸シテ逃亡ヲ
助ケタル者三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ又第二百三十九條ニ
記シタル場合中ノ者タルニ於テハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
レ又第二百四十條ニ記シタル場合中ノ者タルニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ言
渡サル可シ

但シ逃亡シタル囚徒第二百四十條ニ記シタル場合中ノ者タルニ於テハ其器具ヲ貸シテ逃亡ヲ助
ケシ者其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタ
ル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ

第二百四十二條 前ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其囚徒ノ看守人或ハ獄監ニ賄賂ヲ遣リ又ハ看
守人或ハ獄監ト相謀リ囚徒ヲシテ逃亡ヲ得セシメ又ハ容易ナラシメタル者ハ其看守人或ハ獄監
ト同一ノ刑ニ處セラレ可シ

第二百四十三條 囚徒ニ兵器ヲ貸渡シ其獄舎ヲ毀テ又ハ暴行ヲ爲シテ逃亡スルヲ助ケタル時ハ其
兵器ヲ貸渡ス「ト」ニ加ハリシ看守人或ハ伴行人ハ無期ノ徒刑ニ處セラレ其他ノ者ハ有期ノ徒刑ニ
處セラレ可シ

第二百四十四條 囚徒ノ逃亡ヲ知テ捕獲セサル者ハ其囚徒ヨリ損失ノ償ヲ得可キ權アル者ニ對シ
相連帶シテ其償額ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第二百四十五條 獄舎ヲ毀テ又ハ暴行ヲ爲シテ逃亡シ又ハ逃亡セント試ミ爲シタル囚徒ハ其所行
ノミヲ以テ六月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ク可シ且其囚徒ハ前
犯ノ重罪ニ付キ處セラレタル刑期ノ終リシ後直チニ此刑ヲ受ケ又ハ其訴ヘラレシ輕重罪ヲ宥
恕スル裁判言渡ヲ受ケシ後直チニ此刑ヲ受ク可シ但シ此規則ト其囚徒ノ暴行ヲ爲シテ逃亡シタ
ル時犯シタル他ノ重罪ノ爲メ更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ルハ「ト」ナカル可シ

第二百四十六條 囚徒ノ逃亡ヲ助ケ又ハ囚徒ノ逃亡セント爲ス謀試ヲ助ケタルニ因リ六月以上ノ
時間禁錮ノ刑ニ處セラレシ者ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ
ムルヲ得可シ

第二百四十七條 若シ其囚徒逃亡ノ時ヨリ四月内ニ其逃亡後ニ他ノ犯罪ナク逮捕ヲ受ケ又ハ自訴
シタル時ハ嘗テ懈怠ノ罪ヲ犯セシ其伴行者又ハ看守者禁錮ノ刑ヲ免カル可シ
第二百四十八條 施體ノ刑ニ處セラレ可キ重罪ヲ犯セシ「ト」知リ其犯人ヲ隱匿シ又ハ隱匿セシメ

シ者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
若シ隱匿シタル者犯人ノ尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親又ハ既ニ離婚シタルニ管ヒス其配偶者、兄弟姉妹又ハ同上ノ級ノ姻族ノ親ナル時ハ前條ノ規則ノ例外ナリトス

○第五節 封印ヲ破毀スル罪及ヒ官署ニアル證書類ヲ奪フ罪
第二百四十九條 政府ノ命令又ハ何事ニ因ラス裁判所ノ言渡ヲ以テ爲シタル封印ヲ破毀シタル者アル時其看守人懈怠ノ罪ノミナルニ於テハ六月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十條 若シ封印ヲ破毀シテ死刑、無期ノ徒刑、流刑ニ處セラル可キ罪ヲ訴ヘラレシ者又ハ既ニ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ書類或ハ物件ノ封印ヲ破毀シタル者アル時其看守人懈怠ノ罪アルニ於テハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十一條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 何人ニ限ラス前條ニ記シタル書類或ハ物件ノ封印ヲ故サラニ破毀シ或ハ破毀セント試ミ爲シタル者又ハ其封印ヲ破毀シ或ハ破毀セント試ミ爲スヲニ加リタル者ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

看守人自カラ其封印ヲ破毀シ或ハ破毀スルヲニ加リタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
前ノ二箇中何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第二百五十二條 前條ニ記セシ以外ノ封印破毀ノ犯人ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ又其看守人其犯人タル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十三條 封印ヲ破毀シテ行フタル竊盜ハ總テ物ヲ破壞シテ行フタル竊盜ト同刑ニ處セラ

ル可シ
第二百五十四條 書類ヲ藏スル官署又ハ裁判所ノ書記局又ハ公ケノ書類ヲ藏スル場所ニ貯ヘ或ハ公ケノ看守人ニ渡シタル犯罪ノ證書、犯罪訴訟ノ證書及ヒ其他ノ書類、簿冊又ハ物件ヲ竊奪又ハ毀滅スル者アル時書記官、書類ヲ管守スル者、公證人又ハ其他ノ看守人懈怠ノ罪アルニ於テハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

第二百五十五條 前條ニ記シタル所ノ竊奪、毀滅ノ罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
若シ看守人自カラ其罪ヲ犯シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百五十六條 封印ノ破毀又ハ書類ノ竊奪、毀滅ノ罪ヲ犯スニ付キ人ニ對シテ暴行ヲ加フル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト其暴行及ヒ其暴行ニ附加シテ犯シタル重罪ノ種類ニ因リ更ニ重キ刑ニ其犯人ヲ處ス可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

○第六節 記念ノ標識ヲ破壞スル罪
第二百五十七條 公ケノ資益又ハ粧飾トナス可キ爲メ官署ニ於テ造立シ或ハ官署ノ允許ヲ得テ造立シタル記念ノ標識、立像又ハ其他ノ物ヲ破壞シ打倒シ毀損シタル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ
○第七節 官職ヲ僭スル罪
第二百五十八條 其官ニ居ラスシテ文武ノ公務ニ干涉シ又ハ其公務ニ管スル所行ヲ爲シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト官職ヲ僭スル犯罪ニ贖造ノ情狀アル時ハ其罪ニ相當ナル刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

第二百五十九條 「千八百五十八年五月二十八日如左改ム」己ノニ屬セサル官服禮服又ハ賞牌ヲ公ケニ佩用シタル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
名望ヲ得可キ爲メ正當ノ權利ナクシテ公ケニ官ノ爵ヲ詭稱シ又ハ身上證書ニ記シタル姓名ヲ變更シタル者ハ五百「フランク」ヨリ少カラス一萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

如此官爵ヲ詭稱シ又ハ姓名ヲ變更シタル公正ノ證書或ハ身上證書ノ端ニ裁判所ノ言渡ヲ附記ス可シ

此條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ其言渡書ノ全文又ハ其抜書ヲ別段指定メタル新聞紙ニ登記スルヲ言渡スヲ得可シ但シ其費用ハ犯人ノヲ擔當ス可シ

第八節 禮拜ヲ行フニ障礙ヲ爲ス罪
第二百六十條 暴行脅迫ヲ以テ一人又ハ數人ヲシテ政府ノ允許アル禮拜ヲ強テ行ハシメ或ハ其禮拜ニ出席セシメ或ハ祭禮ヲ行ハシメ或ハ休業ヲ爲サシメ又ハ此等ノ事ヲ爲スヲ阻害シ其一人又ハ數人ノ工場、商舖或ハ倉庫ヲ強テ閉閉セシメ且或種ノ工業ヲ強テ爲サシメ或ハ止メシメタル者ハ其所行ノミヲ以テ十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十一條 寺院又ハ其他ノ禮拜ヲ行ハント爲ス場所或ハ現ニ禮拜ヲ行フ場所ニ於テ騷動混亂ヲ起シ其禮拜ヲ行フノ妨ケヲ爲シ或ハ之ヲ遲延セシメ或ハ停止セシムル者ハ十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十二條 禮拜ヲ行ハント爲ス場所或ハ現ニ禮拜ヲ行フ場所ニ於テ言詞或ハ體様ヲ以テ禮拜ヲ爲ス諸物ニ不敬ヲ加ヘシ者又ハ禮拜ニ當ル僧徒ノ其職務ヲ行フニ當リ其僧徒ニ不敬ヲ加ヘシ者ハ十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且十五

日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十三條 禮拜ニ當ル僧徒ノ其職務ヲ行フニ當リ其僧徒ヲ毆擊セシ者ハ公權剝奪ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十四條 此一節ニ記スル所ノ規則ハ他ノ條ノ規則ニ循ヒ更ニ重キ刑ニ處ス可キ景狀ナキ障礙、不敬、暴行ノミニ通シテ用フ可シ

第五款 兇行ヲ爲ス者ノ集合、浪遊及ヒ乞丐ノ罪
第一節 兇行ヲ爲ス者ノ集合ノ罪

第二百六十五條 人ノ身體又ハ財産ニ對シ兇行ヲ爲ス者ノ集合ハ國ノ安寧ニ對スル重罪ナリトス
第二百六十六條 兇行ヲ爲ス者ヲ集合シ又ハ其集合シタル徒ト其首謀或ハ其指揮者ト互ニ通謀シ又ハ兇行ヲ以テ得タル利益ヲ算シ或ハ分派セント爲ス契約ヲ結ヒタルヲアル時ハ其所行ノミヲ以テ國ノ安寧ヲ妨クル重罪ナリトス

第二百六十七條 前條ニ記シタル重罪ノ外更ニ他ノ重罪ヲ同時ニ行ヒ又ハ相繼テ行フヲナキ時ハ其集合シタル徒中ノ首謀、魁首、指揮者、下等指揮者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百六十八條 此集合ノ徒中ニ於テ職務ヲ行ヒシ者又ハ故サラニ自己ノ意ヲ以テ其集合ノ徒ニ兵器、彈藥及ヒ重罪ヲ行フ可キ器具又ハ居所、隱匿地、集會所ヲ貸與ヘシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第二節 浪遊ノ罪

第二百六十九條 浪遊ハ輕罪ナリトス

第二百七十條 浪遊者トハ一定ノ居所及ヒ營生ノ方法ナク平常職業ヲ行ハサル者ヲ云フ

第二百七十一條 浪遊者裁判所ヨリ浪遊ノ罪アルノ言渡ヲ受シ時ハ其事ノミヲ以テ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ其浪遊者ハ其刑ヲ受ケシ後五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケ可シ

然凡十六歲以下ノ浪遊者ハ禁錮ノ刑ニ處ス可カラス然凡浪遊者タルノ證アル時ハ其證ノミヲ以テ滿二十歲ノ齡ニ至ル迄ノ時間政府ヨリ監察ヲ爲ス可シ但シ二十歲ニ至ラサル前ニ海陸軍ノ兵籍ニ入ル約定ヲ爲シタル時ハ例外ナリトス

第二百七十二條 裁判所ヨリ浪遊者タルノ言渡ヲ受ケシ者若シ外國人タル時ハ政府ノ命ヲ以テ佛蘭西領地外ニ送致セララル可シ
第二百七十三條 佛蘭西ニ於テ生レシ浪遊者ハ縱令控訴及ヒ取消ヲ爲ス可カラサル裁判官渡ヲ受ケシ後ト雖モ其生レタル邑ノ會議ヨリ其引渡ヲ得ンヲ請ヒ又家資分散ノ者ニ非サレハ何者ヲ論セス其浪遊者ヲ引受ク可キ保證人トナルヲ得可シ
政府ニ於テ其引渡ノ願ヲ許ルシ又ハ保證ノ旨ヲ允許シタル時ハ政府ノ命ヲ以テ其浪遊者ヲ其引渡ヲ願ヒシ邑ニ送致シ又ハ其保證人ノ願ヒニ因リ其浪遊者ノ居住ノ爲メ定メタル地ニ之ヲ送致ス可シ

○第三節 乞丐ノ罪

第二百七十四條 乞丐者ヲ扶助スルカ爲メ政府ヨリ建設セシ貧院ノアル地ニ於テ食ヲ乞フ者ハ三月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且其刑期ノ滿シ後其乞者ヲ入レ置ク場所ニ送致ス可シ

第二百七十五條 貧院ヲ建設セサル地ニ於テ食ヲ乞フヲ常慣ト爲ス強壯ノ者ハ一月ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ
若シ其乞丐者其居住スル縣ノ外ニ於テ捕獲ヲ受ケシ時ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第二百七十六條 乞丐者縱令ヒ病ニ罹ルト雖モ人ヲ脅迫シタル時又ハ家屋ノ所有者或ハ其家屋ニ住居スル者ノ許ルシヲ得スシテ其家屋又ハ其家屋ニ屬スル範圍内ニ入シ時
乞丐者創傷又ハ疾病ヲ僞ル時

乞丐者夫ト婦、父母ト其若年ノ子、警者ト其指導者トヲ除クノ外相連行シテ食ヲ乞フ時
此等ノ場合ニ於テハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ
○浪遊者ト乞丐者トニ通シ用フル規則

第二百七十七條 乞丐者又ハ浪遊者何レノ方法ヲ論セス其狀貌ヲ詭ハリテ捕獲ヲ受ケシ時
此等ノ者兵器ヲ用フルヲナク又ハ脅迫ヲ行フヲナシト雖モ兵器ヲ携ヘシ時
此等ノ者鑷、塔竿又ハ其他竊盜及ヒ其他ノ輕罪ヲ行フ可キ器具或ハ家内ニ潛入スルニ用立ツ可キ器具ヲ持セシ時

此等ノ場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ
第二百七十八條 百「フランク」以上ノ價アル一箇又ハ數箇ノ物件ヲ所持シテ其來由ノ證ヲ陳述セサル乞丐者又ハ浪遊者ハ第二百七十六條ニ記シタル刑ニ處セララル可シ
第二百七十九條 「千八百六十二年五月十二日如左改ム」乞丐者又ハ浪遊者何事ヲ論セス人ニ對シテ暴行ヲ爲シ又ハ爲サントセシ時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ但シ此規則ト其暴行ノ種類及ヒ景狀ニ因リ更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、ヲナカル可シ

若シ其暴行ヲ爲シ又ハ爲サントシタル乞丐者又ハ浪遊者ニ第二百七十七條ニ記シタル景狀中ノ一アルニ於テハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セララル可シ

第二百八十條 (廢ス)
第二百八十一條 前ニ記シタル贗造及ヒ變造ノ證券、往來手形、兵士ノ往來手形ヲ所有スル者ニ對シ定メタル所ノ刑ヲ浪遊者又ハ乞丐者ニ適用スル時ハ其刑中ノ至重ノ刑ヲ用フ可シ

第二百八十二條 前數條ニ記セシ刑ニ處セラレタル乞丐者ハ其刑期ノ終リシ後五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

○第六款 著述者、刷工、彫工、ノ姓名ナク發行セシ書類、肖像、彫刻品ヲ以テ犯シタル輕罪

第二百八十三條 著述者又ハ刷工ノ姓名、職業、住所ヲ真正ニ記セサル書類、報告書、貼附書、新聞紙、刻期刊行ノ書及ヒ其他ノ書ヲ發行シ或ハ分派シタル時ハ故ラニ其發行或ハ分派ニ管セシ者其所行ノミニ因リ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百八十四條 第一 前條ニ記スル書類ヲ附與セシ者ノ姓名ヲ陳述シタル唱賣者、貼附者又ハ販賣、分派等ヲ爲ス者

第二 刷工ノ姓名ヲ陳述セシ者

第三 著述者ノ姓名ヲ陳述セシ刷工

此等ノ者ハ註誤ノ刑ヲ受クルノミトス

第二百八十五條 若シ印刷シタル書類ニ重罪犯又ハ輕罪犯ヲ挑唆スルノ文意ヲ含ム時ハ其唱賣者、貼附者又ハ販賣、分配ヲ爲ス者其輕重ノ罪犯ヲ挑唆スル者ト同罪ノ刑ニ處セラル可シ但其唱賣者、貼附書又ハ販賣、分配ヲ爲ス者其書類ヲ附與シタル者ノ姓名ヲ陳述シタル時ハ例外ナリトス

若シ前ニ記列シタル者其書類ヲ附與セシ者ノ姓名ヲ陳述シタル時ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受クルノミトス但シ其輕重ノ罪犯ヲ挑唆スル者ト同罪ノ刑ハ其書類ヲ附與セシ者ノ姓名ヲ陳述セサル者又ハ刷工ノ知レタル時ハ其刷工ニ之ヲ用フ可シ

第二百八十六條 前數條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其書類ノ印本ハ之ヲ沒收ス可シ

第二百八十七條 風俗ヲ亂ス可キ歌謠、冊子、畫圖、肖像ヲ展示セシ者又ハ分派セシ者ハ十一月「フランク」ヨリ少カラス四百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ其歌謠、冊子、畫圖及ヒ其他ノ物ヲ彫刻シタル印版及ヒ

印本ハ之ヲ沒收ス可シ
第二百八十八條

第一 前條ニ記シタル罪犯ニ管セシ物件ヲ附與セシ者ノ姓名ヲ陳述シタル唱賣者又ハ販賣、分派ヲ爲ス者

第二 刷工、彫工ノ姓名ヲ陳述シタル者

第三 前條ニ記シタル罪犯ニ管セシ物件ヲ造リシ者ノ姓名又ハ其彫刻或ハ印刷ヲ任シタル者ノ姓名ヲ陳述シタル刷工及ヒ彫工

此等ノ者ハ前條ニ記シタル禁錮ノ刑及ヒ罰金ノ言渡ヲ受クルヲナク註誤ノ刑ヲ受クルノミトス
第二百八十九條 此款ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ罪犯ノ首者ハ前ニ記シタル各種ノ輕罪ノ刑中ニ於テ其至重ノ刑ニ處セラレ可シ

○格別ナル規則

第二百九十條 (千八百二十年十一月十日廢ス)

○第七款 法律ニ於テ禁止スル集會

第二百九十一條 二十八人以上ニテ法教、文學、政事上ノ事及ヒ其他ノ事ヲ目的トシテ毎日爲ス所ノ集會又ハ期日ヲ定メテ爲ス所ノ集會ハ豫メ政府ノ允許ヲ受ケ且官署ヨリ命シタル規則ヲ遵守スルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

但シ其集會ヲ爲ス家屋ニ住居スル者ハ此條ニ記シタル集會ノ人員中ニ加ヘ算ス可カラス

第二百九十二條 政府ノ允許ヲ得スシテ前條ニ記スル集會ヲ爲シ又ハ其允許ヲ得タル後ト雖モ其集會ヲ爲スニ付キ官署ヨリ命シタル規則ヲ遵守セサル時ハ其集會ヲ解散セシム可シ
其集會ノ長又ハ指揮者支配人ハ十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

第二百九十三條 如何ナル國語ヲ問ハス會話、勸諭、禱神、拜神ヲ爲シ又ハ書籍ヲ講シ、貼附ヲ爲シ

或ハ其他種類ノ如何ヲ問ハス書類ノ刊行分派ヲ爲シ其集會ニ於テ輕重ノ罪犯ヲ挑唆スルコトアル時ハ其集會ノ長又ハ指揮者、支配人百「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト其集會中ノ輕重罪犯ヲ挑唆シタル各人ナ更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、コトナル可ク且其輕重罪犯ヲ挑唆シタル各人ノ刑ハ其集會ノ長又ハ指揮者、支配人ノ受ク可キ刑ヨリ更ニ輕キコトナル可シ

第二百九十四條 邑廳ノ允許ナクシテ家屋又ハ房室ノ全部或ハ一部ヲ前數條ニ記シタル集會ノ爲メ又ハ禮拜ヲ行フ爲メニ使用セシメ又ハ使用スルコトヲ許諾セシ者ハ縱令其集會政府ノ允許ヲ受ケシモノタル時ト雖モ十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

〇第二卷 平民ニ對スル重罪及ヒ輕罪

〇第一章 人ニ對スル重罪及ヒ輕罪(千八百十年二月十七日決定同月二十七日布告)

〇第一款 故殺ノ罪、其他死刑ニ處ス可キ罪、人ニ對シ暴行ヲ加ヘント脅迫スル罪

〇第一節 故殺ノ罪、謀殺ノ罪、尊屬ノ親ヲ殺ス罪、子ヲ殺ス罪、毒殺ノ罪

第二百九十五條 故意ヲ以テ人ヲ殺スヲ故殺ノ罪ト云フ

第二百九十六條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來ルヲ待テ害ヲ加ヘント爲シ之ヲ殺シタル罪ヲ謀殺ノ罪ト云フ

第二百九十七條 預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リタルトハ害ヲ加フル前ニ其害ヲ加フ可キコト預定セシ人又ハ相會ス可キ人ノ身體ニ對シ害ヲ加ヘント謀ルヲ云フ但シ其謀意或ル景況ニ管シ又ハ或ル約定ニ管シタル時ト雖モ亦全上ナリトス

第二百九十八條 人ノ來ルヲ待テ害ヲ加ヘント爲ストハ一箇又ハ數箇ノ地ニ於テ多少ノ時間人ノ來ルヲ待テ之ヲ殺サント爲シ又ハ暴行ヲ加ヘント爲スト云フ

第二百九十九條 尊屬ノ親ヲ殺スノ罪トハ法ニ適シタル父母又ハ法ニ適セサル父母又ハ養父母又ハ其他法ニ適シタル尊屬ノ親ヲ殺スヲ云フ

第三百條 子ヲ殺ス罪トハ初生ノ子ヲ殺スヲ云フ

第三百一條 毒殺ノ罪トハ毒物ヲ用ヒタル方法及ヒ効驗ノ如何ヲ問ハス遲速ヲ論セス人ヲ殺ス可キ物ヲ用ヒ人ノ性命ヲ害スルヲ云フ

第三百二條 謀殺ノ罪、尊屬ノ親ヲ殺ス罪、子ヲ殺ス罪、毒殺ノ罪ヲ犯セシ者ハ死刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト尊屬ノ親ヲ殺ス罪ニ付キ第十三條ニ記スル規則ト相觸ル、コトナル可シ

第三百三條 名稱ノ如何ヲ問ハス重罪犯ヲ行フ爲メ人ヲ痛苦セシメ又ハ殘忍ノ所行ヲ爲シタル兇徒ハ謀殺ノ罪アリトシテ刑ス可シ

第三百四條 故殺ノ罪ヲ他ノ重罪ノ前ニ犯シ又ハ之ト同時ニ犯シ又ハ其後ニ犯ス時ハ犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

輕罪ヲ犯ス設備ヲ爲シ又ハ其罪犯ヲ容易ナラシメ又ハ其罪犯ヲ行フヲ以テ目的ト爲シ或ハ其罪犯ノ首謀及ヒ附從ノ逃亡ヲ助ケ又ハ其刑ヲ免レシムルヲ以テ目的ト爲シ故殺ノ罪ヲ犯シタル時ハ亦其犯人ヲ死刑ニ處ス可シ

總テ其他ノ場合ニ於テハ故殺ノ犯人ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

〇第二節 脅迫ノ罪

第三百五條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)無名ノ書類又ハ記名ノ書類ヲ以テ人ヲ謀殺或ハ毒殺セント脅迫シ又ハ死刑、無期ノ徒刑、流刑ニ處ス可キ暴行ヲ人ニ加ヘント脅迫シタル者其指示セシ場所ニ金額ヲ送ル可キノ強令又ハ其他ノ契約ヲ行フ可キノ強令ヲ以テ其脅迫ヲ爲シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百五十「フランク」ヨリ

少カラス千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
且其犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記
シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ
又其犯人ハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受
ケシムルヲ得可シ

第二百六條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」若シ其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ行ハシ
ムルヲナキ時ハ其犯人一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フ
ランク」ヨリ少カラス六百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百七條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」若シ言詞ヲ以テ前條ニ記シタル脅迫ヲ爲シ且
其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ爲シタル時ハ其犯人六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ
言渡ヲ受ク可シ

此場合ニ於テ其犯人ハ前條ニ記スル所ト同シク政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ
第二百八條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」言詞又ハ文書類ヲ以テ第三百五條ニ記セシ以
外ノ暴行ヲ加ヘント脅迫シ且其脅迫ニ附加シテ強令又ハ契約ヲ爲シタル者ハ六日ヨリ少カラス
三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス百「フランク」ヨリ
多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミニ處セラレ可シ

○第二款 故殺ノ罪ト稱ス可カラサル故意ヲ以テ爲シタル創傷毆擊及ヒ其他故意ヲ以テ
爲シタル輕重罪

第二百九條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」故意ヲ以テ人ヲ創傷シ又ハ毆擊シ又ハ人ニ對
シテ其他ノ暴行ヲ加ヘタル時其暴行ヲ受ケシ者ヲシテ之レカ爲メ二十日以上ノ時間病ニ罹リ或

ハ職業ヲ營スルヲ能ハサルニ至ラシメタルニ於テハ其犯人二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサ
ル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金
ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタ
ル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ

前ニ記シタル暴行ヲ受ケシ者ヲシテ不具ニ至ラシメ療治ノ爲メ切斷ヲ受ケシメ其他四支ヲ使用
スルヲ能ハサラシメ、兩眼ヲ失ハシメ一眼ヲ失ハシメ或ハ他ノ痲疾ニ至ラシムル時ハ其犯人徒
刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

若シ殺スノ意ナク故意ヲ以テ毆傷シ其毆傷ヲ受ケシ者ノ死ニ至リシ時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處
セラレ可シ

第二百十條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來
ルヲ待テ人ヲ創傷或ハ毆擊シ又ハ其他ノ暴行ヲ加ヘタルニ因リ其創傷、毆擊又ハ暴行ヲ受ケシ
者ノ死ニ至リシ時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ若シ其暴行ヲ受ケシ者ヲシテ不具ニ至ラ
シメ療治ノ爲メ切斷ヲ受ケシメ其他四支ヲ使用スルヲ能ハサラシメ兩眼ヲ失ハシメ一眼ヲ失ハ
シメ或ハ他ノ痲疾ニ至ラシムル時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ又第三百九條ノ首項ニ記
シタル場合ニ於テハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第三百十一條 「千八百六十三年五月十三日如左改ム」人ヲ創傷毆擊シ又ハ其他ノ暴行ヲ人ニ加フ
ルト雖モ其暴行ヲ受ケシ者第三百九條ニ記シタル種類ノ病ニ罹ルヲナク又ハ職業ヲ營スル能ハ
サルニ至ルヲナキ時ハ其犯人六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且
十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一
箇ノミニ處セラレ可シ

若シ預メ人ニ害ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來ルヲ待テ前ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ其犯人二年ヨ

リ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
第三百十二條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)故意ヲ以テ法ニ適シタル父母又ハ法ニ適セサル父母、養父母及ヒ其他法ニ適シタル尊屬ノ親ヲ創傷又ハ毆撃シタル者ハ左ノ刑ニ處セラレ可シ

若シ其創傷又ハ毆撃ヲ受ケシ者第三百九條ニ記シタル種類ノ病ニ罹ルコトナク或ハ職業ヲ營スル能ハサルニ至ルコトナキ時ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ
若シ其創傷又ハ毆撃ヲ受ケシ者二十日以上ノ時間其職業ヲ營スルコト能ハサルニ至リシ時又ハ其犯人預メ害ヲ加ヘント謀リ或ハ人ノ來ルヲ待チ創傷毆撃ヲ加ヘタル時ハ其犯人至重ノ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

若シ前ニ記シタル父母又ハ尊屬ノ親ニ非サル者ニ對シ行フタル罪犯徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可キモノタル時之レヲ其父母又ハ尊屬ノ親ニ對シ犯シタルニ於テハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ若シ父母又ハ尊屬ノ親ニ非サル者ニ對シ行フタル罪犯有期ノ徒刑ニ處ス可キモノタル時之レヲ其父母又ハ尊屬ノ親ニ對シ犯シタルニ於テハ無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

第三百十三條 此一款ト前款トニ記シタル輕重罪ヲ犯ス時官命ニ抗スル羣聚ヲ爲シ且之ニ附加シテ掠奪ヲ行フタルニ於テハ其群聚及ヒ掠奪ノ首謀又ハ之ヲ挑唆シタル者ニ其輕重罪ヲ歸シ此等ノ者ヲ其群聚中ノ自カラ其罪ヲ犯セシ者ト同一ノ刑ニ處ス可シ

第三百十四條 「スナイレー」極メテ小形ナ「トロンブロン」極メテ小形ナ又ハ其他法律或ハ行政規則ヲ以テ制禁シタル各種ノ兵器類ヲ製造シ或ハ販賣シタル者ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ
此等ノ兵器ヲ携ヘシ者ハ十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言

渡ヲ受ク可シ
何レノ場合ニ於テモ此等ノ兵器ハ官ニ沒收ス可シ
此規則ト前ニ記シタル犯人他ノ重罪ヲ犯シタル時更ニ重キ刑ニ處セラレ可キ規則ト相觸ル、コトナカル可シ

第三百十五條 前條ニ記シタル輕罪ノ刑ノ外裁判所ヨリ其犯人ヲシテ二年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシム可キノ言渡ヲ爲スコトヲ得可シ

第三百十六條 罪ヲ切リタル重罪ヲ犯セシ者ヲ無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

若シ罪ヲ切リシ時ヨリ四十日以内ニ其者ノ死スル時ハ其犯人死刑ニ處セラレ可シ

第三百十七條 食料、飲料、藥品ヲ用ヒ又ハ暴行ヲ加ヘ或ハ其他ノ方法ヲ以テ懷胎シタル女ヲ墮胎セシメタル者ハ其女ノ其事ヲ肯スルト否トチ問ハス徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ
自己ノ意ヲ以テ墮胎ヲ爲サシメタル女又ハ人ノ指示シタル方法ヲ用フルコトヲ肯シ墮胎シタル女ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

墮胎ヲ爲スニ必要ナル物品ヲ指示シ又ハ用ヒタル内科外科ノ醫士又ハ下等醫士又ハ其藥ヲ販賣シタル者ハ其婦ノ墮胎シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

何レノ方法ヲ論セズ人ヲ殺スノ質ナク人ノ健康ヲ害ス可キ質アル物品ヲ故意ヲ以テ人ニ用ヒ其人ヲシテ病ニ罹ラシメ又ハ其職業ヲ營スル能ハサルニ至ラシメシ者ハ一月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ二年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

若シ其害ヲ受ケシ者二十日以上ノ時間病ニ罹リ又ハ職業ヲ營スル能ハサルニ至リシ時ハ其犯人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ
若シ其犯人第三百十二條ニ記シタル父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ニ對シ此條ノ第四項及ヒ第五項ニ

記シタル輕重罪ヲ犯シタル時ハ第四項ノ犯人ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ第五項ノ犯人ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
第二百十八條 (千八百五十五年五月二日廢ス)

○第三款 故意ニ非スシテ人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ヲ爲ス罪、宥恕ス可キ輕重罪及ヒ宥恕ス可ラサル輕重罪、重罪トモ輕罪トモ稱ス可カラサル人ヲ殺スノ罪又ハ創傷毆撃ノ罪

○第一節 故意ニ非スシテ人ヲ殺シ又ハ創傷毆撃ヲ爲ス罪

第二百十九條 疎忽、疎虞、懈怠又ハ規則ヲ遵守セサル事ニ因リ故意ニ非スシテ人ヲ殺シ又ハ人ヲ殺スノ原由ヲ爲ス者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス六百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百二十條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 疎忽又ハ疎虞ニ因リ人ヲ創傷シ又ハ毆撃シタル時ハ其犯人六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其刑中ノ一箇ノミノ言渡ヲ受ク可シ

○第二節 宥恕ス可キ輕重罪及ヒ宥恕ス可ラサル輕重罪

第二百二十一條 甲者ヨリ乙者ニ對シ至重ノ毆撃又ハ暴行ヲ爲スニ因リ乙者甲者ヲ殺シ又ハ創傷或ハ毆撃シタル時ハ乙者ノ罪ヲ宥恕ス可キ者トス

第二百二十二條 晝間ニ牆壁又ハ家屋ノ門戸又ハ人ノ住スル房室ノ入口或ハ家屋房室ニ屬スル物ヲ入口ニ攀援シ又ハ之ヲ破壊セント爲スヲ防止シテ前條ニ記セシ輕重罪ヲ犯シタル者ハ亦其罪ヲ宥恕ス可キ者トス

若シ夜間ニ此事ヲ爲ス時ハ第二百二十九條ノ規則ニ循フ可シ

第二百二十三條 尊屬ノ親ヲ殺ス罪ハ決シテ宥恕ス可カラス

第二百二十四條 夫ノ其婦ヲ故殺シ又ハ婦ノ其夫ヲ故殺スル罪ハ其罪ヲ犯セシ夫又ハ婦ノ當時其生命ノ危迫ニ及ヒ止ムヲ得スシテ之ヲ犯シタル時ノ外宥恕ス可カラス

然レモ第二百三十六條ニ記シタル姦通ノ場合ニ於テ夫其家ニテ其婦及ヒ姦夫ノ現ニ其罪犯ヲ行フニ當リ之ヲ殺シタル時ハ其罪ヲ宥恕ス可シ

第二百二十五條 猥褻ノ辱ヲ受クルニ因リ人ノ翠丸ヲ切りタル重罪ハ宥恕ス可キ創傷毆撃ノ罪又ハ宥恕ス可キ故殺ノ罪ト看做ス可シ

第二百二十六條 死刑、無期ノ徒刑、流刑ニ處ス可キ重罪犯ノ時之ヲ宥恕ス可キ證ノ現ハル、ニ於テハ其刑ヲ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス可シ

其他ノ重罪犯ノ時之ヲ宥恕ス可キ證ノ現ハル、ニ於テハ其刑ヲ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス可シ

此二箇ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ其犯人ニ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシム可キノ言渡ヲ爲スヲ得可シ

若シ輕罪犯ノ時ハ其刑ヲ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス可シ

○第三節 重罪トモ輕罪トモ稱ス可カラサル人ヲ殺スノ罪及ヒ創傷、毆撃ヲ爲スノ罪

第二百二十七條 法律ニ循ヒ又ハ正當ノ威權アル者ノ指揮ニ從ヒ人ヲ殺シ或ハ創傷、毆撃ヲ爲シタル時ハ之ヲ重罪トモ輕罪トモ謂フ可カラス

第二百二十八條 正理ヲ以テ現ニ已ムヲ得ス己ノ身體ヲ防衛シ又ハ他人ノ身體ヲ防衛シテ人ヲ殺シ或ハ創傷、毆撃ヲ爲シタル時ハ之ヲ重罪トモ輕罪トモ謂フ可カラス

第二百二十九條

第一 夜間ニ牆壁又ハ家屋ノ門戸又ハ人ノ住スル房室ノ入口或ハ家屋房室ニ屬スル物ノ入口ニ攀援シ又ハ之ヲ破壊セント爲スヲ防止シテ人ヲ殺シ或ハ創傷、毆撃ヲ爲シタル時

第二 強盜又ハ暴行ヲ以テ爲ス所ノ掠奪ヲ防止シテ人ヲ殺シ或ハ創傷、毆撃ヲ爲シタル時

此二箇ノ場合ニ於テハ現ニ已ムコトヲ得ス己レノ身體ヲ防衛シテ人ヲ殺シ或ハ創傷、毆撃ヲ爲シタルモノトス可シ

○第四款 風俗ヲ亂ス罪

第二百三十條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 公ケニ猥褻ノ所行ヲ爲ス罪ヲ犯セシ者ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百三十一條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 男女ヲ論セス年齢十三歳以下ノ幼者ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘスシテ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ之ヲ試ミ爲サントシタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セララル可シ

十三歳以上ト雖モ婚姻ヲ結ビテ未ダ後見ヲ免カレサル幼者ノ身體ニ對シ其尊屬ノ親ヨリ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ試ミ爲サントシタル時ハ其犯人同上ノ刑ニ處セララル可シ

第二百三十二條 強姦ノ罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ
若シ滿十五歳以下ノ幼者ニ對シ強姦ノ罪ヲ犯シタル者ハ至重ナル有期ノ徒刑ニ處セララル可シ
男女ヲ論セス人ニ對シ暴行ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ試ミ爲サントシタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セララル可シ

若シ滿十五歳以下ノ幼者ニ對シ此罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第二百三十三條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 若シ其犯人暴行ヲ受ケシ者ノ尊屬ノ親タル時又ハ其犯人其暴行ヲ受ケシ者ノ指令ヲ爲ス者タル時又ハ其犯人其暴行ヲ受ケシ者ノ授業師或ハ其雇入ノ奴婢タル時或ハ其犯人其尊屬ノ親ノ奴婢、指令ヲ爲ス者ノ奴婢、授業師ノ奴婢タル時或ハ其犯人官吏又ハ僧徒タル時或ハ其他何者ヲ論セス其罪ヲ犯スニ付キ一人又ハ數人ノ助テ得タル時ハ第二百三十一條ノ首項ニ記セシ場合ニ於テハ有期ノ徒刑ニ處セラレ前條ニ記シタル場合ニ於テハ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第二百三十四條

男女ヲ論セス二十一歳以下ノ幼者ノ淫行ヲ誘起シ又ハ誘助シ又ハ容易ナラシム可キ事ヲ爲スヲ常トシ風俗ヲ亂サント爲ス者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百三十五條

前條ニ記シタル輕罪ヲ犯セシ者ハ後見ノ職及ヒ管財人ノ職ヲ行フノ禁ヲ受ケ且親族會議ニ列班スルノ禁ヲ受ク可シ但シ前條ノ首項ニ記シタル犯人ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間其禁ヲ受ケ前條ノ次項ニ記シタル犯人ハ十年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル時間其禁ヲ受ク可シ

若シ父母ノ其罪ヲ犯セシ時ハ民法第一篇第九卷ニ記シタル所ニ循ヒ其子ノ身體及ヒ財産ニ對シ行フ可キ權利ノ剝奪ヲ受ク可シ

何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ但シ其期限ノ差別ハ此條ニ記シタル後見及ヒ管財人ノ職務ヲ行フノ禁及ヒ親族會議ニ列班スルノ禁ヲ受クル期限ノ差別ト同一タル可シ

第二百三十六條

婦ノ姦通ハ其夫ニ非レハ之ヲ訴フ可カラス但シ第三百三十九條ニ記スル場合ニ於テハ夫其婦ノ姦通ヲ訴フルノ權ヲ失フ可シ

第二百三十七條

姦通ノ證アル婦ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第二百三十八條

姦夫ハ姦婦ト同期ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス二千

「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
姦通シタルノ證ハ現ニ其罪犯ヲ行フヲ知リタル事又ハ其罪ヲ訴ヘラレシ者ノ記シタル書狀及ヒ
其他ノ書類ニ限ル可シ

第二百二十九條 夫ノ其家ニ娼婦ヲ蓄ヒ置キ其婦ノ訴訟ニ因テ其罪ノ證ノ發覺シタル時ハ其夫百
「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百四十條 未タ前婚ヲ解カサル中更ニ再婚ヲ爲シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ
未タ前婚ヲ解カサル中更ニ再婚ヲ爲サシメタル官吏ノ其事ヲ知テ許セシ時ハ其官吏同上ノ刑ニ
處セラル可シ

〇第五款 法ニ背キテ人ヲ逮捕シ及ヒ禁錮スル罪

第二百四十一條 相當ナル官吏ノ命ナク且法律ニ循ヒ犯人ヲ逮捕ス可キ場合ニ非スシテ人ヲ逮捕
シ又ハ禁錮シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百四十二條 若シ一月以上ノ時間法ニ背キ人ヲ禁錮セシ時ハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラル可
シ

第二百四十三條 若シ第二百四十一條ニ記シタル犯人未タ其罪ノ訴ヲ受ケサル中其逮捕又ハ禁錮
ヲ爲シタル日ヨリ十日ニ至ラサル前ニ其逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ赦宥セシ時ハ其犯人ノ刑
ヲ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮スルノ刑ニ輕減ス可シ但シ其犯人ニ五年ヨリ
少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第二百四十四條

第一 衣服ヲ僭用シ、姓名ヲ詭リ又ハ官署ノ命ヲ僞リテ人ヲ逮捕シタル時
第二 逮捕又ハ禁錮ヲ受ケタル者ヲ殺サント脅迫シタル時
此等ノ場合ニ於テハ其犯人無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

又逮捕又ハ禁錮ヲ受ケシ者ノ身體ヲ痛苦セシメタル時ハ其犯人死刑ニ處セラル可シ

〇第六款 小兒ノ身上ノ證ヲ妨ケ或ハ其證ヲ亡ハントシ又ハ其性命ヲ危ウスル輕重罪、

幼者ヲ誘拐スル罪、埋葬ノ規則ニ背ク罪

〇第一節 小兒ニ對シテ犯シタル輕重罪

第二百四十五條 (千八百八十二年五月十二日如左改ム)小兒ヲ誘拐シ又ハ藏匿シ又ハ子ノ出産ヲ
隠蔽シテ身上證書ノ官吏ニ告ケス又ハ此子ヲ以テ彼子ト交替シ又ハ子ヲ産マサル婦ニ子ヲ産ミ
タルト言掛ル罪ヲ犯シタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
若シ其子ノ現ニ生存シタル證ノ分明ナラサル時ハ其犯人一月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル
時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其子ノ生存セサルノ證アル時ハ其犯人六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ處セラル可シ

子ヲ預リタル者其子ノ引渡ヲ求ム可キ權アル者ヨリ求メテ受ケテ猶其子ヲ示サ、ル時ハ徒刑場
内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第二百四十六條 婦ノ子ヲ産スル時立會ヲ爲セシ者民法第五十六條ニ記シタル所ニ循ヒ民法第五
十五條ニ記シタル期限内ニ其出産ノ事ヲ陳述セサル時ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル
時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ
言渡ヲ受ク可シ

第二百四十七條 棄兒ヲ見出シタル者民法第五十八條ニ記シタル如ク其兒ヲ身上證書ノ官吏ニ渡
サ、ル時ハ前條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

其兒ヲ引受ク可キヲ承諾シ其由ヲ其兒ヲ見出セシ地ノ邑廳ニ陳述シタル者ニハ此條ノ規則ヲ
通シ用フ可カラス

第二百四十八條 滿七歳以下ノ兒ノ管照ヲ爲スタメ又ハ其他ノ原由ヲ以テ人ヨリ預カリタル其兒

ヲ貧院ニ移送セシ者ハ六週ヨリ少カラズ六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラズ五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

然レモ若シ其預リ人自己ノ費用ヲ以テ其子ノ養育ヲ爲ス可キ契約ヲ爲サス且他ニ其養育ノ費用ヲ給ス可キ者ナキ時ハ其預リ人ヲ刑ニ處ス可カラズ

第三百四十九條 満七歳以下ノ兒ヲ寮園ノ地ニ棄テシ者又ハ其兒ヲ棄ツ可キノ命ヲ爲シテ現ニ其命ノ行ハレシ者ハ此所行ノミヲ以テ六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラズ二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百五十條 兒ノ後見人又ハ其授業師自カラ其兒ヲ棄テ又ハ棄ツ可キノ命ヲ爲タル時ハ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラズ四百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百五十一條 若シ第三百四十九條及ヒ第三百五十條ニ記シタル如ク兒ヲ棄テタルニ因リ其兒ノ身體ヲ創傷シ又ハ不具ト爲シタル時ハ其兒ヲ棄テシ者故意ヲ以テ其兒ヲ創傷シタルノ罪アリト看做ス可シ若シ又其兒ノ之レカ爲メ死去セシ時ハ其兒ヲ棄テシ者故意ノ罪アリト看做ス可シ但シ其棄兒ノ身體ヲ創傷セシ時ハ其兒ヲ棄テシ者故意ヲ以テ人ヲ創傷スル罪ノ刑ニ處セラレ又其棄兒ノ死去セシ時ハ其兒ヲ棄テシ者故殺ノ罪ノ刑ニ處セラレ可シ

第三百五十二條 満七歳以下ノ兒ヲ寮園ナラサル地ニ棄テシ者ハ三月ヨリ少カラズ一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラズ百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百五十三條 若シ兒ノ後見人又ハ其授業師前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」ヨリ少カラズ二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○第二節 幼者ヲ誘拐スル罪

第三百五十四條 詐欺又ハ暴行ヲ以テ幼者ヲ誘拐シ又ハ誘拐セシメタル者又ハ幼者ヲ其指令或ハ管照ヲ爲ス者ノ置タル場所ヨリ他所ニ誘出シ又ハ他所ニ出行セシメ又ハ其誘出或ハ出行ヲ爲サシメタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第三百五十五條 若シ満十六歳以下ノ女ヲ誘拐シ又ハ誘出セシ時ハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

第三百五十六條 十六歳以下ノ女自カラ誘拐ヲ受クルヲ肯シタル時又ハ其女自己ノ意ヲ以テ誘拐者ニ隨行セシ時其誘拐シタル者二十一歳以上ナルニ於テハ其犯人有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

若シ其誘拐シタル者二十一歳以下ナル時ハ二年ヨリ少カラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

第三百五十七條 誘拐者其誘拐シタル女ヲ妻ト爲ス時ハ民法ニ循ヒ其婚姻ヲ取消ス可キノ求メテ爲ス權アル者ノ外其罪ヲ訴フ可カラズ又其婚姻ヲ取消スノ言渡ヲ爲シタル後ニ非サレハ其誘拐者ヲ刑ニ處ス可カラズ

○第三節 埋葬ノ規則ニ背ク罪

第三百五十八條 官吏ノ允許ヲ受ク可キ規則アル場合ニ於テ其允許ヲ得スシテ死者ヲ埋葬セシ者ハ六日ヨリ少カラズ二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラズ五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト此罪ヲ犯シタル者更ニ他ノ重罪ヲ犯シタルニ付キ更ニ重キ刑ニ處セラレ可キノ訴ヲ受ク可キ規則ト相觸ル、トナカル可シ

又何レノ方法ヲ問ハス埋葬ヲ爲スニ付テノ定期ニ背キシ者ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

第三百五十九條 殺害サレタル人又ハ創傷、毆撃ヲ受ケテ死シタル人ノ死體ヲ掩蔽セシ者ハ六月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラズ四百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト此罪ヲ犯セシ者人ヲ殺シ又ハ創

傷、毆撃ヲ爲タル重罪ニ加リシ時更ニ重キ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ
第三百六十條 墳墓ニ暴行ヲ加ヘシ者ハ二月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ
處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
但シ此規則ト其犯人ノ此暴行ニ附加シテ犯シタル輕重罪ニ付キ受ク可キ刑ト相觸ル、コナカル
可シ

○第七款 偽證、讒訴、誣罔、漏告ノ罪

○第一節 偽證

第三百六十一條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)重罪ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フ可
キ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可
シ

然レモ被告人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處セラレシ時ハ其被告人ニ害ヲ加フ
可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者被告人ノ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第三百六十二條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)輕罪ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フ可
キ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言
渡ヲ受ク可シ

若シ被告人五年以上ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラレシ時ハ其被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ偽證ヲ
述ヘシ者其被告人ノ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

註誤ノ事ニ付キ被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ
一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス
五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此二箇ノ場合ニ於テ其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第
四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可
シ

第三百六十三條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)民事ニ付キ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少
カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フラ
ンク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其犯人ニハ前條ニ記セシ附加ノ刑ヲ受ケシム
ルコトヲ得可シ

第三百六十四條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)重罪ノ事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受
ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト第三百六十一條
ノ次項ニ記シタル刑ヲ用フルノ規則ト相觸ル、コナカル可シ

輕罪ノ事又ハ民事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ徒刑場
内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

註誤ノ事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラ
ス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ第三百六十二條ニ記シタル附加ノ刑ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

何レノ場合ニ於テモ偽證ヲ述ヘシ者ノ受取リシ品物ハ沒收セラル可シ

第三百六十五條 金銀及ヒ其他ノ謝報ヲ與ヘ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシメシ者ハ其偽證ヲ述
ヘシ者ト同一ノ刑ニ處セラル可シ但シ其刑ノ區別ハ第三百六十一條第三百六十二條第三百六十
三條第三百六十四條ニ記スル所ニ循フ可シ

第三百六十六條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)民事ニ付キ誓ヲ爲ス可キノ求メテ受ケタ
ル者又ハ其求テ受ケシ者ヨリ誓ヲ反シ爲ス可キノ求メテ受ケタル者偽リノ誓ヲ爲シタル時ハ一
年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス二千

「フランク」ヨリ多カテサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カテサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○第二節 讒訴、誣罔、漏告

第三百六十七條ヨリ第三百七十二條ニ至ル迄ノ各條ハ廢ス

第三百七十三條 裁判官吏又ハ行政警察官又ハ司法警察官ニ一人又ハ數人ヲ讒訴スル書面ヲ出セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カテサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カテサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百七十四條及ヒ第三百七十五條ハ廢ス

第三百七十六條 第三百七十三條ニ記シタル如ク重劇ニシテ且公ケナラサル誣罔ハ註誤ノ刑ノミヲ以テ罰セラル可シ

第三百七十七條 [廢ス]

第三百七十八條 内科外科ノ醫士及ヒ下等醫士又ハ賣藥者、産婆及ヒ其他自己ノ職業又ハ其身分ニ因リ人ヨリ密事ノ托ヲ受ケタル者法律ニ循ヒ其密事ヲ告訴ス可キ場合ノ外其密事ヲ漏告セシ時ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カテサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カテサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○第二章 財産ニ對スル重罪及ヒ輕罪(千八百十年二月十九日決定三月一日布告)

○第一款 盜

第三百七十九條 何人ニ限ラス己レニ屬セサル物ヲ盜ミシ罪ヲ名ケテ盜罪ト云フ

第三百八十條 夫ノ其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦ノ其夫ノ物ヲ盜ミ又ハ鰥夫或ハ寡婦其死去シタル配偶者ノ物ヲ盜ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ尊屬ノ親ノ物ヲ盜ミ或ハ父母及ヒ尊屬ノ親其子及ヒ卑屬ノ親ノ物ヲ盜ミ又ハ同上ノ級ノ姻屬ノ親互ニ相盜ム時ハ損失ノ償ヲ爲ス可キノミトス

其他ノ者其贖物ノ全部又ハ一部ヲ隱藏シ又ハ己レノ利益ト爲タル時ハ盜罪ノ刑ニ處セラル可シ
第三百八十一條

第一 夜間盜ヲ爲シ

第二 二人以上ニテ盜ヲ爲シ

第三 盜者數人又ハ一人表攜ノ兵器及ヒ暗藏ノ兵器ヲ持セシ時

第四 其盜者人ノ居住シ或ハ居住ス可キ家屋又ハ房室或ハ其家屋ニ屬スル房舍ノ外部ヲ破壞シ或ハ攀援シ或ハ偽鑰ヲ用ヒ其家屋又ハ房室或ハ房舍内ニ於テ其罪ヲ犯シ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ名稱ヲ詭リ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ衣服ヲ借用シ又ハ文武官吏ノ命ヲ僞リ其罪ヲ犯シ

第五 暴行ヲ爲シ又ハ兵器ヲ用ヒント脅迫シテ其罪ヲ犯シ

此五箇ノ景狀ヲ合シテ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百八十二條 [千八百六十二年五月十三日如左改ム] 暴行ヲ以テ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ ○若シ其犯罪ノ時行フタル暴行ニ因リ人ニ斫痕或ハ傷痕ヲ遺シタル者ハ其所行ノミヲ以テ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百八十三條 第三百八十一條ニ記シタル五箇ノ所行中其二箇ヲ行ヒ道路ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ第三百八十一條ニ記シタル五箇ノ所行中其一箇ヲ行ヒ道路ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ
其他ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ

第三百八十四條 第三百八十一條ノ第四ニ記シタル方法ノ一箇ヲ以テ盜罪ヲ犯シタル者ハ人ノ住居ニ用フルヲナク且人ノ住居スル家屋ニ屬スルヲナキ建造物或ハ繞圍ヲ設ケシ地ヲ破壞或ハ攀援シ又ハ偽鑰ヲ用ヒテ潛入シ且其破壊ノ所爲ヲ家屋ノ内部ノミニ於テ行ヒシ時ト雖モ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百八十五條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

第一 夜間盜罪ヲ犯シ

第二 人ノ居住スル家屋又ハ佛蘭西ノ法律ニ循ヒ允准セシ法教ノ爲メ設ケタル建造物内ニ於テ盜罪ヲ犯シ

第三 二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ且其犯人中ノ數人又ハ一人表携ノ兵器或ハ暗藏ノ兵器ヲ持シ此三箇ノ所行中其二箇ヲ行フテ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

第二百八十六條 第一 夜間二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ人ノ居住シ或ハ居住ニ用フ可キ家屋或ハ佛蘭西國ノ法律ニ循ヒ允准セシ法教ノ爲メ設ケタル建造物ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時

第二 盜罪ヲ犯セシ場所人ノ居住シ或ハ居住ニ用フ可キ家屋ニ非スシテ且晝間一人ニテ盜罪ヲ爲シタル時ト雖モ其犯人表携ノ兵器或ハ暗藏ノ兵器ヲ持セシ時

第三 僕婢或ハ其他ノ雇人縱令ヒ其主ニ對シ盜罪ヲ犯スニ非スト雖モ其主家ニ在ル者及ヒ其主ニ隨行シテ赴キシ家屋ニ居ル者ニ對シ盜罪ヲ犯セシ時又ハ雇主ノ家屋、製造所、倉庫ニ住スル工丁或ハ年季ノ弟子其住スル場所ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ工業ヲ爲ス者通常其工業ヲ爲ス家屋ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時

第四 旅舎ノ主人、陸路運送人、水路運送人又ハ其使用スル者其職業ニ付キ委託ヲ受ケシ物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時

此等ノ場合中ノ一ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時ハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ 第二百八十七條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 陸路運送人、水路運送人又ハ其使用スル者其搬運ヲ任セラレタル酒類或ハ其他ノ流動物或ハ商品ヲ變造シ或ハ變造セント試ミ爲シ且人ノ害トナル可キ物ヲ混合シテ其變造ヲ行ヒ又ハ行ハント試ミ爲シタル時ハ二年ヨリ少カラス五

年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間裁判所ノ言渡ヲ以テ政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

若シ人ノ害トナル可キ物ヲ混合セサル時ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第二百八十八條 物ヲ負載セシメ或ハ車ヲ挽カシメ或ハ騎行ニ用フル馬及ヒ其他ノ獸類又ハ大小ノ家畜獸又ハ耕作ノ器具ヲ田野ニ於テ盜ミ又ハ盜マント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

期ヲ定メ伐リ出ス可キ木材又ハ石礫ニアル石又ハ池沼ニ養フ魚ヲ盜ミシ者ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

既ニ地ヨリ刈收セシ穀類或ハ其他地ヨリ生スル要用ノ產物又ハ刈收シテ堆積シタル穀草類ヲ田野ニ於テ盜ミ又ハ盜マント試ミ爲シタル者ハ十五日ヨリ少ララス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

車或ハ物ヲ負載セシムル獸類ヲ用ヒ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ前文ニ記シタル盜罪ヲ犯セシ者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

未タ地ヨリ刈收セサル穀類又ハ其他地ヨリ生スル要用ノ產物ヲ籃、囊或ハ其他此類ノ器具ヲ用ヒ又ハ車或ハ物ヲ負載セシムル獸類ヲ用ヒ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ盜ミ又ハ盜マント試ミ爲タル者ハ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ

ラシク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
此一條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ前文ニ記セシ主タル刑ノ外其刑ヲ受ケジ日ヨリ
五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ
禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百八十九條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム) 盜罪ヲ犯ス可キ爲メ土地間ノ經界ヲ爲ス
物ヲ除去シ又ハ除去セント試ミ爲シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑
ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可
シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタ
ル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受シムルヲ得可シ
第三百九十條 人ノ居住スル家屋トハ現ニ人ノ居住スルニ非スト雖モ人ノ居住ス可キ爲メ建造
シタル諸般ノ家屋、小屋、廠舎又ハ搬運ヲ爲ス可キモノト雖モ人ノ居住ス可キ小屋又ハ廠舎又ハ
用法ノ如何ヲ問ハス且外圍ノ内ニ別ニ牆塼ヲ以テ圍繞シタルヲ問ハス圍庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ
器具ヲ藏スル小舎又ハ鷄、鴨ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ廐及ヒ其他ノ建造物ノ如ク人ノ居住ス可キ
家屋ニ附加ス可キ建造物ヲ指シ云フ

第三百九十一條 繞圍ヲ設ケシ地トハ溝渠、杭、板、植籬、編牆及ヒ其他何物ヲ論セス總テ塼牆ト爲
ス可キ物ヲ以テ圍繞シ且鑰ヲ用ヒ及ヒ其他ノ方法ヲ以テ開閉スル門戸ナク又ハ透視ス可キ門扉
ヲ設ケ通常其門ヲ開キ置ク地ヲ指シ云フ但シ其塼牆、溝渠ノ高深又ハ新舊ヲ問フコトナシ

第三百九十二條 造方ノ如何ナルヲ問ハス田野ニ於テ獸類ヲ入置ク爲メ設ケタル搬運ス可キ欄圍
モ亦繞圍ヲ設ケシ地ト看做ス可シ但シ其欄圍獸類ノ看守人ノ爲メ設ケタル搬運ス可キ小屋又ハ
其他看守人ノ爲メ風雨ヲ蔽フ可キ小屋ニ屬スル時ハ之ヲ人ノ居住スル家屋ニ屬セシ物ナリト看
做ス可シ

第三百九十三條 塼牆、瓦、板、門戸、廳、鎖及ヒ其他何物ヲ問ハス人ノ行路ヲ鎖閉シ及ヒ防遮ス可
キ爲メ設ケタル器具及ヒ諸般ノ繞圍ヲ強テ振開シ又ハ毀壞シ及ヒ除去スルヲ稱シテ破壞ト云フ

第三百九十四條 破壞ヲ分テ二種トス一チ外部ノ破壞トシ一チ内部ノ破壞トス

第三百九十五條 外部ノ破壞トハ家屋又ハ家屋ニ屬スル圍庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類等ヲ藏ス
ル小舎又ハ鷄、鴨ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他繞圍ヲ設ケタル場所又ハ家屋ニ屬シタル場所又ハ
房室ニ入ルタメ爲シタル破壞ヲ云フ

第三百九十六條 内部ノ破壞トハ前條ニ記シタル場所ニ入りタル後其内ニアル門戸、塼牆又ハ戸
棚及ヒ其他總テ鎖ヲ施シタル家具ニ爲シタル破壞ヲ云フ

何物ヲ論セス總テ財產ヲ入レタル箱匣等類又ハ括リタル行李及ヒ其他緊ク掩蓋シタル家具類ヲ
其在ル場所ニ於テ破毀スルコトナク其儘ニテ奪ヒ去ルト雖モ亦内部ノ破壞ナリトス

第三百九十七條 塼牆、門戸、屋蓋及ヒ其他ノ繞圍ヲ越テ家屋及ヒ家屋ニ屬スル建造物、圍庭或ハ
穀類及ヒ耕作ノ器具類ヲ藏スル小舎又ハ鷄、鴨ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他諸般ノ建造物、圍庭
及ヒ繞圍ヲ爲シタル地ニ入ルチ名ケテ攀援ト云フ

出入ノ爲メ設ケシモノニ非サル地道ヨリ潛入シタルハ攀援ト同罪ナリトス

第三百九十八條 偽造、變造ノ搭鑰、合鑰及ヒ偽鑰又ハ家屋ノ所有者及ヒ借受人、旅舎ノ主人及ヒ
旅舎ニ宿スル者ノ鎖、吊鎖及ヒ其他鎖閉セシ物ヲ開クニ用フ可キ爲メ設ケタルニ非サル鑰、合鑰
及ヒ搭鑰チ名ケテ贗造ノ鑰トス

第三百九十九條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム) 鑰ヲ贗造シ及ヒ變造シタル者ハ三月ヨリ
少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」ヨリ少カラス五百十
「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ若シ其犯人鑰ノ製造ヲ以テ業ト爲ス時ハ二年
ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス五百
「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

但シ此規則ト他ノ重罪ヲ犯セシ時更ニ重キ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

第四百條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)脅迫又ハ暴行ヲ以テ義務、契約、算還ノ旨ヲ記シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

書面或ハ言詞ヲ以テ人ノ名望ヲ辱ム可キ漏告及ヒ讒誣ヲ爲スヲ脅迫シ金額又ハ財産ヲ渡サシメシ者又ハ前文ニ記シタル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セシメ又ハ其書類、證書類ヲ渡サシメシ者又ハ此等ノ事ヲ試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

負債ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘラレシ者其財産ヲ預リテ其預リ中之チ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル時ハ第四百六條ニ記シタル所ノ刑ニ處セラレ可シ若シ負債ノ抵償トシテ差押ヘラレタル己レノ財産ヲ他人ノ預リタル時其財産ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル者ハ第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セラレ可シ

負債者又ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル時ハ亦第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セラレ可シ竊取シタル物ヲ故意チ以テ隱匿セシ者又ハ負債者或ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲スヲ助ケタル其配偶者又ハ其尊屬及ヒ卑屬ノ親ハ其犯人ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第四百一條 前數條ニ記セサル竊盜ノ罪ヲ犯セシ者及ヒ犯サント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フラン

ク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ

又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

○第二款 通常ノ倒産ノ罪、詐偽ノ倒産ノ罪、詐偽ヲ以テ財ヲ奪フ罪、其他詐偽ノ種類

第四百二條 商法ニ記スル場合ニ於テ倒産ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ刑ニ處セラレ可シ

詐偽ノ倒産ノ罪アル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
通常ノ倒産ノ罪アル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百三條 商法ニ記スル所ニ循ヒ詐偽ノ倒産犯罪人ノ附從タル裁斷ヲ受ケシ者ハ其首謀ト同一ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百四條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ家資分散ヲ爲シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ若シ此等ノ世話人詐偽ノ倒産ノ罪ヲ犯シタル證アル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

第四百五條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)偽リノ姓名ヲ用ヒ或ハ偽リノ身分ヲ稱シ或ハ偽リノ起作、無實ノ威權、偽リノ信據ヲ人ニ證シ示ス可キ爲メ詐計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ無實ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ希望セシメ或ハ畏怖セシム可キ爲メ偽計ヲ用ヒテ人ノ所有スル金銀、動産、義務ノ證書、契約書、手形、約定書、算還ノ證書ヲ己レニ渡サシメ或ハ渡サシメント試ミ爲シ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或ハ奪ハント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルヲ得可シ但シ此規則ト其犯人ニ贖造偽造ノ重罪アル時更ニ重

キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

○第二節 背信ノ罪

第四百六條 幼者ノ窮乏、怯心、情欲ニ乘シ其損害トナル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀、動産、商業ノ手形又ハ其他ノ手形類ヲ貸借スル義務ノ證書又ハ算還證書ニ其姓名ヲ手署セシメシ者ハ其取引掛合ヲ爲ス方法ノ如何ナルヲ問ハス又口實ノ如何ナルヲ問ハス二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且其罪犯ノ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ償還ス可キ總高ノ四分一ヨリ多カラス二十五「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ前條ノ次項ニ記シタル刑ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第四百七條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐僞ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記シ又ハ其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身體又ハ産業ノ爲メ害トナル可キ證ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ記シタル刑ニ處セラレ可シ若シ其白紙ヲ預リタルニ非サル者其罪ヲ犯シタル時ハ贖造ノ罪ノ訴ヲ受ケ贖造ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百八條 (千八百六十二年五月十三日如左改ム)借受、附托、質入、借用ノ爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ用ヲ達スル爲メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、算還ノ證書又ハ其他借受或ハ算還ノ證書類ヲ受取リ後ニ之ヲ還シ又ハ示シ又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約ヲ爲シ其約ニ背キ此等ノ諸件ヲ竊取シ又ハ消費シテ其所有者ノ損害ヲ爲セシ者ハ第四百六條ニ記シタル刑ニ處セラレ可シ若シ行政又ハ裁判ニ管スル官吏前項ニ記セシ背信ノ罪ヲ犯シタル時又ハ僕婢、雇人、弟子、書記官、家僮、工丁、年季弟子ノ其主又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ爲シタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ但シ此規則ト第二百五十四條第二百五十五條第二百五十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ藏スル金

銀、動産、證書類ヲ竊取、掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相觸ル、コナカル可シ

第四百九條 裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲ス時證書又ハ覺書ノ類ヲ出セシ後如何ナル方法ヲ論セス其證書又ハ覺書ヲ竊取セシ者ハ二十五「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其刑ハ訴訟ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ言渡ス可シ

○第三節 賭博場、富場、典舖ノ規則ニ背ク罪

第四百十條 賭博場ヲ設ケ人ヲシテ自由ニ入ラシメシ者又ハ管係アル者ノ申込ニテ人ヲ入ラシメシ者又ハ其賭博場ニ於テ賭博ノ世話ヲ爲ス者又ハ法律ニ於テ允許セサル富場ヲ設ケシ者又ハ賭博場、富場ノ支配人、世話人ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス六千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ且其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルコトヲ得可シ何レノ場合ニ於テモ賭博又ハ富ニ用ヒタル金銀、證券、家具及ヒ其場所ニ具備排列シタル家具動産ハ官ニ沒收ス可シ

第四百十一條 相當ノ允許ヲ得スシテ典舖ヲ開キタル者又ハ允許ヲ得ルト雖モ規則ニ循ヒ利白利行ナク其貸渡シタル金高、品物、其借主ノ姓名、住所、職業、質ト爲シタル品物ノ性質、種類、價高ヲ記シタル簿冊ヲ設ケサル者ハ十五日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

○第四節 糶賣ノ自由ヲ妨クル罪

第四百十二條 不動産動産ヲ所有スル權、不動産動産ノ入額ヲ得ル權、不動産動産ヲ貸賃ヲ得テ貸與フル權、起作、供給、商業ノ得利、土地ノ開墾及ヒ其他利分ヲ得ル權ヲ糶賣ニ爲ス時其糶賣ノ前又ハ其糶賣ノ間ニ暴行、脅迫ヲ爲シテ其糶賣又ハ價ヲ附クルノ自由ヲ妨ケタル者ハ十五日ヨリ

少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス五千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
贈遺又ハ契約ニ因リ價ヲ附クル者ノ其糶賣ノ場所ニ至ルヲ止メシメシ者ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

○第五節 製造、商業、藝術ニ管スル規則ニ背ク罪

第四百十三條 外國ニ輸出スル佛蘭西ノ製造品ノ性質、種類、大小ヲ定ムル爲メ設ケタル行政規則ニ背キシ者ハ二百「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其品物ヲ沒收セラレ可シ但シ此二箇ノ刑ハ其時ノ景況ニ因リ之ヲ合セテ言渡シ又ハ其一箇ノミヲ言渡ス可シ

第四百十四條 「千八百六十四年五月二十五日如左改ム」暴行、脅迫、偽計ヲ以テ強テ工丁ノ雇賃ヲ昂低セント爲ヌタメ又ハ製造、工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲ヌタメ一時ニ製造、工作ヲ停止セシメ或ハ停止セシメント試ミ爲シ又ハ其停止ヲ久シカラシメ或ハ久シカラシメント試ミ爲シタル者ハ六日ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其二箇ノ刑中ノ一箇ノミノ言渡ヲ受ケ可シ

第四百十五條 「千八百六十四年五月二十五日如左改ム」預メ協議シタル謀計ニ因リ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ其犯人ニ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第四百十六條 「千八百六十四年五月二十五日如左改ム」工丁、雇主、起作人、預メ協議シタル謀計ニ因リ罰金又ハ禁制ヲ言渡シ製造工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲シタル時ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ此二箇ノ刑中ノ一箇ノミニ處セラレ可シ

千八百六十四年五月二十五日ノ法第二條第四百十四條第四百十五條第四百十六條ハ土地ノ所有者及ヒ土地ヲ借受ル者又ハ刈收ヲ爲ス者及ヒ田野ニ於テ使用スル雇夫ニモ亦通シ用フ可シ

○千七百九十一年九月廿八日及ヒ十月六日ノ法律ノ第二篇第十九條及ヒ第二十條ハ廢ス
第四百十七條 佛蘭西國ノ工作ヲ妨害セント爲スノ意ヲ以テ其工作場ノ指揮者、雇人、工丁ヲ故テニ外國ニ出行セシメシ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

第四百十八條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」製造所ノ指揮者、雇人及ヒ工丁外國人又ハ外國ニ居住スル佛蘭西人ニ其製造ノ奧秘ヲ漏洩シ又ハ漏洩セント試ミ爲シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百「フランク」ヨリ少カラス二萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四百十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

若シ其奧秘ヲ佛蘭西國內ニ居住スル佛蘭西人ニ漏洩セシ時ハ其犯人三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ

若シ官ニ屬スル兵器及ヒ彈藥ヲ製造スル奧秘ヲ漏洩シタル時ハ其犯人必ス此一條ノ第一項及ヒ第三項ニ記シタル刑ノ至重ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百十九條 故意ヲ以テ公ケニ詐僞或ハ讒誣ノ風評ヲ流布シ又ハ賣主ノ望ム所ノ價ヨリ更ニ高價ヲ附ケ又ハ同一ノ商品ヲ所有スル重立タル者ヲ協議セシメテ其商品ヲ賣ルヲ停止セシメ或ハ特ニ定メタル價ニ非レハ賣ラサルヲ定メシメ又ハ其他如何ナル方法ヲ論セス偽計ヲ用ヒ商品、紙幣、國債證券ノ價ヲ貿易ノ自由ニ因リ相競フテ自然ニ定マル可キ價ヨリ更ニ低昂セシメタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百「フランク」ヨリ少カ

ラス一萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第四百二十條 若シ穀物及ヒ粗悪ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト爲ス可キ物又ハ麪包葡萄酒及ヒ其他ノ飲料ニ付キ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且千「フランク」ヨリ少カラス二萬「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ
第四百二十一條 國債證券ノ相場ノ低昂ニ付キ賭博ヲ爲シタル者ハ第四百十九條ニ記シタル刑ニ處セラレ可シ

第四百二十二條 國債證券ノ賣拂又ハ引渡ヲ爲ス可キ契約ヲ結ヒシ時ニ當リ自カラ其證券ヲ所有スルノ證ナク又ハ引渡ヲ爲ス可キ時ニ當リ其證券ヲ有スルノ證ナキ時ハ此等ノ契約ヲ賭博ナリト看做ス可シ

第四百二十三條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)金銀ノ性質、眞物ナリト言ヒ販賣セシ價造石類ノ性質、諸般ノ商品ノ性質ニ付キ買主ヲ欺キシ者又ハ贋造シタル度量ノ具ヲ用ヒテ販賣ヲ爲ス品物ノ分量ヲ偽リシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償還ノ高ノ四分一ヨリ多カラス五十「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此輕罪ニ管シタル品物又ハ其代金尙ホ其賣主ニ屬スル時ハ之ヲ沒收シ且其贋造シタル度量ノ具モ亦沒收シテ之ヲ破毀ス可シ
又裁判所ヨリ指示シタル場所ニ其刑ノ言渡書ヲ貼附シ且其言渡書ノ摘撮書又ハ其全文ヲ裁判所ヨリ指示シタル新聞紙ニ印ス可キヲ言渡シ其費用ヲ犯人ヨリ償ハシム可シ

第四百二十四條 若シ賣主ト買主ト互ニ取引ヲ爲スニ付キ法律上ニ定メタルモノニ非サル度量ノ具ヲ用ヒシ時ハ賣主其犯禁ノ度量ノ具ヲ用ヒ買主ヲ欺クト雖モ買主其賣主ニ對シ訴訟ヲ爲ス可シ

カラス但シ此規則ト犯禁ノ度量ノ具ヲ用ヒタル罪及ヒ詐僞ノ罪ニ付キ其犯人ヲ刑ニ處ス可キ旨ヲ檢察官ヨリ求ムル事ト相觸ル、コナカル可シ
詐僞ノ刑ハ前條ニ記シタル所ニ循フ可シ

犯禁ノ度量ノ具ヲ用ヒシ罪ハ第四卷ニ記スル註誤ノ罪ヲ處ス可キ刑ヲ用ヒ罰ス可シ
第四百二十五條 著述者ノ藏版專賣ニ管シタル規則ニ背キ書類、歌謠、畫圖又ハ其他活刷或ハ彫刻シタル物ノ全部又ハ一部ヲ發行スルハ僞版ノ罪ナリトス但シ諸般ノ僞版ハ皆輕罪ナリ

第四百二十六條 僞版ノ書類ヲ販賣シ又ハ外國ニ於テ僞版シタル佛蘭西ノ書類ヲ佛蘭西國內ニ携ヘ來リタル時ハ亦同上ノ輕罪ナリトス
第四百二十七條 僞版者及ヒ外國ニ於テ僞版シタル書類ヲ佛蘭西國內ニ携ヘ來リシ者ハ百「フ

ランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ其僞版ノ書類ヲ販賣セシ者ハ二百五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
僞版者又ハ僞版書ヲ外國ヨリ携ヘ來リシ者又ハ之ヲ販賣セシ者ハ皆其僞版ノ印本ヲ沒收セラ

ル可シ
僞版書ヲ印シタル版木、鑄模活字ハ沒收セラレ可シ
第四百二十八條 作者ノ藏版專賣ノ規則ニ背キ劇場ニ於テ曲伎ヲ演セシメシ劇場ノ支配人、目論見人、技藝者ハ五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其受取金高ヲ沒收セラレ可シ

第四百二十九條 前四條ニ記シタル場合ニ於テ其沒收シタル物品及ヒ受取金高ハ著述者及ヒ作者ニ被リタル損失ヲ償フ可キ爲メ之ヲ其著述者及ヒ作者ニ渡ス可シ但シ其價ノ餘額ハ通常ノ方法ニ因テ之ヲ定メ又沒入シタル物品ヲ賣拂ハス又其受取高ヲ徵收セサル時ハ其價ノ總額ヲ通常ノ方法ニ因テ定ム可シ

○第六節 海陸軍ニ諸般ノ品物ヲ供給スル者ノ罪

第四百三十條 海陸軍ノ爲メ諸般ノ品物ヲ供給シ又ハ操作ヲ爲ス可キノ委任ヲ受ケタル會社中ノ者又ハ各人抗拒ス可カラサルカノ強迫ニ因ラスシテ其任ヲ受ケタル職務ニ背キシ時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス五百「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト此委任ヲ受ケシ者敵ト通謀シタル時更ニ重キ刑ニ處セラレ可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

第四百三十一條 前條ニ記シタル職務ノ委任ヲ受ケシ者ノ名代人其職務ニ背キシ時ハ前條ニ記シタル刑ニ處セラレ可シ
若シ此職務ノ委任ヲ受ケシ者ト其名代人ト相共ニ同上ノ重罪ヲ犯シタル時ハ共ニ同上ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百三十二條 若シ政府ノ上等官吏、下等官吏又ハ政府ノ委任ヲ受ケシ者前二條ニ記シタル犯人ノ職務ニ背クヲ助ケシ時ハ其官吏又ハ政府ノ委任ヲ受ケシ者有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ但シ此規則ト敵ト通謀シタル時更ニ重キ刑ニ處セラレ可キ規則ト相觸ル、コナカル可シ

第四百三十三條 若シ全ク其職務ニ背キタルニ非スト雖モ懈怠ニ因テ供給操作ヲ遅延セシ時又ハ供給セシ物又ハ操作セシ物ノ性質、種類、分量ニ付キ詐偽アル時ハ其犯人六月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス百「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
此一節ノ各條ニ記シタル總テノ場合ニ於テ其罪ヲ訴フルハ政府ノ權ノミニアリトス

○第三款 滅盡、破壊、損害ノ罪
第四百三十四條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」自己ノ所有タルト他人ノ所有タルトハ問ハス人ノ居住シ又ハ居住ス可キ建築物、船舶、小舟、倉庫、木材ノ聚積場又ハ其他、人ノ居住シ又ハ居住ス可キ諸般ノ場所ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ死刑ニ處セラレ可シ
人ノ乘リタル車或ハ火輪車又ハ現ニ人ノ乘リタルモノニ非スト雖モ人ノ乘リタル列車ノ一部タ

ル車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ同上ノ刑ニ處セラレ可シ
人ノ居住シ又ハ居住ス可キモノニ非サル建築物、船舶、小舟、倉庫、木材ノ聚積場、森林、斫伐ス可キ大木、未ダ刈收セサル穀類ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ此等ノ物己レノ所有タラサル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放チシメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ又其所有者ノ命ニ因リ火ヲ放チシ者ハ同一ノ刑ニ處セラレ可シ
堆積セシ藁又ハ刈收セシ穀類又ハ堆積セシ木材又ハ商品及ヒ其他ノ品物ヲ載セタルト否トヲ論セス人ノ乘リタル列車ノ一部ニ非サル車ニ故意ヲ以テ火ヲ放チシ者ハ此等ノ物己レノ所有タラサル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ
前文ニ記シタル自己ノ所有物ニ火ヲ放チ又ハ放チシメ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ又所有者ノ命ニ因リ火ヲ放チシ者ハ同一ノ刑ニ處セラレ可シ

己レニ屬スルト人ニ屬スルトトハ問ハス火ノ傳ハル可キ場所ニアル物件ニ故意ヲ以テ火ヲ放チ前六項ニ記セシ物ニ火ヲ傳ヘシ者ハ直チニ其物ニ火ヲ放チシ時ト同一ノ刑ニ處セラレ可シ
何レノ場合ニ於テモ火ヲ放チタルニ因リ其場ニアル者一人又ハ數人ノ焚死セシ時ハ其犯人死刑ニ處セラレ可シ

第四百三十五條 地雷火ヲ破裂セシメ建築物、船舶、小舟、木材ノ聚積場ヲ滅盡セシメタル者ハ前條ニ記シタル區別ニ循ヒ刑ニ處セラレ可シ

第四百三十六條 家屋又ハ其他ノ所有物ニ火ヲ放チシ者ハ第三百五條第三百六條第三百七條ニ記シタル區別ニ循ヒ謀殺ヲ爲サント脅迫セシ者ト同一ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百三十七條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」何レノ方法ヲ論セス人ニ屬スルトヲ知リシ建築物、橋、堤ノ全部又ハ一部ヲ故意ヲ以テ滅盡シ及ヒ崩潰セシメシ者又ハ蒸氣器械ヲ破裂セ

シメシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス百「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ此罪犯ニ因リ人ヲ殺シ及ヒ傷スルコトアル時ハ其犯人、人ヲ殺スニ於テハ死刑ニ處セラレ人ヲ傷スルニ於テハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可シ

第四百三十八條 暴行ヲ以テ政府ノ允許アル操作ノ成功ヲ妨クル者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス十六「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

其罪犯ノ首謀ハ同上ノ至重ノ刑ニ處セラレ可シ

第四百三十九條 官署ノ簿冊及ヒ證書類又ハ義務、契約、葬還ノ證タル商業或ハ銀行ノ紙券、手形、爲替手形、證券ヲ故意ヲ以テ焚燬シ又ハ如何ナル方法ヲ論セス之ヲ滅盡セシメタル者ハ左ノ刑ニ處セラレ可シ

若シ官署ノ證書類又ハ商業或ハ銀行ノ證券ヲ滅盡セシメタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

若シ其他ノ證書類ヲ滅盡セシメタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百四十條 群衆ヲ爲シ且顯然ノ暴行ヲ以テ品物、商品、證券、動産類ヲ掠奪毀損セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレ可ク且其各犯人ハ二百「フランク」ヨリ少カラス五千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百四十一條 人ノ挑唆ニ因リ又ハ人ニ鼓舞セラレテ前條ニ記セシ暴行ニ加ハリタルノ證アル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ可シ

第四百四十二條 前ニ記スル所ノ暴行ニ因テ穀物、粗惡ノ穀物、穀粉、諸般ノ粉ト爲ス可キ物、麪包、葡萄酒又ハ其他ノ飲料ヲ掠奪損敗セシ時ハ其暴行ノ首謀及ヒ挑唆鼓舞ヲ爲シタル者ヲ至重ノ有

期ノ徒刑ニ處シ且第四百四十條ニ記シタル至重ノ罰金ヲ言渡ス可シ

第四百四十三條 (千八百六十二年五月十二日如左改ム)物ヲ腐爛セシム可キ流動物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ニ因リ故意ヲ以テ商品又ハ製造ヲ爲ス可キ品物或ハ器具ヲ損敗シタル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ヨリ多カラス十六「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ製造所ノ工丁又ハ商家ノ使用ヲ受クル者其罪ヲ犯シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ但シ此規則ト其犯人前項ニ記シタル罰金ノ言渡ヲ受ク可キ規則ト相觸ル、トナカル可シ

第四百四十四條 未ダ刈收セサル穀類又ハ天生、人工ノ草木類ヲ荒殘セシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ

又其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第四百四十五條 他人ニ屬スルヲ知リタル樹木一根又ハ數根ヲ斫伐セシ者ハ其斫伐シタル樹木ノ每根ニ付キ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ但シ其斫伐シタル樹木ノ數如何ニ多キ時ト雖モ其犯人ヲ五年以上禁錮ノ刑ニ處ス可カラス

第四百四十六條 樹木ヲ枯死セシム可ク之ヲ傷ケ又ハ斫リ又ハ其皮ヲ剝去セシ者ハ其樹木ノ每根ニ付キ前條ニ同シキ刑ニ處セラレ可シ

第四百四十七條 接木一根又ハ數根ヲ損害シタル者ハ其接木ノ每根ニ付キ六日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ可シ但シ其損害セシ數如何ニ多キ時ト雖モ其犯人ヲ二年以上禁錮ノ刑ニ處ス可カラス

第四百四十八條 若シ街衢、道路、市街、往還、小路、傍徑ニ植タル樹木ヲ斫伐シ又ハ損害シタル時ハ第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ニ記セシ場合ニ於テハ其犯人ヲ禁錮スル至輕ノ刑二十日

ヨリ少カラス第四百四十七條ニ記セシ場合ニ於テハ其至輕ノ刑十日ヨリ少カラサル可シ
第四百四十九條 他人ニ屬スルヲ知リタル穀類又ハ牛馬ニ喂ス可キ草類ヲ刈伐セシ者ハ六日ヨリ
少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十條 若シ前條ニ記シタル犯人未熟ノ穀類ヲ刈伐セシ時ハ二十日ヨリ少カラス四月ヨ
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
此一條ト前六條トニ記シタル場合ニ於テ官吏ノ行フ所ノ職務ニ付キ其官吏ヲ恨ミテ其罪ヲ犯シ
タル者ハ其各條ニ記シタル刑中ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十一條 農業ノ器具、獸園、看守人ノ小舎ヲ破壊セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カ
ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十二條 馬又ハ其他車ヲ挽シメ或ハ騎行ノ用ニ供シ或ハ物ヲ載スル用ニ供ス可キ獸類又
ハ牛、羊、山羊、豚又ハ池沼ニ養フ魚ニ毒物ヲ與ヘシ者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル
時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ
言渡ヲ受シ可シ又其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府
ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ

第四百五十三條 已ムヲ得サルニ非スシテ前條ニ記シタル獸類ノ一ヲ殺セシ者ハ左ノ刑ニ處セラ
ル可シ
若シ其獸類ヲ蓄ヒ置シ者ノ所有シ又ハ借受シ家屋又ハ繞圍ヲ爲シタル場所又ハ其附屬ノ場所又
ハ土地内ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處
セラル可シ
若シ犯人ノ所有シ又ハ借受ケシ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ六日ヨリ少カラス一月ヨリ多
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ前ノ二項ニ記シタル以外ノ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ十五日ヨリ少カラス六週ヨリ
多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十四條 已ムヲ得サルニ非スシテ家畜獸類ヲ蓄ヒ置キシ者ノ所有シ又ハ借受ケシ場所ニ
於テ其獸類ヲ殺セシ者ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ者ハ其刑中ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ

第四百五十五條 第四百四十四條ヨリ前條ニ至ル迄ノ各條ニ記シタル場合ニ於テハ其犯人損失償
高ノ四分一ヨリ多カラス十六「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百五十六條 溝渠ヲ填メ又ハ塀牆ノ何物ヲ以テ造リタルヲ論セス之ヲ破壊シ又ハ植籬或ハ編
牆ヲ斫リ毀テ或ハ板キ採リシ者又ハ土地ノ經界ヲ定ムル爲メ置キタル物或ハ石或ハ其經界ヲ定
ムル爲メ植タル樹木或ハ其經界ノ限定ヲ爲スヲ衆庶ノ通知シタル樹木ヲ移動シ又ハ毀棄セシ者
ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分一ニ當ル可
キ罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其罰金ハ何レノ場合ニ於テモ五十「フランク」ヨリ少ナキヲナカル
可シ

第四百五十七條 土地ノ所有者或ハ借主又ハ水車、製造所、池沼ノ所有者當然ノ權利アル者ノ限定
シタル高サ以上ニ疏水ノ道ヲ造リテ道路或ハ他人ノ所有スル地ニ其水ヲ流溢セシメシ時ハ損失
償高ノ四分一ヨリ多カラス五十「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ此水ノ流溢セシニ因リ毀壞シタル時ハ其犯人罰金ノ外六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサ
ル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
第四百五十八條 他人ノ動産或ハ不動産ニ接近セシ竈、隕竈、煙突、鑄造所、家屋、製造所ノ舊敗シ
或ハ其修理掃除ヲ怠リ又ハ田野ニ於テ家屋、建造物、森林、草叢、圍庭、植附場、植籬或ハ穀類、藁
類、枯草、牛羊ニ喂ス可キ草類ヲ堆積シタル物或ハ其他焚燒ス可キ品物ヲ貯ヘタル所ヨリ百「メ

トトル」以内ノ距離ニ於テ火ヲ燃ヤシ又ハ諸般ノ燃火、點火ヲ忽略ニシ又ハ疎略ニ煙火ヲ弄シタルニ因リ他人ノ動産或ハ不動産ヲ燒キタル者ハ五十「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百五十九條 傳染病ニ罹ルノ疑アル獸類ヲ所有シ又ハ看守スル者其邑長ニ速カニ其事ヲ告知セサル者及ヒ邑長ニ其事ヲ告知スト雖モ其回報ヲ得ルノ前其獸類ヲ鎖閉シ置サル者ハ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百六十條 官署ノ禁制ニ背キ傳染病ニ罹リタル獸類ヲシテ他ノ獸類ト雜處セシメシ者ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百六十一條 若シ前條ニ記シタル獸類ヲ雜處セシメシニ因リ他ノ獸類ヲシテ傳染病ニ罹ラシメシ時ハ官署ノ禁制ニ背キ其罪ヲ犯シタル者二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此規則ト獸類ノ傳染病ニ管シタル法律及ヒ規則ヲ行フ事並ニ其法律及ヒ規則ニ背キタル罪ヲ罰ス可キ事ト相觸ル、コナカル可シ

第四百六十二條 若シ田野或ハ森林ノ看守人又ハ名義ノ如何ヲ問ハス警察官吏此一章ニ記シタル輕罪ヲ犯セシ時ハ其犯人ヲ禁錮スル期限一月ヨリ少カラス又其輕罪ノ他ノ犯人ヲ處ス可キ至重ノ刑ニ更ニ其三分一ヲ増加セタル時間ヨリ多カラサル可シ

○總規則
第四百六十三條 「千八百六十二年五月十三日如左改ム」犯罪ノ證アル被告人ヲ法律ニ循ヒ處ス可キ刑ヲ輕減ス可キ情狀アルコトヲ陪審ノ決定シタル時ハ左ノ如ク其刑ヲ減ス可シ
若シ法律ニ循ヒ死刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ヲ言渡ス可シ

無期ノ徒刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヲ言渡ス可シ

若シ城寨中ニ繫囚スル流刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ通常ノ流刑又ハ囚獄ノ刑ヲ言渡ス可シ但シ第九十六條及ヒ第九十七條ニ記シタル場合ニ於テハ通常ノ流刑ノミヲ言渡ス可シ

若シ流刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ囚獄ノ刑又ハ追放ノ刑ヲ言渡ス可シ
若シ有期ノ徒刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ徒刑場内ニ於テ使役スル刑又ハ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡ス可シ但シ其禁錮ノ時間ヲ二年ヨリ少ナク減ス可カラズ

若シ徒刑場内ニ於テ使役スル刑、囚獄ノ刑、追放ノ刑、公權剝奪ノ刑ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡ス可シ但シ其禁錮ノ時間ヲ一年ヨリ少ナク減ス可カラズ

法律ニ循ヒ至重ノ施體ノ刑ヲ言渡ス可キ時其刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ於テハ裁判所ヨリ至輕ノ施體ノ刑ヲ言渡シ又ハ施體以下ノ刑ヲ言渡ス可シ

何レノ場合ニ於テモ法律ニ循ヒ禁錮ノ刑ト罰金トヲ言渡ス可キ時其刑ヲ輕減ス可キ情狀アルニ於テハ再犯ノ場合ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ其禁錮ノ刑並ニ罰金ヲ左ノ如ク減ス可シ
若シ罪ノ種類又ハ罪ノ再犯ニ因リ法律ニ循ヒ一年ヨリ少カラサル禁錮ノ刑又ハ五百「フランク」ヨリ少カラサル罰金ヲ言渡ス可キ時ハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日迄ニ減シ且其罰金ヲ十六「フランク」迄ニ減スルコトヲ得可シ

其他ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日以下ニ減シ其罰金ヲ十六「フランク」以下ニ減スルコトヲ爲シ得可ク又其禁錮ノ刑ト罰金トノ中其一箇ノミヲ言渡シ又ハ禁錮ノ刑ニ換テ罰金ヲ言渡スコトヲ得可シ但シ何レノ場合ニ於テモ其罰金ハ註誤ノ罪ニ付キ言渡ス可キ罰金ヨリ少ナキコトナカル可シ

○第四篇 註誤ノ罪及ヒ其刑〔千八百十年二月二十日決定二月二日布告〕

○第一章 註誤ノ刑

第四百六十四條 註誤ノ刑ハ左ノ如シ

禁錮
罰金

品物ノ沒收

第四百六十五條 註誤ノ罪ノ爲メ言渡ス所ノ禁錮ノ時間ハ後ニ記シタル種類ト區別トニ循ヒ一日

ヨリ少キヲナク五日ヨリ多キヲナカル可シ

一日禁錮スルノ期限ハ二十四時間トス

第四百六十六條 註誤ノ罪ニ付キ言渡ス可キ罰金ハ後ニ記シタル種類ト區別トニ循ヒ一「フラン

ク」ヨリ少カラス十五「フランク」ヨリ多カラサル可シ但シ其罰金ハ註誤ノ罪ヲ犯シタル地ノ邑

ノ利益ニ用フ可シ

第四百六十七條 犯人ヲシテ罰金ヲ償ハシムル爲メ之ヲ禁錮ス可シ

然レモ犯人其罰金ヲ償フコト能ハサルノ證アル時ハ十五日以上ノ時間禁錮ス可カラス

第四百六十八條 罰金ヲ出ス可キ事ト民事ノ原告人ニ品物ヲ還シ及ヒ其損失ヲ償フ可キ事ト相觸

レテ犯人ノ財産其總高ニ充タサル時ハ罰金ヨリ前ニ民事ノ原告人ニ品物ヲ還シ且其損失ヲ償ハ

シム可シ

第四百六十九條 若シ犯人民事ノ原告人ニ品物ヲ還シ又ハ其損失ヲ償ヒ或ハ裁判所費用ヲ償ハサ

ル時ハ之ヲ禁錮シ其犯人全ク其總高ヲ出スニ至ル迄之ヲ禁錮シ置ク可シ然レモ政府ニ此等ノ償

ヲ爲サシムル爲メ犯人ヲ禁錮シタル時若シ其犯人第四百六十七條ニ記シタル如ク其償ヲ爲スノ

資産ヲ有セサル確證アルニ於テハ其犯人其條ニ記シタル所ノ權利ヲ行フコトヲ得可シ

第四百七十條 又註誤罪ノ裁判所ニテ法律上ニ定メタル場合ニ於テハ犯人ノ註誤罪ニ付キ沒收

セシ品物又ハ註誤罪ニ因リ犯人ノ得タル品物又ハ其罪ヲ犯スニ用ヒ或ハ用ヒント爲シタル品物及ヒ器具ヲ沒收スルヲ言渡スヲ得可シ

〇第二章 註誤ノ罪及ヒ其刑

〇第一款

第四百七十一條 〇第一種

- 第一 火ヲ焚ク可キ竈、隙竈、製造所ヲ修理シ又ハ掃除スルヲ怠リシ者
- 第二 別段定マリシ地ニ於テ烟火ヲ弄スルノ禁ヲ犯セシ者
- 第三 燈火ヲ點ス可キ定則ニ背キテ其事ヲ怠リタル旅店ノ主人及ヒ其他ノ者又ハ邑ノ人民自カラ街路、小徑ヲ掃除ス可キ邑ノ規則アル時其事ヲ怠リタル者
- 第四 已ムテ得サルニ非スシテ通行ノ自在又ハ安寧ヲ妨ク可キ品物ヲ道路ニ置キ妨ヲ爲ス者又ハ街衢ニ置キタル品物或ハ街衢ニ穿テ穴ニ火ヲ點ス可キ法律規則ニ背キシ者
- 第五 小徑ニ管スル規則ヲ執行スルヲ怠リ或ハ其事ヲ肯セサル者又ハ崩壞セントスル家屋ヲ修復シ或ハ取除ク可キ官署ノ命ヲ遵守スルヲ怠リ或ハ其事ヲ肯セサル者
- 第六 墜落シテ人ノ害トナル可キ物又ハ惡氣ヲ發シテ人ノ害トナル可キ物ヲ家屋ノ前ニ展示シ或ハ抛擲セシ者
- 第七 道路、小徑、街衢、田野ニ鋤、鍬、木槌、鎊竿又ハ其他盜賊及ヒ兇行ヲ爲ス者ノ用トナル可キ兵器或ハ器具類ヲ遺留セシ者
- 第八 法律上ニ田野又ハ園庭ノ蝸蝓ヲ掃フ可キヲ定メタル時其事ヲ怠リシ者
- 第九 別段法律上ニテ罰ス可キ他ノ罪犯ノ情狀ナクシテ他人ニ屬スル菓實ヲ盜ミ又ハ其場所ニテ食ヒシ者
- 第十 別段法律上ニテ罰ス可キ他ノ罪犯ノ情狀ナクシテ未タ穀類ヲ全ク刈取セサル田野ニ於

テ日出前又ハ日没後ニ刈殘シタル穀類ヲ鈎竿ヲ用ヒ爬集シ又ハ葡萄園内ニ於テ摘殘シタル小サキ葡萄ヲ摘取セシ者

- 第十一 人ヨリ害ヲ受クルニ非スシテ人ニ對シ三百六十七條ヨリ三百七十八條ニ至ル迄ノ各條ニ記シタルヨリ以外ノ誣罔ヲ爲シタル者
 - 第十二 疎忽ニ因テ人ニ汚穢物ヲ抛擲セシ者
 - 第十三 土地ノ所有者又ハ入額所得者又ハ借主又ハ償ヲ出シテ借受ケ耕作ヲ爲ス者ニ非ス又ハ其所有者、入額所得者、借主ノ代人或ハ其任ヲ受クル者ニ非ス又ハ其土地ヲ通行スルノ權ヲクシテ其土地ニ穀草ヲ植ユ可キ預備ヲ爲シタル時又ハ種子ヲ蒔キタル時ニ當リ其地又ハ其一部ニ入り通行シタル者
 - 第十四 他人ニ屬スル地ニ於テ未タ穀物ヲ刈收セサル前ニ車ヲ挽カシメ又ハ物ヲ負載セシメ又ハ騎行ニ用フル獸類ヲ通行セシメタル者
 - 第十五 法律ニ循ヒ設ケタル官署ノ規則ニ背キタル者及ヒ千七百九十年八月十六日ヨリ二十四日ニ至ル迄ノ間ニ立タル法律第十一章ノ第三條第四條及ヒ千七百九十一年七月十九日ヨリ二十二日ニ至ル迄ノ間ニ立タル法律第一章ノ第四十六條ニ循ヒ邑廳ヨリ布告シタル規則ニ背キタル者
- 此等ノ者ハ一「フランダ」ヨリ少カラス五「フランダ」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
- 第四百七十二條 前條ノ第二ニ記シタル場合ニ於テ差押ヘタル烟火及ヒ同條ノ第七ニ記シタル鍬、鍬及ヒ其他ノ兵器、器具類ハ之ヲ沒收ス可シ
 - 第四百七十三條 又烟火ヲ弄シタル者及ヒ第四百七十一條ノ第十二ニ記シタル如ク刈殘タル穀類ヲ鈎竿ヲ用ヒ爬集シタル者又ハ葡萄園内ニ於テ摘殘シタル小サキ葡萄ヲ摘取セシ者ハ其時ノ景況ニ因リ三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルヲ得可シ
 - 第四百七十四條 第四百七十一條ニ記シタル各犯人再犯ノ罪アル時ハ三日ヨリ多カラサル時間禁

鋼ノ刑ニ處セラレ可シ

○第二款

○第二種

第四百七十五條

- 第一 葡萄ノ收納ヲ公布スル規則及ヒ其他收納ヲ公布スル規則ニ背キシ者
- 第二 旅店又ハ家具ノ備リシ家屋ニ宿泊シタル者ノ姓名、身分、住所、出入ノ日附ヲ簿冊ニ刻白ナク連綴シテ記入スルヲ怠リシ旅店又ハ家具ノ備リシ家屋ノ主人又ハ其簿冊ヲ規則ニ定メタル時間又ハ求需ヲ受ケシ時ニ於テ邑長又ハ其輔佐又ハ警察官吏又ハ特ニ其任ヲ受ケシ者ニ示サ、ル者
- 但シ此條ノ規則ト第七十三條ニ記シタル如ク旅店又ハ其家屋ニ宿シタル者ノ姓名ヲ規則ニ循ヒ登記セサル時其宿セシ者ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルニ付キ其主人ノ其罪ヲ擔當ス可キ規則ト相觸ル、トナカル可シ
- 第三 馬又ハ車ヲ挽カシメ或ハ物ヲ負載セシムル獸類及ヒ車ニ添テ常ニ之ヲ引導シ得可キ場所ニアル可キ規則ニ背キ又ハ市街、道路、街衢ノ一側ノミニ片寄ル可キ規則ニ背キ又ハ他ノ車ニ對シ躲避シテ市街、堤塙、道路、小徑ノ半ハヲ讓ル可キ規則ニ背キシ挽夫、御者又ハ獸類ヲ挽ク者
- 第四 馬又ハ車ヲ挽カシメ或ハ物ヲ負載セシメ或ハ騎行ノ用ニ供スル獸類ヲ人ノ住居スル家屋ノ内部ニ馳セ入ラシメ又ハ馳セ入テ見テ止メサル者又ハ車ニ物ヲ積載スル規則及ヒ車ノ進行ノ遲速或ハ方向ノ規則ニ背キシ者
- 公ケノ馬車ノ堅牢
- 其馬車ノ重サ
- 其馬車ニ物ヲ積載スル方法

- 其馬車ノ乗客ノ數及ヒ其安寧
- 其馬車内ニ乗載ス可キ客員及ヒ一員ニ付キ賃銀ノ幾許ナルヲ記スル事
- 其馬車ノ外部ニ其所有者ノ姓名ヲ記スル事
- 此等ノ事ニ管シタル規則ニ背キシ者
- 第五 市街、道路、街衢ニ於テ富場及ヒ其他ノ賭博ヲ爲ス場所ヲ設ケシ者
- 第六 (千八百五十五年五月五日廢ス) 贖造シタル飲料ヲ販賣スル者但シ此條ノ規則ト人ノ健康ヲ害ス可キ混合物ヲ交ヘシ時ハ註誤罪ノ裁判所ニ於テ更ニ重キ刑ヲ言渡ス可キ規則ト相觸ル、トナカル可シ
- 第七 狂者又ハ猛獸ヲ放チタル其管守人又ハ人ニ對シテ傷害ヲ加フルヲナシト雖ヒ行人ニ犬ヲ噉シタル者又ハ其犬ノ行人ヲ噉ヒ又ハ躡スル時其犬ヲ捉ヘ留メサル者
- 第八 石又ハ其他ノ堅キ物又ハ汚穢物ヲ人ノ家屋、建造物、繞圍ニ抛チシ者又ハ故意ヲ以テ堅キ物又ハ汚穢物ヲ人ニ抛チシ者
- 第九 既熟、未熟ヲ論セス穀類、葡萄及ヒ他ノ菓實ノ生シタル時ニ當リ其土地ノ所有者、入額所得者又ハ借主ニ非ス又ハ其土地ヲ通行スルノ權ヲ有セスシテ其地ニ潛入シテ通行シタル者
- 第十 何レノ時テ論セス種ヲ蒔キタル他人ノ地又ハ穀類ノ生シタル他人ノ地又ハ他人ニ屬スル斫伐ス可キ樹木ノ森林ニ車ヲ挽キ或ハ物ヲ載セ或ハ騎行ニ用フル獸類ヲ通行セシメ又ハ通行スルヲ見テ止メサル者
- 第十一 贖造或ハ變造ニ非サル本國ノ貨幣ヲ時價ニ從ヒ受取ルヲ肯セサル者
- 第十二 顛ニ起リタル不幸、騷擾、破船、洪水、火災又ハ其他ノ災厄又ハ盜賊、掠奪、現行ノ罪犯ノ時又ハ乘座ノ高聲ニテ罪犯ヲ呼フ時又ハ裁判言渡ニ從ヒ犯人ヲ刑ニ處セント爲ス時ニ人ヨリ求メテ受ケ止ムヲ得サルニ非シテ勞動ヲ爲シ又ハ助ヲ爲スヲ肯セス或ハ怠リシ者

第十三 第二百八十四條及第二百八十八條ニ記シタル者
第十四 腐敗セシ食物及ヒ人ノ健康ヲ害スル食物ヲ販賣スル者〔千八百五十一年三月二十七日廢ス〕

第十五 第三百八十八條ニ記スル景狀中ノ一ナクシテ未ダ地ヨリ刈收セサル穀類又ハ其他土地ヨリ生スル有益ノ產物ヲ盜ミシ者

此等ノ者ハ六「フランク」ヨリ少カラス十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
第四百七十六條 前條ニ記シタル法ニ背キシ挽夫或ハ御者或ハ獸類ヲ挽ク者又ハ車及ヒ獸類ノ進行ノ遲速方向ヲ定メ或ハ物ヲ積載スル規則又ハ公ケノ馬車ノ堅牢及ヒ其重サヲ定メ或ハ物ヲ積載スル規則其乘客ノ數其安寧ヲ定ムル規則ヲ犯セシ者又ハ贗造シタル飲料ヲ販賣スル者又ハ堅キ物及ヒ汚穢物ヲ抛テタル者ハ其時ノ景狀ニ因リ前條ニ記シタル罰金ノ外三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルヲ得可シ

第四百七十七條
第一 市街、道路、街衢ニテ行フタル賭博及ヒ富ニ用ヒシ卓子及ヒ器具ノ類又ハ賭物ト爲タル金銀及ヒ品物ハ沒收ス可シ
第二 販賣者ニ屬スル贗造ノ飲料ハ流シ棄ツ可シ
第三 風俗ヲ亂ス書畫ノ類ハ細ニ打碎ク可シ
第四 腐敗シタル食物又ハ健康ヲ害スル食物ハ之ヲ棄ツ可シ

第四百七十八條 第四百七十五條ニ記シタル各人再犯ノ罪アル時ハ五日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
第四百七十五條ノ第五ニ記シタル者同罪ヲ再犯シテ逮捕ヲ受ケタル時ハ其犯人ヲ輕罪裁判所ニ呼出シ六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡ス可シ

○第三款
○第二種

第四百七十九條

第一 第四百三十四條ヨリ第四百六十二條ニ至ル迄ノ各條ニ記シタル場合ノ外故意ヲ以テ他人ノ動産ニ損害ヲ加ヘタル者

第二 狂者或ハ猛獸ヲ放チ又ハ車、馬又ハ車ヲ挽キ、物ヲ載セ、騎行ノ用ニ供スル獸類ノ進歩ノ速ナルニ過キ又ハ其獸類ヲシテ惡キ方向ニ至ラシメ又ハ其獸類ニ過多ノ物ヲ積載シテ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者

第三 疎忽ニ兵器ヲ弄シ或ハ拙ニ兵器ヲ弄シ又ハ石及ヒ他ノ堅キ物ヲ抛テテ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者

第四 家屋或ハ建造物ノ舊敗シ或ハ破壊シ或ハ其修理ヲ怠リタルニ因リ又ハ官署ノ命令及ヒ土地ノ習慣ニテ定マリタル預備又ハ標識ヲ爲サス市街、道路、街衢ノ中央及ヒ傍側ニ障礙物ヲ置キ或ハ穴ヲ穿チ或ハ此類ノ事ヲ爲タルニ因リ他人ニ屬スル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケタル者
第五 倉庫、舖店、操作場、商館、市場ニ於テ贗造ノ度量ノ具ヲ所有スル者
但シ此條ノ規則ト輕罪裁判所ヨリ贗造ノ度量ノ具ヲ用ヒシ者ニ言渡ス可キ刑ト相觸ル、一ナカル可シ〔千八百五十一年三月二十七日廢ス〕

第六 法律ノ定則ト異ナリタル度量ノ具ヲ用フル者、法律ニ從ヒ公ケニ定メタル價目録ニ記セシ定價以上ニ麩包及ヒ肉類ヲ販賣セシ麩包ノ製造者及ヒ屠者
第七 卜筮或ハ占夢ヲ職業トナス者

第八 人民ヲ驚ス可キ害アル噪鬧又ハ夜間ノ噪鬧ヲ爲ス首從
第九 官署ノ命ニテ爲シタル貼示書ヲ除去シ又ハ破壊セシ者

第十 他人ニ屬シタル地内就中他人ニ屬シタル人工ノ草類ノ生シタル地、又ハ葡萄園、楊ヲ種

植セシ地又ハ「カプリエール」、木橄欖、桑、石榴、橙及ヒ此類ノ樹木ノ萌芽ノ生シタル地又ハ其他、人工ヲ以テ果樹又ハ其他ノ樹木ノ萌芽ヲ生セシメタル地又ハ養樹園ノ中ニ如何ナル種類ヲ問ハス獸類ヲ牽キ入レシ者

第十一 如何ナル方法ヲ問ハス道路ヲ毀テ又ハ其道幅ヲ侵占セシ者

第十二 一般ノ習慣ニテ許スコトナキ地ニ於テ官署ノ許ヲ得ルコトナク道路ニアル草ノ生シタル土塊、泥土或ハ石類ヲ取り又ハ邑ニ屬スル地ニ於テ泥土、木材、石類ヲ取りシ者

此等ノ者ハ十一「フランク」ヨリ少カラス十五「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百八十條

第一 前條ノ第三ニ記シタル場合ニ於テ他人ニ屬シタル獸類ヲ殺シ又ハ傷ケシ者

第二 贖造ノ度量ノ具ヲ所有スル者

第三 法律ノ定則ト異ナリタル度量ノ具ヲ用ヒシ者及ヒ前條ノ第六ニ記シタル罪ヲ犯セシ者

包ノ製造者及ヒ屠者

第四 占夢者

第五 人ニ害アル噪鬧及ヒ夜間ノ噪鬧ヲ爲ス首從

此等ノ者ハ其景狀ニ因リ五日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコト得可シ

第四百八十一條

第一 贖造ノ度量ノ具及ヒ法律ノ定期ト異リタル度量ノ具

第二 卜筮又ハ占夢ノ職業ヲ爲スニ用ヒ又ハ用フ可キ器具及ヒ衣服

此等ノ物ハ沒收ス可シ

第四百八十二條 第四百七十九條ニ記シタル場合ニ於テ其各犯人ニ再犯ノ罪アル時ハ五日ノ時間禁錮ノ刑ニ處ス可シ

○前三款ニ通スル規則

第四百八十三條 犯人前ノ十二月内ニ裁判所ノ管轄内ニ於テ註誤ノ罪ヲ犯スニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル後其裁判所ノ管轄内ニ於テ再ヒ其罪ヲ犯セシ時ハ此篇ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ再犯ノ罪アリトス

此篇ニ記シタル如何ナル註誤罪ニ付テモ第四百六十三條ノ規則ヲ通シ用フ可シ

○總規則

第四百八十四條 如何ナル事柄ニ付テモ刑法中其刑ヲ規定スルコトナク別段ノ法律及ヒ規則ニ其刑ヲ規定シタル時ハ裁判所ニ於テ其法律及ヒ規則ニ循フ可シ

辻 士革 校

正誤

二四二、第五行第六行第十四行 商。ハ商ノ誤

明治十三年一月七日 讞刻御届
明治十三年四月十八日 出版

明治十三年一月七日 讞刻御届
明治十三年四月十八日 出版

出版人

東京京橋區瀧山町四番地
大野堯運

發兌

報 告 社